

大里郡岡部町

ひ づめ ． すな だ まえ  
樋 詰 ． 砂 田 前

一般国道17号深谷バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告

—II—

1991

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



砂田前遺跡全景

## 序

岡部町は埼玉県北部に位置し、四十坂遺跡や西浦北遺跡をはじめ数多くの埋蔵文化財の所在が知られており、近年、宅地造成や道路建設に伴う発掘調査が増加しております。

一般国道17号深谷バイパスは、熊谷市玉井を起点とし、深谷市を経て岡部町四十坂に達する約14.8kmの区間にかけて建設されたものであります。この区間に所在する埋蔵文化財の取り扱いについては、建設省大宮国道工事事務所と埼玉県教育委員会との間で慎重に協議を重ねられましたが、路線決定にあたってどうしても避けきれない遺跡については、建設省の委託を受け、埼玉県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施することとなりました。

岡部町では4遺跡が該当し、発掘調査により縄文時代から平安時代にいたる数多くの貴重な成果を得ることができました。

本書はこれらのうち樋詰遺跡・砂田前遺跡の2遺跡の発掘調査報告書であります。樋詰遺跡では古墳時代後期の階段付きの溝が検出され、多量の遺物が出土しております。砂田前遺跡では100軒を越す住居跡が検出され、当時の生活を考える上で貴重な資料を提供してくれました。本書が学術研究、埋蔵文化財の保護・教育普及に御活用いただければ幸いです。

刊行にあたり、発掘調査について諸調整をしていただきました埼玉県教育局文化財保護課をはじめ、発掘調査から報告書の刊行に至るまで多大な御支援と御協力を賜りました建設省大宮国道工事事務所・同熊谷出張所、岡部町教育委員会、深谷市教育委員会ならびに地元関係各位、発掘・整理作業に携われた方々に対しまして厚く感謝の意を表します。

平成3年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 荒井修二

## 例 言

1. 本書は、岡部町大字普濟寺字樋詰384-2他、同町大字岡字矢鳥道703-3他に所在する、樋詰遺跡、砂田前遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査届に対する文化庁長官からの指示通知番号は、樋詰遺跡が昭和62年5月18日付け委保第5の614号、砂田前遺跡が昭和62年5月18日付け委保第5の615号と昭和63年5月23日付け委保第5の683号である。樋詰遺跡、砂田前遺跡に関する文献は下記のものが発表されているが、内容等に関しては本書が優先するものである。なお、年報8の普濟寺遺跡を樋詰遺跡、岡遺跡を砂田前遺跡としていただきたい。

(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 年報8、9

2. 発掘調査は一般国道17号深谷バイパス建設に先立つ事前調査であり、埼玉県教育局文化財保護課の調整を経て、建設省大宮国道工事事務所の委託により、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理・報告書作成作業も引き続き財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
3. 発掘調査は、樋詰遺跡が昭和62年5月1日～昭和63年3月31日、砂田前遺跡は昭和62年4月1日～昭和63年6月30日まで実施し、整理・報告書作成作業は平成元年4月1日～平成3年3月31日まで実施した。遺構番号は、原則的には発掘調査時のものを使用し、欠番はそのままとした。
4. 土器の胎土分析は、(財)第四紀地質研究所 井上 巖氏に委託した。
5. 本書の執筆は、第1章第1節を埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第85集より転載し、他を岩瀬 譲が担当し、井上尚明の助言を得た。
6. 発掘調査時の写真は井上尚明、山本 禎、栗島義明、岩瀬 譲、瀧瀬芳之、吉田 稔、山本 靖が撮影し、遺物写真は岩瀬が行った。出土品の整理及び図の作成は岩瀬が担当し、原田千里の補助を得た。
7. 本書の編集は資料部資料整理第2課の岩瀬が行った。
8. 本書にかかる資料は、平成3年度以降埼玉県埋蔵文化財センターが管理・保管する。
9. 本書を作成するに当たり、下記の方々から御教示、御協力を賜った。記して謝意を表したい。  
古池 晋禄 酒井 清治 澤出 晃越 関 義則 外尾 常人  
鳥羽 政之 長谷川 勇 平田 重之

## 凡 例

1. 本書内の挿図における指示は次のとおりである。

- ・遺構の表記記号はS J：住居跡、SK：土塙、SD：溝、SB：掘立柱建物跡、P：ピットである。
- ・X、Yの座標表示は国家標準直角座標第IX系に基づく座標値を表し、方位はすべて座標北を示す。
- ・グリッドは橋詰遺跡・砂田前遺跡共通で、名称は北東隅の杭名称を用い、東西—南北の順で表示している。
- ・縮尺は次の率を原則とし、それ以外は個別に示した。

遺構 住居跡 1/60 掘立柱建物跡・土塙 1/80

溝 1/120

遺物 土器 1/4 土錘・紡錘車・鉄器 1/2

拓本・砥石 1/3 玉類・耳環 1/1 石錘 1/8

- ・遺構挿図におけるスクリーントーンの部分は次のことを示す。



焼 土



炭化部分



噴 砂



粘 土

- ・遺物挿図におけるスクリーントーンは、釉の範囲を示す。
- ・土器の断面は、土師器は白抜きとし、須恵器は塗りつぶしで表現している。

2. 土器観察表の記載は以下のとおりである。

- ・法量の記号は、I=口径 II=胴径 III=底径 IV=器高 V=残高 VI=高台径 VII=孔径を表し、( )内の数値は推定値である。
- ・色調は、「新版標準土色帖」(農林省水産技術会議事務局監修)による。
- ・胎土は、肉眼で観察した範囲で確認された混入鉱物を記載し、W=白色 W'=白色透明なもの B=黒色 R=赤色である。また、「多・少」「粗・密」は相対的なものである。
- ・残存率は、図示した部分に関してであり、甕の口縁部のみの残存でも口縁部が完存していれば100%と記載してある。
- ・注記Noは発掘調査時の取り上げNoであり、遺物に直接注記してあるものである。

# 目 次

序

例 言

凡 例

I. 調査の概要	1
1. 発掘調査に至るまでの経過	1
2. 調査の経過	3
II. 遺跡の立地と環境	4
III. 樋詰遺跡の調査	11
1. 遺跡の概要	11
2. 検出された遺構と遺物	14
IV. 砂田前遺跡の調査	37
1. 遺跡の概要	37
2. 検出された遺構と遺物	39
V. 自然科学的分析	344
1. 胎土分析	344
VI. 結 語	349
1. 砂田前遺跡出土の土錘について	349

## 挿図目次

第1図	周辺の表層地層	5	第34図	第4号住居跡出土遺物	51
第2図	周辺の遺跡	6	第35図	第5号住居跡	52
第3図	周辺の地形図	8	第36図	第5号住居跡出土遺物(1)	53
第4図	グリッド配置図	10	第37図	第5号住居跡出土遺物(2)	54
第5図	樺舘遺跡全測図(1)	12	第38図	第6号住居跡出土遺物	56
第6図	樺舘遺跡全測図(2)	13	第39図	第6号住居跡	57
第7図	第1号住居跡	14	第40図	第7・30号住居跡出土遺物	58
第8図	C区第6号溝(1)	15	第41図	第7・30号住居跡	59
第9図	C区第6号溝及び周辺遺構	16	第42図	第8号住居跡	60
第10図	C区第6号溝(2)	17	第43図	第8号住居跡出土遺物(1)	61
第11図	C区第6号溝(3)	18	第44図	第8号住居跡出土遺物(2)	62
第12図	C区第6号溝出土遺物(1)	19	第45図	第9号住居跡(1)	63
第13図	C区第6号溝出土遺物(2)	21	第46図	第9号住居跡出土遺物	63
第14図	C区第6号溝出土遺物(3)	23	第47図	第9号住居跡(2)	64
第15図	C区第6号溝出土遺物(4)	25	第48図	第10号住居跡(1)	65
第16図	C区第6号溝出土遺物(5)	27	第49図	第10号住居跡(2)	66
第17図	C区第6号溝出土遺物(6)	28	第50図	第10号住居跡出土遺物(1)	67
第18図	C区第12号溝及び周辺遺構	30	第51図	第10号住居跡出土遺物(2)	68
第19図	A区出土遺物(1)	32	第52図	第10号住居跡出土遺物(3)	69
第20図	A区出土遺物(2)	33	第53図	第11号住居跡(1)	71
第21図	C区出土遺物	35	第54図	第11号住居跡(2)	72
第22図	砂田前遺跡全測図	38	第55図	第11号住居跡出土遺物(1)	73
第23図	第1号住居跡	39	第56図	第11号住居跡出土遺物(2)	74
第24図	第1号住居跡出土遺物	40	第57図	第11号住居跡出土遺物(3)	75
第25図	第2号住居跡(1)	41	第58図	第12号住居跡(1)	76
第26図	第2号住居跡(2)	42	第59図	第12号住居跡(2)	77
第27図	第2号住居跡出土遺物(1)	43	第60図	第12号住居跡出土遺物	77
第28図	第2号住居跡出土遺物(2)	44	第61図	第13号住居跡	78
第29図	第3号住居跡(1)	46	第62図	第14号住居跡	79
第30図	第3号住居跡(2)	47	第63図	第14号住居跡出土遺物	79
第31図	第3号住居跡出土遺物	48	第64図	第15号住居跡	80
第32図	第4号住居跡(1)	49	第65図	第16号住居跡出土遺物	81
第33図	第4号住居跡(2)	50	第66図	第16号住居跡	82

第67图	第17号住居跡	83	第103图	第31号住居跡出土遺物	123
第68图	第17号住居跡出土遺物	84	第104图	第32号住居跡(1)	124
第69图	第18号住居跡	85	第105图	第32号住居跡(2)	125
第70图	第18号住居跡出土遺物	85	第106图	第32号住居跡出土遺物	125
第71图	第19号住居跡	86	第107图	第33号住居跡(1)	126
第72图	第19号住居跡出土遺物	87	第108图	第33号住居跡(2)	127
第73图	第20・21号住居跡出土遺物	87	第109图	第33号住居跡出土遺物	127
第74图	第20・21号住居跡(1)	88	第110图	第34号住居跡(1)	128
第75图	第20・21号住居跡(2)	89	第111图	第34号住居跡(2)	129
第76图	第22号住居跡(1)	91	第112图	第34号住居跡出土遺物	129
第77图	第22号住居跡(2)	93	第113图	第35号住居跡(1)	130
第78图	第22号住居跡出土遺物(1)	94	第114图	第35号住居跡(2)	131
第79图	第22号住居跡出土遺物(2)	95	第115图	第35号住居跡出土遺物	131
第80图	第23号住居跡(1)	97	第116图	第36号住居跡(1)	132
第81图	第23号住居跡(2)	98	第117图	第36号住居跡(2)	133
第82图	第24号住居跡(1)	99	第118图	第36号住居跡出土遺物(1)	134
第83图	第24号住居跡(2)	100	第119图	第36号住居跡出土遺物(2)	135
第84图	第24号住居跡出土遺物(1)	101	第120图	第36号住居跡出土遺物(3)	136
第85图	第24号住居跡出土遺物(2)	102	第121图	第37号住居跡出土遺物	137
第86图	第24号住居跡出土遺物(3)	103	第122图	第37号住居跡	138
第87图	第25号住居跡(1)	105	第123图	第38号住居跡	139
第88图	第25号住居跡(2)	106	第124图	第38号住居跡出土遺物	140
第89图	第25号住居跡出土遺物	107	第125图	第39号住居跡(1)	141
第90图	第26号住居跡	109	第126图	第39号住居跡出土遺物	141
第91图	第26号住居跡出土遺物	111	第127图	第39号住居跡(2)	142
第92图	第27号住居跡	112	第128图	第40号住居跡	143
第93图	第27号住居跡出土遺物	114	第129图	第40号住居跡出土遺物	143
第94图	第28号住居跡(1)	115	第130图	第41号住居跡(1)	144
第95图	第28号住居跡(2)	116	第131图	第41号住居跡(2)	145
第96图	第28号住居跡出土遺物(1)	117	第132图	第41号住居跡出土遺物(1)	146
第97图	第28号住居跡出土遺物(2)	118	第133图	第41号住居跡出土遺物(2)	148
第98图	第29号住居跡(1)	119	第134图	第41号住居跡出土遺物(3)	149
第99图	第29号住居跡(2)	120	第135图	第41号住居跡出土遺物(4)	151
第100图	第29号住居跡出土遺物	121	第136图	第41号住居跡出土遺物(5)	152
第101图	第31号住居跡(1)	122	第137图	第41号住居跡出土遺物(6)	153
第102图	第31号住居跡(2)	123	第138图	第41号住居跡出土遺物(7)	155



第139图	第41号住居跡出土遺物(8)	156	第175图	第58・90号住居跡出土遺物	197
第140图	第41号住居跡出土遺物(9)	158	第176图	第60号住居跡(1)	198
第141图	第41号住居跡出土遺物(10)	159	第177图	第60号住居跡(2)	199
第142图	第41号住居跡出土遺物(11)	160	第178图	第60号住居跡出土遺物	199
第143图	第42・43号住居跡出土遺物	161	第179图	第61号住居跡出土遺物	200
第144图	第42・43号住居跡(1)	162	第180图	第61号住居跡	201
第145图	第42・43号住居跡(2)	163	第181图	第62号住居跡	203
第146图	第44・45号住居跡	164	第182图	第62号住居跡出土遺物	204
第147图	第46号住居跡(1)	165	第183图	第63・64号住居跡	205
第148图	第46号住居跡(2)	166	第184图	第63号住居跡	206
第149图	第46号住居跡出土遺物(1)	167	第185图	第63・64号住居跡出土遺物	207
第150图	第46号住居跡出土遺物(2)	168	第186图	第65・70号住居跡(1)	208
第151图	第47号住居跡	170	第187图	第65・70号住居跡(2)	209
第152图	第47号住居跡出土遺物	171	第188图	第65号住居跡出土遺物	210
第153图	第48号住居跡	172	第189图	第70号住居跡出土遺物	212
第154图	第49号住居跡(1)	173	第190图	第66号住居跡(1)	213
第155图	第49号住居跡(2)	174	第191图	第66号住居跡(2)	214
第156图	第49号住居跡出土遺物	175	第192图	第66号住居跡出土遺物(1)	215
第157图	第50号住居跡	176	第193图	第66号住居跡出土遺物(2)	217
第158图	第50号住居跡出土遺物(1)	177	第194图	第66号住居跡出土遺物(3)	218
第159图	第50号住居跡出土遺物(2)	179	第195图	第66号住居跡出土遺物(4)	220
第160图	第51号住居跡	181	第196图	第66号住居跡出土遺物(5)	221
第161图	第51号住居跡出土遺物	182	第197图	第66号住居跡出土遺物(6)	222
第162图	第52号住居跡	184	第198图	第67号住居跡	224
第163图	第52号住居跡出土遺物	185	第199图	第67号住居跡出土遺物(1)	225
第164图	第53号住居跡(1)	186	第200图	第67号住居跡出土遺物(2)	226
第165图	第53号住居跡(2)	187	第201图	第67号住居跡出土遺物(3)	227
第166图	第53号住居跡出土遺物	188	第202图	第68号住居跡(1)	228
第167图	第54号住居跡	189	第203图	第68号住居跡出土遺物	228
第168图	第54号住居跡出土遺物	190	第204图	第68号住居跡(2)	229
第169图	第55号住居跡(1)	191	第205图	第69号住居跡(1)	230
第170图	第55号住居跡(2)	192	第206图	第69号住居跡(2)	231
第171图	第55号住居跡出土遺物	192	第207图	第69号住居跡出土遺物(1)	232
第172图	第56・57・59号住居跡	193	第208图	第69号住居跡出土遺物(2)	233
第173图	第56・57・59号住居跡出土遺物	194	第209图	第71号住居跡(1)	235
第174图	第58・90号住居跡	196	第210图	第71号住居跡(2)	236

第211图	第71号住居跡出土遺物(1)	237	第247图	第83号住居跡(1)	275
第212图	第71号住居跡出土遺物(2)	238	第248图	第83号住居跡(2)	276
第213图	第71号住居跡出土遺物(3)	240	第249图	第83号住居跡出土遺物	277
第214图	第71号住居跡出土遺物(4)	241	第250图	第84号住居跡	278
第215图	第71号住居跡出土遺物(5)	242	第251图	第85号住居跡	279
第216图	第71号住居跡出土遺物(6)	244	第252图	第85号住居跡出土遺物(1)	280
第217图	第71号住居跡出土遺物(7)	245	第253图	第85号住居跡出土遺物(2)	281
第218图	第72号住居跡出土遺物	245	第254图	第85号住居跡出土遺物(3)	283
第219图	第72号住居跡	246	第255图	第85号住居跡出土遺物(4)	285
第220图	第73号住居跡(1)	247	第256图	第85号住居跡出土遺物(5)	286
第221图	第73号住居跡(2)	248	第257图	第86・87号住居跡	287
第222图	第73号住居跡(3)	249	第258图	第87号住居跡	288
第223图	第73号住居跡出土遺物(1)	250	第259图	第86号住居跡出土遺物(1)	289
第224图	第73号住居跡出土遺物(2)	252	第260图	第86号住居跡出土遺物(2)	290
第225图	第74号住居跡(1)	253	第261图	第86号住居跡出土遺物(3)	291
第226图	第74号住居跡出土遺物(1)	254	第262图	第87号住居跡出土遺物	291
第227图	第74号住居跡(2)	255	第263图	第88号住居跡	292
第228图	第74号住居跡出土遺物(2)	257	第264图	第88号住居跡出土遺物	292
第229图	第74号住居跡出土遺物(3)	258	第265图	第89号住居跡(1)	293
第230图	第75号住居跡	260	第266图	第89号住居跡(2)	294
第231图	第75号住居跡出土遺物	261	第267图	第89号住居跡出土遺物	294
第232图	第76号住居跡(1)	262	第268图	第91号住居跡	296
第233图	第76号住居跡(2)	263	第269图	第91号住居跡出土遺物(1)	297
第234图	第76号住居跡出土遺物	264	第270图	第91号住居跡出土遺物(2)	298
第235图	第77号住居跡(1)	265	第271图	第92号住居跡	299
第236图	第77号住居跡(2)	266	第272图	第92号住居跡出土遺物	300
第237图	第77号住居跡出土遺物	266	第273图	第101号住居跡	301
第238图	第78号住居跡	267	第274图	第101号住居跡出土遺物	302
第239图	第79号住居跡	268	第275图	第102号住居跡出土遺物	302
第240图	第79号住居跡出土遺物	268	第276图	第102号住居跡	303
第241图	第80号住居跡	270	第277图	第103号住居跡出土遺物	303
第242图	第81号住居跡(1)	271	第278图	第103号住居跡	304
第243图	第81号住居跡(2)	272	第279图	第104号住居跡	305
第244图	第81号住居跡出土遺物	273	第280图	第104号住居跡出土遺物	306
第245图	第82号住居跡	274	第281图	第105号住居跡	307
第246图	第82号住居跡出土遺物	275	第282图	第105号住居跡出土遺物	308

第283図 第106号住居跡	309	第299図 第3号溝出土遺物	328
第284図 第106号住居跡出土遺物	310	第300図 土壌	330
第285図 第107号住居跡	311	第301図 第1号土壌出土遺物	331
第286図 第108号住居跡	312	第302図 土壌出土遺物	333
第287図 第108号住居跡出土遺物	313	第303図 グリッド出土遺物(1)	334
第288図 第109号住居跡	315	第304図 グリッド出土遺物(2)	335
第289図 第109号住居跡出土遺物	316	第305図 グリッド出土遺物(3)	336
第290図 第110号住居跡	317	第306図 グリッド出土遺物(4)	337
第291図 第110号住居跡出土遺物(1)	318	第307図 グリッド出土遺物(5)	338
第292図 第110号住居跡出土遺物(2)	319	第308図 グリッド出土遺物(6)	339
第293図 第1号掘立柱建物跡及び周辺ピット群	321	第309図 グリッド出土土錘	342
第294図 第1・2号溝(1)	323	第310図 Q T - P L 相関図	346
第295図 第1・2号溝(2)	324	第311図 関連遺跡位置図	347
第296図 第1号溝出土遺物(1)	325	第312図 土錘法量表	349
第297図 第1号溝出土遺物(2)	326	第313図 土錘集成図	351
第298図 第3号溝	328		

## 図版目次

- 巻頭図版 砂田前遺跡全景
- 図版扉 樋詰遺跡C区第6号溝
- 図版1 樋詰第1号住居跡  
樋詰C区第6号溝  
樋詰C区第6号溝C階段  
樋詰C区第6号溝A階段  
樋詰C区第6号溝B階段
- 図版2 樋詰遺跡出土遺物(1)
- 図版3 樋詰遺跡出土遺物(2)
- 図版4 砂田前遺跡 東半・西半
- 図版5 第2～5・11号住居跡
- 図版6 第11・15・20～22・24・28・29号住居跡
- 図版7 第33～37・39号住居跡
- 図版8 第39・41～43・46号住居跡
- 図版9 第49・51・62～66号住居跡
- 図版10 第85・102・103・108・110号住居跡  
第1号土塼
- 図版11 須恵器 坏・蓋(1)
- 図版12 須恵器 坏・蓋(2)
- 図版13 土師器 坏(1)
- 図版14 土師器 坏(2)
- 図版15 土師器 坏(3)
- 図版16 土師器 坏(4)
- 図版17 土師器 椀
- 図版18 須恵器・土師器 壺・埴(1)
- 図版19 須恵器・土師器 壺・埴(2)
- 図版20 土師器 甕(1)
- 図版21 土師器 甕(2)
- 図版22 土師器 甕(3)
- 図版23 土師器 甕(4)
- 図版24 土師器 甕(5)
- 図版25 土師器 甗(1)
- 図版26 土師器 甗(2)
- 図版27 土師器 高坏・支脚
- 図版28 紡錘車、耳環・勾玉・切子玉・白玉
- 図版29 土鍬(1)
- 図版30 土鍬(2)

# I. 調査の概要

## 1. 発掘調査に至るまでの経過

一般国道17号は、東京から新潟に至る幹線道路で、増大する交通量に対処するため、建設省では昭和37年以来、各種バイパスを建設している。深谷バイパスもその一環として計画された。

埼玉県教育委員会では、この事業と埋蔵文化財保護との調整を図るため、昭和45年に国庫補助を得て分布調査を実施してきた。

昭和46年、深谷バイパスの計画にあたり、建設省関東地方建設局大宮国道工事事務所調査課長から文化財保護室長（当時）あて、昭和46年11月25日付け大宮調第146号をもって、「一般国道16号線の東大宮バイパス、西大宮バイパスおよび一般国道17号線の熊谷バイパス、深谷バイパス、上武バイパスの建設予定地内における埋蔵文化財の所在について（依頼）」があり、分布調査の結果とを照合し、深谷バイパス線路上に数箇所の遺跡が確認されているため、即日、教文第854号をもって埋蔵文化財が所在する旨回答した。

昭和48年7月30日付け大宮調151号をもって、調査費用等について協議があり、調査機関、時期、経費の明細等については改めて協議するよう回答した。昭和55年財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が設立され、実施機関は事業団とし、昭和55年10月、新ヶ谷戸遺跡から発掘調査は開始された。これについては昭和57年3月に報告書が刊行された。

工事区間の延長にともなって、昭和57年12月16日付け大宮調第167号をもって、大宮国道工事事務所長から県教育長あて、「一般国道17号深谷バイパス改良工事に伴う埋蔵文化財の所在について（照会）」があり、昭和58年11月8日付け教文第755号をもって、上敷免遺跡ほか4遺跡が所在する旨回答した。また、これにともない、昭和59年3月14日付け大宮調第27号で発掘調査について協議があり、昭和59年3月16日付け教文第1163号で、発掘調査は財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に依頼して実施するのが適当と思われる旨回答した。これらの遺跡の調査は、昭和55年4月から実施された。

さらに、工事区間が岡部町方面に延長するにともない、その区間の埋蔵文化財の所在について、昭和60年10月9日付け大宮調第147号で照会があり、昭和60年10月21日付け教文第699号をもって四十坂下遺跡のほか2遺跡が所在する旨回答した。これについては、埋蔵文化財包蔵地の範囲を明確にするため予備調査を実施し、実施については文化財保護課と協議して欲しい旨付け加えた。

この回答をもとに、大宮国道工事事務所長から県教育長あて、昭和62年3月3日付け大宮調第17号をもって「一般国道17号（深谷バイパス）改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査について（協議）」があり、昭和62年3月23日付け教文第1127号で、その後新たに発見された明戸上敷免遺跡を加え、先に回答をした四十坂下遺跡、矢島遺跡、戸森遺跡の4遺跡が発掘調査を実施する必要がある、実施機関を財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団にする旨の回答をした。これらの遺跡は昭和62年4月から発掘調査が開始された。

（文化財保護課）

## 発掘調査の組織

### 1. 発掘調査（昭和62年度）

主体者（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
理 事 長	長井 五郎
副 理 事 長	百瀬 陽二
常務理事(兼)調査研究部長	早川 智明
庶務経理	
管 理 部 長	原田 家次
主 査	関野 栄一
主 事	江田 和美
〃	岡野美智子
〃	福田 浩
〃	本庄 朗人
発掘調査	
調査研究部副部長	塩野 博
調査研究第一課長	今泉 泰之
主任調査員	井上 尚明
調査員	山本 慎
〃	岩瀬 譲
〃	瀧瀬 芳之
〃	吉田 稔
〃	山本 靖

### 2. 発掘調査（昭和63年度）

主体者（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
理 事 長	長井 五郎
副 理 事 長	百瀬 陽二
常務理事(兼)調査研究部長	早川 智明
庶務経理	
管 理 部 長	原田 家次
管 理 課 長	関野 栄一
主 事	江田 和美
〃	岡野美智子
〃	本庄 朗人
〃	斉藤 勝秀
発掘調査	
調査研究部副部長	塩野 博
調査研究第一課長	坂野 和信
調査員	栗島 義明
〃	岩瀬 譲

### 3. 整理事業（平成元年度）

主体者（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
理 事 長	荒井 修二
副 理 事 長	百瀬 陽二
常務理事(兼)管理部長	古市 芳之
理事(兼)調査研究部長	吉川 國男
庶務経理	
管 理 課 長	関野 栄一
主 事	江田 和美
〃	岡野美智子
〃	本庄 朗人
〃	斉藤 勝秀
整 理	
調査研究部副部長	塩野 博
調査研究第五課長	今泉 泰之
調査員	岩瀬 譲

### 4. 整理事業（平成2年度）

主体者（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
理 事 長	荒井 修二
副 理 事 長	早川 智明
常務理事(兼)管理部長	古市 芳之
庶務経理	
庶 務 課 長	高田 弘義
主 査	松本 晋
主 事	長滝美智子
経 理 課 長	関野 栄一
主 任	江田 和美
主 事	本庄 朗人
〃	斉藤 勝秀
〃	菊地 久
整 理	
資 料 部 長	栗原 文蔵
資料部副部長(兼)	
資料整理第一課長	増田 逸朗
資料整理第二課長	石岡 憲雄
主任調査員	岩瀬 譲
調査員 補	原田 千里

## 2. 調査の経過

### (1) 樋跡遺跡

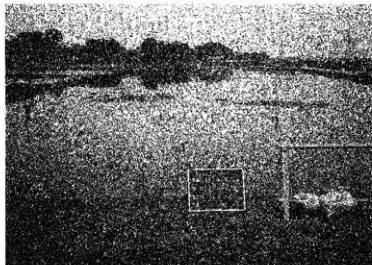
発掘調査は昭和62年（1987年）5月1日から昭和63年3月31日にかけて行なわれた。発掘調査対象面積は30,270m<sup>2</sup>である。発掘区は農道によって3区に分割され、便宜的に東よりA・B・C区とし、調査はA区、C区、B区の順に実施した。途中6月下旬から9月上旬にかけては、周辺の水田に水が引かれているため調査区内での湧水が激しく、一時は完全に水没し、やむなく室内作業を実施した時期もあった。しかし、比較的遺構の密度が希薄だったため最後まで残ったC区の調査も3月下旬には終了した。

### (2) 砂田前遺跡

発掘調査は昭和62年（1987年）4月1日から昭和63年6月30日にかけて行なわれた。発掘調査対象面積は12,680m<sup>2</sup>である。発掘区は農道によって東西に二分され、東半部より調査を開始した。樋跡遺跡と同様に、調査区が水没した期間は室内作業を実施した。西半部は湧水が完全に治まった9月下旬に着手した。63年1月に調査区を二分していた農道を通行止ののち調査を実施し、3月に復旧した。同年5月には季節はずれの長雨のため、遺構内に大量の雨水が溜り、調査は困難を極めたが水中ポンプによる強制排水を行ない、6月中旬に調査を終了、埋め戻し・器材撤収を行なった。

### (3) 整理事業

報告書作成作業は平成元年（1989年）4月1日から平成3年3月31日まで実施した。平成元年度（4月～3月）は、遺物の水洗・注記および接合・復元を行ない、併行して図面整理、遺物の実測を行った。平成2年度は、遺物の復元・実測が終了ののち、遺構・遺物のトレース、版組、割り付け、遺物写真の撮影を行ない、原稿執筆を開始、3月報告書を刊行する。



水没した砂田前遺跡

## II. 遺跡の立地と環境

岡部町は埼玉県の北部に位置し、JR 高崎線岡部駅の北方約1.5kmに砂田前遺跡、その東方に隣接して樋詰遺跡が所在する。

岡部町の地形は(1)志戸川・小山川に開析された沖積地、(2)櫛挽台地、(3)妻沼低地、(4)山崎山丘陵に区分される。樋詰遺跡・砂田前遺跡は、櫛挽台地北方の福川と小山川とに挟まれた妻沼低地であり、台地との比高差は約10mを誇る。妻沼低地は、利根川の流向によって形成された低地であり、自然堤防の発達が良好である。遺跡はこの自然堤防上に立地する。

岡部町の古墳時代五領期の遺跡は、水窪遺跡、大寄A・B遺跡、地神祇A・B遺跡、石蒔A・B遺跡等があげられる。水窪遺跡は櫛挽台地上に位置するが、他はいずれも志戸川と小山川に挟まれた地域に位置する。水窪遺跡ではS字状口縁を持つ台付甕や該期の土器が多量に出土し、石蒔B遺跡では前方後方型周溝墓を中心とした12基の周溝墓群が検出されている。また、大寄A遺跡、地神祇B遺跡、石蒔A遺跡では灌漑用水路と考えられる大溝が確認されている。

和泉期の遺跡は、宮西遺跡、千光寺遺跡があげられる。千光寺遺跡は山崎山丘陵の北斜面に位置し、方形周溝墓2基、方形台状墓1基、変形墳1基、円墳2基、帆立貝式古墳1基が調査され、4世紀末から6世紀中頃までの墳墓が連続と継続していることが判明している。

鬼高期にはいと各地に群集墳が出現する。山崎山丘陵には諏訪山古墳群、西山古墳群がある。西山古墳群は、前方後円墳1基を中心にして10数基の円墳からなる古墳群で、前方後円墳(5号墳)は7世紀初頭前後の築造と考えられている。

櫛挽台地では、台地縁辺部に後期古墳が広く分布している。四十坂周辺には前方後円墳の寅稲荷古墳・お手長山古墳、円墳の浅間山古墳があり、水窪遺跡では10基の古墳跡が検出されている。また、かつて弥生時代の再葬墓が検出された四十坂遺跡では岡部町教育委員会によって10数基の古墳跡が確認されている(註1)。

岡里周辺では、白山遺跡において帆立貝式古墳1基を含む24基の古墳跡が調査されている。この古墳群は、1mから6mの間隔を持って古墳が構築され、古墳周溝の切り合いが全くなく、後出の周溝は前のものをよけて造っている。また、比較的密集しているにもかかわらず、中央やや西りに約35m×25mの空間があり、その中央にカマドを持たない鬼高期の住居跡が検出されている。



河道氾濫原



旧流路跡



自然堤防



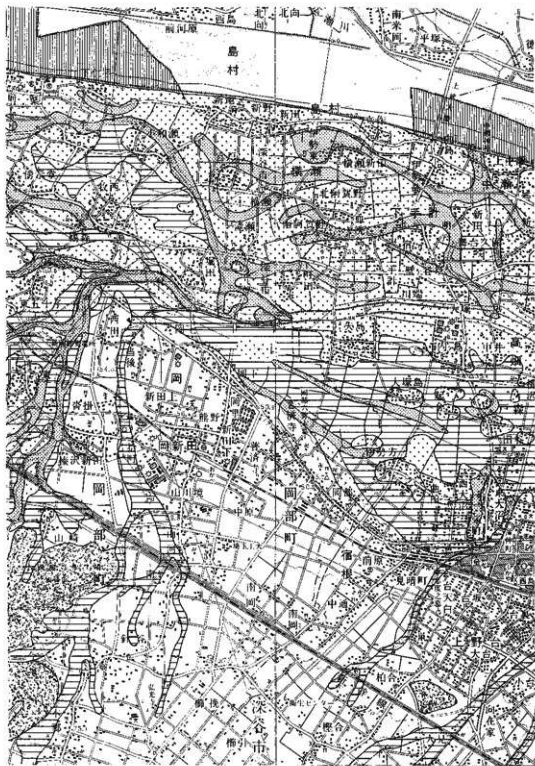
砂礫層



後背湿地・谷地田の腐植土を含む

スクリーントーンなしはローム





第1図 周辺の表層地層



第2図 周辺の遺跡

普濟寺から岡部周辺では愛宕神社古墳、上原遺跡1号墳があげられる。愛宕神社古墳はこの周辺では現存する唯一の古墳であり、方墳と考えられているが、詳細な調査が行われていないため古墳とするには疑わしい点もあげられる。上原遺跡1号墳は、墳丘、主体部ともに消失しているが、周溝内側の直径が20.8mを測る円墳で、周溝底部から7世紀後半代の土師器が検出されている。

鬼高期の集落跡は、大寄B遺跡、地神祇A遺跡があげられる。大寄B遺跡では該期の住居跡が46軒と玉造り工房跡が調査されている。地神祇A遺跡では住居跡19軒と大溝が検出され、大溝は人工的な幹線用水路の可能性が考えられている。

奈良・平安時代の遺跡は、權挽台地北西部の内出遺跡、熊野遺跡、白山遺跡、志度川・小山川に挟まれた地域にある西浦北遺跡、六反田遺跡があげられる。内出遺跡では、古墳時代後期から平安時代の住居跡22軒が検出され、和銅開珎・帯金具などが出土している。熊野遺跡では住居跡43軒、掘立柱建物跡2棟が検出され、円面硯・帯金具や多量の鉄製品が出土し、白山遺跡では87軒の住居跡が調査されている。西浦北遺跡は該期の住居跡49軒、製鉄・精錬遺構14基が検出され、帯金具や国重要文化財に指定された緑釉手付瓶・灰釉長頸瓶が出土している。六反田遺跡では、該期の住居跡60軒、掘立柱建物跡12棟が検出されている。

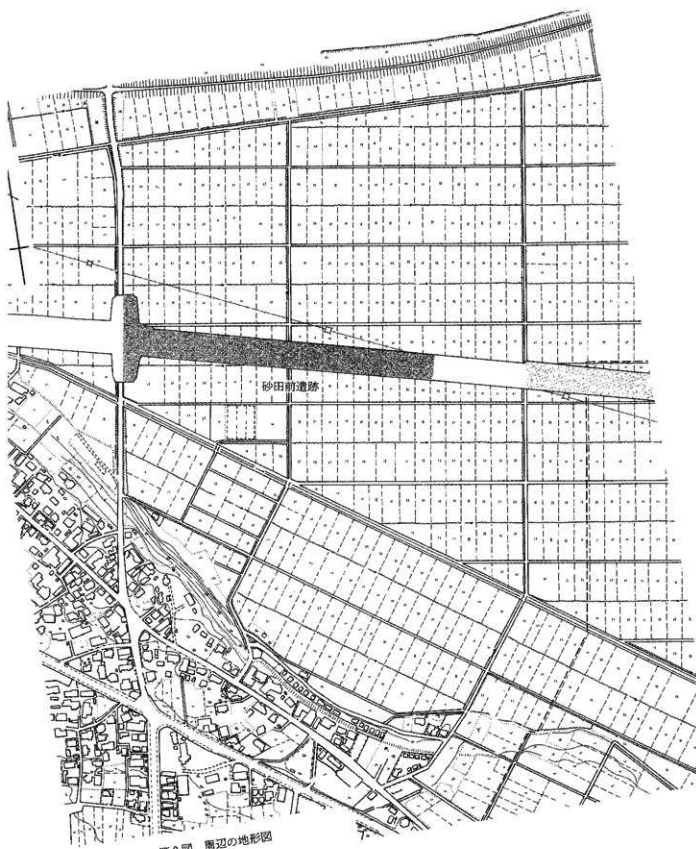
岡部町の妻沼低地の遺跡はこれまで明らかでなかったが、本報告書をはじめとする深谷バイパス建設に伴う発掘調査において3遺跡が確認され、今後増加すると思われる。

註1 岡部町教育委員会鳥羽政之・平田重之両氏より御教示

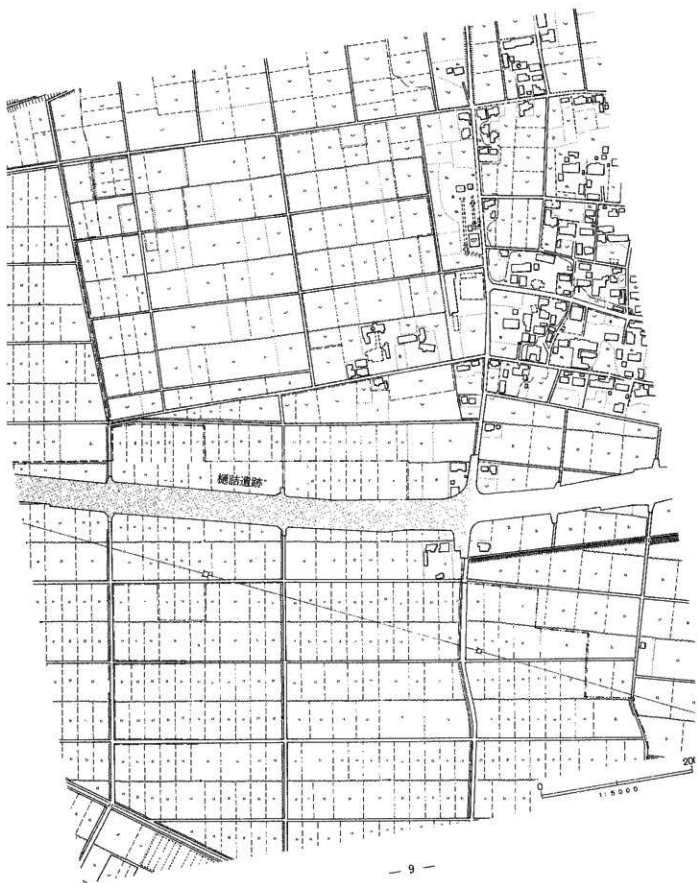
## 参考文献

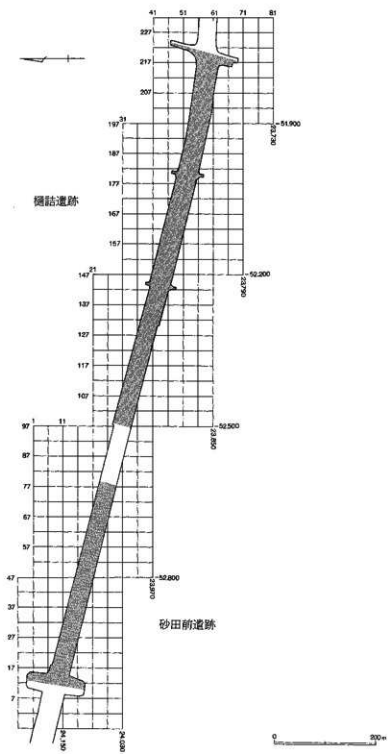
- 佐藤忠雄 1974 「大寄B遺跡 西浦北遺跡」岡部町教育委員会  
増田逸郎 市川修 1975 「千光寺」埼玉県遺跡調査会報告第27集  
栗原文蔵 佐藤忠雄 1976 「水窪・新井遺跡の調査」岡部町教育委員会  
栗原文蔵 佐藤忠雄 1977 「水窪遺跡の調査 第2次」岡部町教育委員会  
佐藤忠雄 斉藤国夫 1978 「後榛沢遺跡群の調査」岡部町教育委員会  
埼玉県 1978 「土地分類基本調査 高崎・深谷」  
梅沢太久夫 石岡憲雄 1981 「六反田」六反田遺跡調査会  
鬼形芳夫 1986 「内出遺跡」内出遺跡調査会  
鳥羽政之 1987 「上原遺跡」岡部町遺跡調査会

1. 樋括遺跡 2. 砂田前遺跡 3. 原ヶ谷戸遺跡 4. 滝下遺跡 5. 矢島南遺跡 6. 熊野遺跡  
7. 内出遺跡 8. 白山遺跡 9. 岡部町No.3遺跡 10. 岡部町No.2遺跡 11. 西龍ヶ谷遺跡 12.  
水窪遺跡 13. 新井遺跡 14. 六反田遺跡 15. 稻荷塚遺跡 16. 大寄A遺跡 17. 大寄B遺跡 18.  
西浦北遺跡 19. 宮西遺跡 20. 古川端遺跡 21. 東光寺裏遺跡 22. 地神祇A遺跡 23. 地神祇B  
遺跡 24. 石苜A遺跡 25. 石苜B遺跡 26. 鷺山祭祀遺跡 27. 北坂遺跡 28. 上原遺跡 29. 愛  
宕神社古墳 30. お手長山古墳 31. 寅稻荷古墳 32. 千光寺遺跡 33. 浅間山古墳 34. 岡部町No.82  
遺跡 35. 川輪聖天塚古墳 36. 長坂聖天塚古墳 37. 諏訪山古墳群 38. 西山古墳群 39. 山崎山  
古墳群



第3図 周辺の地形図





第4図 グリッド配置図

### III. 樋詰遺跡の調査

#### 1. 遺跡の概要

樋詰遺跡は、蘆刈台地北方の小山川と福川に挟まれた妻沼低地の自然堤防上に位置する。遺跡の東端は深谷市との市町境になっており、深谷市側には矢島南遺跡がある。遺跡は農道によって3区に分割され、東よりA区・B区・C区とした。標高は37.0m～38.0mを測り、全体としては、西から東へ緩やかに傾斜し、A区の東端では青灰色粘土層が見られ、かつて埋没谷状の地形であったことが確認された。

検出された遺構は、住居跡1軒・溝44条・土壇70基・ピット群・風倒木痕10箇所・畝状遺構1箇所である。以下、各区ごとにその概要を示す。なお、遺構番号は区ごとに付けられ、各々1から始まっている。

##### A区

遺跡東端の県道中瀬・普濟寺線に接する地区で、それ以東は深谷市となる。180～221—51～65グリッドの範囲にある。

検出された遺構は、溝9条・土壇11基・ピット群・風倒木痕10箇所である。土壇・ピット群は中央部より西側に、風倒木痕は中央部やや東側に集中する傾向が見られる。遺構からの出土物は極めて少量であり、各遺構の時期を限定するものはないが、おおまかには古墳時代から中世の所産と考えられる。

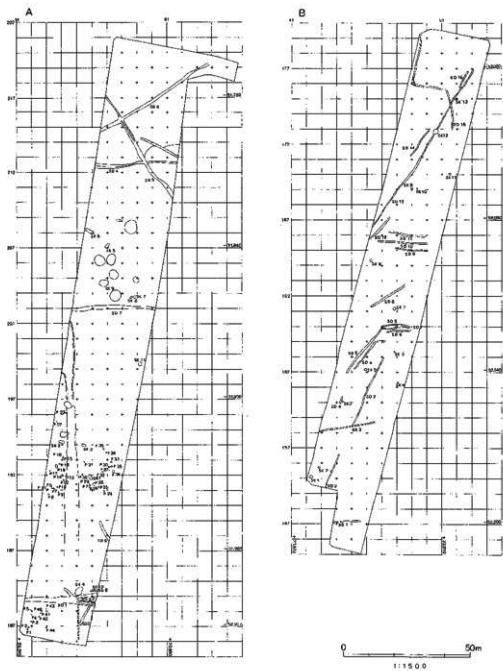
また、東半部において、縄文時代後・晩期と弥生時代中期初頭にかけての薄い包含層が見られ、ごく少量であるが土器片が出土している。このうち弥生時代中期初頭の土器は、関東地方では古い段階に位置付けられると思われる。

##### B区

遺跡の中央に位置し、145～179—42～54グリッドの範囲にある。検出された遺構は、溝16条・土壇13基である。遺構は全体に散在し、掘り込みの浅いものが大半を占める。また、出土遺物は極めて小片少量であり、図示できるものはない。

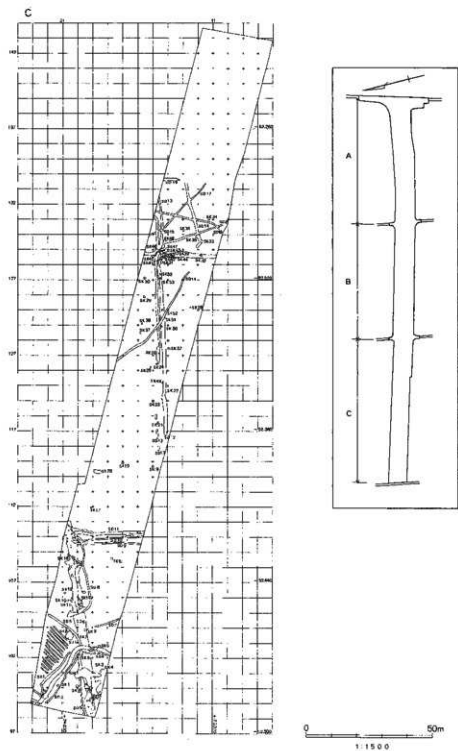
##### C区

遺跡西端の標高が最も高い位置にあり、約120m西には砂田前遺跡がある。98～143—28～44グリッドの範囲にある。検出された遺構は、住居跡1軒・溝19条・土壇47基・畝状遺構1箇所である。遺構は東端部では全く検出されず、中央部と西端部に集中する傾向が見られる。住居跡は大部分削平されており、床面とカマドの掘り込みの一部を検出しただけで、出土遺物もないため時期等は不明である。溝のうち数条は時期を限定できるものがある。第6号溝は長さ約750mにわたって検出され、古墳時代後期の土器を多量に出土している。第12号溝は小片ではあるが平安時代の土器が出土している。



第5図 榑詰遺跡全測図(1)





第6図 橿詰遺跡全測図(2)

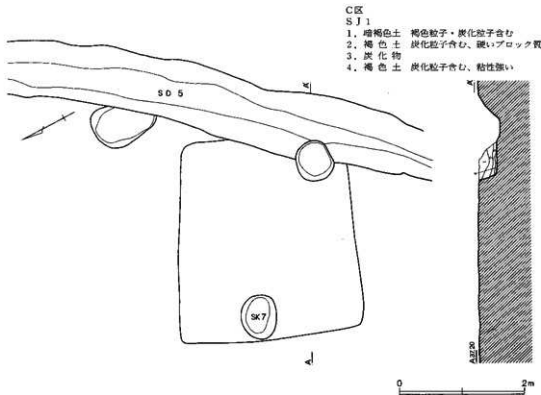
## 2. 検出された遺構と遺物

植誌遺跡では、既述のように住居跡1軒・溝44条・土塙70基・ピット群・風倒木痕10箇所・畝状遺構1箇所が検出されているが、C区第6号溝以外の遺構では出土遺物がなかったり小片少量のためその時期や性格等不明点が多い。しかし、A区第7・第1号溝、B区第10・第1号溝、C区第15・第12・第11号溝（東から）は、ほぼ南北に走りその間隔は110～115mである。C区第15・第12号溝では調査区内で直角に曲がって東西にも溝が走っており、小片ではあるが平安時代の土器片が出土している。また、これらの溝は覆土が極めて類似しており、条里制との関連も考えられる。

### (1) 住居跡

#### C区第1号住居跡（第7図）

103-31グリッドに位置し、第5号溝・第7号土塙に切られる。規模は長軸3.2m・短軸2.9mを測り、東西にわずかに長い。掘り込みはほとんどなく、床面の一部がわずかに残る程度である。カマドは東壁の南よりに構築されているが、燃烧部の一部が検出されたのみで煙道部等は第5号溝によって切られている。出土遺物はない。



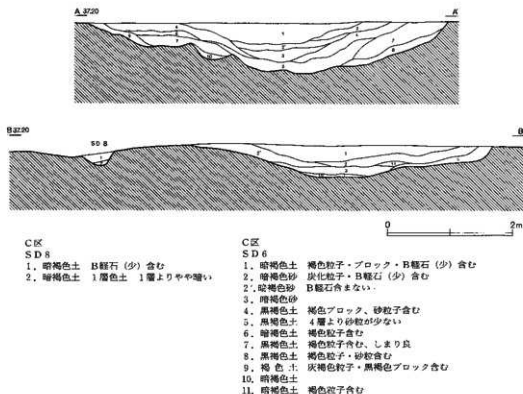
第7図 第1号住居跡

## (2) 溝

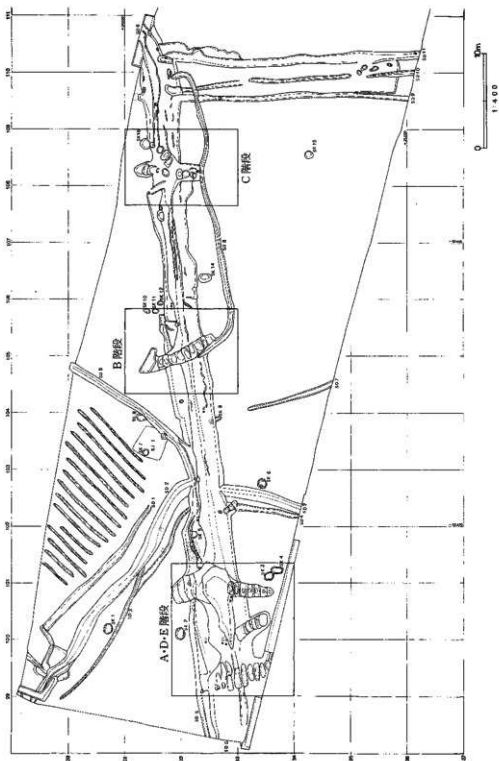
### C区第6号溝及び周辺の遺構 (第8~11図)

C区第6号溝は、西端の98~110-31~33グリッドに位置し、西から東に約76mにわたって直線的に走り、幅2~5m、深さ0.5~0.9mを測る。途中数箇所に階段状施設が設置され、便宜的に西からE・D・A・B・C階段とした。E・D・A階段は、溝の西端にまとまって設置されており、E階段は一部調査区外にあるが溝の南北両側から、D階段は南から、A階段は両側から使用できるようにしている。B階段は、A階段の約25m東の溝中央部に設置され、南北両側から使用できる。C階段は、B階段の約20m東に設置され、一部第8号溝に切られているが両側から使用でき、北壁のものは中央に一列、不明瞭だがそれを挟み「ハ」の字状に構築され計3列の階段がある。各々の階段部分の溝底は他の部分より深くなっており、特にA階段付近の溝底はそれが顕著である。この部分は溝底が大きく掘り込まれ、多数の小ピットが検出されており、付近から手捏ね土器が出土している。第6号溝では手捏ね土器の他、多量の坏や壺・耳環・白玉・土鏝・鉄製鋤先等が出土している。

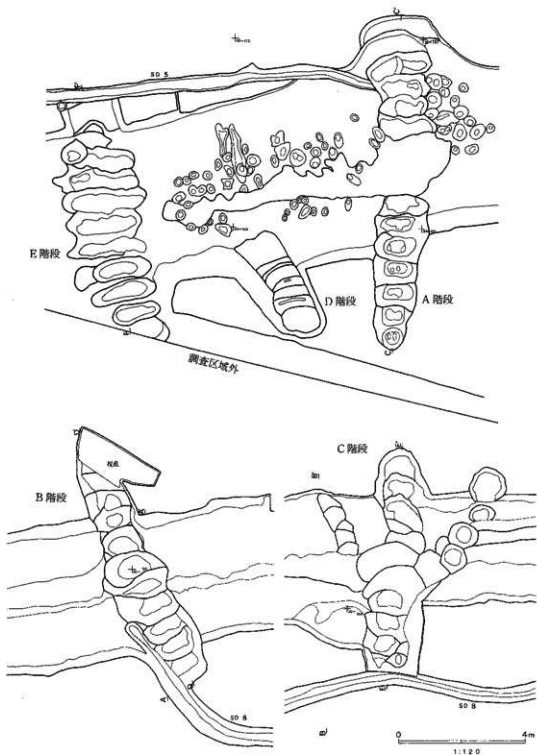
周辺の遺構では、第3・第5・第7・第8号溝、第1・第2・第4号溝は覆土の観察からそれぞれが同時期のものと考えられ、第1号溝の覆土は、後述する砂田前遺跡第1号溝と類似している。畝状遺構は、出土遺物がないため時期等は不明である。



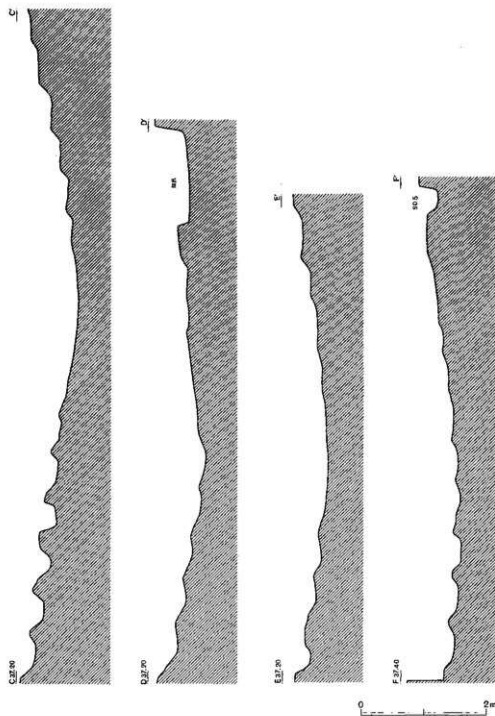
第8図 C区第6号溝(1)



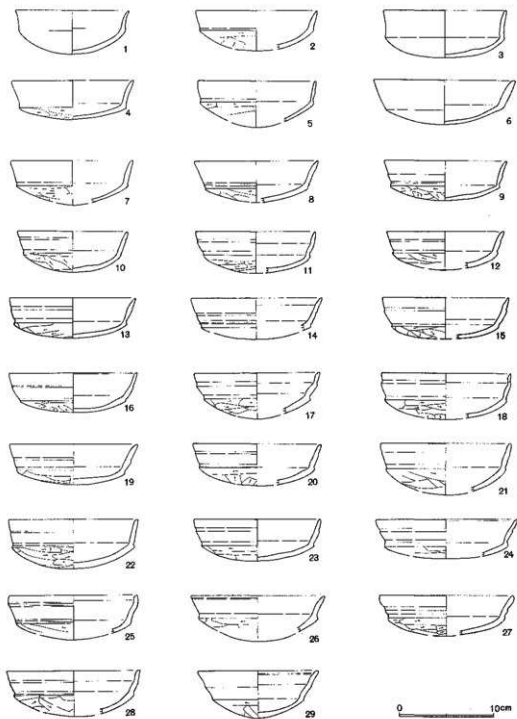
第9図 C区第6号溝及び周辺遺構



第10回 C区第6号溝(2)



第11图 C区第6号溝(3)

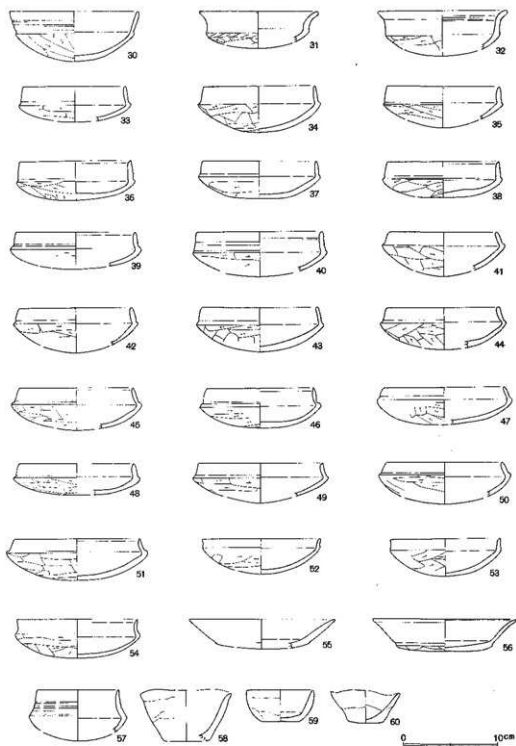


第12图 C区第6号溝出土遺物(1)

## 稲結遺跡C区6号溝出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 12.0 IV4.7	橙	W少	80%	全体に風化が著しい	
2	坏	I (12.9)IV(4.9)	にぶい橙	W多	10%	内外面共に風化著しい	
3	坏	I (13.0) IV5.0	橙	W	70%	内外面共にやや風化	No.15
4	坏	I (12.9) IV4.1	にぶい橙	W(2~3mm)多	30%		
5	坏	I (12.6)IV(4.9)	にぶい橙	W	20%	内外面共にやや風化	
6	坏	I 15.1 IV4.7	にぶい橙	W多	100%	内外面共に風化著しい	No.19
7	坏	I (8.8) IV(5.4)	にぶい橙	W少	40%		
8	坏	I (13.2)IV(4.4)	にぶい赤褐	W少	40%		
9	坏	I (13.0) IV4.2	明赤褐	W少、極密	20%		
10	坏	I 11.7 IV4.3	橙	W・B多、やや粗	70%	内外面共にやや風化	
11	坏	I 12.8 IV(4.4)	にぶい赤褐	W・B多	90%		
12	坏	I (12.5)IV(4.1)	にぶい橙	W極多、粗	20%	外面やや風化	
13	坏	I (13.4) IV4.2	明赤褐	W	60%		
14	坏	I (13.9)IV(4.3)	明赤褐	W極少	10%		
15	坏	I (13.4)IV(4.4)	にぶい黄褐	W・B多	20%		
16	坏	I (13.7) IV4.2	にぶい赤褐	W・B	30%	内面黒色仕上げ、外面一部黒色	
17	坏	I 13.4 IV(4.9)	にぶい橙	W少、極密	80%	極めて丁寧な作り	No.1
18	坏	I (13.7)IV(4.9)	にぶい赤褐	W多、やや粗	20%		
19	坏	I 13.6 IV4.3	にぶい横橙	W多	95%		No.2
20	坏	I (13.7)IV(4.5)	明赤褐	B(3mm含)	20%		
21	坏	I (13.7)IV(5.4)	にぶい褐	W多、やや粗	20%		
22	坏	I (13.8) IV5.2	黒褐	W・B少	40%	内外面共に一部剥落	
23	坏	I 13.5 IV4.4	明赤褐	W	95%		No.3

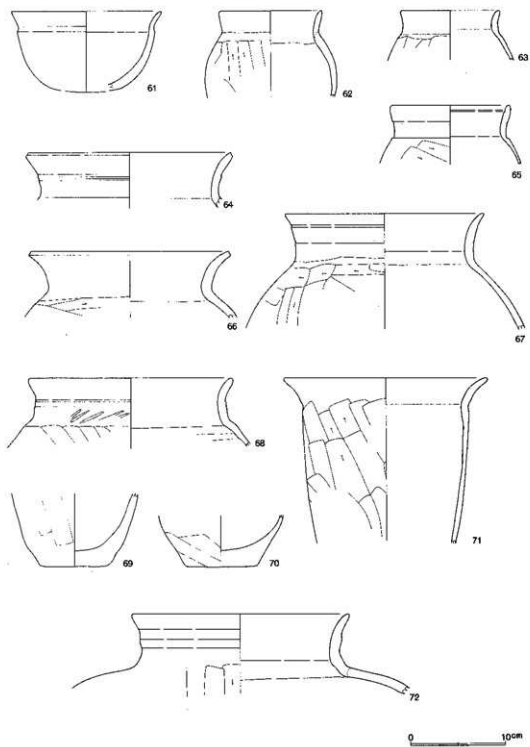




第13图 C区第6号溝出土遺物(2)

稲結遺跡C区6号清出土遺物(2)

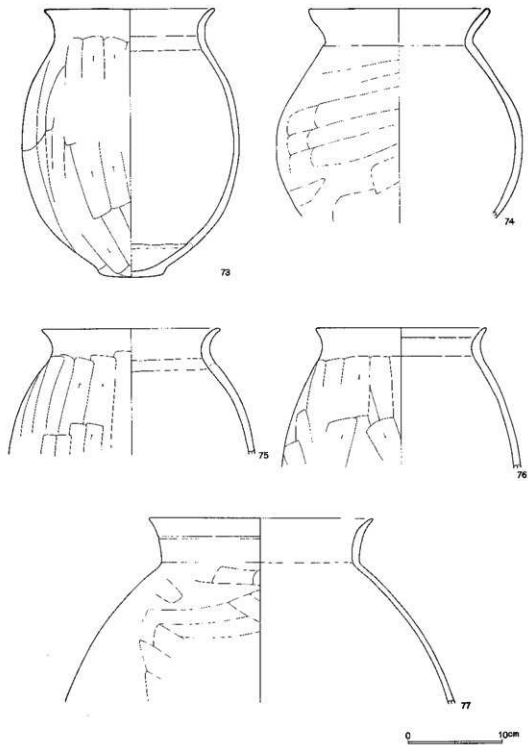
No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
24	坏	I (15.0)IV(4.1)	赤褐	W	40%		
25	坏	I (13.6)IV(4.7)	黒	W少	10%		
26	坏	I (14.2)IV(4.9)	橙	W・B(1~2mm)	20%		
27	坏	I (14.3)IV(4.2)	にぶい橙	W少	25%	内外面共に部分的に黒色	
28	坏	I (14.2)IV(4.8)	褐	W	40%	内面は丁寧な仕上げ	
29	坏	I (12.8)IV5.0	にぶい褐	W多、やや粗	40%	全体的に歪み有り	
30	坏	I (13.7)IV5.3	にぶい褐	W少	30%		
31	坏	I (12.7)IV(3.9)	にぶい橙	W極多、粗	40%		
32	坏	I (13.7)IV(4.8)	にぶい褐	B(1~2mm)多	20%		
33	坏	I (10.9)IV(3.8)	赤褐	W多、やや粗	20%		
34	坏	I 11.9 IV4.9	にぶい褐	W	80%		
35	坏	I (12.0)IV(4.4)	にぶい褐	W少	10%	やや歪み有り	
36	坏	I (11.9)IV4.1	にぶい赤褐	W・B	40%		
37	坏	I (12.2)IV(3.9)	にぶい赤褐	W少	30%		
38	坏	I 11.7 IV3.8	にぶい橙	W多、やや粗	70%	歪み有り	
39	坏	I (12.8)IV(3.9)	明赤褐	W少	10%		
40	坏	I (13.4)IV(4.7)	にぶい橙	W少	20%		
41	坏	I (11.5)IV(4.7)	明赤褐	W少	20%		
42	坏	I (12.0)IV(4.8)	にぶい橙	W少	20%	内外面共にやや風化	
43	坏	I (12.4)IV4.7	にぶい褐	W多	40%		
44	坏	I (12.1)IV(4.5)	褐	W少	40%		
45	坏	I (12.1)IV(4.5)	黒褐	W多	30%		
46	坏	I (11.4)IV4.2	褐	W少	40%		



第14图 C区第6号溝出土遺物(3)

## 稲吉遺跡C区6号溝出土遺物(3)

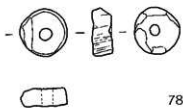
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
47	坏	I (13.4) IV(4.0)	明赤褐	W少	20%		
48	坏	I (12.2) IV(3.3)	黒褐	W少	20%	外面底部に鉄分が多量付着	
49	坏	I (13.3) IV(4.2)	明赤褐	B少	20%		
50	坏	I (12.4) IV(4.4)	にぶい褐	W・B少	20%		
51	坏	I (13.5) IV4.4	暗赤褐	B多	25%		
52	坏	I (12.6) IV3.7	橙	W多、やや粗	30%	内外面共にやや風化	
53	坏	I (11.7) IV3.9	にぶい橙	W多、やや粗	40%		
54	坏	I (12.8) IV4.1	橙	W	50%		
55	坏	I (15.6) IV(3.1)	黒	W多、やや粗	10%		
56	坏	I 15.3 IV3.4	黒	W少	50%		
57	坏	I (8.8) IV(5.4)	にぶい橙	W少	40%		
58	手捏ね	I (9.7) IV(5.4)	橙	W(2~3mm)多	25%	調整は不明瞭	
59	手捏ね	I (7.2) IV3.4	にぶい赤褐	B	60%		
60	手捏ね	I (7.4) IV3.5	にぶい橙	W・B(3mm)多	75%		
61	碗	I (14.9) IV(8.6)	にぶい黄褐	W散	40%	やや歪み有り	
62	甕	I (1.8) V9.2	赤褐	W・B多	10%		
63	甕	I (1.4) V5.3	橙	W多	20%		
64	甕	I (21.5) V5.9	明褐灰	W少	90%		
65	甕	I (12.4) V6.2	にぶい橙	W多、極粗	50%		
66	甕	I (21.2) V7.0	橙	W少	20%		
67	甕	I (21.0)	橙	W多、やや粗	30%		
68	甕	I (21.4) V7.2	橙	W多、やや粗	20%		
69	甕	III(7.1) V7.7	橙	W多、粗	50%		



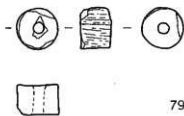
第15图 C区第6号满出土遗物(4)

## 桶詰遺跡C区6号溝出土遺物(4)

No.	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No.
70	甕	Ⅲ(7.5) V5.5	にぶい赤褐	W多、やや粗	70%		
71	甕	I (21.6)	にぶい褐	W多、極粗	50%		
72	甕	I (22.9) V8.4	にぶい褐	W多、やや粗	10%		
73	甕	I (18.0) II (23.1) IV(28.4)	橙	W極多、粗	40%	内面胴部下に接合痕有り	
74	甕	I (19.0) II (26.2) V22.1	橙	W多	30%	風化が著しい	No 1
75	甕	I (18.9) V13.4	橙	W多、粗	30%		
76	甕	I (18.0) V14.9	にぶい橙	W(5mm含)多、粗	20%		No17
77	甕	I (23.7) V19.6	橙	R散	40%		
78	白玉	残長1.3 径1.3				1.48g 滑石製、A階段北出土	
79	白玉	残長1.1 径1.1				1.91g 滑石製、A階段北出土	
80	耳環	径2.8×3.0				16.43g 銅製、完形、一部緑青	
81	土鍾	残長3.1 径1.4	にぶい赤褐	W・B少		8.23g やや扁平気味	
82	土鍾	残長2.6 径1.9	にぶい橙	W・B多		4.35g 表面ザラザラ	
83	土鍾	残長4.9 径1.3	にぶい赤褐	W・B少		7.33g	
84	土鍾	残長3.9 径1.4	にぶい赤褐	W少		6.81g 上端に指頭痕?	
85	土鍾	残長4.2	赤褐	W多		6.26g	
86	土鍾	残長6.3 径1.4	明赤褐	W・B		10.60g 表面ツルツル	
87	土鍾	残長7.4 径1.7	にぶい橙	W		16.0g	
88	土鍾	残長6.9	明赤褐	W・B少		7.6g 裏半欠	
89	鋤先	長1.4 幅13.0 高10.1				117.47g 鉄製、完形 残存状態は良好、着装部錆化	No18
90	擦り石	長11.6 幅8.1				71.g 安山岩 表裏共に擦痕有り	No 9



78



79



80



81



82



83



87



88



84



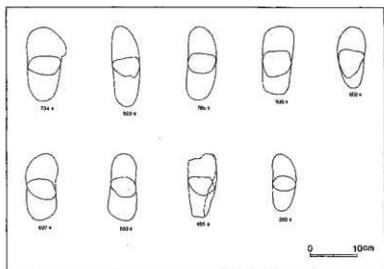
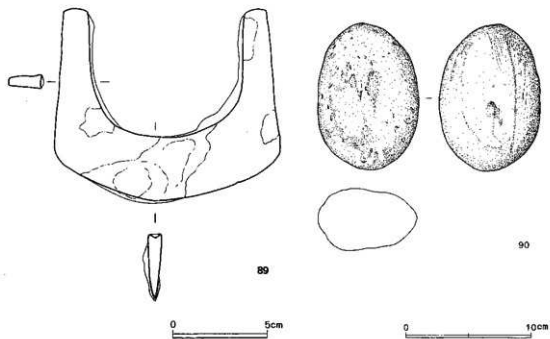
85



86



第16图 C区第6号溝出土遺物(5)



第17图 C区第6号溝出土遺物(6)



#### C区第12号溝及び周辺の遺構（第18図）

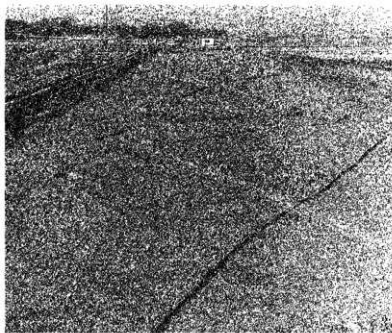
C区第12号溝は、C区中央部の116～128-37～41グリッドに位置し、ほぼ東西に直線的に走り、128-37グリッド内で直角に屈曲する。幅0.8～1.1m、深さ0.2～0.8mを測り、屈曲部付近が最も浅く、西あるいは南に行くに従い徐々に深くなる傾向が見られる。出土遺物は、平安時代と思われる土師器片が少量出土しているが極めて小片であり図示できるものはない。

第13号溝は、断続的ではあるが第12号溝とほぼ平行に走る。東西流は第12号溝との間に0.4～1.8mの間隔を保つが屈曲部付近で隣接し、南北流では重複する。幅0.8～1.0、深さ0.1～0.2mを測り、屈曲部付近が最も深く、第12号溝とは逆の様相を示している。出土遺物はなく、第12号溝との前後関係は不明である。

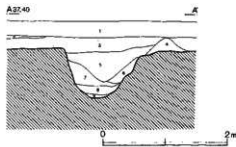
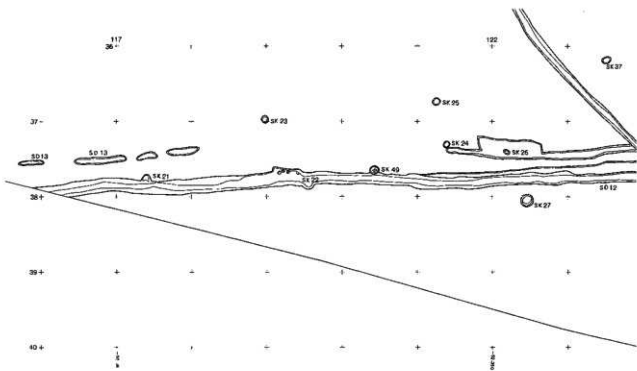
第15号溝は、128～131-36～37グリッドに位置する。第12・13号溝とは相対的な位置にあり、128-38グリッド内で直角に屈曲する。幅0.7～1.1m、深さ0.2～0.3mを測り、屈曲部付近が最も深く、第13号溝と同様の傾向を示している。出土遺物はない。

第13号溝は、第15号溝の東西流とほぼ平行に走り、129-37グリッド内で北に屈曲し第15号溝と合流あるいは重複する。幅0.5～0.8m、深さ0.1～0.2mを測り、屈曲部付近がわずかに深くなっている。出土遺物はない。

また、各溝が屈曲する128-37グリッド付近には、土壌が集中する傾向が見られる。

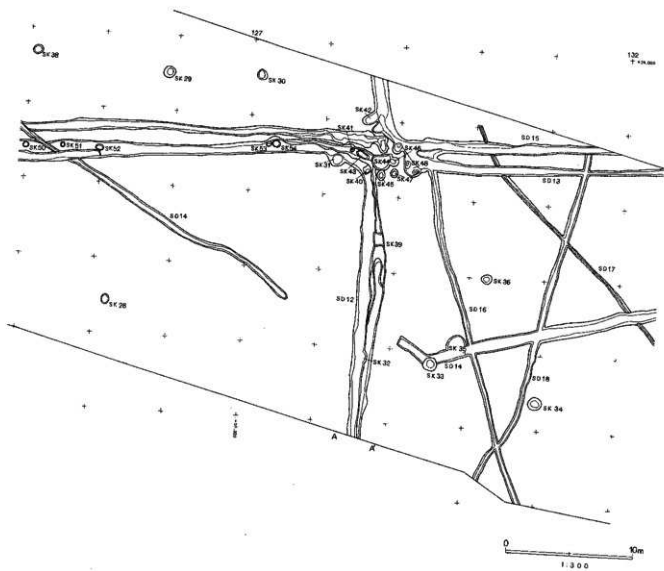


第12号溝付近全景（東から）

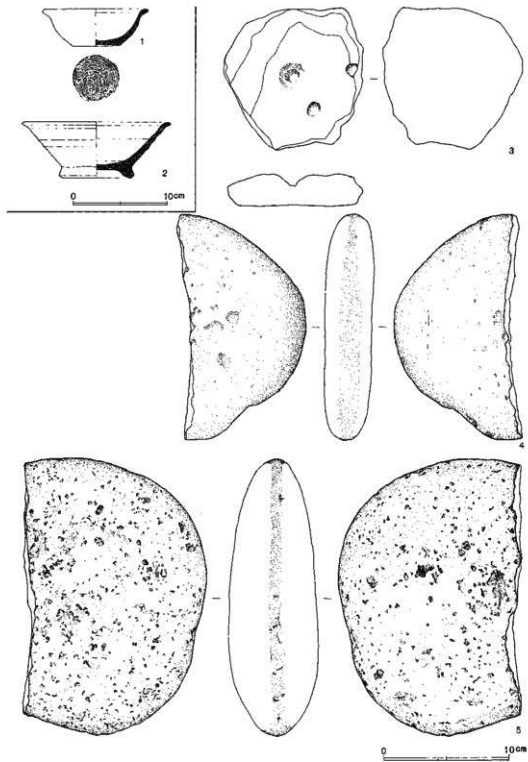


- C区  
SD12
1. 暗褐色土 耕作土
  2. 暗褐色土 火山灰層 (天明)
  3. 灰褐色土 粘土質、鉄分沈着
  4. 灰褐色土 粘土質、砂粒 (少) 含む
  5. 暗灰褐色土 粘土質
  6. 暗灰色土 粘土質
  7. 暗灰色土 6層よりやや明るいの
  8. 暗灰色土
  9. 黄褐色土

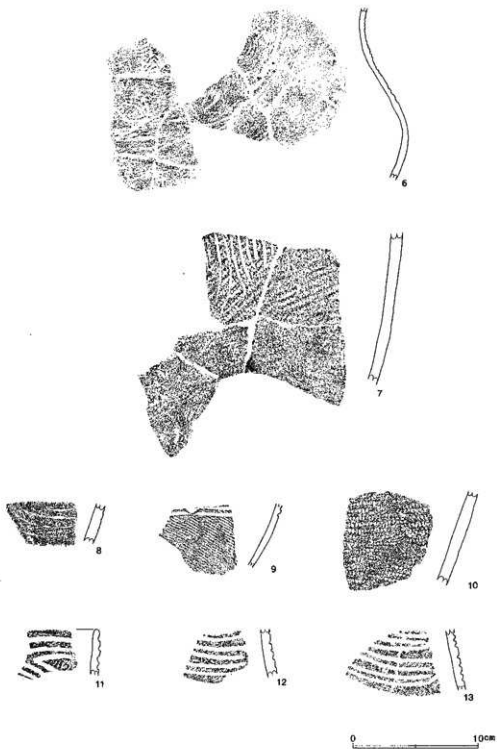
第18図 C区第12号溝及び周辺遺構



(3) その他の遺物



第19図 A区出土遺物(1)



第20图 A区出土遺物(2)

桶詰遺跡A区出土遺物

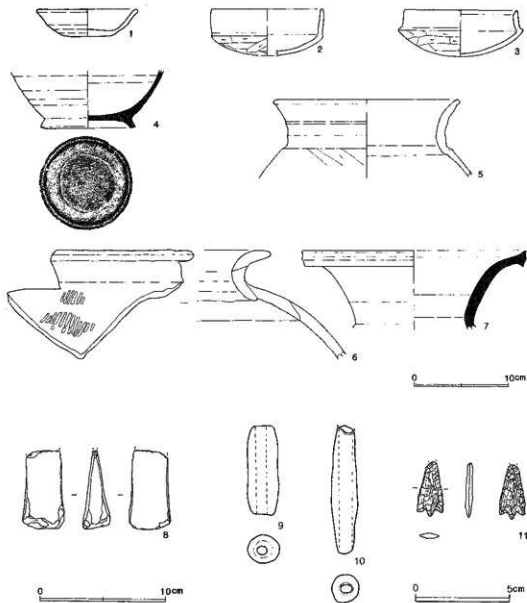
No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	坏	I 10.8 IV3.9	灰白	W少	70%	回転糸切り難し	
2	高台坏	I (15.2) VI(8.0) IV6.0	褐灰	W少	20%	貼り付け高台 切り難し痕不明瞭	
3	凹み石	長11.3 幅11.2 厚2.5				542.52g 結晶片岩 一部のみ残存	
4	凹み石	長11.9 幅10.3 厚3.8				999.22g 閃緑岩、50%欠損 裏面に捺痕有り	
5	凹み石	長22.0 幅14.6 厚7.2				33g 閃緑岩、一部欠損	

A区出土の遺物(第19・20図)は、全て表採または包含層からの出土である。6～13はA区東半部の包含層からの出土であり、7・8・10は堀の内I式でくびれ部を持ち胴部が膨らむ深鉢型土器である。9は大洞A'式の鉢形土器と思われ沈線を横に、単筋LRの縄文を縦に施す。6・11～13は弥生時代中期前半の土器で、6は表面の風化が著しいが肩部に櫛描文を施す壺型土器である。11

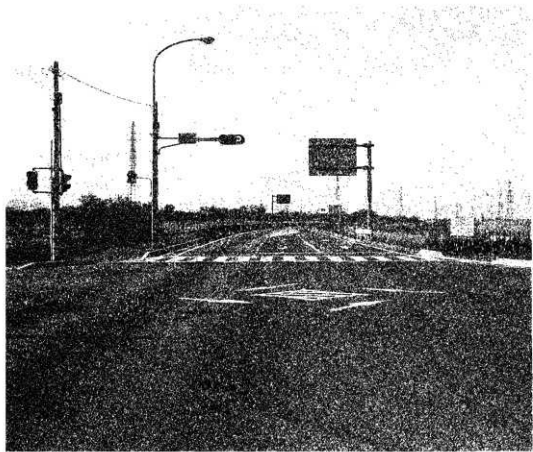
桶詰遺跡C区出土遺物

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	灯明皿	I 10.5 IV2.5	にぶい橙	W(5mm含)多、やや粗	80%	口縁の一部に煤が付着	
2	坏	I (11.8) IV(4.9)	橙	W少、極密	40%		
3	坏	I (12.9) IV4.9	にぶい赤褐	B多	70%		
4	高台坏	VII.1 V6.1	灰	W多	50%	貼り付け高台、回転糸切り難し	
5	壺	I (19.4) V8.2	にぶい橙	W(5mm含)多、粗	10%		
6	壺		灰褐			常滑焼、12世紀末	
7	壺	I (23.8) V8.4	灰	W多	20%	断面に接合痕有り	
8	砥石	長6.3 幅2.2				45.12g 凝灰岩、下部欠損 四面共使用	
9	土鏃	残長4.8 径1.7	橙	W・B多		13.74g 表面ザラザラ	
10	土鏃	残長6.8 径1.4	橙	W(1～2mm)多		10.42g	
11	石鏃	長14.1 径6.6				1.31g 粘板岩、上端部欠損	

は横位の沈線と区画文が見られ区画内に縄文を施す。12・13は横位の沈線を多条に施し、沈線間に単節LRの縄文を施す。なお、6・11～13は岩櫃山式併行期と思われる。



第21図 C区出土遺物



完成した深谷バイパス桶詰遺跡付近（東から）



## IV. 砂田前遺跡の調査

### 1. 遺跡の概要

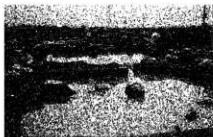
砂田前遺跡は、JR 高崎線岡部駅北方約1.5km の妻沼低地内の自然堤防上に位置する。東方約120 mには樋詰遺跡があり、西端は県道新野・岡部停車場線に接し、さらにその西には滝下遺跡が所在する。遺跡周辺は、現在大部分が水田となっており、一部に畑地が点在する。地元の人の話によると、調査区付近の水田は水を引く時期に周囲の水田より遅く水がやって来ると言われており、このことより一見平坦な水田地帯だが、調査区付近が微妙に高くなっていることが伺える。

調査区は17～80-8～28グリッドの範囲にある。標高は37.5～38.2mを測り、西から東へ徐々に低くなっている。遺構番号は、発掘調査時の番号をそのまま使用しているため住居跡の93～100、土壌の9～100は欠番となっている。

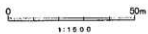
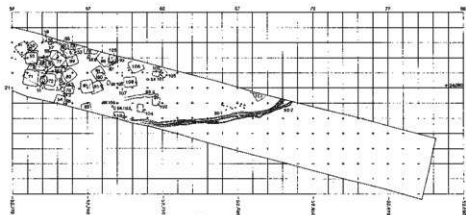
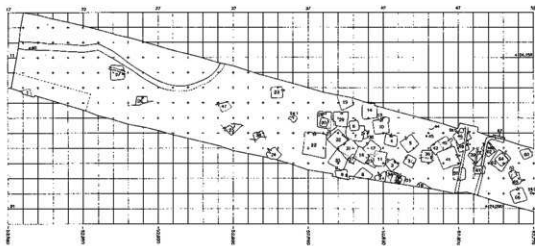
検出された遺構は、住居跡102軒・掘立柱建物跡1棟・溝3条・土壌12基である。住居跡は古墳時代後期のものが74軒、奈良・平安時代のものが24軒、住居跡番号が付されているが住居としての可能性が低いもの4軒である。古墳時代後期の住居跡は大部分が調査区の中央3分の1に集中し、その中でも40-16グリッド周辺、47-17グリッド周辺、54-20グリッド周辺の3箇所にとまる傾向が見られる。規模は一辺が4～6 mを測り方形を呈するものが多いが、一辺9 m前後の大型のものや一辺3 m前後の小型の住居跡も存在する。奈良・平安時代の住居跡は、40-16グリッド周辺、54-20グリッド周辺の2箇所にとまる傾向が見られる。

掘立柱建物跡は、出土遺物がないため時期は不明だが、古墳時代後期の住居跡を切って作られている。溝は、古墳時代後期のものが1条（第3号溝）、奈良・平安時代のものが2条（第1・2号溝）である。このうち第1・2号溝は住居跡群の東端にあり、溝以東には住居跡が全く存在しない。このことから2条の溝は何らかの意味で集落を画する可能性があると思われる。

これらの遺構から出土した遺物は土師器・須恵器が大半を占め、古墳時代後期の住居跡からは須恵器の出土が極めて少ない。また、遺構及びその周辺から130個を越す土錘が出土し、長さ7cmを越す大型のものも含まれている。



発掘作業風景



第22図 砂田前遺跡全測図

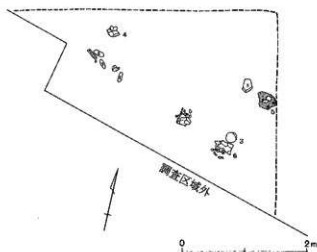
## 2. 検出された遺構と遺物

### (1) 住居跡

#### 第1号住居跡 (第23図)

18—13グリッドに位置する。削平が著しく平面プランは不明瞭であり床面とカマドの一部と思われる焼土を検出したのみである。住居跡の大半は調査区域外にあるものと思われる。

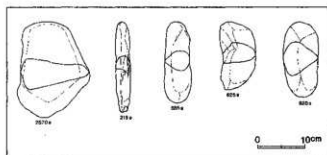
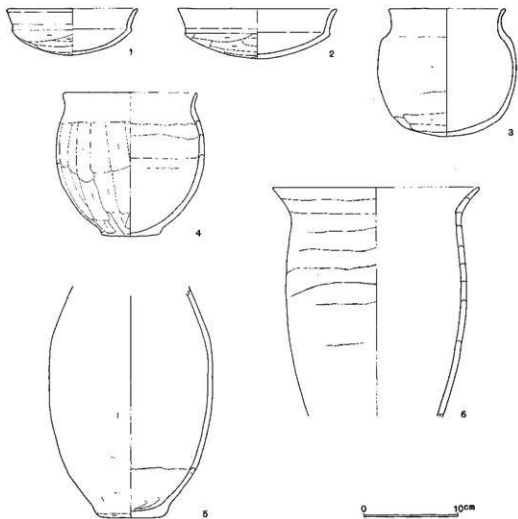
出土遺物は土師器と石鏝であり、焼土中から甕が出土している。



第23図 第1号住居跡

#### 第1号住居跡出土遺物

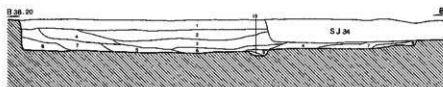
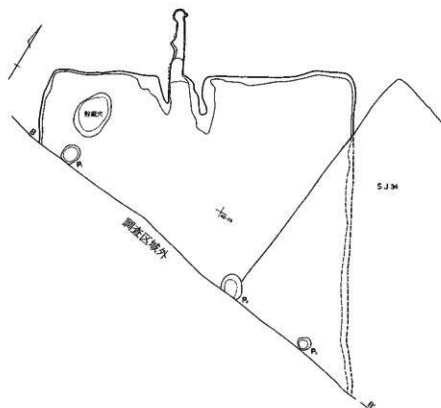
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 13.7 IV4.9	橙	W少	70%		
2	坏	I (16.8) IV (5.3)	にぶい橙	W多	40%		
3	壺	I 12.2 II 14.7 V 13.6	橙	W・B多	90%		No 5
4	甕	I (14.0) III (6.1) II (15.8) IV 15.2	黒褐	W多	70%	内面に輪横痕	No 1
5	甕	III 7.5 II 17.4 V 24.5	褐	W・B極多、粗	40%	内外面共に風化著しい 内面底・胴部に接合痕、底部削痕	No 4
6	甕	I 22.0 V 24.3	橙	W・B多、やや粗	70%	全体に風化著しい、輪横痕明瞭	No 6



第24图 第1号住居跡出土遺物

## 第2号住居跡 (第25・26図)

41—18グリッドに位置し、第35・48号住居跡を切り、第34号住居跡に切られる。南半は調査区域外にあり、北壁の長さは5.0m、深さは42～52cm、主軸方位N—31°—Wである。カマドは北壁中央よりやや西よりに構築され、カマドの西に貯蔵穴が設けられている。

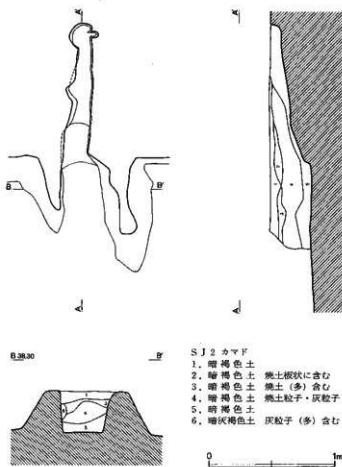


S J 2

1. 褐色土
2. 黒褐色土 炭化粒子(多)含む
3. 暗褐色土 炭化粒子(多)含む
4. 明褐色土 炭化粒子、焼土(少)含む
5. 暗褐色土 炭化粒子(少)含む
6. 暗褐色土 明褐色土ブロック・粒子(多)、炭化粒子(少)含む
7. 暗褐色土
8. 暗褐色土 明褐色土ブロック・粒子(少)含む
9. 暗褐色土 炭化粒子、橙色土粒含む
10. 暗褐色土 橙色土含む



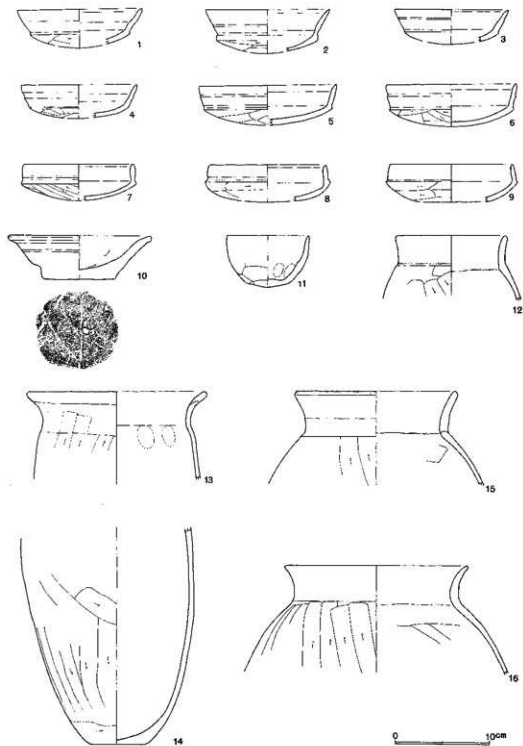
第25図 第2号住居跡(1)



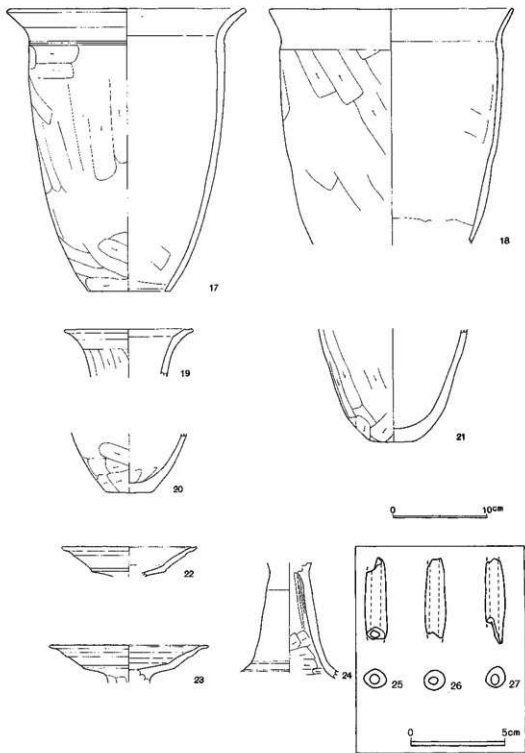
第26図 第2号住居跡(2)

第2号住居跡出土物(1)

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	坏	I (13.3)IV (4.1)	黒褐	W多	20%	全体に風化が著しい	
2	坏	I (13.2)IV (4.7)	褐灰	W多	30%		
3	坏	I (12.2)IV (3.7)	浅黄橙	W多、やや粗	20%		
4	坏	I (11.6)IV (3.9)	灰褐	W・R少	40%		
5	坏	I (14.6)IV (4.2)	にぶい橙	W多	40%		
6	坏	I 13.8 IV 4.5	明赤褐	W少	60%		
7	坏	I (12.3)IV (3.6)	にぶい橙	W少	30%		



第27圖 第2号住居跡出土遺物(1)



第28図 第2号住居跡出土遺物(2)

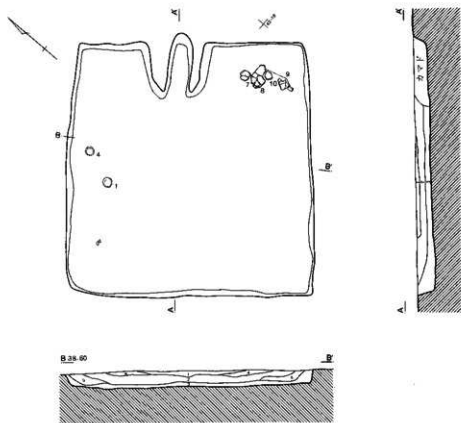


## 第2号住居跡出土遺物(2)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
8	坏	I (12.4) IV (3.9)	にぶい橙	W多、やや粗	40%		
9	坏	I (13.1) IV (4.0)	橙	W多	20%		
10	坏	I (15.0) III 7.7 IV 4.6	明赤褐	W・B (3mm含)多	60%	極めて歪みが大きい、木葉痕	
11	椀	I (8.7) IV (5.5)	灰褐	W多、粗	30%		
12	甕	I (11.5) V 6.9	にぶい橙	W多、粗	20%	全体にやや風化 内面に明瞭な輪痕痕	
13	甕	I (18.8) V 9.2	橙	W・B多	30%	外面口縁下に輪痕痕	
14	甕	III 5.9 V 23.0	にぶい褐	W・B多、やや粗	80%	全体にやや風化、歪み有り	
15	甕	I (13.0) V 10.0	にぶい橙	W・B極多、やや粗	40%	全体に風化著しい	
16	甕	I (19.4) V 11.4	にぶい赤褐	W・B多	40%		
17	瓶	I (25.0) III (8.8) IV 29.9	橙	W・B多	50%	全体にやや風化、剥落有り	
18	甕	I (25.8) V 24.9	にぶい橙	W (3mm含)多、粗	40%	全体に風化著しい	
19	甕	I 13.4 V 5.0	にぶい橙	B少	20%		
20	甕	III 4.9 V 6.3	灰褐	W・B多、極粗	70%	やや粗	
21	甕	III 4.7 V 11.9	明赤褐	W・B多、やや粗	30%	全体に風化著しい	
22	高坏	I (14.4) V 3.2	橙	B微	40%		
23	高坏	I (16.7) V 4.0	橙	W・B多	40%		
24	高坏	V 11.5	橙	W極微、極密	40%	上端は坏部との接合面で剥落	No 4
25	土罐	残長4.4 径1.1	橙	W少		3.5g やや扁平気味	
26	土罐	残長4.3 径1.1	橙	W少		3.54g 孔はやや扁平	
27	土罐	残長4.5 径1.0	橙	W少		3.35g	

### 第3号住居跡 (第29・30図)

42—18グリッドに位置する。一辺4.0mの正方形を呈し、深さ19~30cm、主軸方位N—50°—Eである。床面は、やや凹凸があり西側が深くなっている。カマドは東壁の中央に構築され、支脚に使用したと思われるこぶし大の河原石が出土している。貯蔵穴、ピット等は検出されていない。遺物は、カマドの南側で多く出土している。



S J 3

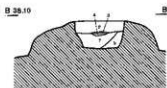
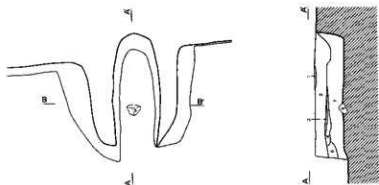
1. 暗灰褐色土 白色粒子、褐色粒子含む
2. 暗灰褐色土 白色粒子、焼土小ブロック、炭化粒子含む
3. 暗灰褐色土 1、2層よりやや暗、炭化粒子(多)含む
4. 暗灰褐色土 1層類似、焼土含む
5. 暗灰褐色土 白色粒子、褐色粒子含む

0 2m

第29図 第3号住居跡(1)



第3号住居跡遺物出土状況



S J 3 カマド

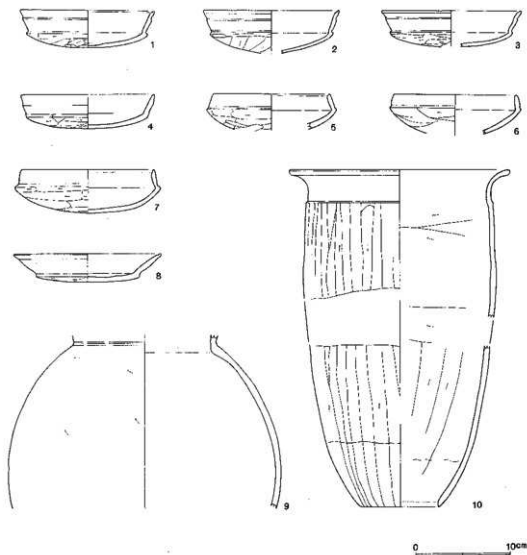
1. 赤色土 焼土
2. 暗灰褐色土 焼土ブロック・灰粒子・炭化粒子含む
3. 灰色土 灰(多)含む
4. 赤色土 焼土層
5. 淡灰褐色土 焼土(極少)含む
6. 暗灰褐色土 焼土(極少)含む
7. 暗灰褐色土 焼土・炭化粒子(少)含む

0 1m

第30図 第3号住居跡(2)

第3号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 14.3 IV4.0	浅黄橙	W少	100%	坏部内面中心がやや凹む	No 2
2	坏	I (14.5) IV (4.6)	黒褐	W微	40%		
3	坏	I (14.9) IV (3.8)	淡赤橙	W少	30%		
4	坏	I 14.1 IV3.6	橙	W少	100%		No 1
5	坏	I (12.3) IV (4.1)	橙	W少	30%		
6	坏	I (13.0) IV (4.5)	褐灰	W微	20%		
7	坏	I 14. IV4.6	灰褐	W少	70%		No 5
8	坏	I 15.7 IV3.0	橙	W微	80%		No 10
9	壺	II 29.0 V 18.4	橙	W・B・R少	80%	全体に風化著しい	No 6～9
10	甕	I (23.5) VIII. IV35.6	橙	R多	50%		No 7



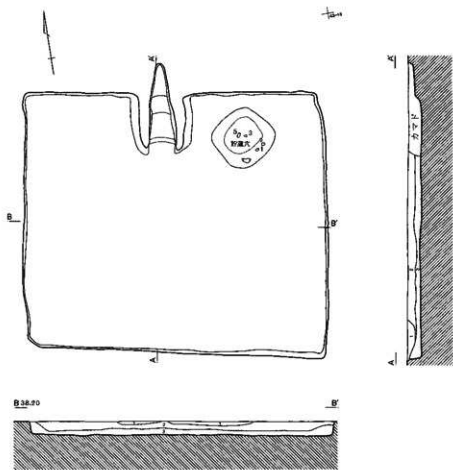
第31図 第3号住居跡出土遺物

#### 第4号住居跡 (第32・33図)

42-16グリッドに位置する。長軸4.8m・短軸4.2mで東西にわずかに長く、深さ19~23cm、主軸方位はN-9°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はやや凹凸があり中央部が高くなっている。

カマドは北壁中央に構築され、袖が長く煙道部に段を持っている。燃焼部は火床と思われる焼土層が明瞭に残り、その直下に灰層がある。貯蔵穴はカマドの南側に設けられ、1.02×0.95mの隅丸方形を呈し、深さは25cmである。

遺物は多くないが、貯蔵穴から土師器杯・甕が、カマドから甕が伏せた状態で出土している。



S J 4

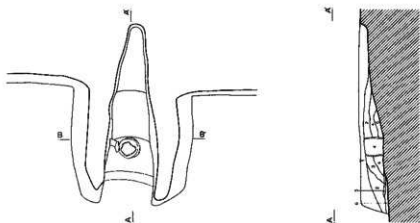
1. 暗黒褐色土 白色粒子、炭化粒子、焼土粒子含む
2. 暗褐色土 焼土粒子、褐色粒子含む
3. 暗褐色土 2層よりやや明

0 2m

第32図 第4号住居跡(1)

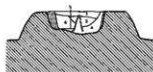


発掘現場から見る赤城山



B38.20

B



## S J 4 カマド

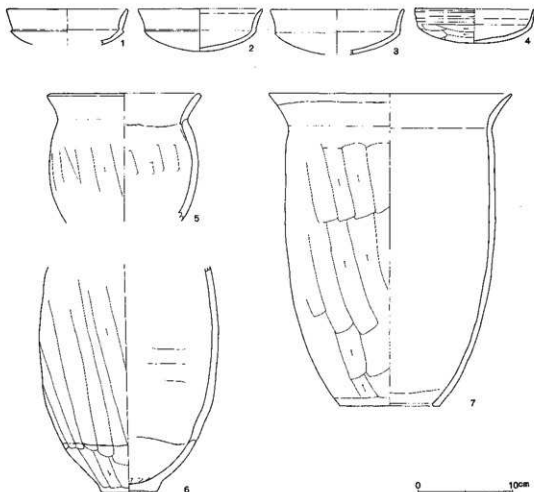
1. 暗褐色土 焼土粒子・灰粒子・炭化粒子（少）含む
2. 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子（多）含む
3. 暗褐色土 焼土ブロック・炭化粒子（多）含む
4. 炭化粒子 焼土粒子（微）含む
5. 赤褐色土 焼土層
6. 暗灰褐色土 灰層

0 1m

第33図 第4号住居跡(2)

## 第4号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (12.7) IV (4.1)	橙	R多	30%	器面整形は不明	
2	坏	I 13.2 IV 4.5	にぶい橙	W多、やや粗	70%	内外面共に風化著しい	
3	坏	I (14.1) IV (4.8)	にぶい橙	W多、やや粗	20%	内外面共に風化著しい	No 1・2
4	坏	I (12.7) IV 3.6	淡橙	W多、やや粗	50%	全体に風化	No 5
5	甕	I 15.7 II 15.8 V 18.5	にぶい橙	W多、粗	80%	内面口縁・胴部間に明瞭な接合痕 外面風化著しい	No 1
6	甕	II 19.1 III 5.9 V 24.4	にぶい橙	W・B (3mm含)、粗	60%	全体にやや風化	
7	甕	I 25.8 VIII 9.3 IV 33.1	橙	W多、やや粗	60%	全体に風化著しい 外面口縁下に輪積痕	



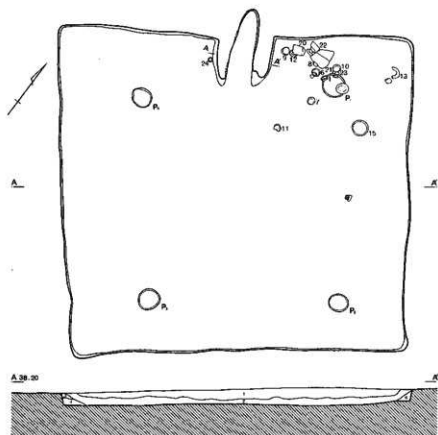
第34図 第4号住居跡出土遺物

#### 第5号住居跡 (第35図)

43-16グリッドに位置する。長軸5.7m・短軸5.3mで東西にわずかに長い。深さは18~24cm、主軸方位はN-37-Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、西壁と東壁には歪みが見られる。床面は、ほぼ平坦だが壁際が若干高くなる。

カマドは、北壁中央に構築されている。燃焼部は掘り込まれておらず、壁は熱による焼土化が著しい。柱穴は4基検出(P1~4)され、深さはそれぞれ15cm、22cm、12cm、12cmである。貯蔵穴は検出されていない。

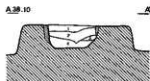
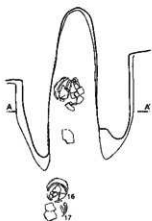
遺物はカマド内とカマド東の壁際からピット1付近に集中して出土しており、カマド左袖からは手捏ね型土器が出土している。



S J 5

1. 茶褐色土 白色粒子含む
2. 暗褐色土 ローム粒子・炭化粒子 (多) 含む
3. 暗褐色土 ローム粒子・炭化粒子 (少) 含む
4. 暗褐色土 2層よりやや明

0 2m



A 39.10

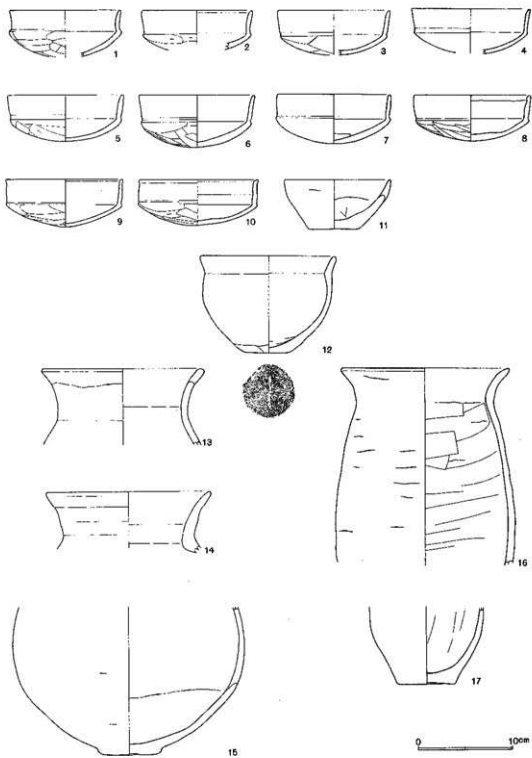
S J 5 カマド

1. 褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子 (多) 含む
2. 暗灰褐色土 焼土粒子・炭化粒子含む
3. 暗灰褐色土 焼土粒子 (少) 含む
4. 暗灰褐色土 焼土粒子 (少) 含む

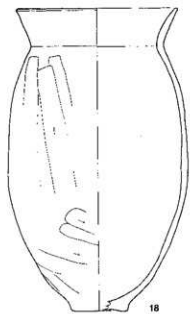
0 1m

第35図 第5号住居跡

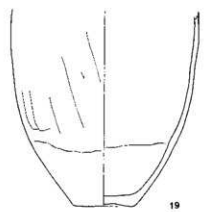




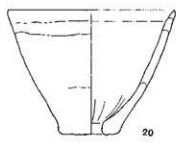
第36圖 第5号住居跡出土遺物(1)



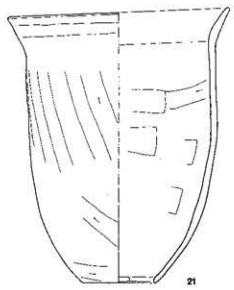
18



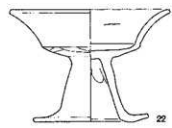
19



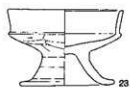
20



21



22



23



24



第37図 第5号住居跡出土遺物(2)

第5号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 11.7 IV(5.0)	明赤褐	R微	70%	坏部外面に黒斑有り	No 9
2	坏	I (11.7)IV(4.6)	にぶい橙	W少	30%	やや風化	
3	坏	I 11.9 IV(4.7)	橙	W少	50%	内外面共にやや風化	
4	坏	I (12.6)IV(4.7)	橙	W少	30%	内外面共に風化著しい	
5	坏	I (12.6) IV4.9	橙	W(2mm含)少	50%	外面やや風化	No18
6	坏	I 12.4 IV5.5	橙	R少	100%		No 7
7	坏	I 12.1 IV5.2	橙	W・R微	100%		No 8
8	坏	I 12.2 IV4.9	にぶい橙	W・R微	90%		No15
9	坏	I 12.4 IV5.0	明赤褐	W・R少	100%		No 3
10	坏	I 12.6 IV4.8	橙	W・R微	100%		No13
11	鉢	I 11.3 III5.2 IV5.3	にぶい橙	B少	80%		No 1
12	椀	I 14.3 III5.0 IV10.2	橙	W・R少	100%	胴部外面に黒斑有り、木葉痕	No 5
13	甕	I 16.9 V8.0	明褐灰	W・B多	60%	全体に風化	No17
14	甕	I 17.4 V6.0	にぶい橙	W多、やや粗	90%		
15	壺	II24.7 III6.7 V15.7	橙	W・B・R少	70%	全体に風化著しい	No18
16	甕	I 17.8 II19.2 V2.5	橙	W多	50%	粘土の接合痕が残る	No 2
17	甕	III6.0 V8.0	にぶい橙	W多	60%		No 2
18	甕	I 17.0 II19.2 III5.8 IV32.	橙	W・B多	70%	やや風化	
19	甕	III6.3 V2.7	橙	W・B・R少	30%	全体に風化	
20	瓶	I 17.2 III6.7 VII2.6・3.7IV13.1	にぶい橙	W・B多	60%	全体に風化、孔はやや楕円	No 4

第5号住居跡出土遺物(2)

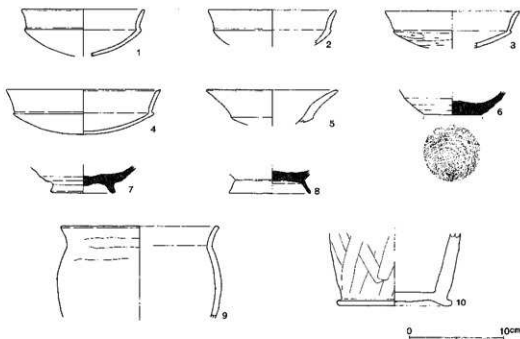
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
21	甌	I 23.4 III7.7 VII7.8 IV29.1	にぶい橙	W・B多、R少 やや粗	90%	全体に風化著しい	No14
22	高坏	I 16.8 III12.3 IV11.9	橙	W微	80%		No 6
23	高坏	I 12.2 III10.0 IV8.0	橙	R微	70%		No12
24	手捏ね	I 7.0 III5. IV4.5	黒褐	W多	90%	輪稜痕が明瞭に残る	No 1

第6号住居跡 (第39図)

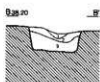
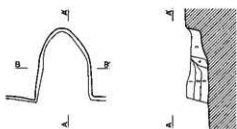
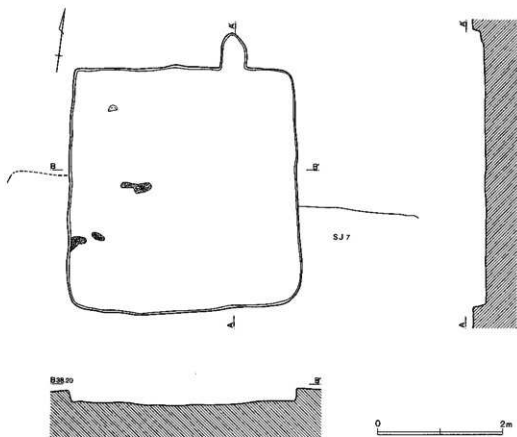
40-15グリッドに位置し、第7号住居跡を切る。規模は長軸3.9m・短軸3.8mと正方形に近い。深さは18~26cm、主軸方位はN-7°-Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は中央部付近に凹凸が目立つ。

カマドは、北壁の南よりに構築されており、煙道部のみ検出された。覆土には天井部の崩落かと思える焼土層がある。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付坏等が出土している。また、ごくわずかだが住居跡西半から炭化材が検出している。



第38図 第6号住居跡出土遺物



- S J 6 カマド
1. 灰褐色土 焼土粒子 (多) 含む
  2. 赤褐色土 粘土層
  3. 灰褐色土 砂質
  4. 灰白色土 硬質土



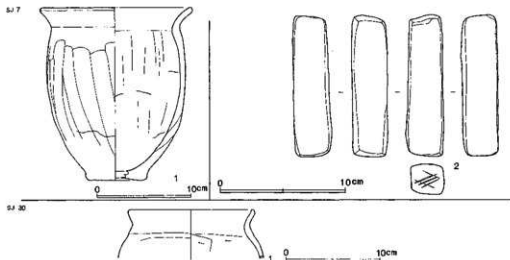
第39図 第6号住居跡

第6号住居跡出土遺物

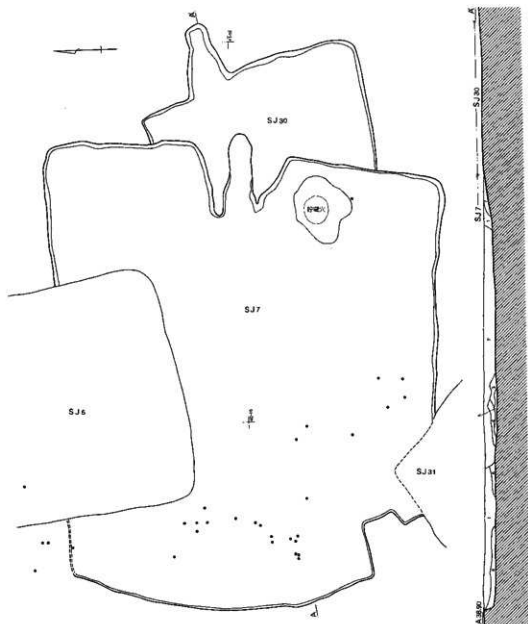
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (13.0) V5.0	浅黄橙	W散	30%	器面整形は不明瞭	
2	坏	I (13.5) V3.7	橙	W少	30%	器面整形は不明瞭	
3	坏	I (14.2) V3.9	橙	W・R少	30%	器面整形は不明瞭	
4	坏	II6.3 IV4.7	橙	R散	70%		
5	高坏	I (14.0) V3.7	橙	R少	20%		
6	坏	II6.1 V2.5	浅黄橙	W多	30%	回転糸切り難し、生焼け	
7	高台坏	III6.8VI6.8V2.7	浅黄橙	W多	30%		
8	高台坏	III7.3 VI(8.6) V2.0	にょい橙	W・R少	80%		
9	甕	I 16.8 II17.5 V9.7	にょい橙	W・R多	60%	器面整形は不明瞭	
10	甕	II (11.2) VI(12.2) V7.7	橙	W多	30%		

第7・30号住居跡 (第41図)

第7号住居跡は、40-15グリッドに位置する。第30号住居跡を切り、第6・31号住居跡に切られる。長軸3.6m・短軸2.2m、深さ2~10cmを測り、主軸方位は東である。



第40図 第7・30号住居跡出土遺物



SJ7

1. 灰黄褐色土
2. 灰褐色土
3. 暗灰褐色土 炭化粒子含む
4. 灰褐色土 炭化粒子、焼土(多)含む
5. 棕色土 砂質土
6. 暗褐色土
7. 暗褐色土 カマド覆土、焼土粒子(少)含む

0 2m

第41図 第7・30号住居跡

第30号住居跡は、40-16グリッドに位置し、西半を第7号住居跡に切られる。掘り込みはほとんどなくわずかに痕跡をとどめるのみである。

#### 第7号住居跡出土遺物

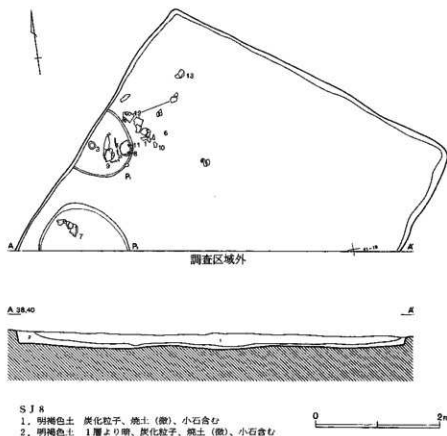
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	甕	I 15.8 II 14.7 III 6.5 IV 18.3	にぶい橙	R多	90%		
2	磁石	共12.0幅3.0厚2.8				175.00 # 凝灰岩、四面使用 上面も使用し刃痕有り	

#### 第30号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	甕	I (13.0) V 5.2	橙	W少、W多	20%		

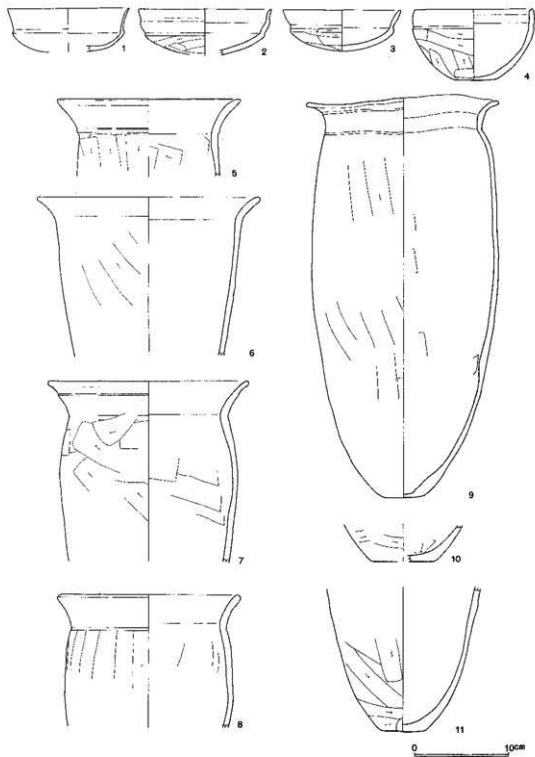
#### 第8号住居跡 (第42図)

40-18グリッドに位置する。南半は調査区域外にあり、東壁は5.2mを測る。深さは13~25cm、主軸方位はN-41°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は起伏がある。カマドは検出されないが北壁際に深さ約16cmの掘り込み (P1) があり、この付近に遺物が集中して出土している。

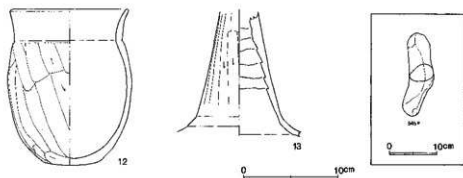


第42図 第8号住居跡





第43图 第8号住居跡出土遺物(1)

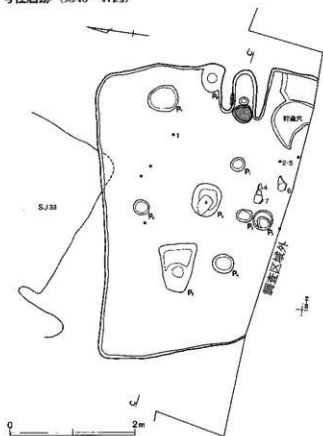


第44図 第8号住居跡出土遺物(2)

第8号住居跡出土遺物

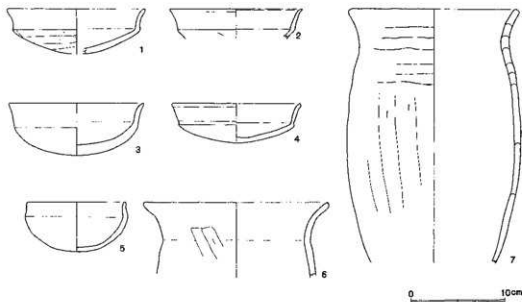
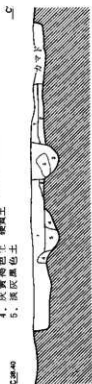
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (13.0)IV(4.6)	橙	W少	30%	全体に風化著しい	
2	坏	I (14.2)IV(4.9)	におい褐	W多、R微	30%		
3	坏	I 12.5 IV4.9	橙	W多、やや粗	90%	内外面共に風化	No 1
4	碗	I (13.6) IV7.5	におい赤褐	W多、B少、やや粗	40%		
5	甕	I (19.3) V8.2	におい橙	W・B極多、粗	40%	やや風化	
6	甕	I 21.2 II19.0 V19.0	におい橙	W・B(5mm含)多 粗	70%	全体にやや風化、一部剥落	No 6・12~ 14・17
7	甕	I (23.1) V16.8	橙	W(5mm含)多、粗	30%	全体に風化著しい	No2
8	甕	I 18.8 V14.5	橙	W・B(3mm含)R少	70%	やや風化	No 4
9	甕	I 2.5 II19.8 III4.5 IV42.1	浅黄橙	W・B多、やや粗	90%	全体に風化著しい	No 2
10	甕	III(6.6) V3.8	明赤褐	W・B多、R少、粗	40%	やや風化	No 6
11	甕	III4.8 V15.2	明赤褐	W・B(5mm含)多、粗	60%	全体に風化	No 4
12	甕	I 12.2 II13.2 III5.6 IV16.5	橙	W・B	80%	全体にやや風化	No14
13	高坏	V13.0	橙	W・R微	60%	内面風化著しい	No16

第9号住居跡 (第45・47图)



第45图 第9号住居跡(1)

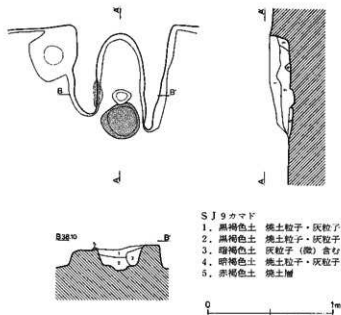
- S.J.9
1. 灰黄褐色土 硬質、砂質土、礫土粒子含む
  2. 褐色黄褐色土 赤土粒子、炭化粒子含む
  3. 暗褐色土 礫土粒子、炭化粒子含む
  4. 灰黄褐色土 硬質土
  5. 灰区黒包土



第46图 第9号住居跡出土遺物

39—18グリッドに位置し、第33号住居跡を切る。南側は調査区域外にある。北壁は4.6mを測り、深さは14～19cm、主軸方位はN—81°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面はやや起伏がある。

カマドは、東壁に構築され、燃焼部は掘り込まれていないが火床と思われる硬化した焼土が明瞭に残り、隣接して小ピットが検出された。また、カマド左袖の壁際に小ピット（P8）がある。貯蔵穴は、カマド南側に三ヶ月状に検出され、壁際が棚状に高くなっている。柱穴は、2基検出（P5・7）され、深さは29cm、21cmである。



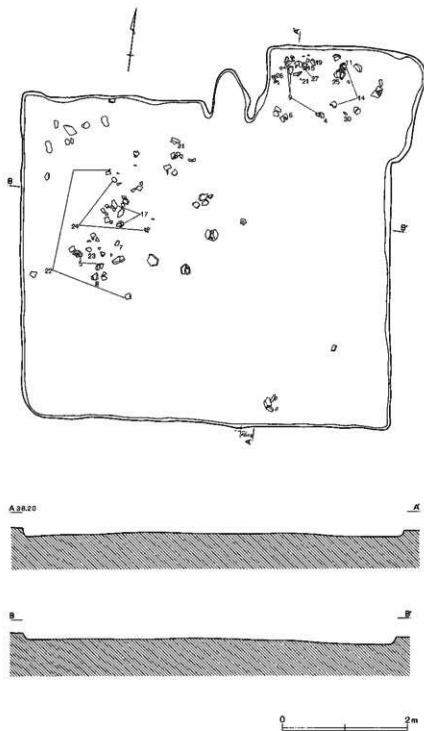
S J 9カマド  
 1. 黒褐色土 焼土粒子・灰粒子（少）含む  
 2. 黒褐色土 焼土粒子・灰粒子（少）含む、粘質  
 3. 暗褐色土 灰粒子（微）含む  
 4. 暗褐色土 焼土粒子・灰粒子（微）含む  
 5. 赤褐色土 焼土層

第47図 第9号住居跡(2)

第9号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (14.4) IV (4.8)	褐灰	W多、B少、2mm含粗	40%	内外面共に風化	No 6
2	坏	I (14.1) IV (3.3)	橙	W・B極少、極密	10%		No 4
3	坏	I (14.3) IV 5.5	明褐灰	W・B多、極粗	30%		
4	坏	I 13.6 IV 4.1	橙	W・B少	70%	全体に風化著しい	No 1
5	坏	I (10.4) IV 5.3	橙	W・B (2mm含) 多粗	20%	内外面共に風化著しい	No 4
6	甕	I (19.5) V 7.7	橙	W・B・R多	20%	全体に風化著しい	No 2
7	甕	I (17.6) II (18.4) V 27.	橙	W・B (5mm含) 多 R少	10%	全体に風化著しい 上半部輪襖復明瞭	No 1

第10号住居跡 (第48・49図)

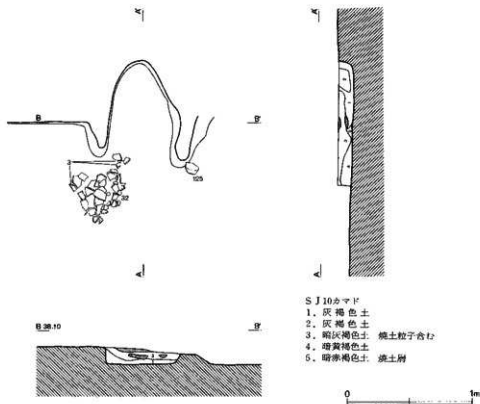


第48図 第10号住居跡(1)

41-15グリッドに位置する。長軸5.9m・短軸5.1mで東西に長く、深さ8~13cm、主軸方位はN-7°-Wである。床面は、ほぼ平坦だが中央がわずかに高くなっている。

カマドは北壁に構築され、燃焼部の掘り込みはない。カマド右袖から住居跡の北東コーナー部にかけては大きく張り出している。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。

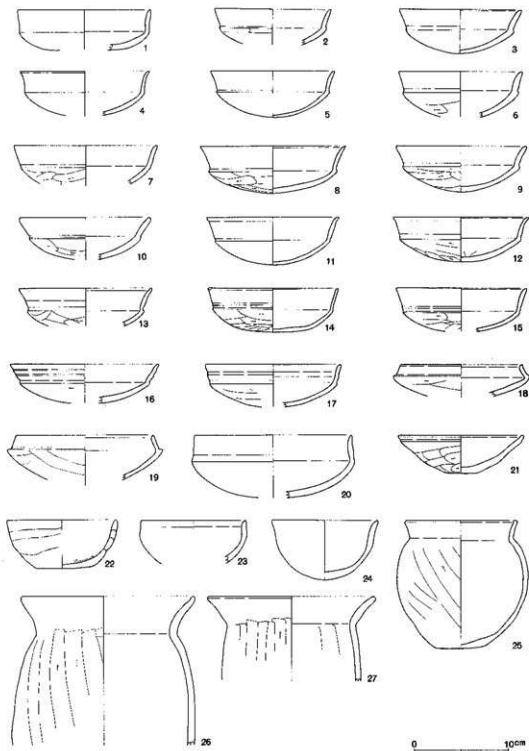
遺物は、住居跡西半と張り出し部に集中して出土している。



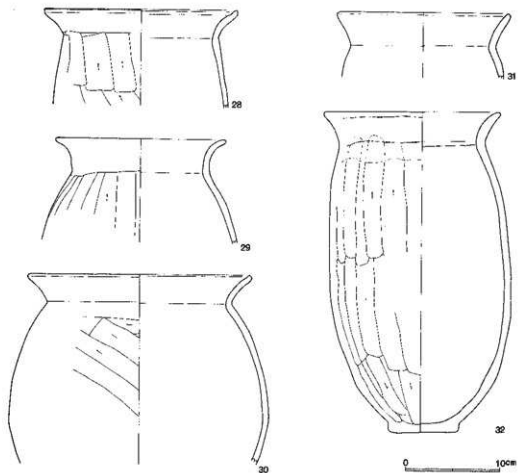
第49図 第10号住居跡(2)

第10号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (14.4) IV (4.3)	にぶい橙	B極少	20%	風化著しい	
2	坏	I (12.4) IV (3.8)	橙	W・B少	10%	風化著しい	
3	坏	I (12.9) IV 4.7	にぶい橙	W・B多	40%	全体に風化	No95・97他
4	坏	I (13.7) IV (4.7)	にぶい橙	B・R	30%	全体に風化	No10
5	坏	I 13.2 IV 4.9	橙	W・少	90%	全体に風化著しい	No83・87
6	坏	I (13.) IV (5.0)	にぶい赤褐	W	20%	風化著しい	No33



第50圖 第10号住居跡出土遺物(1)

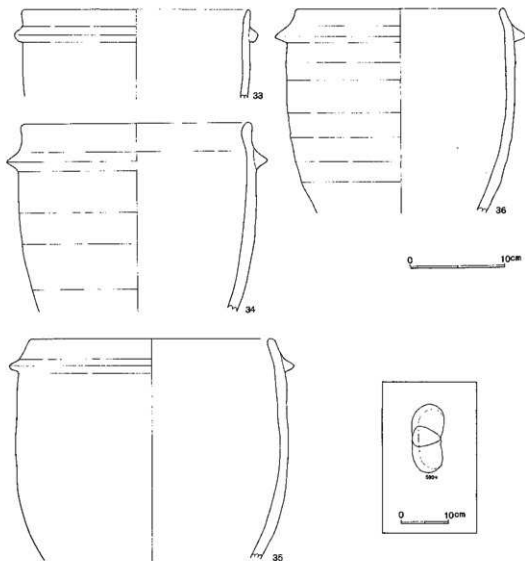


第51図 第10号住居跡出土遺物(2)

第10号住居跡出土遺物(2)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
7	坏	I (15.2) IV (4.3)	濃い橙	W・B・R少	20%	全体にやや風化	No73
8	坏	I (15.5) IV5.5	浅黄橙	W・R少	50%	風化著しい	No84・86
9	坏	I 13.8 IV4.8	橙	W・B・R多	70%	全体に風化著しい	No10・20他
10	坏	I (13.8) IV(4.5)	橙	W・B少	30%	全体に風化著しい	
11	坏	I 14.0 IV5.0	橙	B・R少	60%	全体に風化著しい	No 7
12	坏	I 14.4 IV4.7	淡橙	W・B少	90%	全体に風化著しい	No16
13	坏	I (14.1) IV (4.0)	濃い橙	B・R少	10%	全体に風化著しい	





第52図 第10号住居跡出土遺物(3)

第10号住居跡出土遺物(3)

No	器種	法量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
14	坏	I 13.9 IV4.6	橙	W・B少	80%	内面一部剥落	No 7・9
15	坏	I (13.8)IV(4.6)	橙	W・B少	40%	やや風化	No15
16	坏	I (15.8)IV(4.2)	にぶい橙	W・B少	30%	風化著しい	No125
17	坏	I (14.3)IV(4.5)	にぶい橙	B・R多	40%	全体に風化	No66・67
18	坏	I (12.8)IV(3.5)	にぶい橙	B・R少	30%	全体に風化著しい	No18

## 第10号住居跡出土遺物(4)

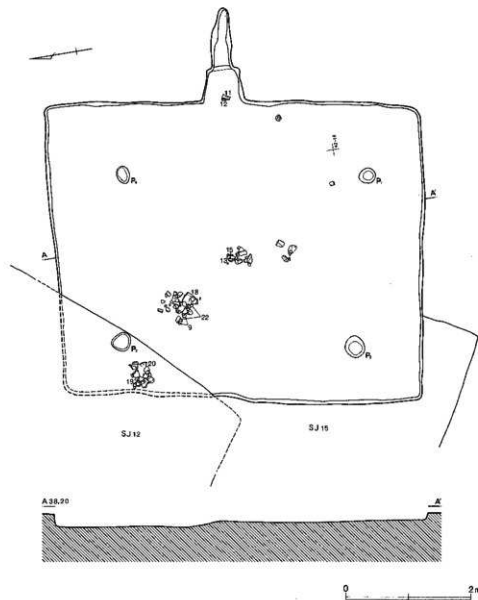
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
19	坏	I (14.6) IV (5.3)	にぶい橙	W少	50%	全体にやや風化、丁寧な作り	No11
20	坏	I (16.8) IV (6.6)	橙	W・B少	40%	内外面に共に風化著しい	
21	鉢	I 13.1 III 3.1 IV 4.0	浅黄橙	B多	70%	やや風化	No23
22	碗	I 11.7 III 6.3 IV 5.1	にぶい橙	W・B多	70%	全体に風化、外面輪痕痕明瞭	No59・92
23	碗	I (11.0) IV (5.0)	にぶい橙	W・B多	40%	全体に風化著しい	No80
24	碗	I (11.2) IV 6.3	にぶい橙	W・B多、R少、粗	50%	全体に風化著しい	No48・61
25	壺	I 12.4 II 13.9 III 6.3 IV 13.4	橙	W・B多	80%	全体に風化著しい	No 8
26	壺	I 18.3 V 15.8	にぶい橙	W・B多、粗	40%	全体にやや風化	No35
27	壺	I (17.5) V 9.0	にぶい橙	W・B多、R少、やや粗	20%	やや風化	No15・67
28	壺	I (2.4) V 1.2	にぶい橙	W・B極多、粗	20%	全体に風化著しい	
29	壺	I (17.8) V 1.7	浅黄橙	W・B多、R少、粗	30%	全体に風化	
30	壺	I (23.4) II (27.7) V 2.	灰白	W・B多、粗	40%	全体に風化著しい	No 1・5
31	壺	I (17.9) V 7.0	にぶい橙	W・B多、粗	30%	風化著しい	No42
32	壺	I 18.5 II 19.3 III 7.0 IV 33.8	にぶい橙	W多、粗	80%	全体に風化、やや歪み有り 口縁部・頸部に輪痕痕	No98-100 103地
33	羽釜	I (23.8) ツバ径(25.8) V 9.8	褐	W・B多、R少	20%	全体に風化著しい	
34	羽釜	I (24.6) V 20.0 ツバ径(27.3)	明赤褐	W・B多、R少、粗	30%	全体に風化著しい	
35	羽釜	I (25.2) V 23.3 ツバ径(3.2)	明赤褐	W・B多、やや粗	20%	全体に風化著しい	
36	羽釜	I (22.0) V 21.5 ツバ径(21.5)	橙	W・B多	30%	全体に風化著しい	

第11号住居跡 (第53・54図)

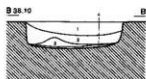
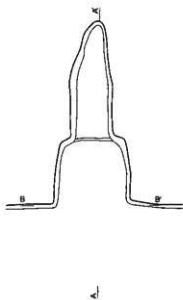
41-17グリッドに位置する。第12・15号住居跡を切る。長軸6.0m・短軸4.8mで南北に長く、深さは10~21cm、主軸方位はS-83°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は北半が低くなっている。

カマドは東壁中央に構築され、掘り込みはないが、焼土層、灰層が明瞭に残る。

遺物は、須恵器高台付坏、土師器坏・甕等が出土している。第57図23・24は、表面に刃痕と思われるキズがあり、それぞれ安山岩・砂岩製である。



第53図 第11号住居跡(1)



S J 11カマド

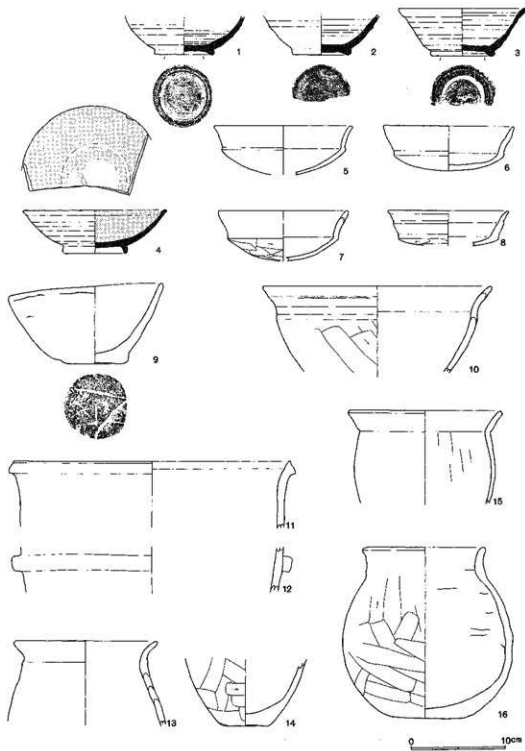
1. 暗褐色土 炭土粒子・炭化粒子含む
2. 暗褐色土 1層より炭化粒子(多)含む
3. 赤褐色土 焼土層
4. 暗灰色土 灰層



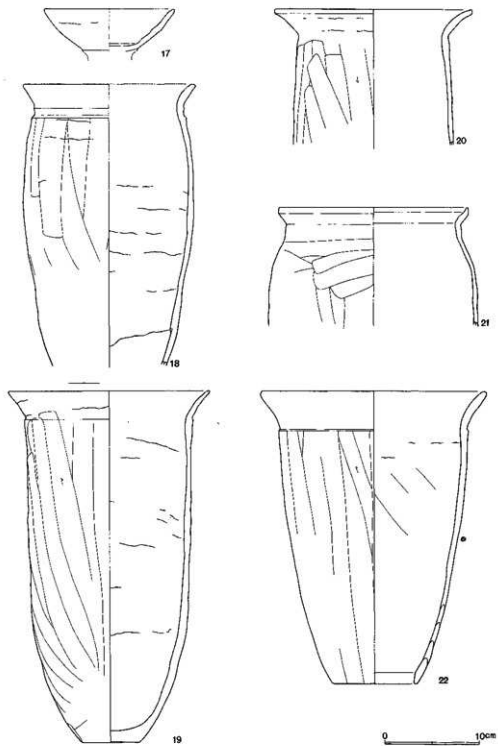
第54図 第11号住居跡(2)

第11号住居跡出土遺物(1)

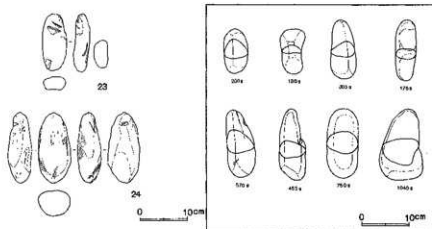
No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	高台坏	VI6.4 V4.1	赤褐	W・R少	50%	回転糸切り跡し	
2	高台坏	VI6.0 V4.1	灰白	W多	30%	回転糸切り跡し	
3	高台坏	I 13.6VI6.8IV5.0	灰	W微	50%	回転糸切り跡し	
4	高台坏	I 15.2VI6.8IV4.6	灰白	W微	40%	内外面に緑釉が付着 底部内面に重ね焼き痕	
5	坏	I (14.7)IV (5.2)	橙	R多	30%		
6	坏	I 13.8 IV4.7	浅黄橙	B・R多	80%		
7	坏	I (13.7)IV (5.3)	橙	W・B多	30%		No12
8	坏	I 12.8 IV (3.7)	黒	W微	50%	器面全体が黒変している	
9	鉢	I 16.4III7.0IV8.2	橙	W少	100%	作りが粗雑、木葉痕	No24・26他



第55図 第11号住居跡出土遺物(1)



第56図 第11号住居跡出土遺物(2)

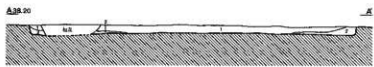
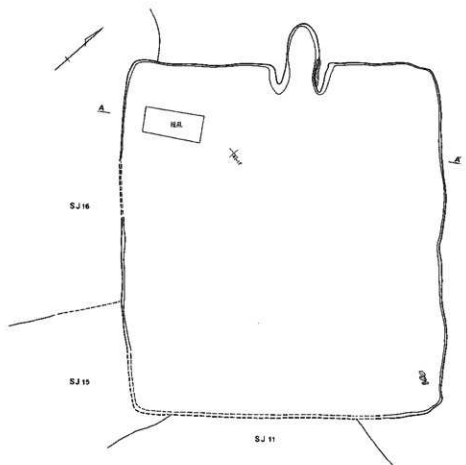


第57図 第11号住居跡出土遺物(3)

第11号住居跡出土遺物(2)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
10	椀	I (24.4) V9.2	にぶい橙	B少	10%		
11	羽釜	I (29.5) V7.0	にぶい橘	W多	10%	カマド	
12	羽釜	V5.0	にぶい橘	W多	10%		No 1
13	甕	I 15.2 V8.8	橙	B・R少	70%		No43-44他
14	甕	III5.0 V7.0	にぶい橙	R多	40%	外面に煤付着	
15	甕	I (15.8) V9.8	橙	W多	10%		No45
16	甕	I 13.0 II18.2 III8.0 IV18.1	にぶい橙	W微	70%		
17	高坏	I (13.8) V5.5	にぶい橙	R多	10%	カマド	
18	甕	I 18.2 II18.2 V29.8	にぶい橙	W(2~3mm含)多	60%	内面の粘土接合痕が明瞭	No29・32・ 34・39他
19	甕	I 21.3 II17.4 III6.0 IV37.0	にぶい橙	W・R多	70%		No1~5・10 11・13他
20	甕	I 21.0 II16.8 V14.4	明赤橘	W多	50%		No4・7・9・ 15・16
21	甕	I (20.0) V12.5	にぶい橙	R多	30%		
22	甕	I 24.0 III9.0 VII8.3 IV31.0	橙	W(2~3mm含)多	50%	外面一部に煤付着	No24・37他

第12号住居跡 (第58・59図)



S J 12

1. 暗褐色土 小石含む
2. 暗褐色土 1層より暗、果褐色土ブロック含む



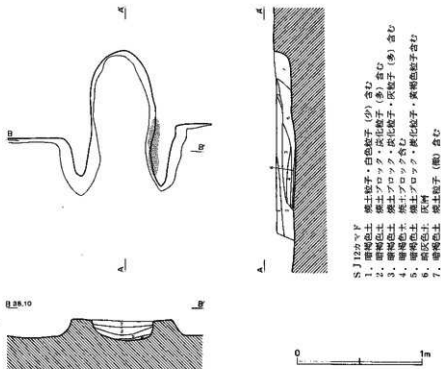
第58図 第12号住居跡(1)



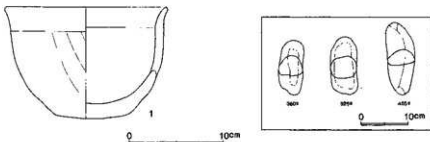
41—17グリッドに位置する。第15・16号住居跡を切り、第11号住居跡に切られる。規模は、長軸5.6m・短軸5.1mで南北にやや長く、深さは10～16cm、主軸方位はN—44°—Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、東壁には窪みがある。床面は中央付近が若干高い。

カマドは、北壁中央よりやや東に構築されている。燃焼部の掘り込みはなく、遺存状態はあまり良好ではないが、最下層に灰層が残る。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。

遺物は、ごく少量だが、南東コーナー付近から石鐮が3個まとまって出土している。



第59図 第12号住居跡(2)



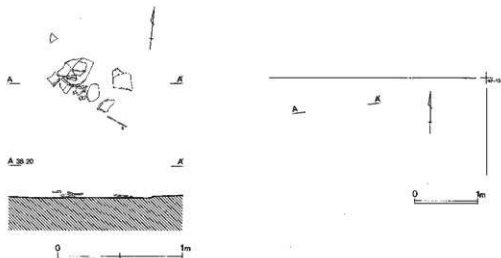
第60図 第12号住居跡出土遺物

第12号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	椀	I 17.0 III 7.4 IV 11.8	にぶい椀	W少	80%		

### 第13号住居跡 (第61図)

41-15グリッドに位置し、遺物が出土したのみである。当初は遺物の下及び周辺にピット等があると思われたが、それらしいものはなにも検出されなかった。従って、一応住居跡番号は付されているがその可能性は低い。出土した遺物も図示できるものはない。



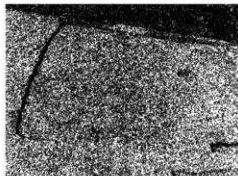
第61図 第13号住居跡

### 第14号住居跡 (第62図)

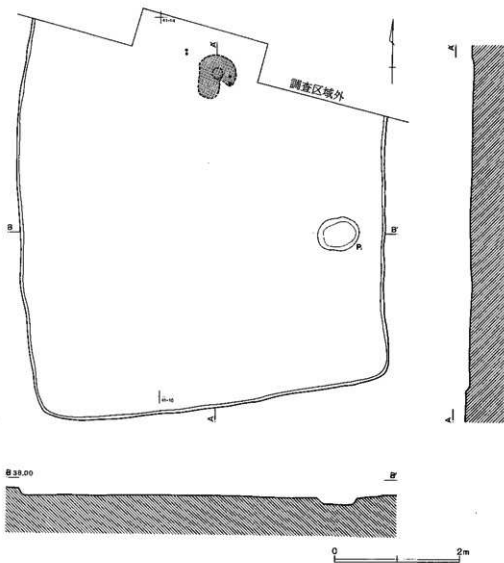
41-14グリッドに位置し、北辺は調査区域外にある。規模は東西5.4m、深さ3~12cmを測り、N-4'-Wである。壁はやや開き気味に立ち上がる。床面は中央付近がわずかに高くなり、東壁際は極めて浅い。

カマドは明確に確認されていないが、調査区際にかマド燃焼部の掘り込みの一部と思われる焼土が検出している。また、東壁際に焼土を覆土に持つ浅いピットが1個検出されている。

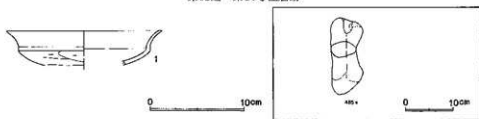
遺物は、極めて少量である。



第14号住居跡



第62図 第14号住居跡

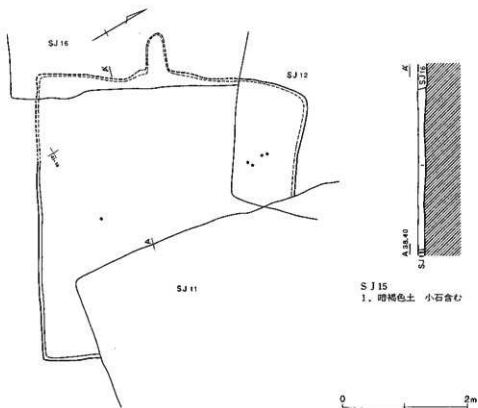


第63図 第14号住居跡出土遺物

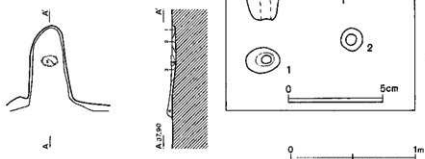
第14号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	环	I (16.6)IV (4.1)	橙	W少	40%	全体的にやや風化	

第15号住居跡 (第64図)



S J 15  
1. 暗褐色土 小石含む



S J 15カマド

1. 暗赤褐色土 焼土細粒子含む
2. 暗褐色土 焼土粒子 (微) 含む
3. 暗褐色土 焼土粒子 (少) 含む
4. 褐色土 焼土粒子 (微) 含む

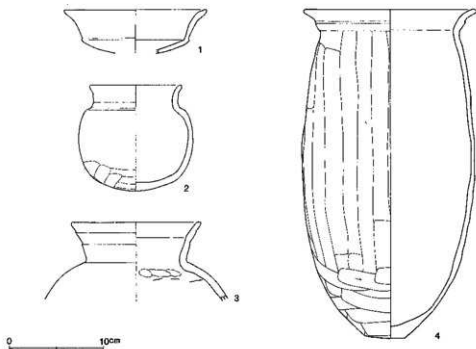
第64図 第15号住居跡

41—17グリッドに位置し、第11・12・16号住居跡に切られる。規模は、長軸4.5m・短軸4.2m、深さ9～13cmを測り、主軸方位はN—59°—Wである。壁は南東コーナー周辺のみ明確に検出され、ほぼ垂直に立ち上がる。床面はやや起伏がある。

カマドは、西壁に構築されているが、痕跡をとどめる程度である。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。遺物は極めて少量で、土錘が2点出土している。

#### 第16号住居跡（第66図）

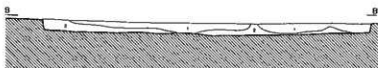
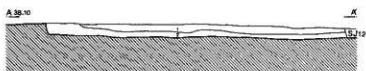
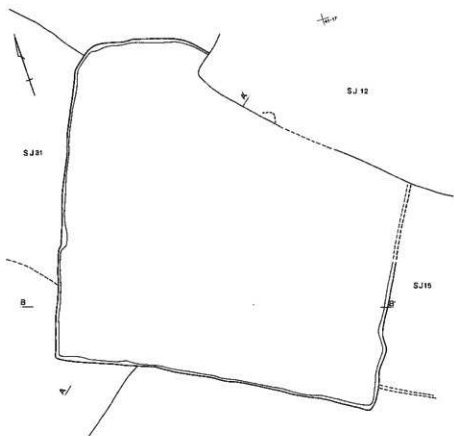
40—17グリッドに位置し、第15・17・31号住居跡を切り、第12号住居跡に切られる。規模は、長軸5.4m・短軸5.2m、深さ15～23cmを測り、主軸方位はS—63°—Eである。カマドは検出されていない。遺物は、極めて少量である。



第65図 第16号住居跡出土遺物

#### 第16号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (15.2) V (4.7)	浅黄橙	W微	40%		
2	壺	I 9.8 II 12.2 IV 11.1	明赤褐	W・R少	90%	底部外面に黒斑有り	
3	壺	I (13.8) V 8.1	赤	R多	30%		
4	壺	I 18.4 II 18.3 III 4.3 IV 34.7	にぶい橙	W(2～3mm含)多	90%		



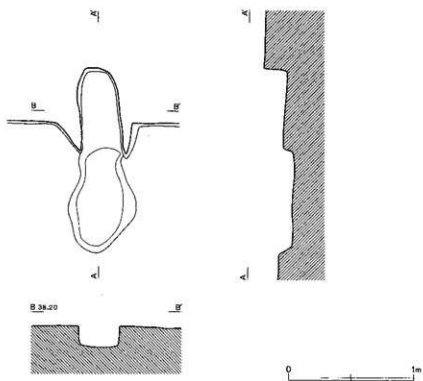
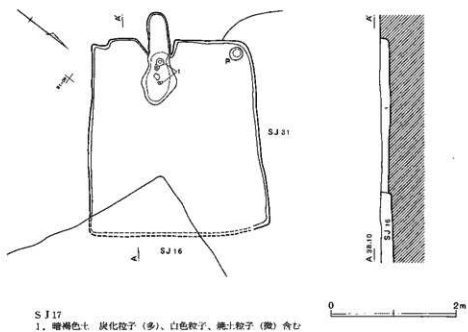
S J 16

1. 暗褐色土 炭化粒子(多)、白色粒子、焼土粒子(微) 含む
2. 褐色土 炭化粒子、明褐色土粒子(少) 含む



第66図 第16号住居跡

第17号住居跡 (第67図)

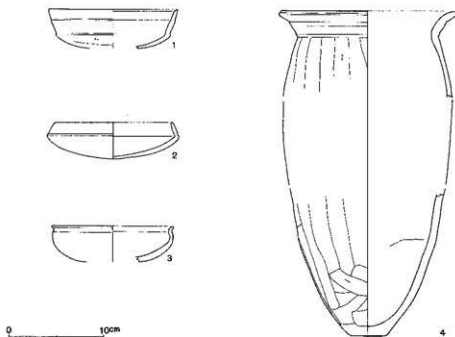


第67図 第17号住居跡

39—17グリッドに位置する。第31号住居跡を切り、第16号住居跡に切られる。長軸3.0m・短軸2.7mで、深さは13～17cmを測る。主軸方位はS—53°—Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

カマドは西壁に構築され、燃焼部の前面を深く掘り込んでいる。貯蔵穴は検出されていないが、北西コーナーに深さ7cmのピットが検出された。

遺物は、カマド内から土師器杯・甕が出土している。



第68図 第17号住居跡出土遺物

#### 第17号住居跡出土遺物

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	杯	I 13.8 IV (4.2)	橙	R多	10%		No. 1・3
2	杯	I 12.5 IV 3.9	にぶい橙	R多	90%		
3	杯	I (13.0) V 3.8	橙	R少	20%	内外面赤彩	
4	甕	I 18.5 III 4.0 V 34.5	楊灰	W・B多	40%		

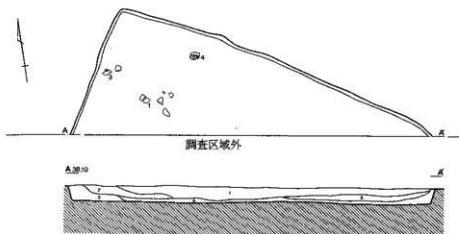
#### 第18号住居跡 (第69図)

44—19グリッドに位置する。大半が調査区外にあり規模は明確ではないが、一辺5.5m程と思われる。深さは21～26cm、主軸方位はN—62°—Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面はわずかに起伏がある。



カマド、貯蔵穴等は検出されていない。

遺物は、少量だが土師器・環・土鍾が出土している。

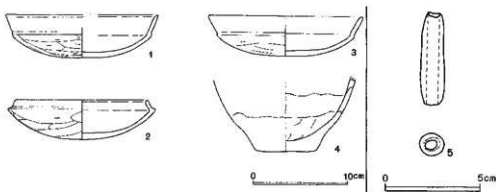


S J 18

1. 暗褐色土 炭化粒子、焼土粒子、小石含む
2. 暗褐色土 1層より暗
3. 暗褐色土 2層より暗
4. 暗褐色土 3層より暗、焼土、炭化粒子(多)含む



第69図 第18号住居跡



第70図 第18号住居跡出土遺物

第18号住居跡出土遺物

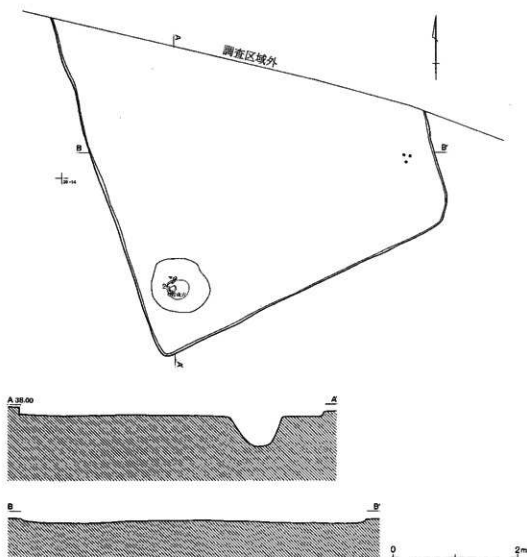
No	器種	法量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
1	環	I 14.2 IV4.5	橙	W・B・R少	60%	全体に風化	No 3
2	環	I (14.0) IV4.2	にぶい赤褐	W・B・R多	40%	全体にやや風化	
3	環	I (16.3) IV4.2	橙	W・B・R多	40%	全体に風化	No 1
4	壺	III6.4 V7.5	にぶい橙	W・B・R多	90%	接合痕明瞭	No 8
5	土鍾	残長4.8 径1.3	橙	W微		6.92g	No 8

第19号住居跡 (第71・72図)

39—13グリッドに位置する。北辺と東辺の一部は調査区外にある。東西5.2m、南北は現長で5.6mある。深さは3～9cmと浅い。主軸方位はN—17°—Wである。床面は、中央付近がわずかに高くなっている。

カマドは検出されていない。貯蔵穴は南西コーナー近くにあり、97×88cmの不正円形で、深さは49cmである。

出土遺物は少量だが須恵器壺、土師器坏等がある。須恵器壺(第72図の1)は小片であるが、徳利形で平底のものである。



第71図 第19号住居跡



第72図 第19号住居跡出土遺物

第19号住居跡出土遺物

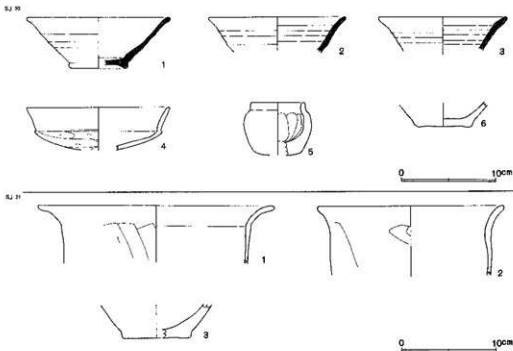
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	壺	V10.0	灰	W	20%	外面に櫛描波状文を施す	
2	坏	I15.8 IV3.5	橙	W・B・R少	80%	全体に歪み有り、やや風化	No 2・3

第20・21号住居跡 (第74・75図)

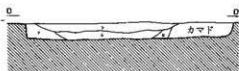
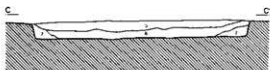
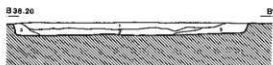
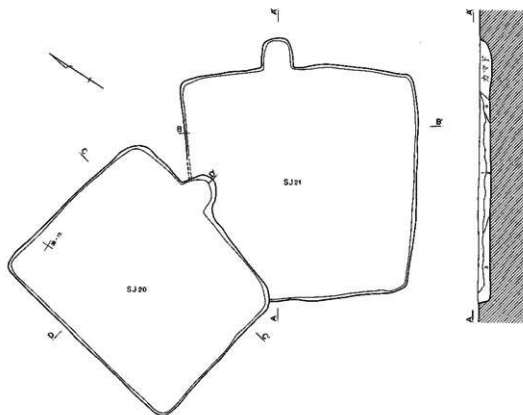
第20号住居跡は、38—15グリッドに位置し、第21・28号住居跡を切る。規模は、長軸3.5m・短軸3.0mで南北にやや長く、深さ14~17cmである。主軸方位はS-77°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は若干の凹凸がある。

カマドは、東壁中央よりやや北に構築されている。貯蔵穴、柱穴等は検出されていない。

遺物は、少量ですべて破片である。



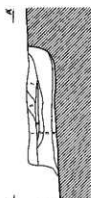
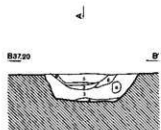
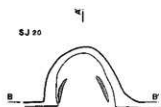
第73図 第20・21号住居跡出土遺物



- S J 20・21
1. 暗褐色土 炭化粒子、白色粒子含む
  2. 黒褐色土 炭化粒子、焼土粒子含む
  3. 褐色土 硬質土、炭化粒子、黄色土ブロック含む
  4. 暗褐色土 焼土粒子(多)含む
  5. 暗褐色土 硬質土、炭化粒子、焼土含む
  6. 黒褐色土 炭化粒子含む
  7. 暗褐色土 1層より明、硬質土
  8. 黒褐色土 焼土・炭化粒子含む、粘質

0 ————— 2m

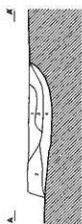
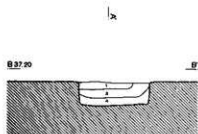
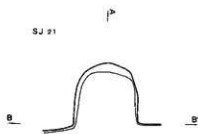
第74図 第20・21号住居跡(1)



S J 20カマド

1. 褐色土 焼土粒子・炭化粒子・白色粒子（少）含む
2. 黒褐色土 焼土粒子・焼土ブロック含む
3. 暗褐色土 焼土粒子含む
4. 灰褐色土 焼土粒子（少）含む
5. 赤褐色土 焼土ブロック（多）含む
6. 黒色土 炭化粒子含む
7. 暗褐色土
8. 赤褐色土 焼土粒子・炭化粒子の混土

0 1m



S J 21カマド

1. 暗褐色土 焼土ブロック散入
2. 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子（多）含む
3. 暗褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子（多）含む
4. 暗褐色土 炭粒子含む

0 1m

第75図 第20・21号住居跡(2)

第21号住居跡は、38—15グリッドに位置する。第28・29号住居跡を切り、第20号住居跡に切られる。規模は、長3.8軸m・短軸3.7m、深さ15～18cmを測り、主軸方位はN—55°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

カマドは、東壁中央よりやや北に構築され、燃焼部の掘り込みはない。貯蔵穴、柱穴等は検出されていない。

遺物は、ごく少量ですべて破片である。

#### 第20号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	高台坏	I (15.3) VI (6.3) IV5.4	橙	R少	40%		
2	坏	I (14.6) V3.8	灰白	B微	10%		
3	坏	I 13.7 V3.5	灰白	B微	50%		
4	坏	I 15.2 IV (4.5)	にぶい橙	R少	30%		
5	ミニチュア	I (5.7) II (7.2)	にぶい橙	W少	30%		No15
6	甕	III6.2	黄橙	W微	80%		

#### 第21号住居跡出土遺物

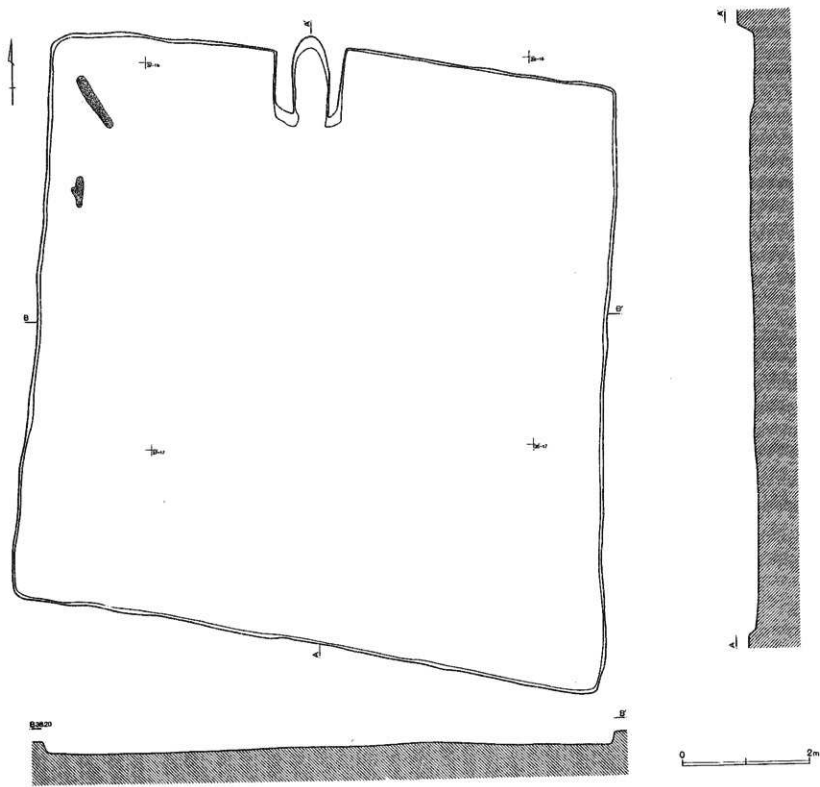
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	甕	I (25.2) II (20.0) V6.2	橙	W・B少	20%		
2	甕	I 19.8 II 17.1 V7.5	橙	B多	20%	胴部外面に黒変部分有り	
3	甕	III7.4 V3.5	橙	W・R少	70%		

#### 第22号住居跡 (第76・77図)

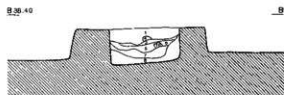
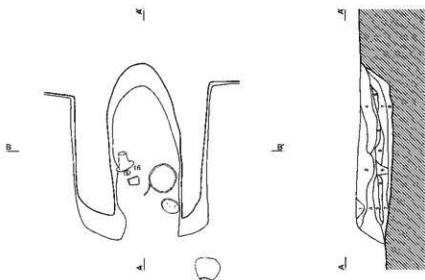
37—16グリッドに位置する。規模は、長軸9.2m・短軸8.9mを測り、本遺跡で検出された住居跡の中で最も大きい。深さは7～15cmで、主軸方位はN—5°—Eである。壁はやや開き気味に立ち上がり、床面はわずかに起伏がある。

カマドは、北壁中央に構築されており、袖が長く残る。燃焼部はわずかに掘り込まれる程度であるが、灰層が明瞭に残っている。貯蔵穴、柱穴等は検出されていない。

遺物の多くは覆土中からであるが、カマド内から完形の土製支脚や土師器甕の破片が出土している。また、北東コーナー付近から炭化材が検出されている。



第76図 第22号住居跡(1)



S J 22カマド

1. 明灰黄色土 白色粒子(多)含む
2. 明褐色土 焼土ブロック(少)含む
3. 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子含む
4. 赤褐色土 焼土層(天井部)
5. 赤褐色土 焼土層
6. 赤色土 焼土ブロック
7. 暗灰色土 灰附・焼土粒子(少)含む
8. 暗褐色土
9. 暗灰褐色土 灰粒子・焼土粒子・炭化粒子含む(七器設置部)
10. 暗褐色土 焼土粒子含む

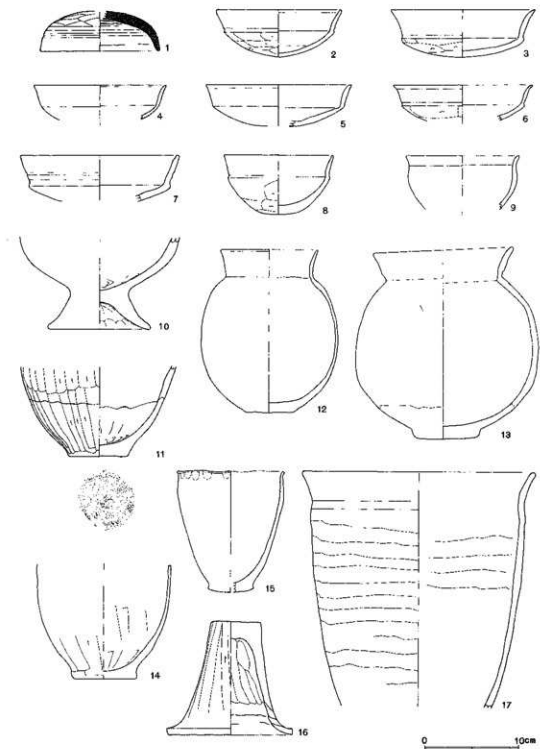


第77図 第22号住居跡(2)

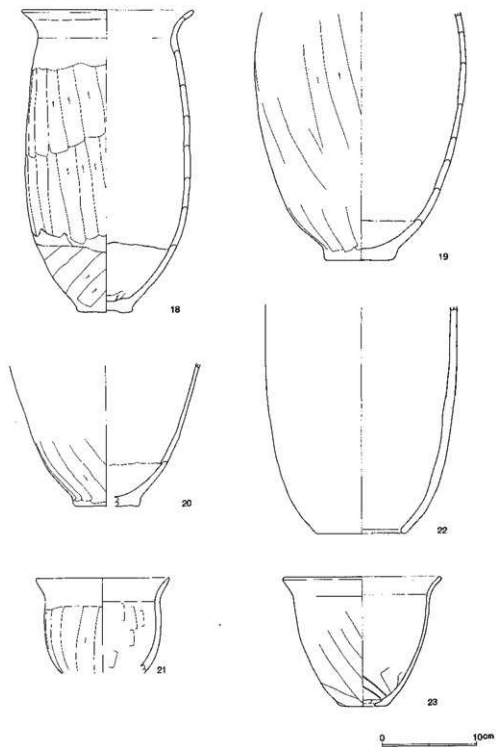
第22号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
1	蓋	I 12.8 IV (4.2)	灰白	W少	50%		No 1
2	坏	I 13.2 IV 5.0	橙	W少	100%		
3	坏	I (15.4) IV (5.0)	橙	W・B少	30%	全体に風化著しい	
4	坏	I (14.1) V 3.7	橙	B・R少	30%		
5	坏	I (15.5) IV 4.9	にぶい橙	B少	30%	全体に風化著しい	
6	坏	I (14.8) V 3.8	橙	W・B少	30%	全体に風化著しい	





第78図 第22号住居跡出土遺物(1)



第79图 第22号住居跡出土遺物(2)

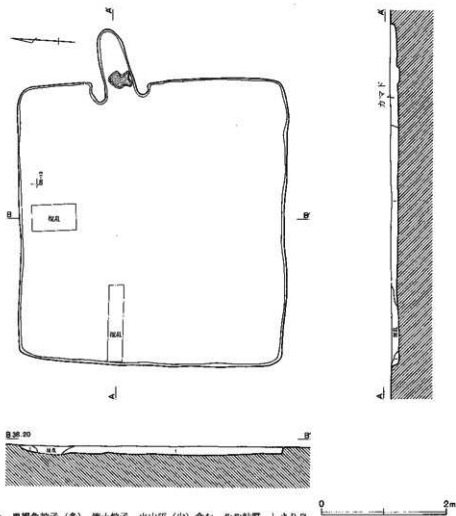
## 第22号住居跡出土遺物(2)

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
7	坏	I (17.1) V4.8	橙	W・B・R少	20%	全体に風化著しい	
8	坏	I 11.5 IV6.5	にぶい橙	W・B多	70%	全体に風化著しい	
9	椀	I (12.0) V5.8	にぶい黄橙	B多	20%	全体に風化極めて著しい	
10	台付甕	III11.9 V9.7	にぶい橙	W・B多、粗	80%	全体に風化著しい	
11	甕	II16.6 III6.3 V9.5	にぶい橙	W・B多、粗	70%	上げ底(張り付け)、木炭痕	
12	甕	I 10.2 III5.2 IV17.2	橙	B少	80%	全体に風化著しい	
13	甕	I 14.8 II19.5 IV20.0	橙	W極多、粗	80%	カマド、全体に風化著しい	
14	甕	II14.4 III6.9 V12.1	灰褐	W・B極多、粗	50%		
15	甕	I (11.5) II11.4 IV(12.8)	にぶい褐	W多、B微	30%	全体にかなり歪む、風化著しい	
16	支脚	上部径5.4下部径 13.2 IV12.0	明赤褐	W少	100%		No. 1
17	瓶	I 24.7 V24.4	橙	B・R少	70%	全体に風化、輪痕痕明瞭	
18	甕	I 18.4 II17.6 III5.8 IV32.0	にぶい褐	W多、粗	80%	カマド	
19	甕	II22.5 III7.3 V26.3	橙	W(3mm含)極多 粗	80%	全体に風化著しい、内面に接合痕	
20	甕	II20.2 III(6.9) V14.7	橙	W(5mm含)極多 粗	40%	全体に風化著しい、内面に接合痕	
21	甕	I (14.1) II (12.4) V10.8	橙	W・B多、粗	40%	全体に風化著しい	
22	瓶	II20.4 VIII9.5 V24.0	にぶい橙	W(3mm含)極多 R微、粗	60%	全体に風化著しい	
23	瓶	I 16.7 III5.0 VII2.0 IV13.7	にぶい橙	W・B多、R少 粗	70%	全体に風化著しい 孔はやや片寄る	

第23号住居跡 (第80・81図)

34—13グリッドに位置する。規模は、長軸4.6m・短軸4.3m、深さ10～16cmを測り、主軸方位はN—86°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はやや起伏があり、一部擾乱を受けている。

カマドは、東壁中央より北側に構築され、煙道を北に振る。袖はわずかに残る程度であるが、燃焼部には火床と思われる硬化した焼土が明瞭に残る。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。

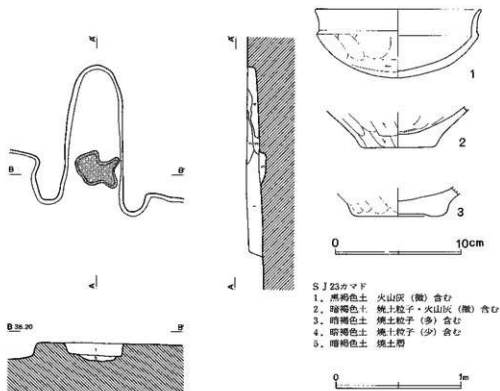


第80図 第23号住居跡(1)

第23号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	坏	I (13.2) IV5.5	橙	W・B少	40%	全体に風化著しい	
2	甕	III (6.1) V3.2	褐灰	W・B多、粗	50%		
3	甕	III (7.5) V2.3	濃い橙	W・B多、やや粗	50%		

遺物は、ごく少量だが土師器坏・甕が出土している。



第81図 第23号住居跡(2)

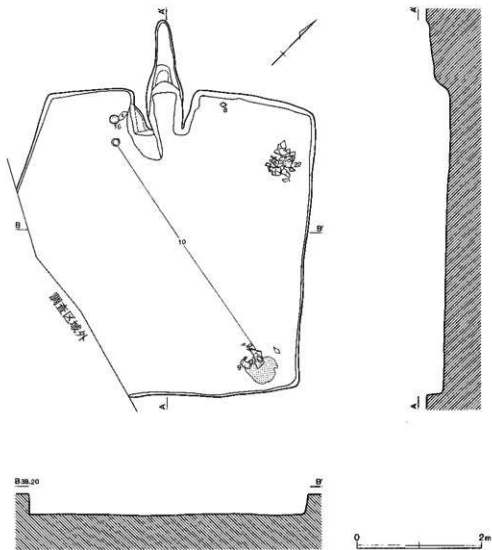
#### 第24号住居跡 (第82・83図)

34-17グリッドに位置し、南西コーナーは調査区域外にある。規模は、長軸4.8m・短軸4.7m、深さ28~37cmを測り、主軸方位はN-38°-Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面はほぼ平坦で明瞭だが、貼り床は部分的に残る程度である。

カマドは北壁中央に構築され、煙道部が段を持って長く延びる。左袖は明瞭に残るが、右袖の残りは悪い。燃焼部は掘り込まれてはおらず、最下層には灰層が明瞭に残る。貯蔵穴、柱穴等は検出されていない。

遺物は、土師器坏・甕・甗等が比較的多量に出土しており、土錘が1点出土している。須恵器は覆土中から3点出土している (第86図の33~35)。33は表面に描描文が施されている。34・35は表面に叩き目、内面に当て具痕を明瞭に残す。いずれも甕の一部と思われる。

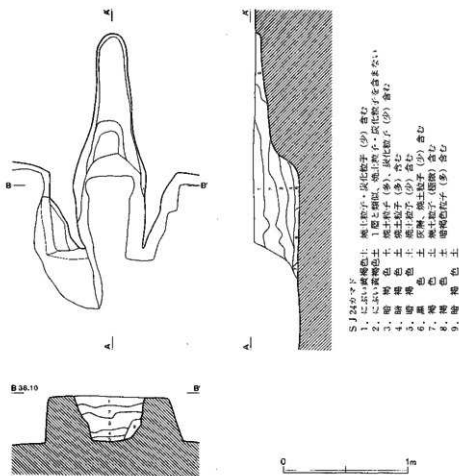
また、南東コーナー付近から白色粘土塊が床直の状態を検出されており、その直上に土師器坏が出土している。



第82図 第24号住居跡(1)

第24号住居跡出土遺物(1)

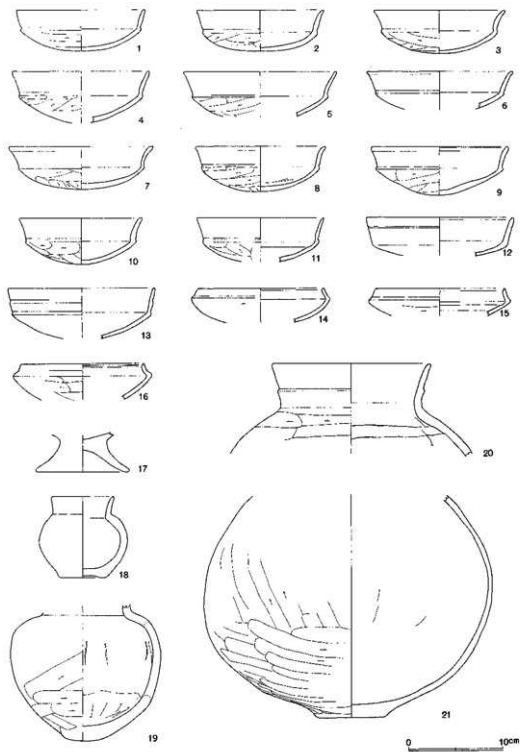
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (13.6) IV4.3	橙	B・R多	30%	風化著しい	
2	坏	I (13.5) IV4.4	橙	B・R	30%	風化著しい	
3	坏	I (13.9) IV4.6	橙	W・B多、やや粗	40%	全体に風化	
4	坏	I 14.5 IV(5.5)	にょい橙	W・B多、R少	40%		
5	坏	I (16.4) V4.7	にょい赤褐	B少	20%	全体に風化著しい	



第24号住居跡出土遺物(2)

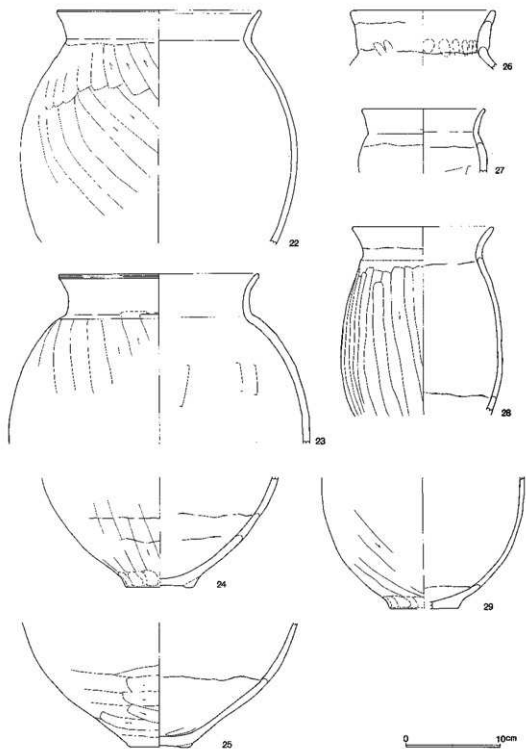
第83図 第24号住居跡(2)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
6	坏	I (15.6) V4.0	灰褐	B少	20%	全体に風化著しい	
7	坏	I 15.2 IV4.5	明赤褐	W・R	80%		
8	坏	I 13.6 IV4.8	橙	W・B多	100%		No 2
9	坏	I 14.4 V5.1	橙	W・B・R多、やや粗	80%	全体にやや風化	No 6
10	坏	I 13.0 IV4.9	明赤褐	W少	95%	全体に風化著しい	No 4・5
11	坏	I (13.5) V4.6	橙	W少	10%	全体に風化著しい	
12	坏	I (15.6) V4.1	明赤褐	B多	10%	全体に風化著しい	
13	坏	I (15.5) IV(5.6)	明赤褐	B極多	10%	全体に風化著しい	

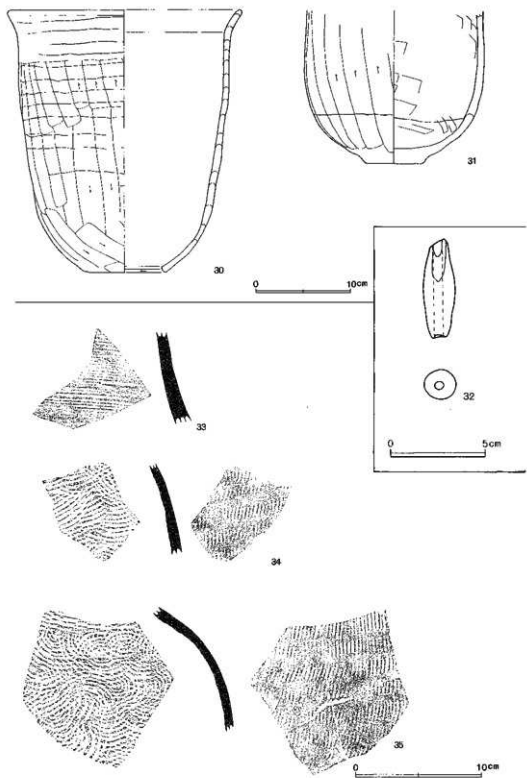


第84図 第24号住居跡出土遺物(1)





第85図 第24号住居跡出土遺物(2)

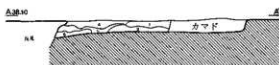
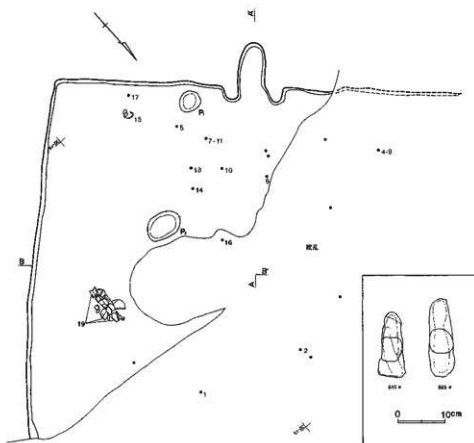


第86図 第24号住居跡出土遺物(3)

## 第24号住居跡出土遺物(3)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
14	坏	I (13.8) V3.6	橙	W少	30%	風化著しい	
15	坏	I (13.7) V2.9	橙	W少	20%	風化著しい	
16	坏	I (13.1) V3.8	灰黒	W極微	10%	全体に風化著しい	No 1
17	高坏	III10.0 V4.0	橙	W少	70%		
18	甬	I 6.5 II9.4 III5.0 IV6.2	にぶい橙	B少	100%		
19	甬	II16.0 III4.5 V14.3	にぶい橙	W・B極多、粗	100%	全体に風化著しい	
20	甬	I (16.5) V9.6	橙	B多	30%	全体に風化著しい	
21	甬	II30.7 III7.4 V23.5	にぶい橙	W・B多、粗	50%		
22	甬	I (21.5) II(29.6) V24.7	橙	W・B多、粗	40%	風化著しい	No 3
23	甬	I (21.3) V17.9	褐	W多、R少、粗	40%		
24	甬	III7.3 V11.6	橙	W多、粗	30%	全体に風化著しい、上げ底 (貼り付け)、不明瞭だが木葉痕	
25	甬	II29.4 III6.7 V13.1	にぶい褐	W・B多、粗	50%	全体に風化著しい 上げ底 (貼り付け)	
26	甬	I (14.8) V5.8	にぶい橙	W・B多、やや粗	40%	全体に風化著しい 内外面に接合痕	
27	甬	I (12.8) V6.7	にぶい赤褐	W・B多、やや粗	20%	全体に風化著しい	
28	甬	I (14.9) II(17.2) V20.0	橙	W多、R少、粗	40%	やや風化	
29	甬	III(7.4) V13.9	橙	W・R粗	20%	全体に風化著しい	
30	甬	I 24.5 II22.5 VII7.5 IV27.9	明褐色	W多、やや粗	70%	全体にやや風化、輪積痕明確	
31	甬	II19.0 III6.2 V16.2	にぶい橙	W極多、粗	60%	全体に風化著しい	
32	土罐	残長6.2 径1.7	橙	W少		10.93 g	

第25号住居跡 (第87・88図)



S J 25

1. 褐色土 焼土粒子、炭化粒子 (散) 含む、わずかに粘性あり、しまり良
2. 褐色土 焼土粒子 (散) 含む、粘性あり、しまり良、やや砂質
3. 黄褐色土 炭化粒子 (散) 含む、しまり良
4. 褐色土 1層に類似、焼土粒子、炭化粒子 (多) 含む
5. 褐色土 2層に類似、焼土粒子、炭化粒子 (極多) 含む
6. 暗褐色土 焼土粒子、炭化粒子 (多) 含む、粘性あり、しまり良

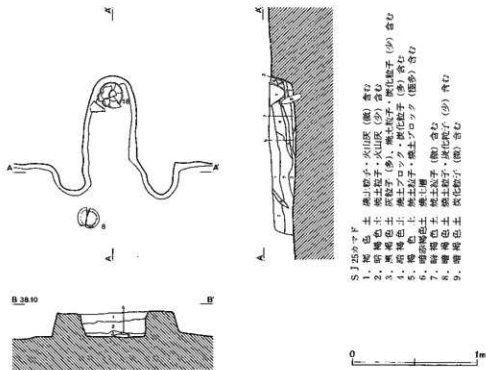


第87図 第25号住居跡(1)

31—15グリッドに位置する。大半を攪乱によって壊されており規模等は不明であるが、一辺が6 m前後になると思われる。深さは18~27cmを測り、中央付近が深くなる傾向がある。主軸方位はS—46°—Wである。壁はやや開き気味に立ち上がる。床面は明瞭であり、貼り床がカマド周辺で顕著に残る。

カマドは、南壁に構築されている。袖は痕跡を残す程度であるが、煙道端からは細長の河原石が立った状態で出土し、それから少しずれる形で臺の底部が出土している。

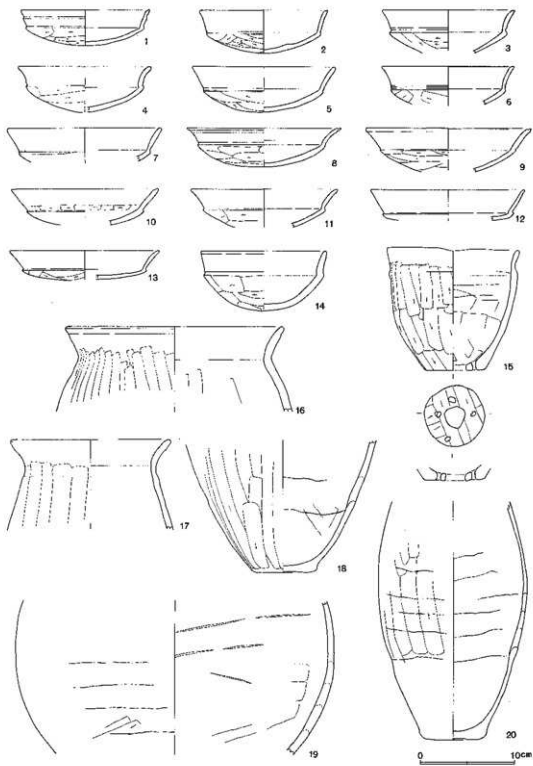
遺物は、土師器杯・壺・甔等が出土している。



第88図 第25号住居跡(2)



第25号住居跡

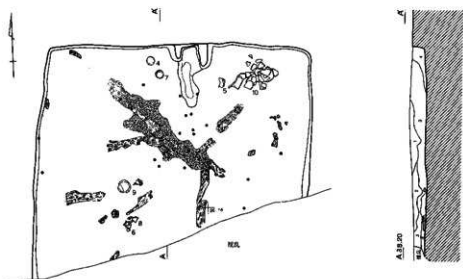


第89圖 第25号住居跡出土遺物

第25号住居跡出土遺物

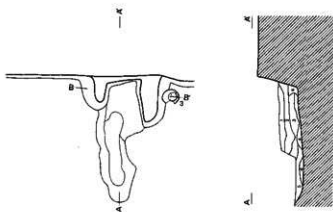
No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
1	坏	I (13.6) IV3.7	にぶい橙	W・R少	40%		No 6
2	坏	I 13.6 IV4.5	橙	W・R微	50%		No 8
3	坏	I (14.0) V4.5	にぶい橙	W微	40%		
4	坏	I (14.1) V4.9	にぶい橙	W極微	30%		No23・24
5	坏	I 15.2 IV4.8	橙	W・R微	70%		No12
6	坏	I (14.0) V4.0	にぶい橙	W微	20%		No19
7	坏	I (16.4) IV3.5	橙	W極微	30%		No15
8	坏	I 16.4 IV4.1	橙	W・B少	100%		No25
9	坏	I (17.6) V4.5	橙	W・R少	40%		No23
10	坏	I (15.5) V3.8	灰褐	W少	20%		No16
11	坏	I (15.6) V4.6	橙	W微	30%		No15
12	坏	I (16.4) IV3.3	橙	W少	10%		
13	坏	I (16.0) V3.0	橙	W少	20%		No13
14	坏	I 13.1 IV6.3	明褐灰	W・B多	80%		No14
15	甗	I 14.0 III6.4 VII2.3 IV13.0	にぶい橙	W多、粗	90%	孔は大1、小4でいびつ	No11
16	甗	I (22.4) V9.0	にぶい橙	W・B多、やや粗	40%	やや風化	No 9
17	甗	I (16.9) V9.5	灰黄	B多、粗	30%	全体に風化著しい	No10
18	甗	III7.8 V13.9	褐灰	W多、粗	95%		No26
19	甗	II34.0 V16.3	にぶい橙	W多、やや粗	80%	全体に風化著しい	No1・3・4
20	甗	II (15.8) III6.7 V25.2	にぶい橙	W多、粗	80%	カマド、風化著しい、輪痕痕明瞭	

第26号住居跡 (第90図)



S J 26

1. 黒褐色土 焼土粒子、炭化粒子 (多) 含む、しまり良
2. 黒褐色土 焼土粒子、炭化粒子 (極多) 含む、しまり良
3. 黒褐色土 焼土粒子 (少)、炭化粒子 (多) 含む、しまり良
4. 暗褐色土 焼土粒子 (微) 含む、わずかに粘性あり、しまり良



S J 26カマド

1. 灰黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子 (多) 含む
2. 黒褐色土 焼土粒子 (極多) 含む
3. 暗褐色土 焼土粒子 (多)、炭化粒子 (少) 含む
4. 褐色土 焼土粒子・炭化粒子 (微) 含む
5. 暗赤褐色土 焼土層
6. 褐色土



第90図 第26号住居跡



25—13グリッドに位置し、南半を攪乱によって壊されている。北辺は4.1m、深さ20～24cmを測る。主軸方位はN—5°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面はやや起伏がある。

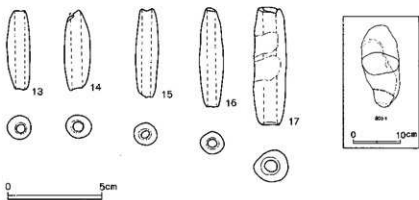
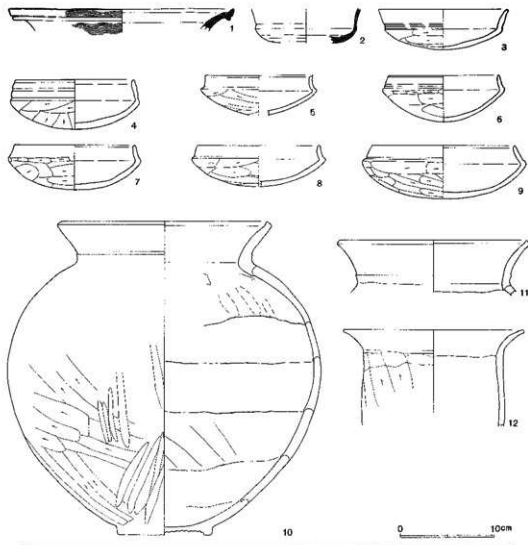
カマドは北壁に構築されているが、遺存状態は悪い。袖はその痕跡をとどめる程度であり、袖の手前に燃焼部の掘り込みが細長くある。貯蔵穴、柱穴等は検出されていない。

遺物は、カマド右袖近くから土師器坏が床面からやや浮いた状態で出土している。

また、床面の所々で炭化灰、炭化材が検出され、そのなかには住居の部材と思われるものがあり、焼失家屋の可能性が考えられる。

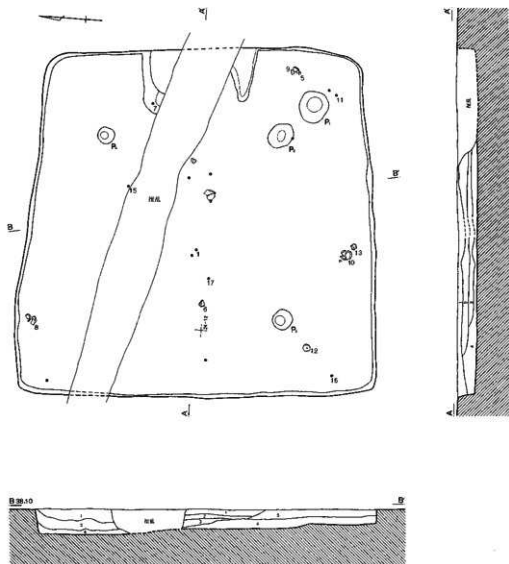
#### 第26号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	壺	I 24.0 V 2.3	灰白	W(2～3mm含)微	10%	外面に櫛描波状文を施す	
2	坏	V 3.5	褐	W多	20%		
3	坏	I 13.6 IV 4.2	明赤褐	W・B多	100%	全体にやや風化、歪み有り	No 26
4	坏	I 12.5 IV 5.2	褐灰	B多、R微	95%		No 23
5	坏	I 11.4 IV (4.3)	褐灰	B・R多	60%		No 21
6	坏	I 11.7 IV 4.9	灰褐	W・B多	70%	全体に風化著しい	No 17
7	坏	I 12.8 IV 4.7	浅黄橙	W少	90%	やや風化	No 22
8	坏	I (13.0) IV (4.3)	褐	W・B多	50%		No 16
9	坏	I 15.2 IV 5.6	にぶい赤褐	W・B多	90%		No 15
10	壺	I 21.9 III (10.0) II 33.4 IV (33.2)	にぶい橙	W・B多、やや粗	40%	外面下半の一部(ケズリの上)にナゲ調整、輪模痕明瞭	No 1・25
11	壺	I 19.9 V 5.5	橙	W・B多	70%	攪乱	
12	壺	I (19.1) V 10.1	明赤褐	W・B極多、粗	30%		
13	土鉢	長4.2 径1.2	黒褐	W多		5.60 g	No 19
14	土鉢	残長4.3 径1.4	にぶい赤褐	W・B多		6.38 g	No 3
15	土鉢	残長4.7 径1.2	にぶい橙	W・B多		5.83 g	No 12
16	土鉢	残長5.3 径1.3	黒褐	W多		6.81 g	No 2
17	土鉢	残長6.2 径1.7	にぶい赤褐	W極微		18.58 g 攪乱、指頭痕有り	



第91圖 第26号住居跡出土遺物

第27号住居跡 (第92図)



SJ 27

1. 暗褐色土 炭化粒子 (少)、火山灰 (微) 含む、しまり良
2. におい黄褐色土 炭化粒子、火山灰 (微) 含む、しまり良
3. 黒褐色土 炭化粒子、黄褐色粒子 (多) 含む、粘性強い、しまり良
4. 暗褐色土 黄褐色粒子 (多)、炭化粒子、焼土粒子 (少) 含む、わずかに粘性あり、しまり良
5. 褐色土 2層に類似、炭化粒子 (少) 含む

0 2m

第92図 第27号住居跡

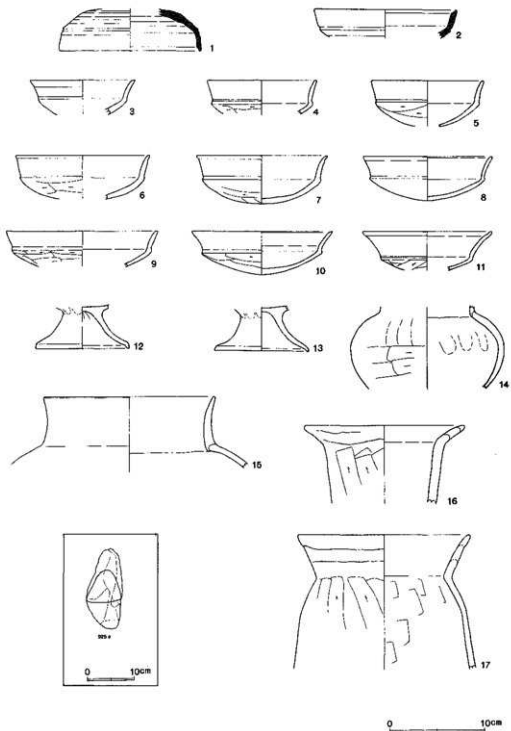
24—11グリッドに位置し、溝状の攪乱によって切られる。規模は、長軸5.7m・短軸5.5m、深さ22～40cmを測り、主軸方位はN-88°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は攪乱を境に北側が低くなっている。

カマドは東壁に構築されているが、攪乱によって大半が壊されている。攪乱の北側は、大きさや上面が平らになっていることからカマドの袖ではなく、棚状の施設の可能性がある。柱穴は、3基検出され（P2～4）、深さはそれぞれ61cm、66cm、52cmである。

遺物は、須恵器坏蓋・坏身、土師器坏・壺等が出土している。

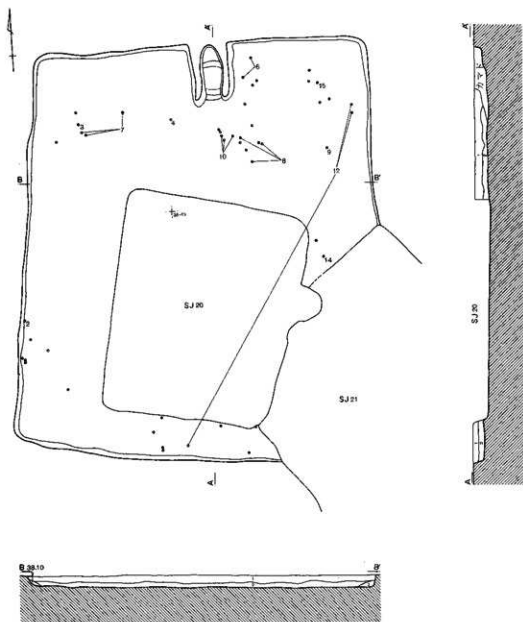
#### 第27号住居跡出土遺物

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	蓋	I (15.0) V4.5	灰	W少	30%	ロクロ右回転	No.22
2	坏	I (15.1) V3.0	灰	W微	10%		No.16
3	坏	I (11.2) V3.6	橙	W少	10%	風化著しい	
4	坏	I (11.6) V3.6	橙	W極微	40%	全体に風化著しい	
5	坏	I 11.9 IV (5.0)	橙	W少	50%	全体に風化著しい	No.1
6	坏	I (14.3) V4.6	明赤褐	B極微	30%	全体に風化著しい	No.19
7	坏	I (13.9) IV (5.1)	にぶい橙	W・B・R多	40%	全体に風化著しい	No.10
8	坏	I 13.7 IV4.7	にぶい橙	W・R多、やや粗	80%	全体に風化著しい	No.20
9	坏	I (16.2) V3.7	明赤褐	W・B少	30%		No.1
10	坏	I 14.9 IV4.6	橙	W少、R多	80%	全体に風化著しい	No.6
11	坏	I (13.7) V4.1	にぶい褐	W極微	40%		No.3
12	高坏	III (9.9) V4.4	にぶい橙	W・B多	70%	全体に風化著しい	No.7・10
13	高坏	III 10.0 V4.4	明赤褐	W・R多	70%	全体に風化著しい	No.5
14	壺	II (16.3) V8.6	橙	B多	20%	風化著しい	
15	壺	I (18.1) V7.5	橙	W・B多	10%	全体に風化著しい	No.11
16	壺	I (17.0) V8.3	橙	W多	20%		No.8
17	壺	I (18.3) V14.0	にぶい橙	W・B多、やや粗	40%	全体に風化著しい 外面口縁下に輪稜痕	No.18



第93图 第27号住居跡出土遺物

第28号住居跡 (第94・95図)



- SJ28  
 1. 灰黄褐色土 白色顔粒子(多)含む  
 2. 暗灰黄褐色土  
 3. 暗黄褐色土 砂質

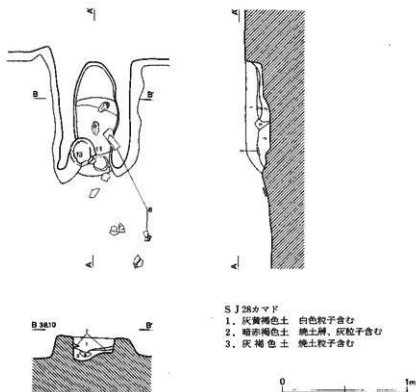
0 2m

第94図 第28号住居跡(1)

38-15グリッドに位置し、第20・21号住居跡に切られる。規模は、長軸6.6m・短軸5.6mで南北に長い。深さは15~23cm、主軸方位はN-4°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面はやや起伏がある。

カマドは北壁中央に構築され、袖が長く延びる。燃焼部は10cm程度掘り込まれ、左袖側が深くなっており、細長い河原石が2個立てられた状態で出土している。貯蔵穴、柱穴等は検出されていない。

遺物は、土師器杯・壺等が出土している。

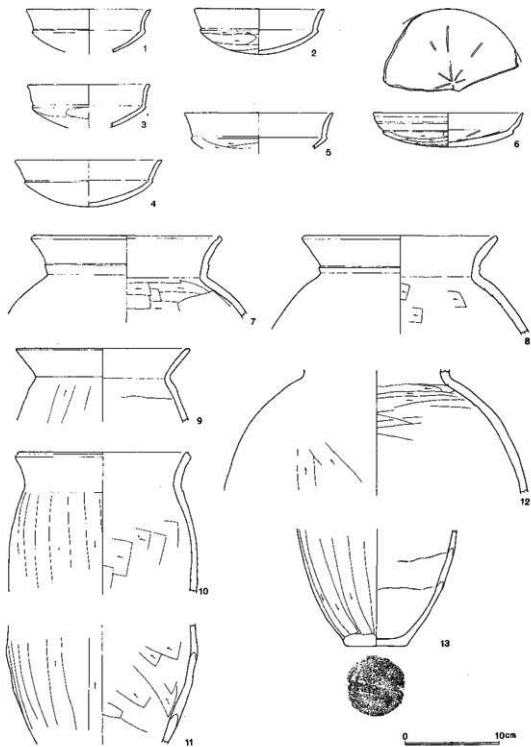


S J 28カマド  
 1. 灰黄褐色土 白色粒子含む  
 2. 暗赤褐色土 焼土層、灰粒子含む  
 3. 灰褐色土 焼土粒子含む

第95図 第28号住居跡(2)

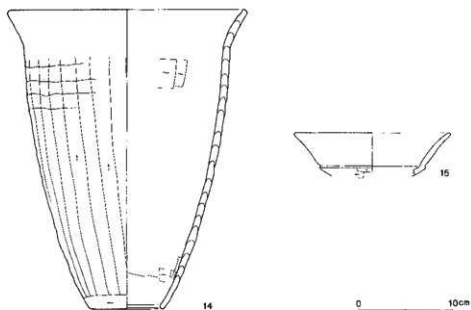
第28号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	杯	I (13.0) V 4.5	橙	R少	30%		No 57
2	杯	I 13.8 IV 4.8	橙	W微	50%		No 9
3	杯	I 13.0 V 4.5	橙	R少	70%		No 3
4	杯	I 15.6 IV 5.0	橙	R少	80%		No 8



第96図 第28号住居跡出土遺物(1)



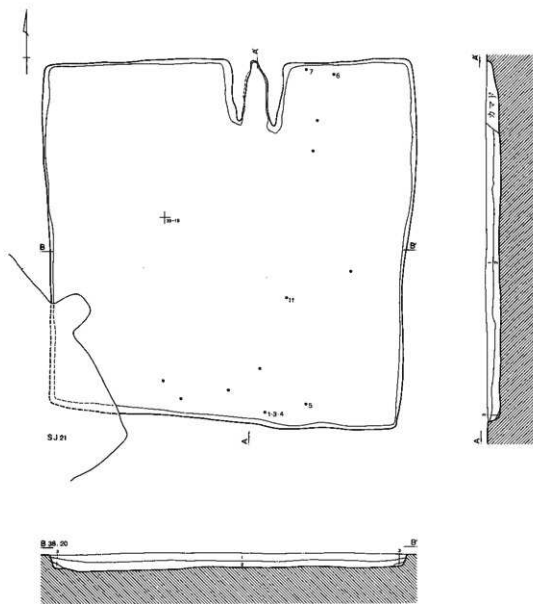


第97図 第28号住居跡出土遺物(2)

第28号住居跡出土遺物(2)

No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
5	坏	I (15.8) V3.8	にぶい赤褐	R微	30%		
6	坏	I (16.0) IV3.6	橙	W微	50%	内面に暗文を施す	No36・38
7	壺	I 20.0 V8.3	橙	W・B少	60%		No4・5・7
8	壺	I 20.2 V10.2	橙	B・R多	60%		No43・46他
9	壺	I (18.5) V7.6	橙	W少	20%		No28
10	甕	I 18.0 II20.0 V14.8	にぶい橙	W・R多	60%		No47~49
11	壺	II20.4 V12.5	橙	W・R多	80%		No56
12	壺	II (32.5) V12.9	にぶい橙	W少	30%	内面ナデ調整がかなり雑	No22・30他
13	壺	III6.5 V12.4	橙	W多	90%	木炭痕?	No55
14	甕	I 25.0 III7.8 IV31.6	にぶい橙	R多	50%	輪襖痕明瞭	No26
15	高坏	I (16.6) V4.6	橙	W微	30%		No34

第29号住居跡 (第98・99図)



S J 29

1. 灰黄褐色土 白色微粒子(多) 含む
2. 暗灰黄褐色土
3. 暗茶褐色土 砂質

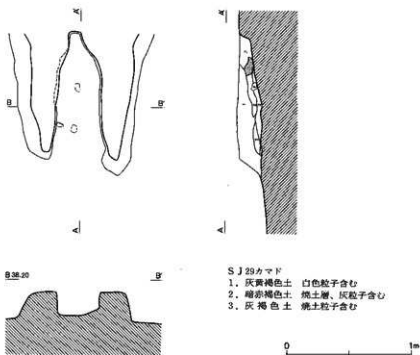
0 2m

第98图 第29号住居跡(1)

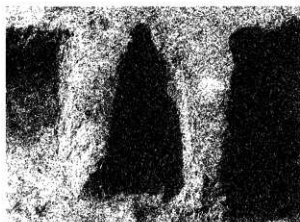
39-14グリッドに位置し、第21号住居跡に切られる。長軸6.0m・短軸5.9mで北半がわずかに膨らむ。深さは20~27cmを測り、主軸方位はN-0°である。壁はやや開き気味に立ち上がり、床面は中央付近が若干高くなる。

カマドは、北壁中央に構築されている。袖が長く伸び、煙道端が細くなる。燃焼部の掘り込みはない。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。

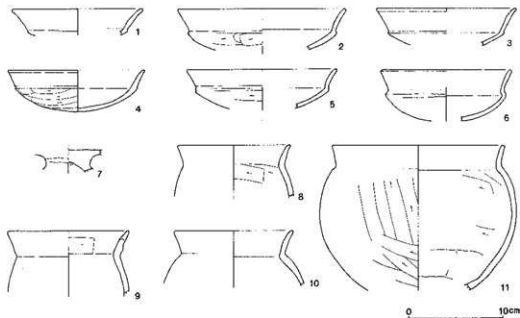
遺物は、土師器・瓦等が出土している。



第99図 第29号住居跡(2)



第29号住居跡カマド



第100図 第29号住居跡出土遺物

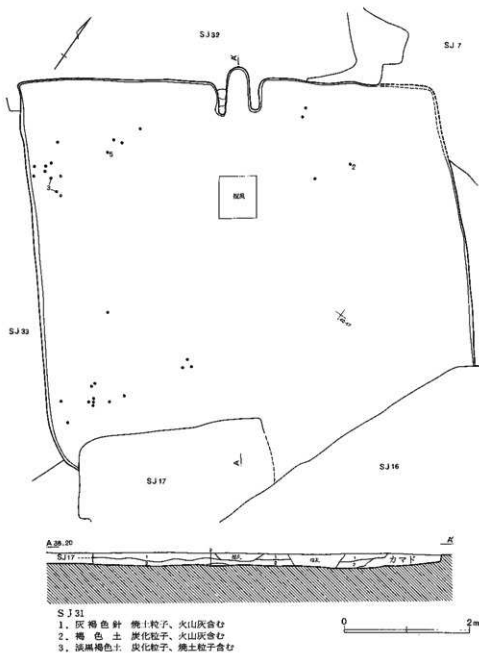
第29号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (14.0) V2.8	橙	W極微	20%	底部外面に黒斑有り	No 5
2	坏	I (18.0) V4.3	橙	W極微	20%		
3	坏	I (14.9) V4.0	明赤褐	B少	20%	全体に風化著しい	No 5
4	坏	I14.4 IV4.4	橙	B少	90%	やや風化	No 5
5	坏	I (16.0) V4.1	橙	R少	20%	底部外面に黒斑有り	No 6
6	坏	I (13.5) IV(5.4)	橙	W極微	40%		No12
7	高坏	V1.6	にぶい橙	W少	10%		
8	甕	I (12.0) V5.3	灰褐	W少	10%		
9	甕	I (13.0) V6.4	浅黄橙	R微	20%	内面の調整は不明瞭	
10	甕	I (12.6) V5.6	橙	W・R多	20%	外面の調整は不明瞭	
11	甕	I (18.4) V15.3	橙	W少	30%	胴部外面に黒斑有り	No 7

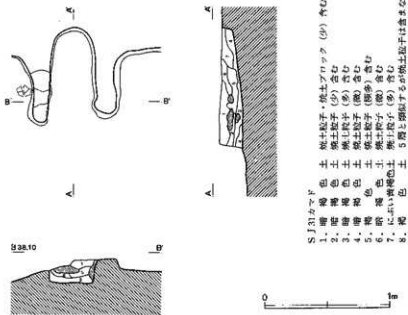
第31号住居跡 (第101・102図)

39—17グリッドに位置する。第7・32・33号住居跡を切り、第16・17号住居跡に切られる。規模は、東西6.9m、南北は6.5m程度と思われる。深さは18~23cm、主軸方位はN—40°—Wである。床面は凹凸がある。

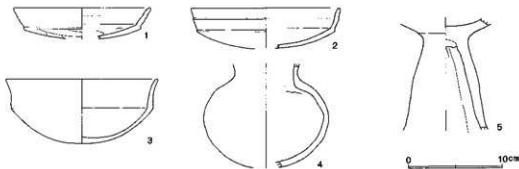
カマドは、北壁中央に構築されている。右袖の内側は焼土化しており、覆土には焼土をブロック状に含む。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。



第101図 第31号住居跡1)



第102図 第31号住居跡(2)

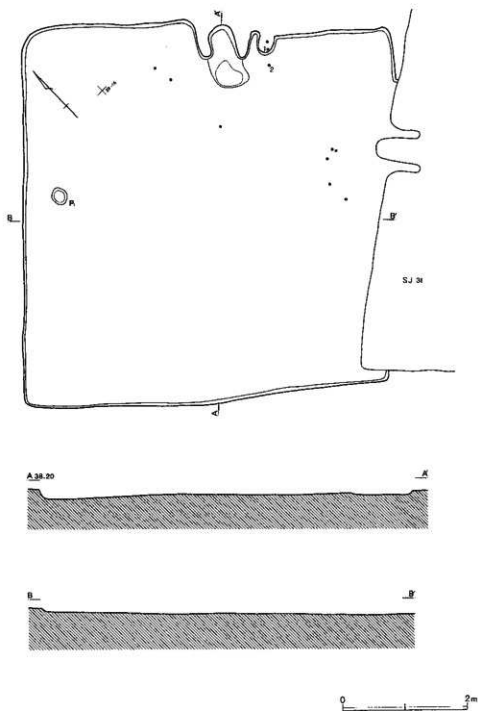


第103図 第31号住居跡出土遺物

第31号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (15.8) IV (4.3)	橙	R少	30%		
2	坏	I (14.6) IV (3.3)	橙	R少	30%		No18
3	坏	116.0 IV6.8	橙	W散	60%		No 2・3
4	壺	II13.3 V11.0	におい橙	W多	50%		
5	高坏	IV11.6	橙	R多	50%		No10

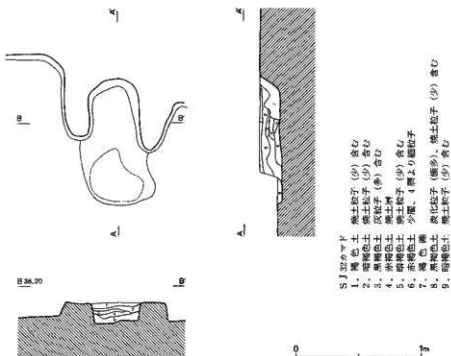
第32号住居跡 (第104・105図)



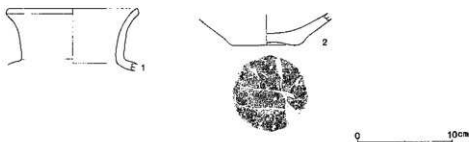
第104図 第32号住居跡(1)

38—16グリッドに位置し、第31号住居跡に切られる。規模は、長軸6.1m・短軸5.9m、深さ5~16cmを測り、主軸方位はN—43°—Eである。床面はほぼ平坦である。

カマドは北壁中央に構築され、先端を西に振る。燃焼部はその手前から約10cm掘り込まれ、右袖に隣接して丸く袖状に突出する部分がある。貯蔵穴は検出されておらず、ピット1は深さ4cmと極めて浅い。遺物は、いずれも破片である。



第105図 第32号住居跡(2)



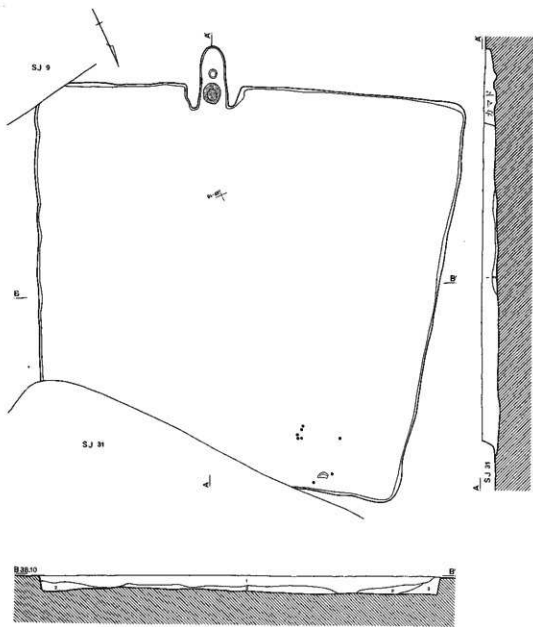
第106図 第32号住居跡出土遺物

第32号住居跡出土遺物

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	壺	I (13.6) V 6.5	にぶい黄橙	W・B多	40%		No 5
2	甕	III 7.0 V 3.3	にぶい褐	W・B多	80%	木葉痕	No 6



第33号住居跡 (第107・108図)



S J 33

1. 暗褐色土 礫、焼土粒子・炭化粒子・火山灰(少)含む

2. 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子含む

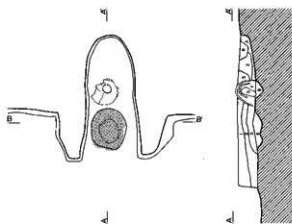
3. 黒褐色土 火山灰(多)、焼土粒子(少)含む



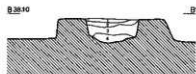
第107図 第33号住居跡(1)

39—17グリッドに位置し、第9・31号住居跡に切られる。長軸6.9m・短軸6.4mでわずかに扇状にひろく。深さは16~27cm、主軸方位はS—23°—Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は起伏がある。

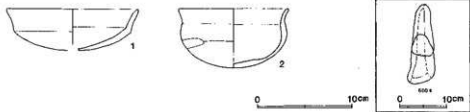
カマドは南壁に構築されている。燃焼部は10cmほど掘り下げられ灰土が充填し、その奥に河原石が立てられ、上に土器が被せた状態で出土している。



- SJ33カマド
1. 褐色土
  2. 焼成灰土
  3. 砂質灰土
  4. 粘質灰土
  5. 黄褐色土
  6. 暗褐色土
  7. 黒褐色土
  8. 黒褐色土
- 灰土胎子・火山灰(少)含む  
 焼土胎子(少)含む  
 焼土胎子(多)炭化粒子(少)含む  
 焼土胎子(少)含む  
 焼土胎子(多)含む  
 焼土胎子(少)含む、しまり貝  
 焼土胎子(多)含む、しまり貝



第108図 第33号住居跡(2)



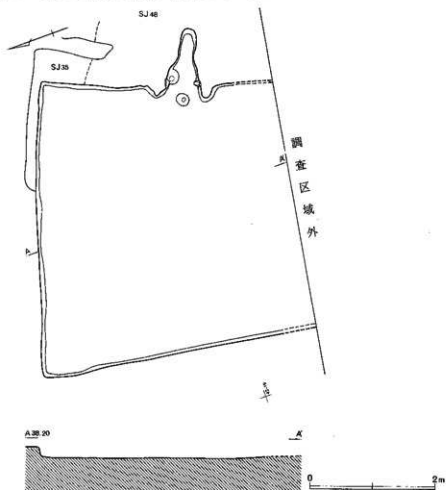
第109図 第33号住居跡出土遺物

第33号住居跡出土遺物

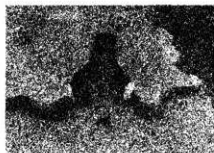
No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	坏	I 14.0 IV(4.5)	にぶい橙	W微	50%		
2	碗	I 11.7 II 11.3 IV 6.2	橙	R少	50%		

### 第34号住居跡 (第110・111図)

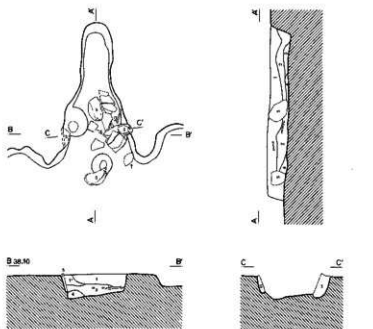
42—18グリッドに位置し、第2・35・48号住居跡を切る。南辺は調査区域外にあり、北辺は4.7mを測る。深さ17cm、主軸方位はN—72°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。カマドは東壁に構築され、燃焼部には小ピットがある。両袖の内側は河原石と板状の石で補強されており、カマド内でも数個の河原石が検出されている。



第110図 第34号住居跡(1)



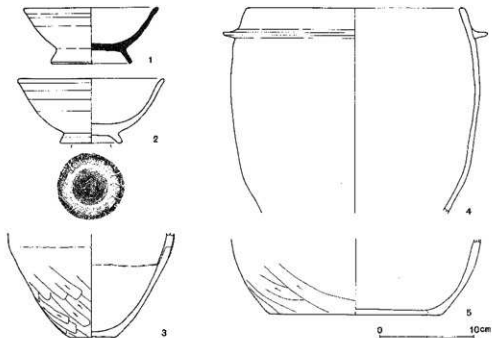
第34号住居跡カマド



S J34カマド

1. 暗褐色土 炭土粒子(多)含む
- 1' 暗褐色土 1層に似るが焼土ブロック(多)含む
2. 黒褐色土 灰屑、焼土粒子・炭化粒子(多)含む
3. 暗褐色土 焼土粒子(少)含む
4. 褐色土 焼土粒子(微)含む、やや砂質

第111図 第34号住居跡(2)



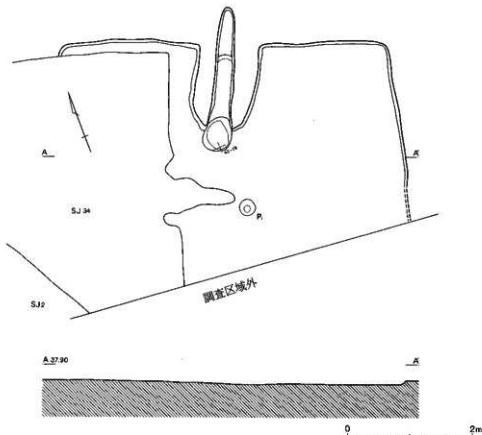
第112図 第34号住居跡出土遺物

### 第34号住居跡出土遺物

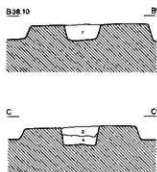
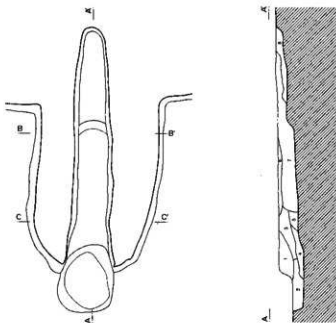
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	高台坏	I 14.1 VII 8.3 IV 5.9	にぶい褐	W・B多	70%	風化の為かザラザラ 口縁部やや歪む	No 2
2	高台坏	I (15.5) VI (6.6) IV 6.8	にぶい橙	B少	40%	カマド、底部内面ヘラナゲ 糸切り離し後貼り付け高台	No 12
3	甕	III 4.8 V 11.0	にぶい橙	W・B多	70%	割れ口端は内外共に割落	
4	羽釜	I (23.2) IV 21.7	暗赤褐	W・B多、やや粗	40%	全体に風化著しい	No 4・5 他
5	羽釜	III (12.4) V 8.0	橙	W・R多、粗	60%	全体に風化著しい	No 7

### 第35号住居跡 (第113・114図)

43—19グリッドに位置する。第48号住居跡を切り、第2・34号住居跡に切られる。南半は調査区域外にあり、北辺は5.1mを測る。深さ10cm、主軸方位はN—20°—Eである。第34号住居跡の床面との比高差はほとんどない。カマドは北壁中央に構築され、袖、煙道共に長い。燃焼部は20cmほど掘り込まれている。出土遺物は、極めて少量である。



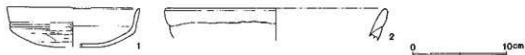
第113図 第35号住居跡(1)



- S J 35カマド
1. 暗褐色土 焼土粒子 (少) 含む
  2. 暗褐色土 焼土粒子 (多) 含む
  3. 暗褐色土
  4. 黒褐色土 焼土粒子 (多) 含む
  5. 黒褐色土 焼土粒子 (多) 含む
  6. 黒褐色土 焼土粒子 (少) 含む
  7. 暗褐色土 焼土粒子 (微) 含む、漏れ入
  8. 黒褐色土 焼土粒子 (微) 含む

0 1m

第114図 第35号住居跡(2)



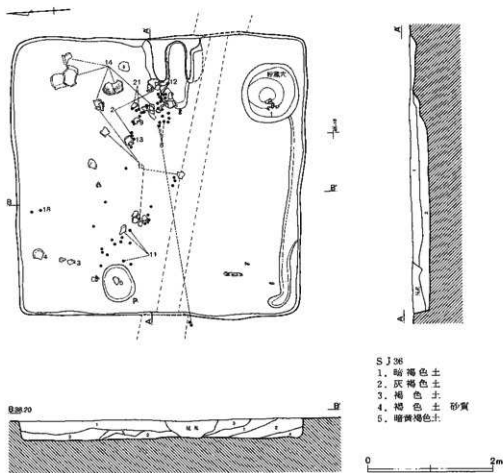
第115図 第35号住居跡出土遺物

第35号住居跡出土遺物

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	坏	I (14.1) IV (4.2)	におい橙	W・B少	40%	カマド、全体に風化著しい	
2	碗	I 23.4 V 3.4	暗赤褐	B	40%		

第36号住居跡 (第116・117図)

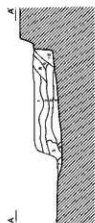
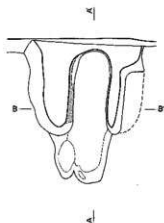
44-17グリッドに位置し、溝状の攪乱に切られる。規模は、長軸4.7m・短軸4.5m、深さ28~32cmを測る。主軸方位はS-87-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝が貯蔵穴から南壁にかけて検出されている。カマドは東壁中央に構築され、右袖の一部を攪乱によって壊される。貯蔵穴は南東コーナー付近にあり、109×94cmの円形で、深さは41cmを測る。



第116図 第36号住居跡(1)

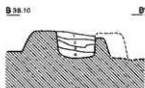
第36号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 14.1 IV 4.0	橙	R微	90%		No100他
2	坏	I 15.4 IV 4.2	にぶい橙	R少	50%		No35-55他
3	坏	I (14.7) IV 4.0	橙	W微	30%	口縁部内外面が黒色を呈する	No57



S J 36のマド

1. 暗褐色土 焼土粒子(微)含む
2. 暗褐色土 焼土粒子・黒褐色粒子(少)含む
3. 黒褐色土 焼土粒子(少)含む
4. 黒褐色土 灰層
5. 黒褐色土 焼土粒子(極多)含む
6. 暗褐色土 焼土粒子(微)含む
7. 褐色土 焼土粒子(少)含む
8. 暗褐色土 焼土粒子(多)含む
9. 暗褐色土 焼土粒子・黒褐色土(微)含む
10. 黒褐色土 焼土粒子(微)含む

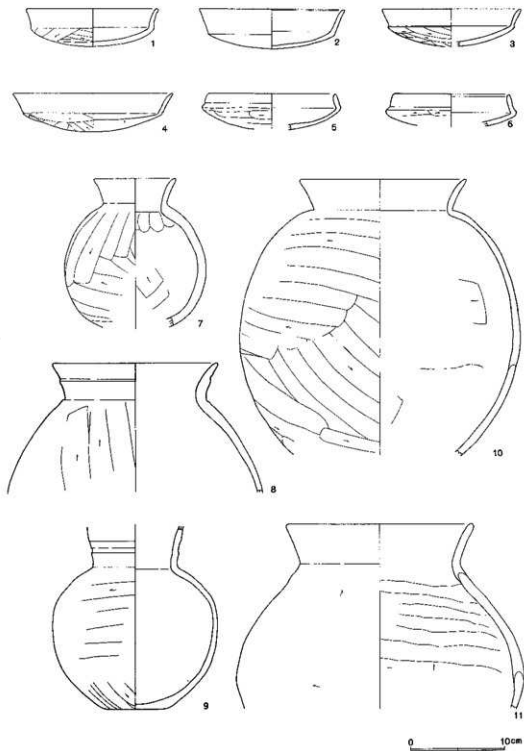


第117図 第36号住居跡2)

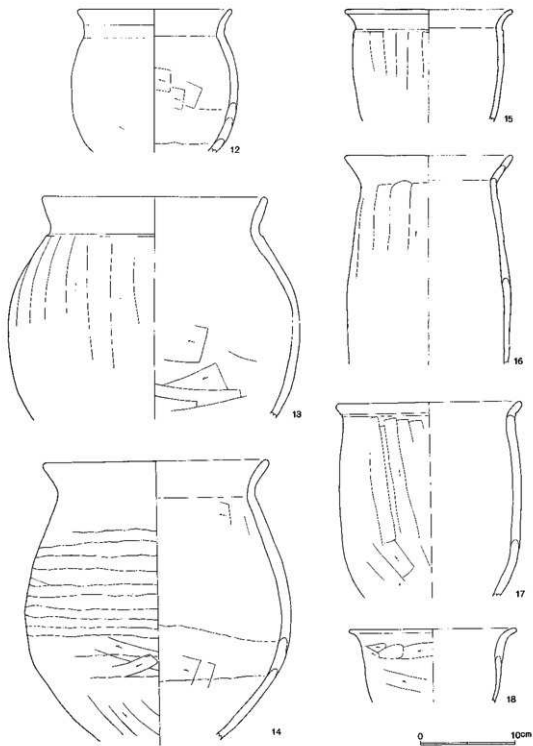
第36号住居跡出土遺物2)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
4	坏	I 27.0 IV 4.0	橙	R少	70%		No65
5	坏	I (13.4) IV (3.8)	橙	W極微	40%		No69
6	坏	I (12.2) IV (3.5)	にょい橙	R少	30%		
7	壺	I 8.8 II 15.0 V 15.7	明赤褐	極少	40%		
8	壺	I (17.6) II (27.3) V 13.7	橙	W・R微	40%		No49~51他
9	壺	II 17.5 III 6.5 V 19.5	橙	W少	50%	底部外面に黒斑有り	No 9
10	壺	I (17.6) II (30.0) V 29.0	にょい橙	W少	40%		
11	壺	I (20.0) II (30.6) V 19.3	橙	W多	30%		No74~80他

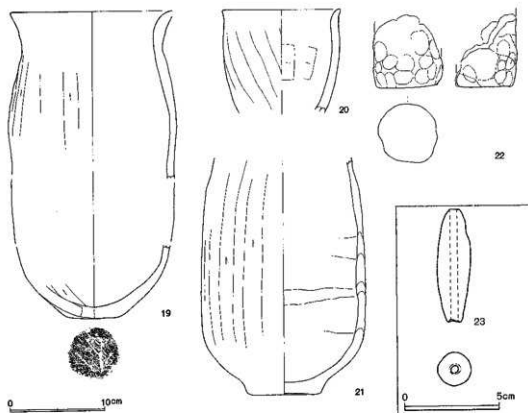




第118図 第36号住居跡出土遺物(1)



第119図 第36号住居跡出土遺物(2)



第120図 第36号住居跡出土遺物(3)

第36号住居跡出土遺物(3)

№	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記№
12	甕	I 16.0 II 17.8 V 15.2	にぶい黄橙	W・B・R多	80%	体部外面に黒斑有り	№30・32他
13	甕	I 24.0 II 31.0 V 23.4	明赤褐	W多	70%		№57
14	甕	I 24.0 II 28.2 V 29.4	灰白	W少	80%	貯藏穴一括、輪轆痕明瞭 胴部中位外面に煤付着	№1～3・5他
15	甕	I 17.8 II 16.0 V 12.0	橙	W多	60%		№5・7他
16	甕	I 17.8 II 17.4 V 22.3	橙	W(2～3mm)多	60%		
17	甕	I (19.6) II (19.3) V 20.6	浅黄橙	W多	10%		

第36号住居跡出土遺物(4)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
18	甕	I (18.0) V7.9	橙	W微	30%		No64
19	甕	I 17.4 II18.0 III5.4 IV(32.5)	灰褐	W(2~3mm)多	60%	本葉痕	No31・39他
20	甕	I 12.5 II12.4 V11.0	浅黄橙	W多	80%		
21	甕	II17.5 III7.8 V25.0	橙	W・B少	60%		No 8・12他
22	支脚	下部径6.0 V7.6	にぶい黄橙	W微	50%		
23	土鍾	長5.9 径1.8	淡黄	W多		17.61g	

第37号住居跡 (第122図)

43-17グリッドに位置する。規模は、長軸4.2m・短軸4.0mで東西にわずかに長い。深さは14~19cm、主軸方位はN-65°-Wである。壁はやや開き気味に立ち上がり、床面は東壁際が若干下がる。

カマドは西壁中央より北側に構築され、燃焼部の掘り込みはない。貯蔵穴、柱穴等は検出されていない。

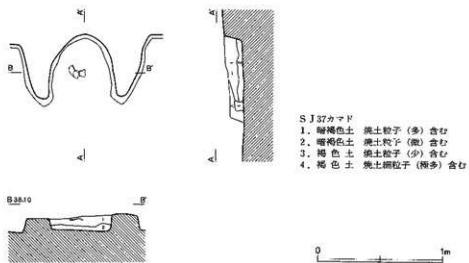
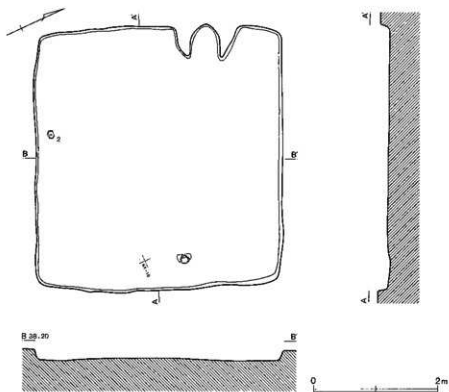
出土遺物は、ごく少量である。



第121図 第37号住居跡出土遺物

第37号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 11.7 IV4.0	橙	W極微	70%	カマド	
2	瓶	III7.2VII2.4V2.4	黒褐	W微	80%	底部外面に煤付着	No 1
3	甕	I 12.4 II14.4 III6.0 IV14.0	淡橙	W(2~3mm)多	95%		



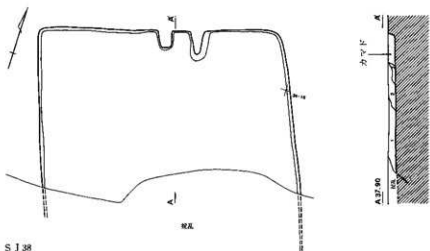
第122図 第37号住居跡

第38号住居跡 (第123図)

33-16グリッドに位置し、南半を擾乱によって壊される。規模は、北辺で4.0m、深さ17cmを測る。主軸方位はN-22°-Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

カマドは北壁に構築されているが遺存状態は悪い。貯蔵穴、柱穴等は検出されていない。

遺物は、土師器環・壺が出土しているが、いずれも破片である。



S J 38

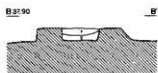
1. 暗褐色土 焼土粒子、炭化粒子 (多)、火山灰含む
2. 暗褐色土 焼土粒子、火山灰 (少) 含む
3. 暗褐色土 焼土粒子、火山灰 (多) 含む

0 2m



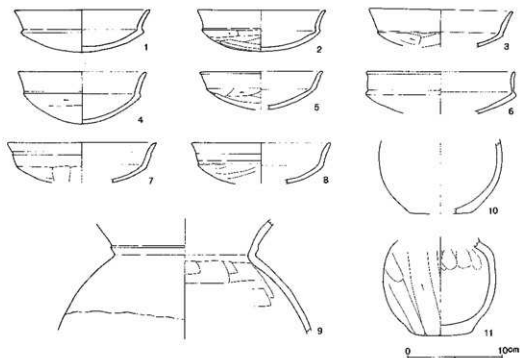
S J 38カマド

1. 暗褐色土 焼土粒子・黄褐色粒子 (少) 含む
2. 黄褐色土 焼土粒子 (微) 含む
3. 褐色土 焼土粒子 (微) 含む
4. 褐色土 焼土粒子 (少) 含む
5. 黒褐色土 焼土粒子 (多)、炭化粒子 (少) 含む



0 1m

第123図 第38号住居跡



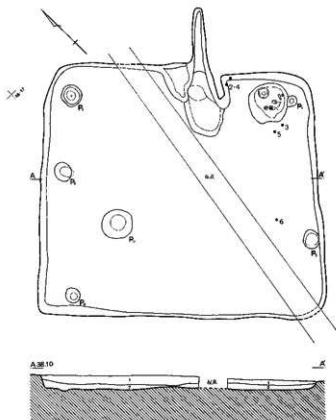
第124图 第38号住居跡出土遺物

第38号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (14.4) IV4.4	橙	R少	30%		
2	坏	I (13.5) IV4.3	橙	W極微	20%		
3	坏	I (15.2) IV(4.0)	橙	W微	10%		
4	坏	I (13.7) IV5.5	橙	R微	30%		
5	坏	I (13.0) IV(4.0)	橙	R少	30%		
6	坏	I (15.6) IV(4.6)	橙	W極微	30%		
7	坏	I (15.8) IV(4.3)	黒褐	W微	10%		
8	坏	I (14.7) IV(4.4)	橙	W極微	40%		
9	壺	V12.0	橙	W・R少	50%		
10	壺	II13.0 III6.7 V7.6	浅黄橙	R微	40%		
11	壺	II12.0 III6.5	浅黄橙	W・B少	80%		No 3・16

第39号住居跡 (第125・127図)

48-17グリッドに位置し、溝状の擾乱に切られる。長軸4.6m・短軸4.0mで東西にやや長い。深さは18~22cm、主軸方位はN-45°-Eである。壁はやや開き気味に立ち上がり、床面は明確で、起伏がある。



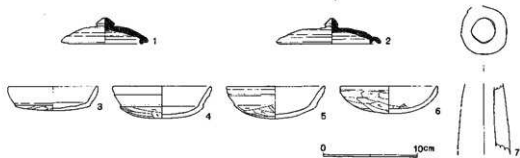
S J 39

1. 褐色土 白色粒子 (微)、しまり良

2. 褐色土 炭化粒子、焼土粒子 (少)、地山の土含む、やや粘質



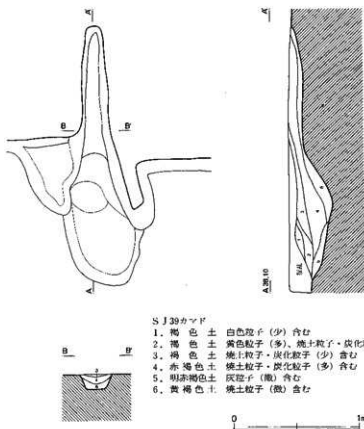
第125図 第39号住居跡(1)



第126図 第39号住居跡出土遺物



カマドは北壁に構築され、煙道が長く延びる。貯蔵穴は北東コーナー付近に検出され、67×65cmの不正円形で深さは17cmを測る。ピットは6基検出され（P1～6）、深さはそれぞれ7.5cm、16cm、23cm、16cm、15cm、16cmで、P3以外は柱穴の可能性はある。



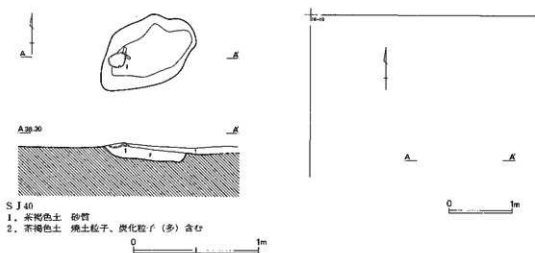
第127図 第39号住居跡(2)

第39号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	蓋	19.2 IV2.8	灰白	W少	100%	攪乱、内面が生焼け	
2	蓋	111.0 IV2.7	黄灰	W微	100%	ロクロ右回転	No 4
3	坏	19.6 IV2.6	灰褐	W多	100%		No 2
4	坏	110.5 IV3.4	橙	R多	100%	内外面一部に煤付着	No 4
5	坏	110.5 IV3.4	浅黄橙	R少	100%	外面に黒斑有り	No 3
6	坏	110.3 IV2.9	橙	R少	100%		No 1
7	支脚	V7.5	にぶい黄橙	W少	80%		No 7

### 第40号住居跡 (第128図)

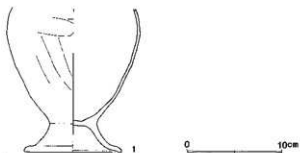
18—10グリッドに位置する。当初は、掘り込みの浅い住居跡のカマドの痕跡かと思われたが、周辺にそれらしいものはなく、決め手に欠ける。長軸86cm・短軸54cm、深さ12cmである。



S J 40

1. 茶褐色土 砂質
2. 茶褐色土 焼土粒子、炭化粒子 (多) 含む

第128図 第40号住居跡



第129図 第40号住居跡出土遺物

### 第40号住居跡出土遺物

No.	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No.
1	台付碗	II (14.0) III 10.3 V 15.2	明赤褐	W微	60%	胴部外面に煤付着	No. 1



発掘作業風景

第41号住居跡 (第130・131図)



S J 41

1. 暗褐色土 礫、炭化粒子、火山灰 (少) 含む、しまり良
2. 暗褐色土 礫、褐色粒子、炭化粒子 (多) 含む、しまり良
3. 褐色土 礫、焼土粒子、炭化粒子、火山灰 (少) 含む
4. 褐色土 礫、炭化粒子 (少) 含む、わずかに粘性あり、しまり良

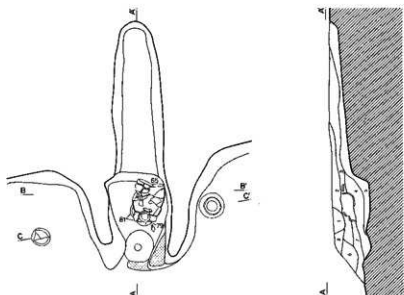
0 2m

第130図 第41号住居跡(1)

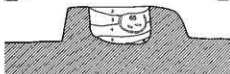
46—17グリッドに位置し、第42・43号住居跡を切る。規模は、長軸7.5m・短軸7.2m、深さ15～22cmを測る。主軸方位はN—68°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

カマドは、東壁中央よりやや右側に構築されている。燃焼部は10cmほど掘り込まれ、段を持って煙道部へと続く。貯蔵穴は南東コーナー付近で検出され、112×90cmの隅丸長方形で深さは約50cmを測る。ピットは13基検出され、P1・2・6・8は柱穴と思われ、深さはそれぞれ18cm、7cm、5cm、13cmである。P4・5は西壁の中央部に壁と平行してあり、入口施設との関連が考えられる。深さは6cmと3cmである。

遺物は、極めて多量に出土し、カマド内からは高坏が倒位で出土している。



B 20.00



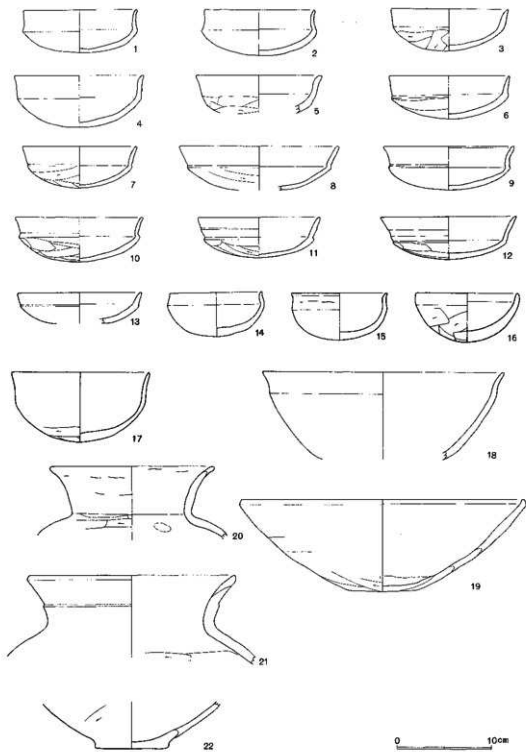
S J 41カマド

1. オリーブ褐色土 白色微粒子含む
2. オリーブ褐色土 炭土粒子 (少) 含む
3. 褐色土 炭土粒子・炭化粒子 (多) 含む
4. 暗褐色土 炭土粒子・炭化粒子 (少) 含む
5. オリーブ褐色土 炭土粒子・炭化粒子 (微) 含む
6. オリーブ褐色土 炭土粒子 (微) 含む、粘土質
7. 明褐色土 炭土ブロック (多) 含む



0 1m

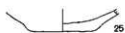
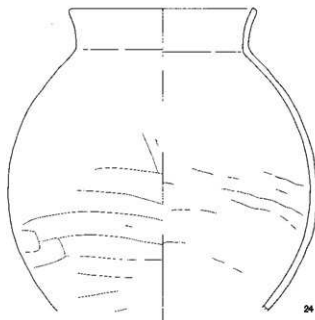
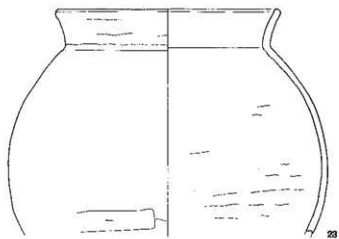
第131図 第41号住居跡(2)



第132图 第41号住居跡出土遺物(1)

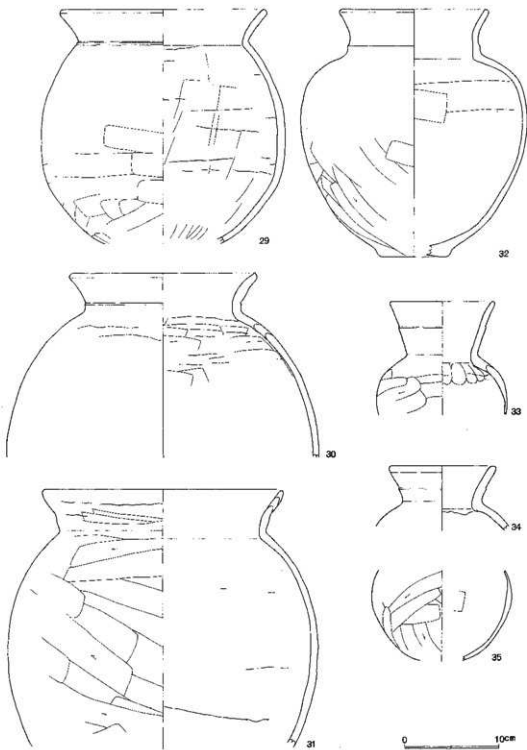
第41号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 12.0 IV4.5	橙	R微	95%		No12
2	坏	I 11.6 IV4.8	橙	W極微	90%		No289
3	坏	I 12.2 IV4.4	橙	R微	70%		No54
4	坏	I (13.6) IV5.5	橙	R微	40%		No278
5	坏	I (13.2) IV(4.2)	におい褐	W微	30%		
6	坏	I 12.6 IV4.5	橙	W極微	90%		No31・34他
7	坏	I (12.0) IV4.4	橙	R少	20%		
8	坏	I (16.5) IV(4.7)	橙	R微	40%	坏部内面に僅かに赤彩痕有り	
9	坏	I 13.7 IV4.6	明赤褐	R少	80%		No16
10	坏	I 13.6 IV4.8	橙	R少	70%		No47-49
11	坏	I 12.8 IV4.3	におい橙	W微	30%		No27
12	坏	I (14.4) IV4.5	橙	R微	60%		No91
13	坏	I (13.0) IV(3.3)	明赤褐	R少	30%		
14	椀	I (9.8) IV4.6	におい黄橙	W多	70%		
15	椀	I (10.2) IV5.0	橙	W多	30%		No245
16	椀	I (10.6) IV5.2	明赤褐	R少	30%	内面が黒変している	No17
17	椀	I (14.6) IV7.4	赤褐	R多	30%		
18	鉢	I (25.6) IV(9.5)	におい黄橙	W少	30%		No293
19	鉢	I (30.3) III(7.4) IV9.7	橙	W少	30%		No50・51
20	壺	I (17.0) V7.4	橙	W微	40%	内面が黒変している	
21	壺	I 21.6 V8.8	におい橙	W・R少	80%		No11・35他
22	壺	III7.8 V4.7	橙	W・R少	90%		



0 10cm

第133図 第41号住居跡出土遺物(2)

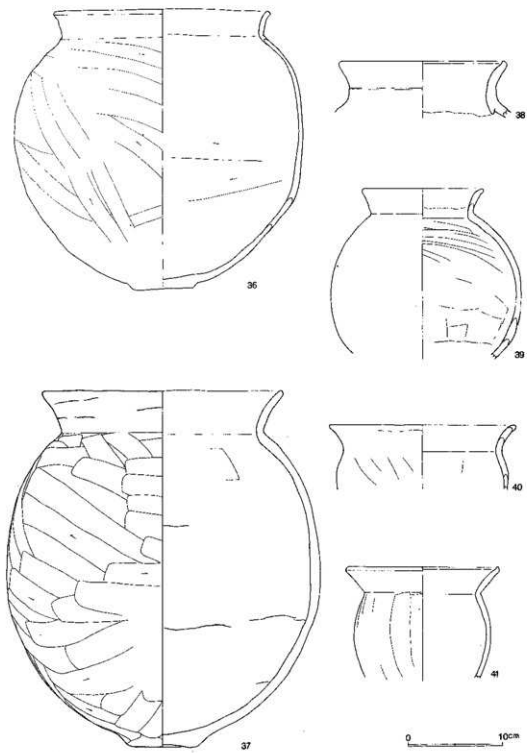


第134图 第41号住居跡出土遺物(3)

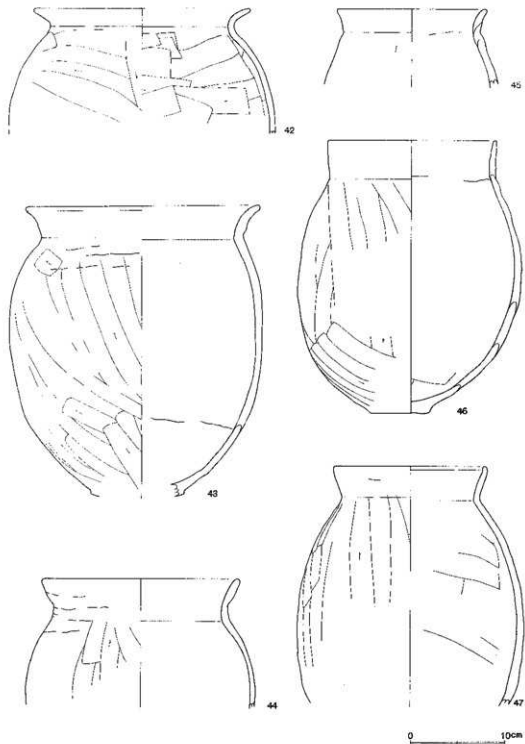


## 第41号住居跡出土遺物②

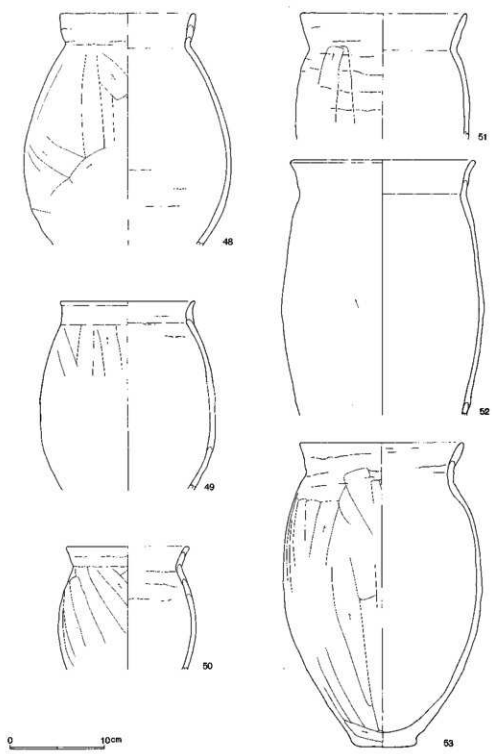
No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
23	壺	I 23.0 II (34.0) V23.8	橙	B・R少	40%		No97-101 131-134
24	壺	I (19.3) II (32.8) V31.9	褐灰	B・R少	20%		No129 135・138
25	壺	III7.0 V2.0	橙	B・R多	80%	外面に黒斑有り	
26	壺	III7.5 V2.7	橙	B微	80%		No61
27	壺	III8.2 V2.5	にぶい橙	B微	80%		
28	壺	III7.4 V3.6	淡黄	B少	10%		
29	壺	I 21.5 II25.9 V24.9	にぶい橙	W極微	70%		No229～ 231
30	壺	I (19.4) II33.0 V19.5	にぶい橙	W少	70%		No252 254・299
31	壺	I (25.2) II (41.8) V18.3	橙	W微	30%		
32	壺	I 15.8 II24.0 III(7.4)IV(26.2)	にぶい橙	W少	10%		No206 207他
33	罎	I 10.6 II13.8 V12.0	橙	R少	50%		No244
34	罎	I 11.4 V6.4	橙	W微	80%		No227
35	罎	II (14.8) V9.8	浅黄橙	R少	40%		No244
36	甕	I 22.5 II30.5 III6.5 IV29.5	にぶい褐	W微	95%	胴部内面全体が黒変している	No129
37	甕	I 25.4 II33.3 III7.2 IV37.6	にぶい橙	W・R少	40%		No236 242
38	甕	I (17.2) V5.5	橙	W・R微	20%	胴部内面の輪積痕が明瞭	No175他
39	甕	I 12.5 II20.2 V18.0	淡橙	W・B少	80%	内面全体が黒変している	
40	甕	I (20.6) V6.8	橙	W微	10%	胴部外面が黒変している	



第135图 第41号住居跡出土遺物(4)



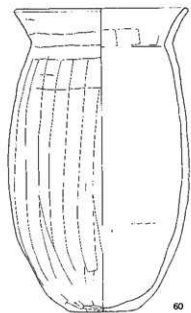
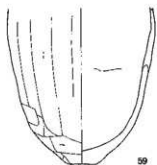
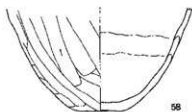
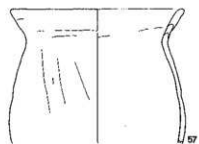
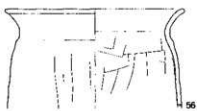
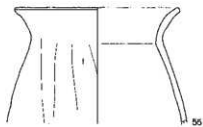
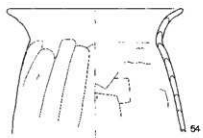
第136図 第41号住居跡出土遺物(5)



第137图 第41号住居跡出土遺物(6)

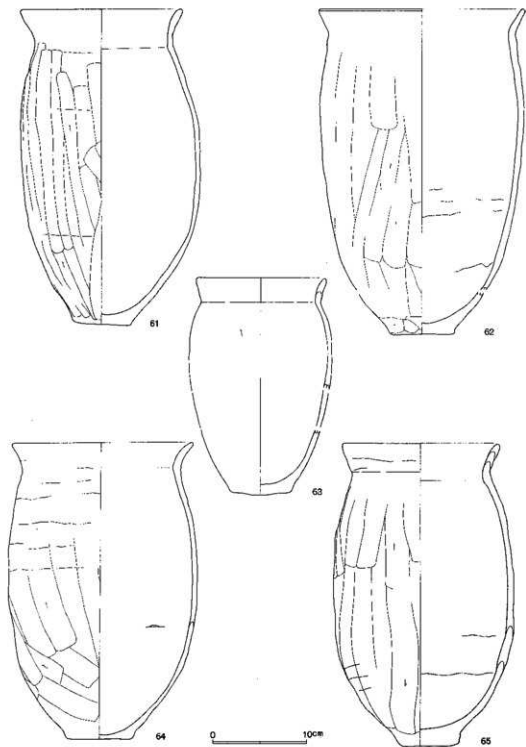
## 第41号住居跡出土遺物③

No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
41	甕	I (15.8) II(14.4) V11.7	橙	W・B・R少	30%		No73
42	甕	I (22.6) II(28.2) V13.2	橙	W微	40%	内面全体が黒変している	No194 207他
43	甕	I 24.6 II26.8 III(10.0) IV31.0	にぶい橙	W多	80%	胴部内面に煤が付着	No129 148
44	甕	I 20.6 II(24.4) V13.5	橙	B・R多	60%		No 2
45	甕	I (15.8) V8.0	橙	B微	10%		
46	甕	I 17.7 II23.6 III6.3 IV28.9	橙	W微	70%		No146 208・236
47	甕	I 16.0 II24.1 V25.5	橙	W微	60%		No111 131他
48	甕	I 14.0 II22.0 V24.5	橙	W・R少	40%	胴部外面に黒斑有り	No19 32・62
49	甕	I 14.2 II(18.6) V20.0	橙	R微	30%		No40・41 59-60
50	甕	I 13.0 II14.5 V13.0	橙	W・B・R少	80%		No91 285・294
51	甕	I 17.4 II(18.4) V13.2	橙	W・B・R少	40%	外面の輪稜痕が明瞭	No23
52	甕	I 19.2 II21.5 V27.0	にぶい橙	B・R少	60%		No16
53	甕	I 17.2 II21.1 III6.8 IV32.2	橙	W少	80%		No94-107 110他
54	甕	I 18.5 II18.3 V13.0	にぶい橘	W少	80%		No298
55	甕	I (17.0) V12.2	にぶい赤橘	W・B多	20%		No48
56	甕	I (18.6) II(18.4) V10.5	明黄橙	W・B少	30%		No150～ 152



0 10cm

第138图 第41号住居跡出土遺物(7)

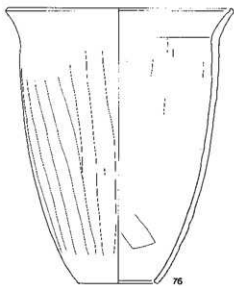
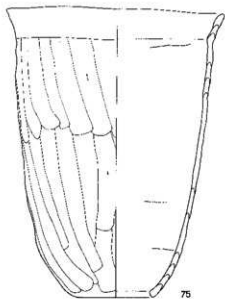
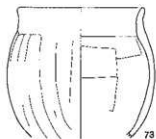
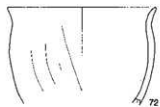
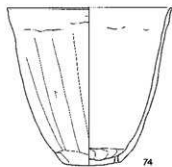
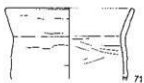
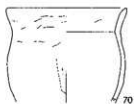


第139图 第41号住居跡出土遺物(8)

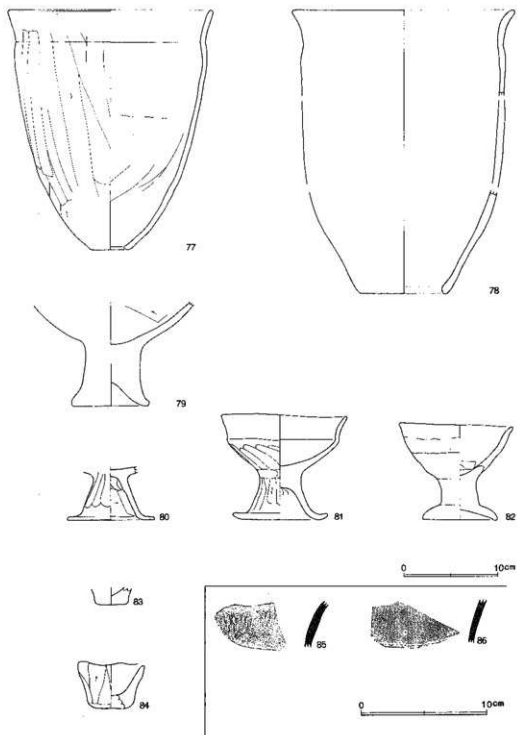
## 第41号住居跡出土遺物(4)

No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
57	甕	I 18.4 II 18.6 V 14.2	橙	B・R少	70%		No.272 290
58	甕	III 5.0 V 10.9	橙	W・R多	70%		No.290
59	甕	II (15.7) III 3.0 V 16.5	灰黄褐	W・R少	50%	胴部下位～底部に煤付着	No.122 167
60	甕	I 17.8 II 19.0 III 7.5 IV 31.8	にぶい橙	W・B・R多	90%		No.297
61	甕	I 17.2 II 19.0 III 6.1 IV 33.2	にぶい橙	W・R多	80%		No.290 306
62	甕	I (21.4) II (21.6) III 6.8 IV (34.4)	にぶい黄橙	W・B多	50%		No.80
63	甕	I (13.5) II (15.2) IV (22.9) III 6.4	橙	W多	80%		No.108 290
64	甕	I 18.6 II 20.0 III 7.0 IV 31.3	橙	W少	80%		No.296
65	甕	I 16.5 II 19.2 III 6.2 IV 32.1	橙	W・B・R多	80%		No.90 277・287
66	甕	I (10.2) IV 4.3	橙	W微	20%		
67	甕	I (9.4) V 3.7	橙	W微	30%		
68	甕	I (9.2) V 2.9	橙	W微	20%		No.28
69	甕	I (11.6) V 5.6	橙	W多	10%		
70	甕	I (12.6) II (12.5) V 10.0	橙	W少	20%		No.37・38
71	甕	I (13.2) II (12.4) V 7.6	橙	R少	20%		
72	甕	I (15.8) II (15.4) V 10.2	にぶい赤褐	W微	20%		No.254 256・300

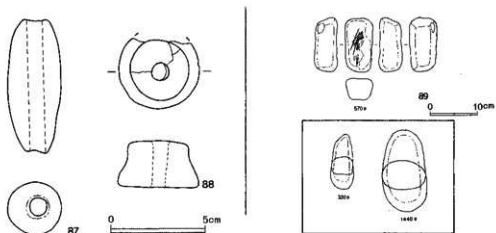




第140图 第41号住居跡出土遺物(9)



第141图 第41号住居跡出土遺物10



第142図 第41号住居跡出土遺物D

第41号住居跡出土遺物(5)

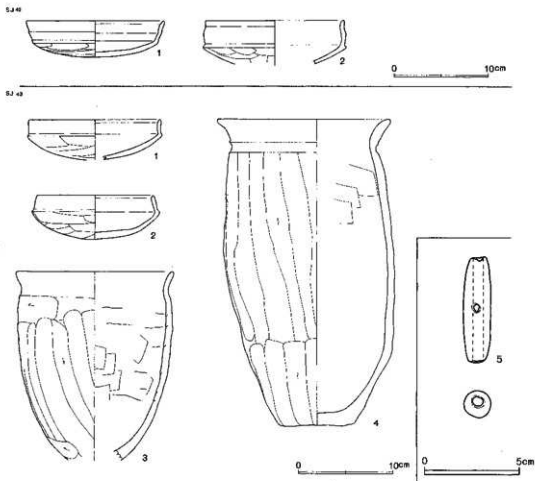
No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
73	壺	I 13.0 II (15.7) V 13.8	橙	R少	60%		
74	瓶	I 17.5 III 6.0 IV 16.7	にぶい橙	W・B・R少	95%		No.290 291
75	瓶	I 23.2 II 21.0 VB 8.1 IV 30.4	橙	W・B・R多	95%		No.311
76	瓶	I 23.8 II 21.2 VB 8.4 IV 29.2	にぶい橙	W・B・R少	70%		No.290 292他
77	瓶	I 21.4 II (20.4) VII (3.9) IV 25.4	にぶい橙	W極微	50%		No.117
78	瓶	I 23.6 II 21.7 VB 9.2 IV (30.0)	橙	R (2~3割)多	30%	胴部下位に煤付着部分有り	No.55
79	高坏	III 8.0 V 10.6	橙	W・B少	80%		No.309
80	高坏	III 9.4 V 5.4	にぶい橙	B・R少	70%		No.17
81	高坏	I 13.2 III 10.2 IV 11.0	橙	W微	90%		No.309 310
82	高坏	I (12.0) III 8.0 IV 10.0	明褐灰	W・B・R多	50%	仕上げが粗雑	No.295
83	ミニチュア	III 3.4 V 1.7	橙	W微	80%		

第41号住居跡出土遺物(6)

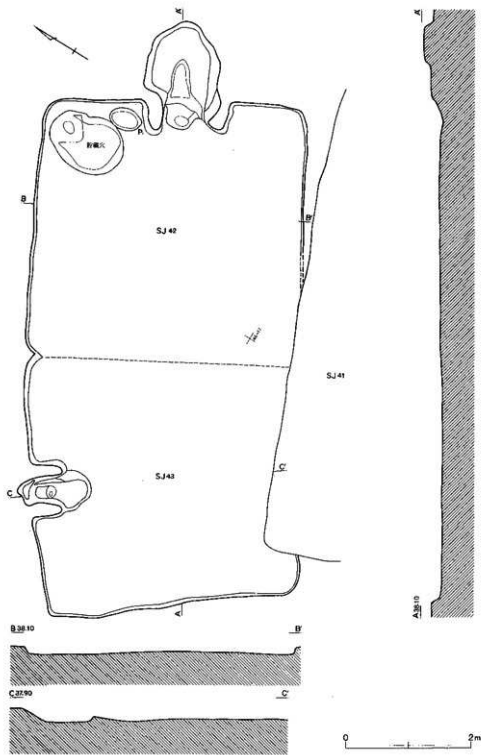
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
84	ミナチヤア	17.0 III(4.5) IV(4.6)	にぶい橙	W多	50%		No13
87	土鍾	長6.9 径2.9	橙	B・R多		51.27%	
88	紡錘車	長2.4 上径3.1 下径4.3	褐灰	W極微		39.05% 土裂、20%欠損	
89	磨り石	長11.4幅5.8厚4.9				570.00% 閃緑岩、上面に糸痕有り	

第42・43号住居跡 (第144・145図)

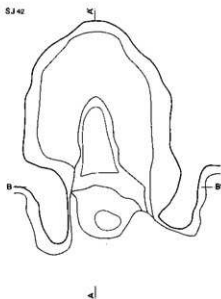
第42号住居跡は46—16グリッドに位置し、南北4.3m、深さ10cmを測る。主軸方位はN—63°—Eである。第43号住居跡は46—16グリッドに位置し、南北4.1m、深さ18cmを測る。主軸方位はN—38°—Wである。両住居跡は第41号住居跡に切られ、切り合い関係は不明である。



第143図 第42・43号住居跡出土遺物



第144図 第42・43号住居跡1)

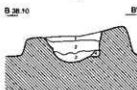
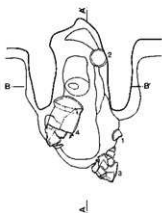


SJ42カマド

1. 褐色土 焼土粒子(多)含む
2. 暗褐色土 焼土粒子(多)含む
3. 暗褐色土 焼土粒子(多)含む
4. にぶい黄褐色土 焼土粒子(多)含む

0 1m

SJ43



SJ43カマド

1. 暗褐色土 焼土粒子(少)含む
2. 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子(少)含む
3. 黒褐色土 焼土粒子・炭化粒子(微)含む
4. 暗褐色土

0 1m

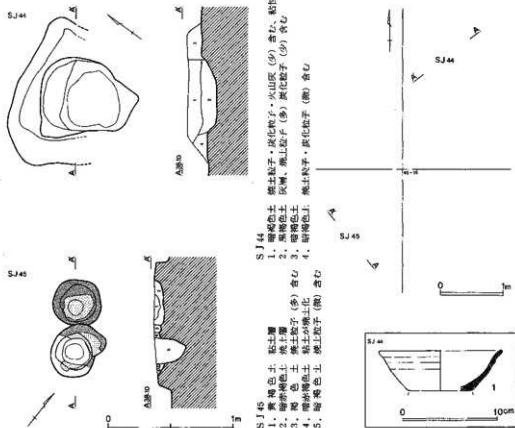
第42号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (14.6) IV3.8	にぶい橙	W極微	30%		
2	坏	I 14.8 IV(4.8)	橙	R少	30%		No43

第43号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (14.0) IV(4.2)	明赤褐	R微	30%		No 3
2	坏	I 12.4 IV4.6	にぶい橙	R少	100%		No 1
3	甕	I 16.8 II16.4 V20.0	橙	W・R少	80%		No 4
4	壺	I 18.4 II18.0 III8.0 IV32.3	橙	W・R微	95%		No 2
5	土鍔	長5.5 径1.5	橙	R少		10.96g 中央部に孔を持つ	

第44・45号住居跡 (第146図)

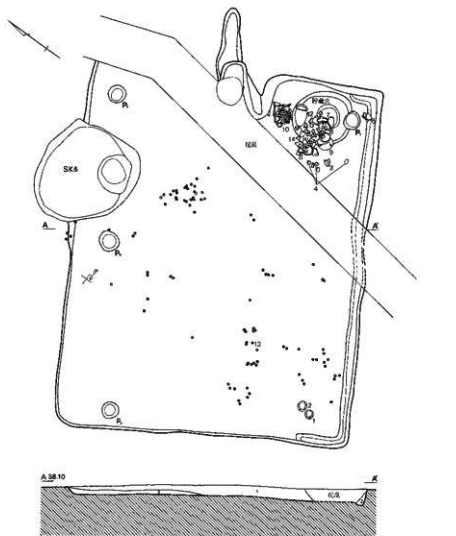


第146図 第44・45号住居跡

第44号住居跡は、45—15グリッドに位置する。当初は住居跡の一部と思われたが決め手に欠け、遺構の範囲も不明瞭である。遺物は、図示した須恵器坏だけであり、土師質で色調は灰赤を呈する。

第45号住居跡は、44—16グリッドに位置する。第44号住居跡と同様に住居跡の一部と思われたが小ピットを2基検出したのみである。北側のピットは中心近くに粘土層があり、その周囲を焼土が囲んでいる。南側のピットは北側のものを切るかたちでより深くなっている。

#### 第46号住居跡 (第147・148図)



S J 46

1. 黄褐色土 炭化物粒子、白色微粒子含む、しまり良
2. 黄褐色土 炭化物粒子、白色微粒子含む、地山の土を多く含む

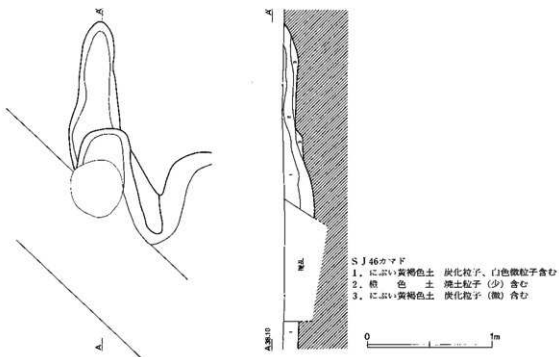
0 2m

第147図 第46号住居跡(1)



47-16グリッドに位置する。第49号住居跡を切り、第5号土壇・溝状の攪乱に切られる。規模は、長軸5.8m・短軸4.8m、深さ13~18cmを測る。主軸方位はN-60°-Eである。

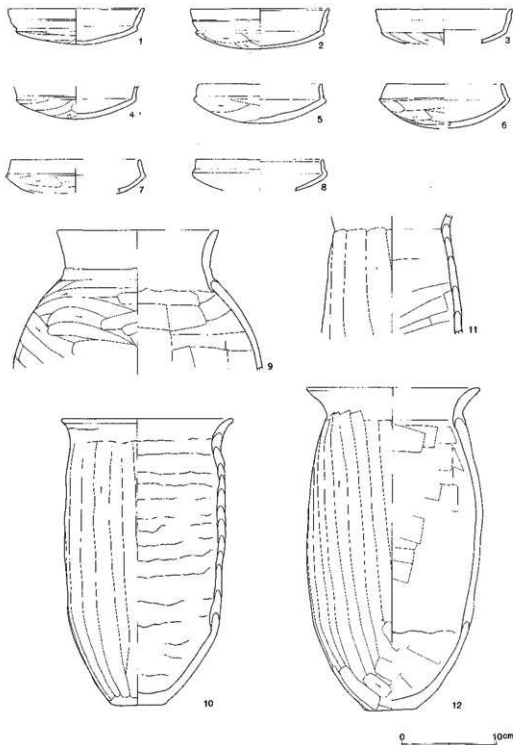
カマドは東壁に構築されているが、燃焼部から左袖にかけて攪乱によって壊されている。貯蔵穴は南東コーナー付近にあり、95×85cmの円形で、深さは30cmである。ピットは南壁際に1基(P1)、北壁際に3基(P2~4)検出されている。壁溝は南壁にのみ検出されている。



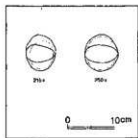
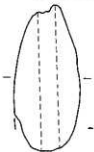
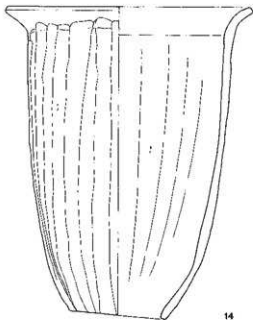
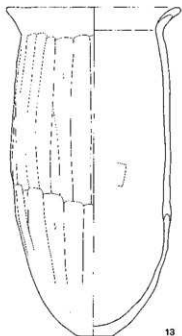
第148図 第46号住居跡(2)



第46号住居跡貯蔵穴  
遺物出土状況



第149图 第46号住居跡出土遺物(1)



第150図 第46号住居跡出土遺物(2)

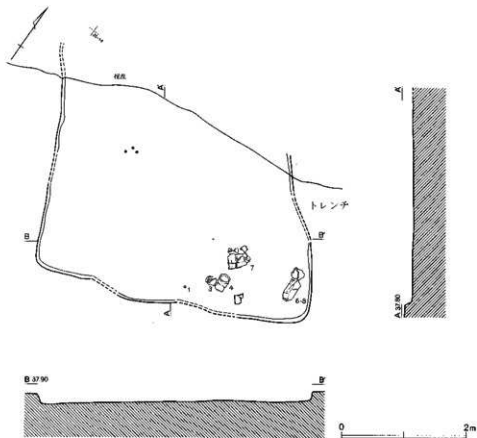
第46号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 14.5 IV3.8	にぶい橙	R少	100%	外面に黒色部分あり	No33
2	坏	I 14.7 IV4.2	明褐色	W微	95%	外面に黒色部分あり	No32
3	坏	I (14.6) IV(3.7)	にぶい褐	W・R少	30%		No95
4	坏	V3.5	灰赤	W・R少	50%		No91-93他
5	坏	I 13.1 IV4.2	橙	W微	95%		No90
6	坏	I 12.2 IV4.7	にぶい橙	R少	50%		
7	坏	I (13.6) IV(3.6)	橙	W・R微	20%		No108
8	坏	I (13.5) IV(3.5)	橙	W・R少	10%		No108
9	蓋	I 17.2 II26.4 V14.5	にぶい橙	R少	80%		No89
10	壺	I 18.0 II17.0 III5.5 IV30.2	にぶい赤褐	W・R多	95%	内面の輪積痕が明瞭	No86
11	壺	II (14.8) V12.3	橙	W多	10%		
12	壺	I 18.5 II18.6 III5.6 IV34.1	橙	W少	100%	体外外面に黒斑有り	No87
13	壺	I 18.4 II17.0 III3.8 IV38.4	橙	W(2~3mm含)多	80%	木葉痕	No18
14	瓶	I 25.5 II21.6 VIII0.2 IV32.5	明赤褐	W・R(2~3mm含) 多	90%		No88
15	土鏃	残長7.7 径3.4	明赤褐	W・B多		71.63g	

第47号住居跡 (第151図)

31-14グリッドに位置し、北半は攪乱によって壊される。規模は、南辺で4.4m、深さ12~17cmを測る。主軸方位はN-27°Wである。南辺・東辺には歪みが見られる。覆土は、焼土粒子を少量含む褐色土の単一層である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦だが、軟弱で貼り床がなく地山との判別が非常に困難である。

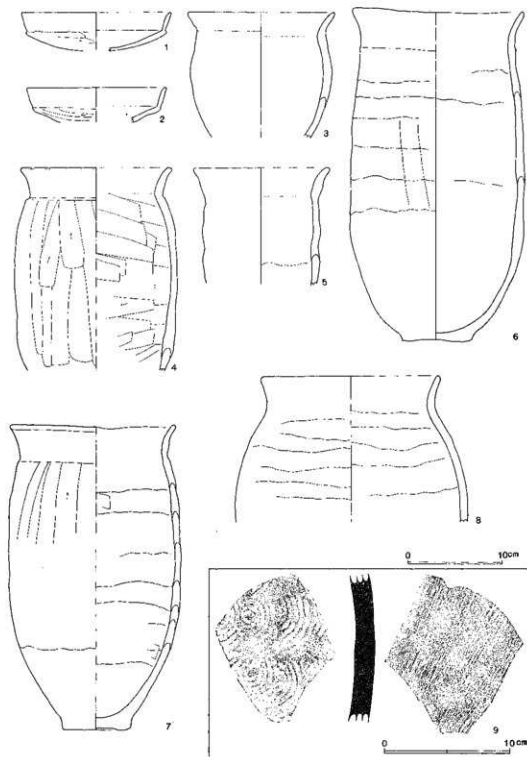
カマド、貯蔵穴等の施設は検出されていない。遺物は、南東コーナーに集中して出土している。



第151図 第47号住居跡

第47号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (16.0) IV (4.0)	におい橙	R少	15%		No 4
2	坏	I 14.9 IV (3.7)	橙	R少	20%		
3	甕	I (15.6) II 15.0 V 13.2	橙	W多	70%	内外面共に調整不明瞭	No 5
4	甕	I 16.0 II (17.4) V 21.5	灰白	W(2~3mm含)多	60%	胴部外面に黒斑有り	No 6
5	甕	I 14.5 II (12.6) V 12.3	褐	W多	40%	全面調整不明瞭	
6	甕	I 18.2 II 18.5 III 7.4 IV 34.6	浅黄橙	W多	95%	胴部内面下位に炭化物付着	No 9



第152図 第47号住居跡出土遺物

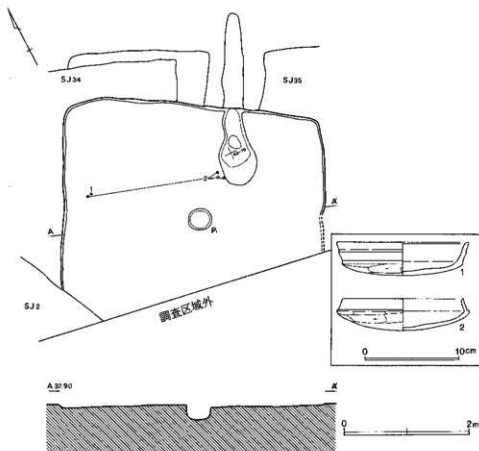
第47号住居跡出土遺物②

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
7	甕	I 17.6 II 17.6 III 7.2 IV 32.0	橙	W・B少	95%		No 8
8	甕	I 19.1 II 24.6 V 15.3	灰黄褐	W多	60%	輪痕很明瞭、内外面共に調整不明	No 9・10

第48号住居跡 (第153図)

42—19グリッドに位置し、第34・35号住居跡の床面に検出された。南半は調査区域外にあり、西壁は第2号住居跡に切られる。北辺4.2m、深さは5cmを測る。主軸方位はN—28°—Eである。

カマドは北壁に構築され、第35号住居跡のカマドと同じ位置にあり、掘り込みだけが残る。



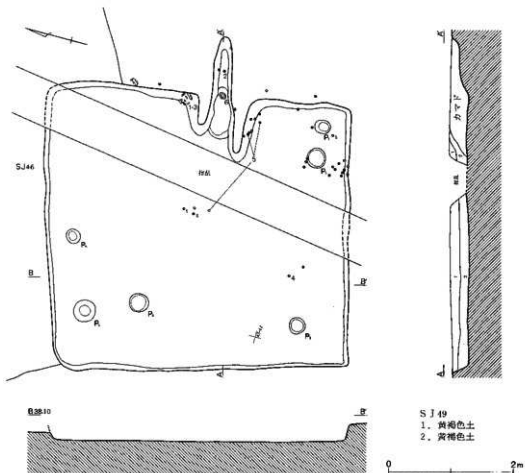
第153図 第48号住居跡

第48号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (13.9) IV 4.5	橙	W・B・R多	60%	やや風化	No 4
2	坏	I 13.8 IV 3.4	にぶい褐	W・B多	70%		No 1~3・5

第49号住居跡 (第154・155図)

47-16グリッドに位置し、第46号住居跡・溝状の擾乱に切られる。長軸4.8m・短軸4.5m、深さ29cmを測る。主軸方位はN-76°-Eである。カマドは東壁に構築され、煙道が長く延びる。燃烧部は10cm程掘り込まれ、緩やかに立ち上がり煙道に至る。カマド内から土製支脚が出土している。ピットは、6基検出され (P1~6)、深さは、10cm、14cm、9cm、20cm、16cm、10cmである。

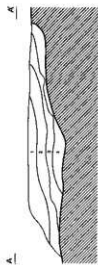
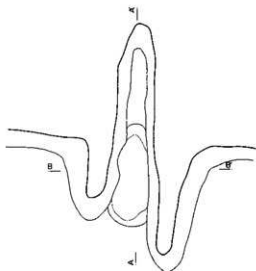


第154図 第49号住居跡(1)



第49号住居跡付近全景

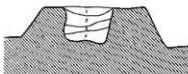




S J 49カマド

1. 黄褐色土
2. 黄褐色土 焼土粒子・炭化物・灰火粒子(少)含む、粘質
3. 褐色土 焼土粒子・ブロック含む、砂質
4. 褐色土 大型焼土ブロック含む、砂質

B28.10

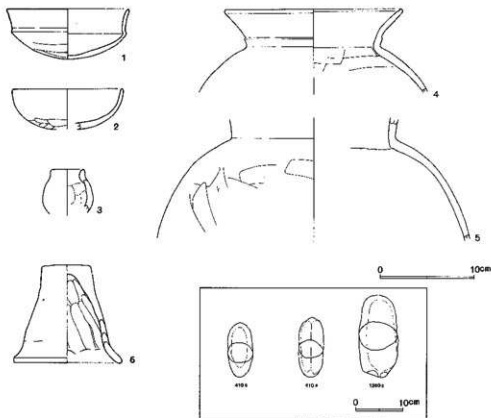


0 1m

第155図 第49号住居跡(2)

第49号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	坏	I 13.0 IV5.3	橙	R微	90%		No.38
2	坏	I (11.8) IV4.3	明赤褐	B微	30%		No.36
3	ミニチュア	I (3.4) II (5.4) IV (5.5)	浅黄橙	B多	20%		No.38
4	壺	I 18.6 V 8.8	にぶい橙	W・B微	80%	胴部外面に黒斑有り	No.5
5	壺	V 12.7	にぶい赤褐	W・R少	20%		No.1・26他
6	支脚	上部径5.2下部径11.5 IV10.3	にぶい褐	W微	100%		No.34



第156図 第49号住居跡出土遺物

### 第50号住居跡 (第157図)

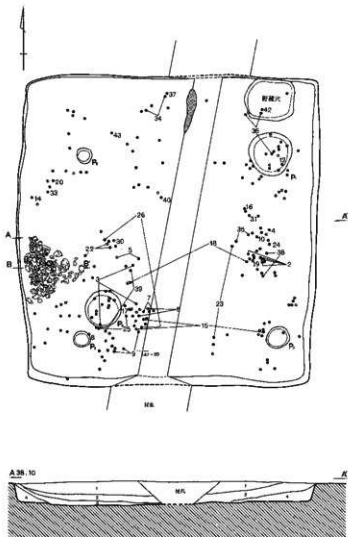
47-18グリッドに位置し、中央部を溝状の攪乱に切られる。長軸4.9m・短軸4.8m、深さ30~38cmを測る。主軸方位はN-0°である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面はやや起伏がある。

カマドは北壁に構築していたと思われるが、攪乱によって壊されており、わずかに焼土が残る程度である。貯蔵穴は北東コーナー近くの北壁に接する形で検出されている。80×65cmの隅丸長方形を呈し、深さは17cmを測る。4本の柱穴が検出され (P 1~3・5)、深さはそれぞれ20cm、21cm、13cm、10cmである。

遺物は、覆土中が多いが住居跡全域から多量に出土している。また、西壁の一部に礫が集中し、埋没過程における投棄と思われる。



第50号住居跡



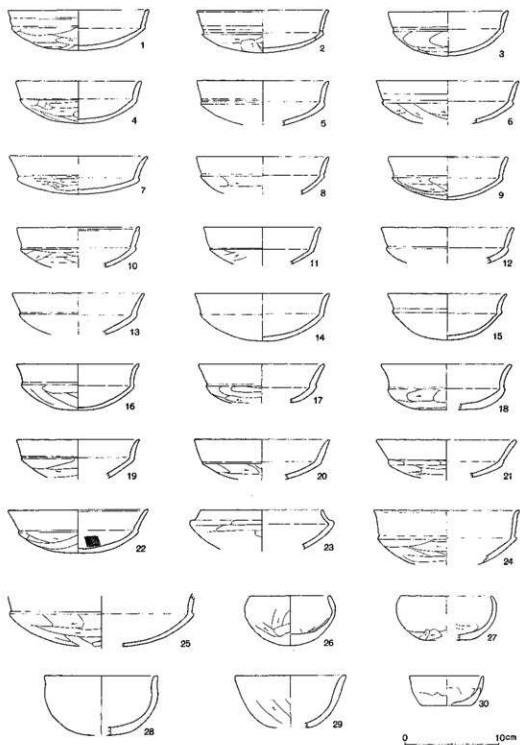
S J 50

1. 黄褐色土 粘質、炭火粒子（微）、白色粒子（少）含む
2. 黄褐色土 粘質、炭火粒子（少）含む
3. 黄褐色土 粘質、炭火粒子、帯状に含む、しまり欠
4. 黄褐色土 地山の土を多く含む



0 2m

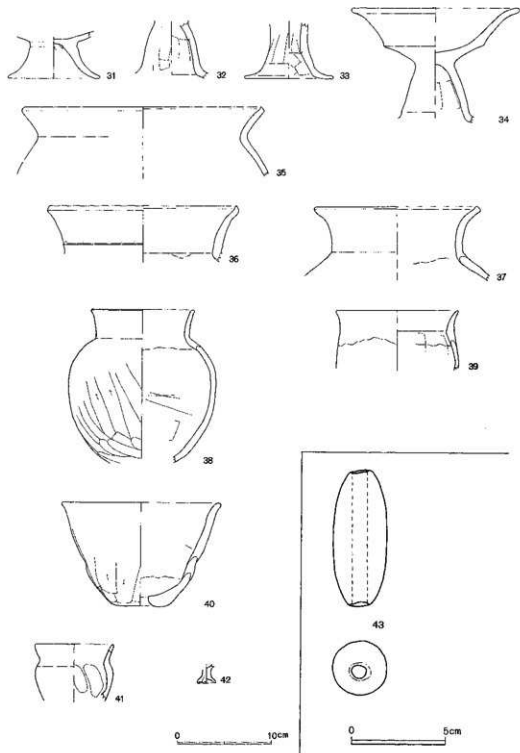
第157図 第50号住居跡



第158図 第50号住居跡出土遺物(1)

第50号住居跡出土遺物1

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特 徴	注記No
1	坏	I (15.0) IV4.3	橙	R少	30%	攪乱	
2	坏	I (14.0) IV3.5	橙	R微	40%		No21・23他
3	坏	I 12.7 IV4.7	橙	W極微	70%		No106他
4	坏	I (13.3) IV4.5	橙	W微	60%		No30
5	坏	I 14.0 IV(4.7)	橙	R多	20%		No137他
6	坏	I (15.0) IV(4.5)	橙	W・R少	40%		No88・115
7	坏	I (14.7) IV4.0	浅黄橙	W微	30%		No205他
8	坏	I 14.0 IV(4.2)	橙	W微	10%		No105
9	坏	I 12.7 IV4.6	橙	R多	90%		No97・98他
10	坏	I (13.0) IV(4.3)	橙	R微	30%		No33
11	坏	I (12.4) IV(3.9)	にぶい橙	R微	20%		
12	坏	I (14.1) IV(3.8)	橙	R少	20%		No201
13	坏	I (14.0) IV(4.5)	橙	W・R少	30%		
14	坏	I (14.2) IV5.0	橙	W微	30%		No172
15	坏	I (12.6) IV4.9	橙	R微	80%		No 6・203他
16	坏	I (13.0) IV4.9	橙	R多	40%		No200
17	坏	I (13.4) IV(4.1)	橙	W微	20%		No117
18	坏	I (13.8) IV4.8	橙	W微	30%		No19・132
19	坏	I (13.0) IV(4.3)	にぶい橙	R微	20%		No197
20	坏	I (14.2) IV(4.2)	橙	R多	30%		No198
21	坏	I (14.9) IV(3.9)	にぶい橙	R少	20%		
22	坏	I (15.0) IV4.5	橙	R微	30%	坏部内面に布疋痕有り	No139他
23	坏	I (13.0) IV(4.5)	にぶい橙	R少	20%		No13・36他

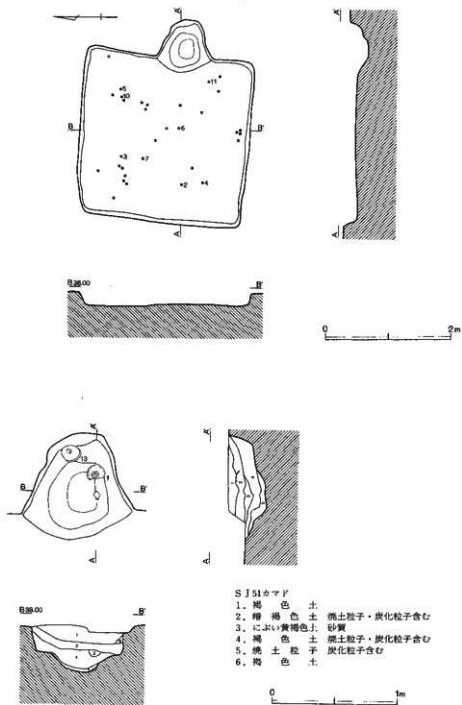


第159図 第50号住居跡出土遺物(2)

## 第50号住居跡出土遺物(2)

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
24	坏	I (15.4) IV (5.7)	橙	R少	30%		No.29
25	坏	V 5.6	橙	R微	30%		No.106他
26	椀	I (8.5) II (9.7) IV 5.2	浅黄橙	R・B少	70%		No.110他
27	椀	I (9.7) II (10.7) III (5.5) IV (4.7)	におい橙	B少	50%		
28	椀	I (12.1) IV (6.3)	橙	W多	30%		
29	椀	I (11.7) IV (5.5)	におい橙	W・B・R多	20%		
30	椀	I 7.8 III 5.2 IV 3.2	におい橙	B少	70%	内面に黒色部分あり	No.140
31	高坏	III (9.9) V 4.4	におい橙	R微	60%		No.39
32	高坏	V 5.5	橙	R少	80%		
33	高坏	III (9.4) V 5.8	橙	W極微	30%		No.171
34	高坏	I 17.9 V 11.7	橙	R少	80%		No.77・80
35	甕	I (25.2) V 7.2	橙	W・B少	10%		No.34・35
36	甕	I (20.0) V 5.1	褐灰	W・B・R少	20%		No.67・69他
37	甕	I 17.0 V 7.3	橙	B少	80%		No.76
38	甕	I 10.8 II 15.7 IV (16.0)	橙	W・B・R微	60%		No.16・26
39	甕	I (13.0) V 6.1	橙	R多	20%		No.104他
40	甗	I (17.0) III (6.0) VII (1.6) IV 10.9	におい褐	B・R微	50%	内面に煤が付着	No.87
41	甕	I 8.4 II 8.3 V 6.0	橙	R少	10%		
42	手捏ね	III 2.0 V 1.8	におい黄橙	W少	80%	用途不明	No.82
43	土錘	長7.2 径2.9	におい黄橙	W・B多		62.58g	No.159

第51号住居跡 (第160図)



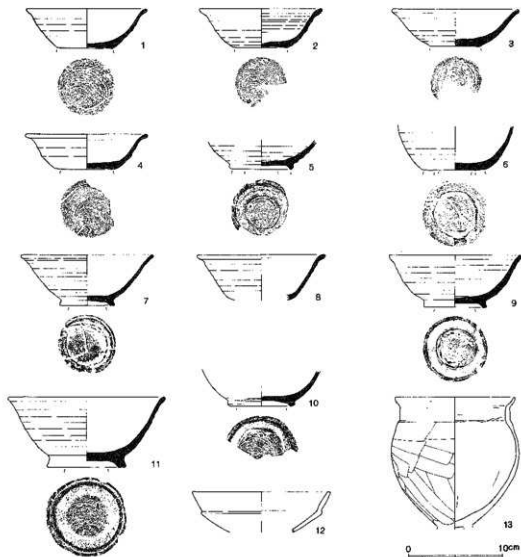
第160図 第51号住居跡



54-20グリッドに位置し、第72・73・74号住居跡を切る。一辺約5.6mの正方形を呈し、深さ19~23cmを測る。主軸方位はS-85-Eである。壁はやや開き気味に立ち上がり、床面は軟弱であり、中央部からカマド付近にかけてが若干高い。覆上は、焼土粒子を含む暗赤褐色土の単一層である。

カマドは東壁に構築されており、袖は検出されていない。燃焼部は二段で約20cm掘り込まれ、煙道は急激に立ち上がる。貯蔵穴、柱穴等は検出されていない。

遺物は、全て破片である。須恵器・高台付坏が多く見られ、にぶい橙色を呈する土師質のものが大半を占める。



第161図 第51号住居跡出土遺物

第51号住居跡出土遺物

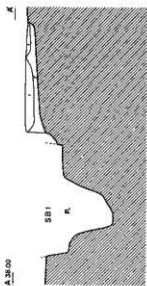
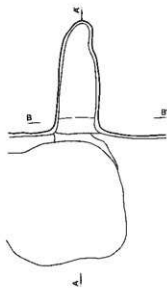
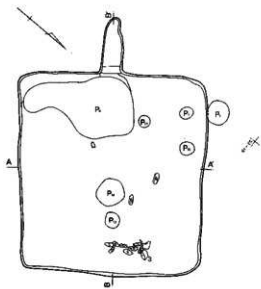
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 12.8 III 6.0 IV 4.1	におい橙	R多	80%	土師質、回転糸切り難し底部内面にタール状物質が付着	No.33
2	坏	I (13.0) III 5.6 IV 4.1	灰	W(2~3mm)少	40%	回転糸切り難し	No.10
3	坏	I 13.3 III 5.4 IV 3.9	褐灰	R微	70%	回転糸切り難し	No.8
4	坏	I (13.0) III 6.2 IV 3.7	におい橙	W・B微	50%	土師質、回転糸切り難し	No.12
5	高台坏	III 6.8 VI 2.8	灰	W微	50%	回転糸切り難し後周辺ナデ	No.31
6	坏	III 6.6 V 4.7	におい橙	W・R少	70%	土師質、回転糸切り難し後一部ヘラナデ	No.22
7	高台坏	I (14.0) VI 5.8 IV 5.4	におい褐	W・R微	30%	土師質、回転糸切り難し	No.9
8	坏	I (13.6) IV (4.8)	におい橙	W・R少	20%	土師質	
9	高台坏	I 14.1 VI 6.7 IV 5.5	におい橙	W(3~5mm)粗粒少	70%	土師質、回転糸切り難し	
10	高台坏	VI 7.2 V 3.8	におい橙	R多	10%	土師質、回転糸切り難し	No.30
11	高台坏	I 16.7 VI 8.4 IV 7.4	におい黄橙	R多	70%	土師質、回転糸切り難し	No.20
12	坏	I (14.6) IV (4.3)	浅黄橙	R少	30%	カマド	
13	台付壺	I 12.8 II 13.6	におい橙	B・R微	80%		No.33

第52号住居跡 (第162図)

53—18グリッドに位置し、第1号掘立柱建物跡に切られる。規模は、長軸3.2m・短軸3.0m、深さ15~22cmを測る。主軸方位はS—51°—Wである。壁はやや開き気味に立ち上がり、床面はほぼ平坦である。

カマドは、西壁中央に構築されている。袖は検出されておらず、燃焼部は第1号掘立柱建物跡のビット4によって大きくえぐられる。図中のビットは全て住居跡を切って掘られており、住居跡に伴うものはない(ビット番号は第293図を参照)。貯蔵穴は検出されていない。

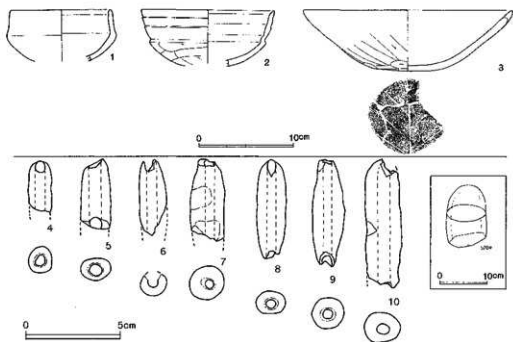
遺物は、土器類は極めて少量で全て破片である。また、ほぼ完形の2点を含む10点の土師が出土している。東壁中央付近に礫が8点まとまって出土している。



S J 52カマド  
 1. 暗褐色土 焼土粒子 (多) 含む  
 2. 暗褐色土 焼土粒子 (微) 含む



第162図 第52号住居跡



第163図 第52号住居跡出土遺物

第52号住居跡出土遺物

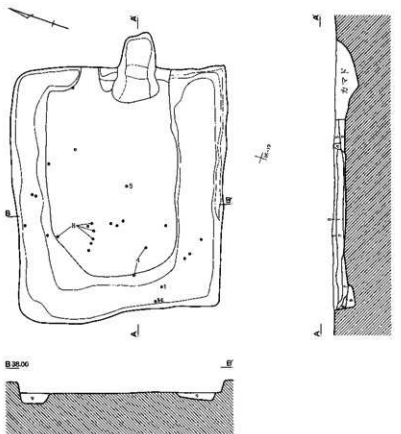
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (10.5)IV (5.5)	橙	W多	20%		
2	坏	I (14.1)IV (6.0)	浅黄橙	B・R散	20%		
3	鉢	I 22.2 III 7.5 IV 6.4	にぶい橙	W多	70%	木葉痕	No 1
4	土錘	残長2.7 径1.3	橙	W少		3.75g	
5	土錘	残長3.7 径1.6	にぶい橙	W多		6.59g	
6	土錘	残長4.0 径1.4	橙	B少		4.88g	
7	土錘	残長4.3 径1.9	浅黄橙	W多		8.52g	指頭痕有り
8	土錘	残長5.2 径1.6	にぶい橙	W・B少		8.04g	
9	土錘	残長5.4 径1.8	にぶい橙	B散		8.42g	
10	土錘	残長6.8 径1.9	橙	W微		9.57g	No 3

第53号住居跡 (第164・165図)

55—18グリッドに位置し、第79・89・90号住居跡を切る。長軸4.0m・短軸3.5mで東西にややながい。深さは15～25cm、主軸方位はN—71°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は若干の起伏がある。カマド付近を除く壁際には、幅50～60cm、深さ10～20cmの掘り方が巡っている。掘り方は、内側を浅く、壁際を深く掘っている。

カマドは、東壁に構築されている。袖の残りは悪く、痕跡をとどめる程度である。燃焼部は約20cm掘り込まれ急激に立ち上がる。貯蔵穴は検出されていない。

遺物は、須恵器蓋・坏、土師器坏の他、鉄製品、土製紡錘車等が出土している。

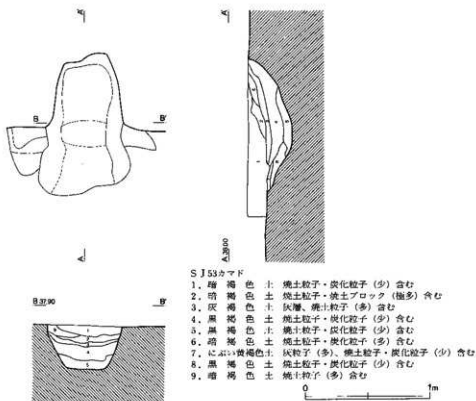


S J 53

1. 灰黄褐色土
2. 褐色土 焼土粒子若干含む
3. 暗褐色土
4. 褐色土 炭化粒子、白色粒子含む
5. によい黄褐色土
6. 暗灰黄色土
7. 黒褐色土 炭化材(多)含む
8. 褐色土
9. によい褐色土 砂質

0 2m

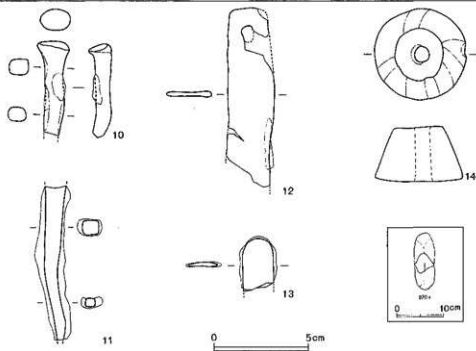
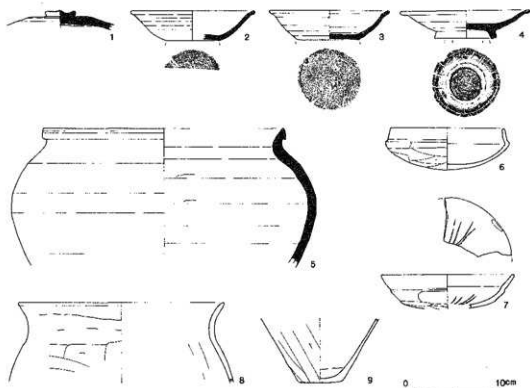
第164図 第53号住居跡(1)



第165図 第53号住居跡(2)

第53号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	蓋	V1.6	灰白	W微	10%	ロクロ左回転	No26
2	坏	I (13.2) III (5.6) IV3.1	灰	R (2~3mm含) 微	30%	回転糸切り難し	
3	坏	I 13.8 III 6.5 IV 3.0	灰	W (2~3mm含) 微	80%	回転糸切り難し後 周辺回転ヘラケズリ	No 8
4	高台坏	I 12.7 VI 6.6 IV 3.1	灰	W (3~5mm含) 微	90%	回転糸切り難し	No 5・6
5	鉢	I (25.5) II (32.5) V 14.6	灰	W (2~3mm含) 微	10%		No 7
6	坏	I 12.0 IV 4.4	浅黄橙	R多	60%		
7	坏	I (14.0) IV (3.6)	にぶい橙	W極微	20%	内面に暗文を施す	
8	壺	I (21.8) V 8.4	にぶい橙	W微	80%		No13・15他

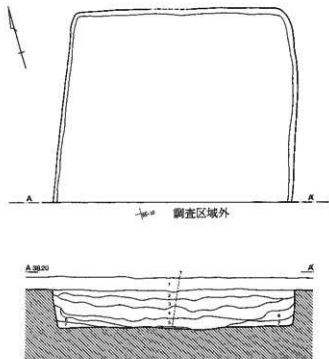


第166图 第53号住居跡出土遺物

第53号住居跡出土遺物2)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
9	壺	III4.6 V6.7	明赤褐	W多	80%	カマド	
10	角釘	残長5.6				鉄製、錆の吹き出しが著しい	No28
11	釘?	残長8.2				鉄製、錆の吹き出しが著しい	No28
12	板状鉄器	残長9.4厚0.2~0.3				用途不明	
13	板状鉄器	残長2.7厚0.2~0.3				用途不明	
14	訪鉢車	上径2.6 下径4.8 長2.8	灰白	W微		61.85g 完形、土製 外面ヘラケズリを施す	No25

第54号住居跡 (第167図)



S J 54

1. 灰土
2. 暗褐色土 黄色粒子 (極多)、しまり貝
3. 暗褐色土 黄色粒子 (多)、木炭・焼土 (少)、しまり貝
4. 黒褐色土 黄色粒子 (少)、木炭・焼土 (多)、しまり貝
5. 黒褐色土 木炭・焼土 (極多)、木炭は部分的に層状を呈する
6. 暗褐色土 黄色粒子 (極多)、木炭・焼土 (少) 含む
7. 暗褐色土 黄色粒子 (極多) 含む

0 2m

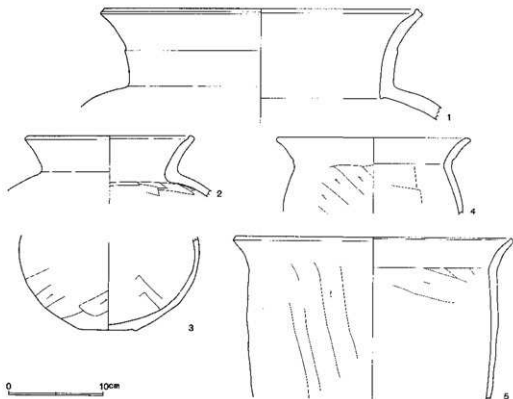
第167図 第54号住居跡



55-21グリッドに位置し、第88号住居跡を切ると思われる。南辺は調査区域外にあり、北辺で3.4 m、深さは58~64cmを測る。主軸方位はN-19°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面はわずかに起伏がある。

カマドは、南壁に構築されたものと思われ検出されていない。

遺物は、少量で、土師器壺・壺等である。



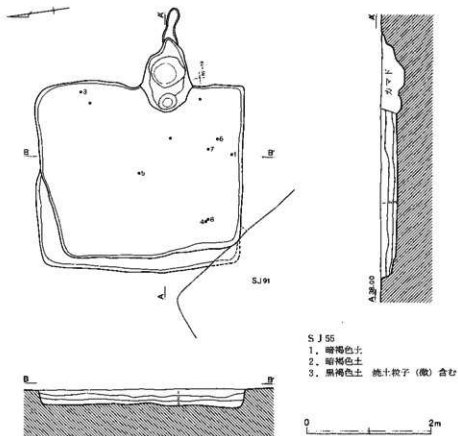
第168図 第54号住居跡出土遺物

#### 第54号住居跡出土遺物

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	壺	I (33.4) V10.5	橙	W多	10%		
2	壺	I (17.7) V5.8	橙	W・B・R少	30%		
3	壺	I (20.6) V8.0	にぶい褐	W(2~3mm)多	20%		
4	壺	III6.0 V10.0	にぶい橙	W少	20%	内面が黒変している	
5	壺	I (29.2) V17.0	橙	R多	10%		

第55号住居跡 (第169・170図)

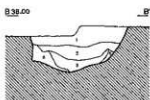
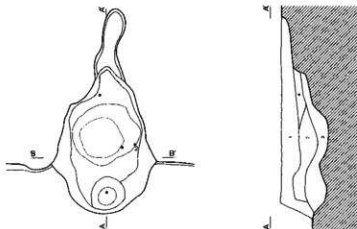
54-18グリッドに位置し、第77・91号住居跡を切る。規模は、長軸3.4m・短軸3.0m、深さ20~30cmを測る。主軸方位はS-82°-Eである。西壁は段を持ちテラス状になる。カマドは東壁に構築され、炊き口及び燃焼部は約20cm掘り込まれている。貯蔵穴は検出されていない。出土遺物は全て破片で、須恵器が大半を占める。



第169図 第55号住居跡(1)

第55号住居跡出土遺物(1)

No.	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
1	坏	Ⅲ6.5 V1.5	灰白	W(2~5mm含)微	80%	回転糸切り離し	No.8
2	坏	I(13.8)Ⅲ(6.0) Ⅳ2.7	灰	W(2~5mm含)少	20%	回転糸切り離し	No.12
3	坏	I14.5Ⅲ7.9Ⅳ2.5	にぶい橙	R多	40%	土師質、回転糸切り離し	No.1
4	高台坏	Ⅵ6.0 V2.8	明赤褐	R多	40%	土師質、回転糸切り離し	No.9
5	高台坏	Ⅵ6.8 V4.1	灰	W(2~5mm含)微	40%	回転糸切り離し	No.3

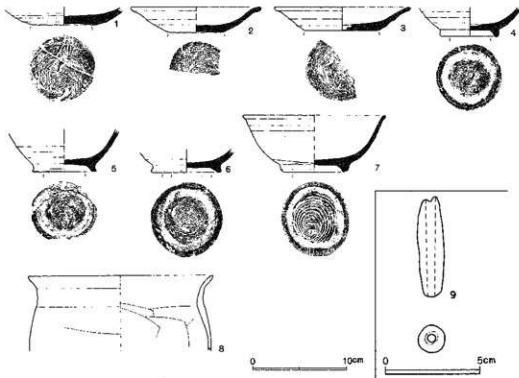


S J 55カマド

1. におい褐色土 白色微砂粒子(多)含む
2. 灰褐色土
3. 褐色土 炭粒子・炭化物(多)含む
4. におい褐色土
5. におい褐色土
6. 褐色土



第170図 第55号住居跡(2)



第171図 第55号住居跡出土遺物

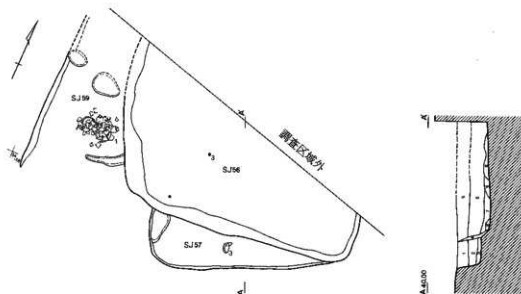
第55号住居跡出土遺物②

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
6	高台杯	V17.4 V2.1	灰黄	R少	80%	回転糸切り離し後 周辺回転ヘラケズリ	
7	高台杯	I15.2VI7.2IV6.0	橙	R少	80%	土師質、回転糸切り離し	No.6
8	壺	I(19.6) V8.0	橙	W極微	20%		No.10
9	土鏝	残長5.0 径1.4	にぶい橙	W微		10.90g カマド	

第56・57・59号住居跡 (第172図)

第56号住居跡は54—17グリッドに位置し、第57・59号住居跡を切る。大半が調査区域外にあり規模は不明だが南辺で3.7m、深さ55cmを測る。全体的にやや歪みが見られる。遺物はごく少量だが、須恵器蓋、土師器環等のほか、釘と思われる鉄製品が出土している。

第57号住居跡は54—18グリッドに位置する。大部分を第56号住居跡に切られるため規模等不明であるが、一辺が3m程度になると思われる。深さは38cmである。遺物は、須恵器蓋・杯、土師

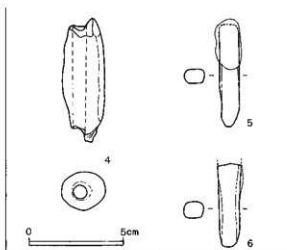
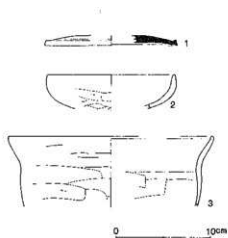


- SJ56・57
1. にぶい黄褐色土 白色微砂粒含む
  2. にぶい黄褐色土
  3. 褐色土 砂質
  4. 褐色土 砂質
  5. 暗褐色土 白色微砂粒含む
  6. 褐色土 炭化粒子、橙色土含む
  7. 褐色土 砂質黄褐色土含む
  8. 黄褐色土 砂質
  9. 暗赤褐色土

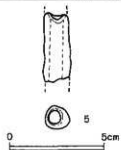
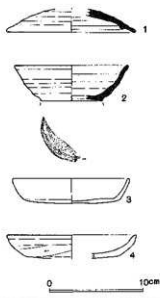


第172図 第56・57・59号住居跡

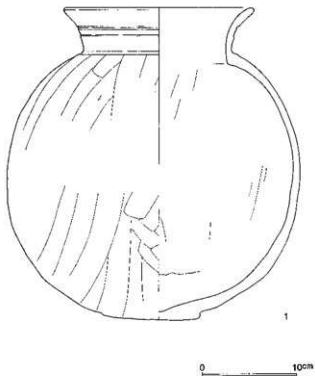
S. 18



S. 19



S. 20



第173図 第56・57・59号住居跡出土遺物

器坏等が出土している。

第59号住居跡は54—17グリッドに位置し、第56号住居跡に切られる。掘り込みの浅い西辺の一部と深さ10cm程度のピット2基を検出したのみで規模等は不明である。遺物は、図示した土師器壺がまとまって出土している。

#### 第56号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	蓋	I 14.2 V 1.1	灰	W多	50%	ロクロ右回転	
2	坏	I (13.5) V 3.8	橙	W極微	10%		
3	壺	I (21.6) V 7.3	橙	W微	10%		No 1
4	土錘	残長6.6 径2.4	にぶい橙	B少		9.86g	
5	釘?	残長5.6				鉄製	
6	釘?	残長4.4				錆の吹き出し著しく頭部不明瞭 鉄製	

#### 第57号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	蓋	I (13.7) V 2.9	灰	W少	20%	ロクロ右回転	
2	坏	I 12.0 III 6.5 IV 3.8	灰	W微	30%	回転糸切り難し、生焼け部分有り	
3	坏	I 12.2 IV 2.6	橙	R少	80%		No 1・2
4	坏	I (13.8) IV (2.5)	明赤褐	R少	20%		
5	土錘	残長3.7 径1.3	にぶい黄橙	B多		6.55g	

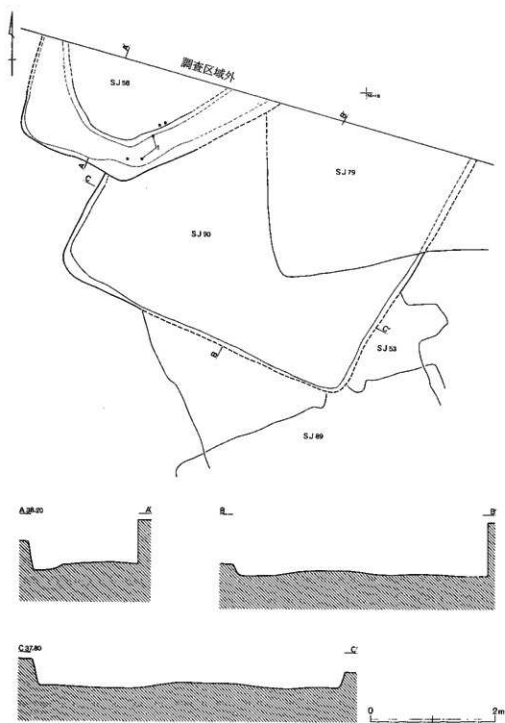
#### 第59号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	壺	I 20.2 II 31.0 III 10.2 IV 33.0	にぶい黄橙	W・R少	50%		No 1

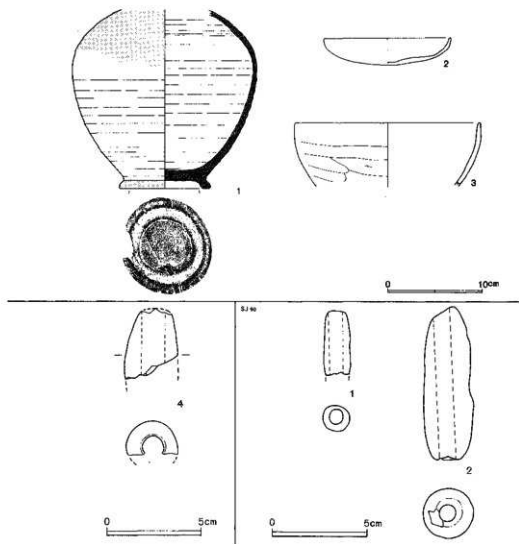
#### 第58・90号住居跡 (第174図)

第58号住居跡は55—18グリッドに位置し、第79・90号住居跡を切る。大部分は調査区域外にあり、規模等は不明であるが、不整長方形を呈すると思われる。深さは32cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面の壁際には幅50～70cm、深さ約10cmの掘り方が巡る。遺物は、掘り方内より須恵器長頸壺が出土している。

第90号住居跡は55—18グリッドに位置し、第53・58・79号住居跡に切られる。明瞭に検出されたのは南西コーナー付近で、南辺及び東辺は下場のみ検出された。規模は、一辺5m前後を呈すると思われ、深さは38～48cmである。床面はかなり起伏がある。



第174图 第58·90号住居跡



第175図 第58・90号住居跡出土遺物

第58号住居跡出土遺物

№	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記№
1	長頸甕	II19.5 III9.6 V19.0	暗灰	W極微、W'微	30%	回転糸切り難し後、全面ナデ調整	№2・3
2	坏	I (13.4) IV2.9	におい橙	B微	60%		
3	椀	I (19.6) V6.8	橙	W'少	20%		
4	土罐	残長3.8 径2.8	明赤褐	W少		8.24g	

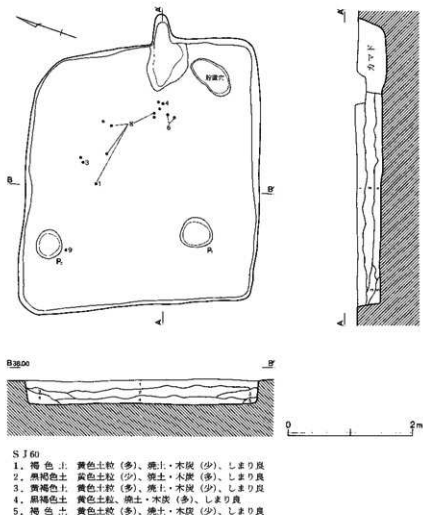


### 第90号住居跡出土遺物

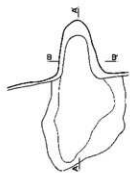
No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	土罐	残長3.4 径1.4	灰白	B微		6.00%	
2	土罐	長8.1 径2.7	橙	B・R少		55.09%	

### 第60号住居跡 (第176・177図)

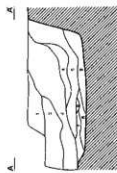
51-17グリッドに位置する。規模は、長軸4.1m・短軸3.8m、深さ35~41cmを測る。主軸方位はN-72°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面はわずかに起伏がある。カマドは東壁に構築されている。燃焼部は約10cm掘り込まれ、下層に灰層が明瞭に残る。貯蔵穴はカマド右に設けられ、深さ8cmと浅い。柱穴は2基検出され (P1・2)、深さはそれぞれ13cm、15cmである。



第176図 第60号住居跡(1)



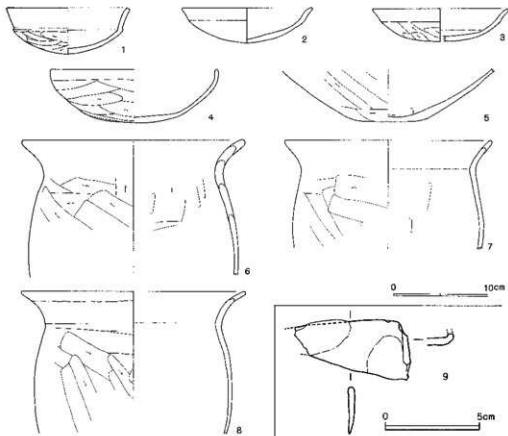
B3790



- S. 160カマド
1. 褐色土
  2. 黄褐色土
  3. 黄褐色土
  4. 暗褐色土
  5. 褐色土
  6. 暗褐色土
  7. 褐色土
  8. 黄褐色土
  9. 暗褐色土
- 青灰色土粒(多)、黄土粒子・炭化粒子(少)を含む  
 黄褐色土粒(少)を含む  
 黄土粒子・炭化粒子(多)を含む  
 黄土粒子・炭化粒子(多)を含む  
 黄土粒子(多)を含む  
 黄土粒子(多)を含む  
 黄土粒子(少)を含む  
 黄土粒子(少)を含む



第177图 第60号住居跡(2)



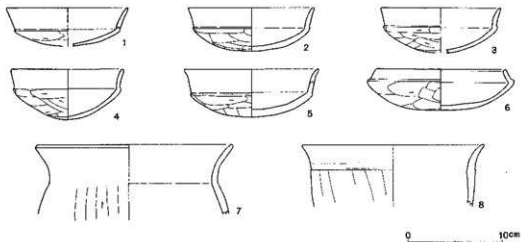
第178图 第60号住居跡出土遺物

第60号住居跡出土遺物

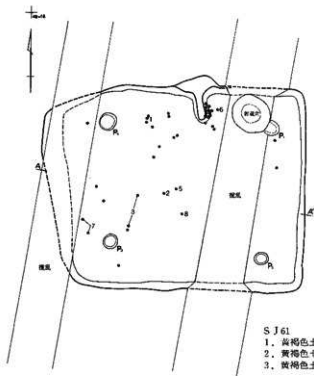
No	器種	法量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
1	坏	I 12.7 IV4.9	橙	R少	50%		No 1
2	坏	I (14.0) IV3.7	橙	W・B少	30%		
3	坏	I 14.5 IV3.5	にぶい橙	B微	50%		No 2
4	坏	I (17.6) IV5.6	橙	W微	40%		No 7
5	甕	III(8.2) V5.3	にぶい橙	B多	20%	カマド	
6	甕	I 23.8 II22.4 V14.5	橙	B微	70%		No 5・14
7	甕	I (22.0) II (20.4) V11.4	にぶい橙	W・R微	10%	甕面全体に煤付着	
8	甕	I 24.0 II (21.0) V15.0	橙	W微	60%		No 1・3・4 9
9	鎌	残長6.2				鉄製、基部のみ、刃部はやや湾曲	No11

第61号住居跡 (第180図)

51-17グリッドに位置し、2条の溝状の攪乱に切られる。規模は、東辺3.2m、南辺3.6m、深さ25~35cmを測る。西辺はやや開くと思われ、主軸方位はN-0°である。壁は開き気味に立ち上がり、床面は若干の起伏がある。カマドは北壁に構築されているが、東半を攪乱によって壊されている。貯蔵穴は攪乱下から検出され、床面からの深さは45cmである。柱穴は4基検出され (P1~4)、深さはそれぞれ13cm、13cm、13cm、10cmである。



第179図 第61号住居跡出土遺物

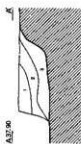
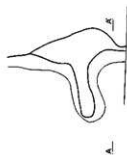


S J 61

1. 黄褐色土 粘質土、白色微粒子、焼土粒子、炭化粒子含む
2. 黄褐色土 粘質土
3. 黄褐色土 焼土粒子、炭化粒子（多）含む



0 2m



S J 61カマド

1. 暗褐色土 炭化粒子（多）含む
2. 褐色土 炭化物ブロック、焼土粒子を帯状に含む
3. 褐色土 炭化粒子（少）含む

0 1m

第180図 第61号住居跡

### 第61号住居跡出土遺物

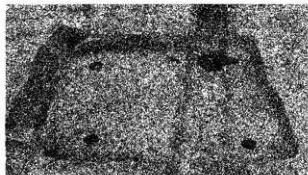
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (12.9) IV4.0	橙	R微	30%		No.5
2	坏	I (13.4) IV5.6	明黄褐	R微	50%		No.29
3	坏	I 12.8 IV4.7	橙	R微	50%		No.12・13
4	坏	I (12.0) IV5.3	橙	W極微	20%		
5	坏	I 14.3 IV5.1	橙	R微	90%		No.10
6	坏	I (13.8) IV4.3	褐灰	R微	30%	口縁部外面に黒色部分あり	No.3
7	甕	I (20.6) V7.2	明赤褐	W少	10%		No.16・17
8	甌	I (19.4) II (17.5) V6.5	橙	R少	10%		No.11

### 第62号住居跡 (第181図)

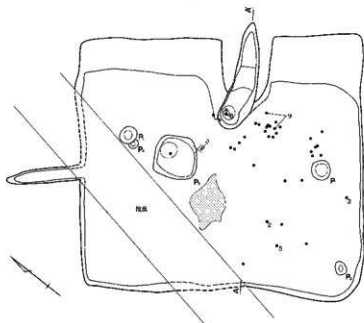
49—17グリッドに位置し、溝状の攪乱に切られる。規模は、長軸4.5m・短軸4.1m、深さ30cmを測る。主軸方位はN—52—Eである。東壁は緩やかな斜面になっている。カマドは付け替えが行なわれ、2基検出されている。北壁のカマドは攪乱によって壊され煙道部のみであるが、袖は既になかったものと思われる。東壁のカマドは全体が「ノ」の字状にまがり、北壁のものより後出する。ピットは5基検出され (P 1～5)、深さは49cm、8cm、21cm、7cm、16cmである。

### 第62号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 12.0 IV (4.3)	橙	W・R微	40%		
2	坏	I (14.0) IV (4.1)	橙	W微	30%		No.14
3	坏	I 14.9 IV4.4	橙	W・R微	80%		No.11

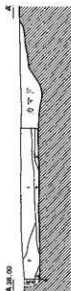


第61号住居跡

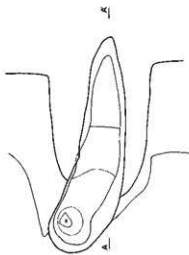


SJ61

1. 黄褐色土 焼土粒子、炭化粒子（少）含む
2. 黄褐色土 砂礫（多）含む、やや粘質
3. 明黄褐色土 地山土（多）含む
4. 黄褐色土 炭化粒子（多）、やや粘質
5. 黄褐色土 焼土ブロック含む



0 2m

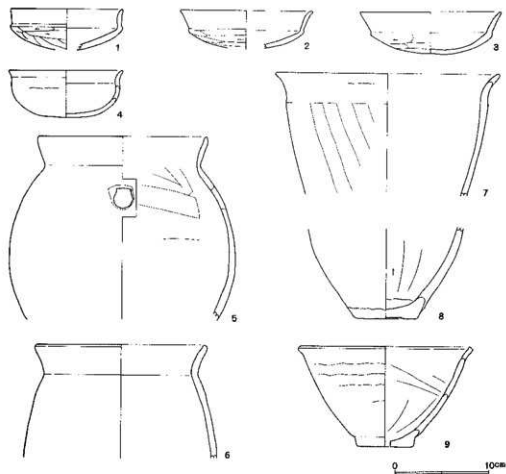


SJ62北壁カマド

1. 黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子（少）含む
2. 黄褐色土 焼土ブロック含む
3. 黄褐色土 炭化粒子（多）含む、やや粘質
4. 黄褐色土 炭化粒子・炭化粒子（多）含む
5. 黄褐色土 砂礫（多）含む
6. 黄褐色土 炭化粒子（多）含む
7. 黄褐色土 焼土粒子を漸然に含む
8. 黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子（少）含む
9. 黄褐色土 褐色粒子（多）含む

0 1m

第181図 第62号住居跡

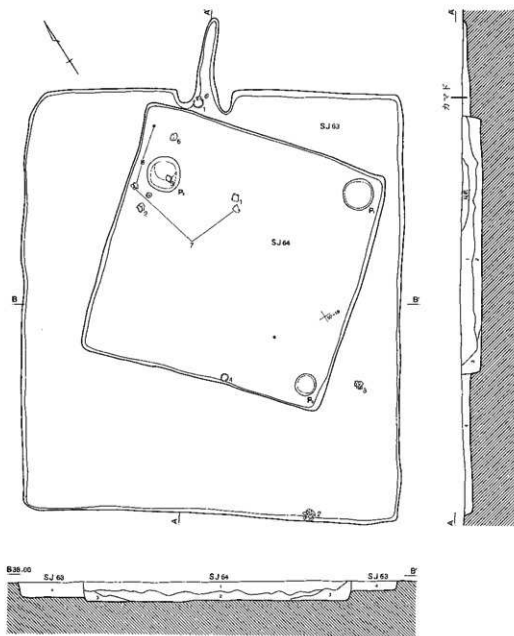


第182図 第62号住居跡出土遺物

第62号住居跡出土遺物(2)

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
4	坏	I (12.2) IV5.0	橙	B多	30%	坏部外面に黒斑有り	
5	甃	I (18.2) V19.4 II24.0	橙	W・B・R少	20%	胴部に穿孔	No.15
6	甃	I (17.6) II (20.5) V11.9	橙	R少	10%		
7	甃	I (23.8) V12.8	橙	W(2~3mm)多	30%		
8	甃	III6.5 V9.5	橙	R少	80%		No.35
9	甃	I 18.0 III6.0 VII1.2 IV10.6	橙	B少	40%	外面に煤付着	No.26・27

第63・64号住居跡 (第183・184図)



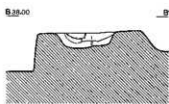
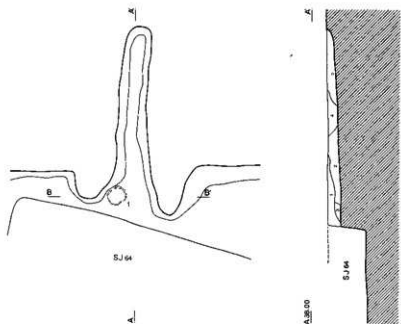
- S J 63・64  
 1. 暗褐色土 褐色粒子 (多) 含む  
 2. 暗褐色土 褐色粒子 (多) 含む  
 3. 黒褐色土  
 4. 褐色土 火山灰 (少) 含む

0 2m

第183図 第63・64号住居跡



第63号住居跡は、49—17グリッドに位置し、第64号住居跡に切られる。規模は、長軸6.8m・短軸6.0m、深さ10～15cmを測る。主軸方位はN—33°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は若干の起伏がある。カマドは北壁中央に構築され、煙道部が長く伸びる。第64号住居跡は、第63号住居跡の中に完全に重なっている。一辺が4.1mの正方形で、深さは30cm、主軸方位はN—49°—Eである。ピットは3基検出され（P1～3）、深さは11cm、8cm、24cmである。



S J 63カマド

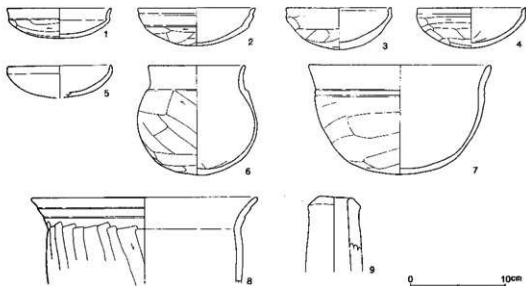
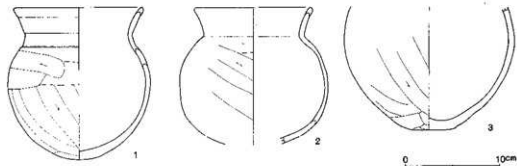
1. 暗褐色土 焼土粒子 (多) 含む
2. 暗褐色土 焼土粒子 (少) 含む
3. 暗赤褐色土 焼土層
4. 褐色土 焼土粒子 (多) 含む
5. 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子 (少) 含む



第184図 第63号住居跡

第63号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	甕	I (13.8) II 15.1 IV 16.0	橙	B少	70%	カマド、底部外面が黒変している	No 1
2	甕	I (12.2) II (15.8) V 14.5	橙	B・R少	40%	カマド	No 3
3	甕	II (18.0) V 13.0 III 5.5	橙	B・R多	30%	カマド、胴部外面に黒色部分有り	No 2



第185図 第63・64号住居跡出土遺物

## 第64号住居跡出土遺物(1)

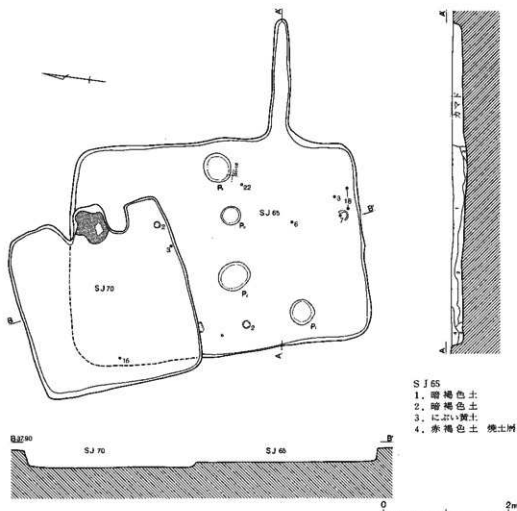
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	坏	I 11.0 IV3.2	橙	W散	50%		No 7
2	坏	I 12.4 IV4.0	にぶい橙	B少	50%		No 6
3	坏	I 11.2 IV4.4	にぶい橙	W・B・R少	70%	内面全体が黒変している	
4	坏	I 11.5 IV4.2	灰黄褐	B少	100%		No 9
5	坏	I (10.8) IV(3.3)	橙	W散	30%		
6	甕	I 10.1 II12.7 IV11.6	にぶい橙	B・R少	90%	内面全体と外面口縁部～肩部が黒変している	No 2

第64号住居跡出土遺物(2)

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
7	鉢	I 19.3 IV 11.5	橙	B少	70%	底部付近外面に黒釉有り	No 4・7・8
8	甕	I (24.0) II (20.8) V 9.1	橙	B少	30%		No 1・4
9	支脚	外径5.6 内径2.5 V 5.7	にぶい黄橙	W少	50%	上部部にタール状黒色物質付着	No 3

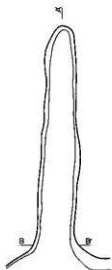
第65・70号住居跡 (第186・187図)

第65号住居跡は、50—18グリッドに位置し、第70号住居跡に切られる。規模は、長軸4.6m・短軸3.4mで南北に長い。深さは16~24cm、主軸方位はN—80°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面はカマド付近が若干低くなる。カマドは東壁の南寄りに構築され、煙道部が長く延びる。ピットは4基検出され (P 1~4)、深さはそれぞれ13cm、14cm、10cm、13cmであるが、住居跡



第186図 第65・70号住居跡(1)

SJ 65

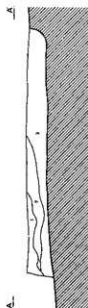


A—

B37.65



B—



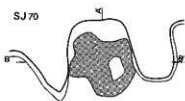
A—

S J 65カマド

1. 暗褐色土 焼土粒子含む
2. 褐色土 焼土粒子(微)含む
3. 褐色土



SJ 70



A—

B37.70



B—

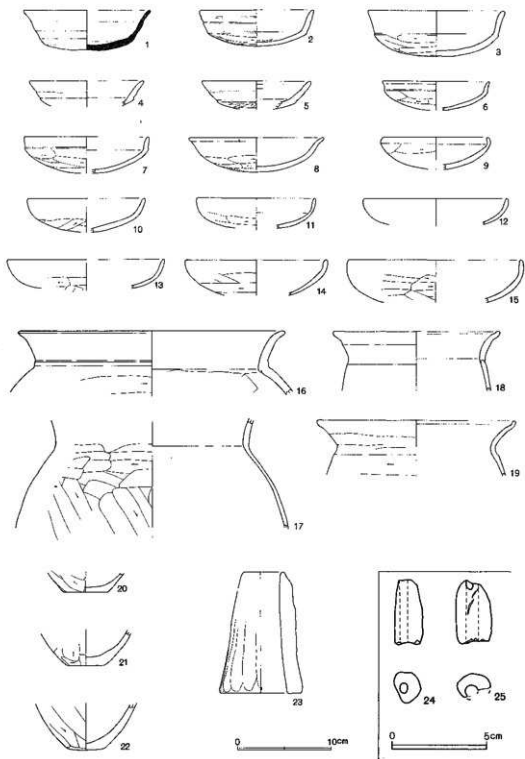


A—

S J 70カマド

1. におい黄褐色土 焼土粒子・褐色粒子(極微)含む
2. 褐色土 焼土粒子・炭化粒子(少)含む
3. 暗褐色土 焼土粒子(多)含む
4. 黒褐色土 灰層・焼土粒子・炭化粒子(少)含む
5. 褐色土 焼土粒子(少)含む





第188图 第65号住居跡出土遺物

## 第65号住居跡出土遺物1)

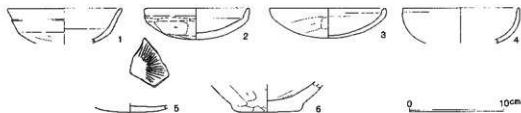
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (13.5) IV4.2	灰黄	W微	30%	回転ヘラ切り離し (左回り)	
2	坏	I 11.9 IV3.8	にぶい黄橙	W・B微	95%	底部外面に煤付着	No 6
3	坏	I (14.3) IV4.8	灰褐	R微	20%		No 2
4	坏	I (12.2) V2.7	灰黄	W極微	5%		
5	坏	I 11.5 IV (3.0)	明赤褐	W微	20%		
6	坏	I 11.4 IV3.1	橙	W微	50%		No 4
7	坏	I 13.0 IV (3.9)	橙	W微	50%		No 10
8	坏	I 14.2 IV3.7	にぶい橙	B微	50%		
9	坏	I (11.1) IV (3.4)	にぶい橙	W極微	30%		
10	坏	I (12.3) IV (3.6)	橙	W微	30%		
11	坏	I (12.6) IV (3.3)	橙	W極微	20%		
12	坏	I (15.2) IV (2.8)	橙	W微	30%		
13	坏	I (16.5) IV (3.1)	黄橙	W極微	30%		
14	坏	I (15.0) IV (3.8)	橙	W極微	20%		
15	坏	I (18.2) IV (4.5)	橙	W微	20%		
16	甕	I 28.0 V 6.4	にぶい橙	B少	30%		No 9
17	甕	II (29.0) V 11.5	にぶい橙	W・B・R微	20%		
18	甕	I 17.5 V 6.3	灰褐	B少	80%		No 1・3
19	甕	I (21.0) V 5.8	橙	W・B・R微	20%		
20	甕	III (4.8) V 2.0	橙	W微	30%	外面に煤付着	
21	甕	III 4.0 V 3.4	橙	W・B多	70%		
22	甕	III 4.2 V 5.0	灰黄褐	W多	100%		No 5

に伴うものかは不明である。

第70号住居跡は50—18グリッドに位置し、第65号住居跡を切る。一辺が2.7mの正方形を呈し、深さは28cm、主軸方位はN—66°—Eである。カマドは、東壁中央に構築されている。燃焼部は5cm程掘り込まれ、火床と思われる硬化した焼土が明瞭に残る。貯蔵穴、柱穴等は検出されていない。

#### 第65号住居跡出土遺物②

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
23	支脚	上部径(4.1) 下部径8.6 IV12.8	橙	W少	95%	外面上部にタール状風物質付着	
24	土鍾	残長3.4 径1.5	明赤褐	W多		7.49 g	
25	土鍾	残長3.4 径1.8	にぶい橙	W微		7.40 g	



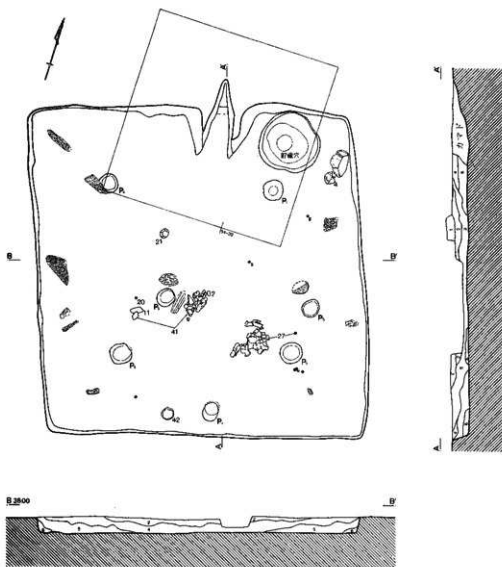
第189図 第70号住居跡出土遺物

#### 第70号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (12.1) V3.6	にぶい黄橙	W微	10%		
2	坏	I 11.0 IV3.3	橙	W・B微	90%		No 1
3	坏	I (12.2) IV(3.1)	にぶい褐	B多	10%		
4	坏	I (12.3) V3.6	橙	W・R少	20%		
5	坏	V0.5	橙	W微	10%	内面に暗文を施す	
6	甕	III7.0 V2.8	にぶい橙	W(1~2mm含)多	80%		

#### 第66号住居跡 (第190・191図)

50—20グリッドに位置する。一辺5.2mの正方形を呈し、深さ23~28cmを測る。主軸方位はN—20°—Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面はやや起伏がある。カマドは北壁に構築され、燃焼部から土師器瓦が横位で出土している。貯蔵穴はカマドの右側に設けられ、97×92cmの円形で、深さは40cmである。柱穴は4箇所検出され(P 1~4)、深さは31cm、29cm、43cm、32cmである。遺物は、住居跡全域から多量に出土しているが、特にカマド周辺に集中する。また、床面の所々に炭化材・炭化灰が見られる。



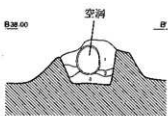
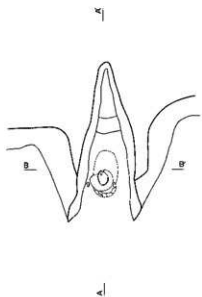
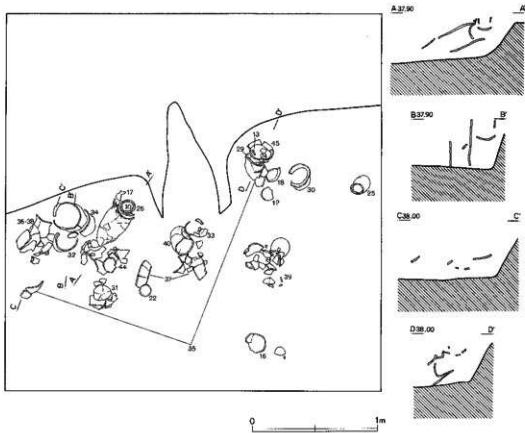
S J 66

1. 黄褐色土 黄色粒子(多)、炭化物、焼土(少)、しまり良
2. 褐色土 黄色粒子(多)、炭化物、焼土(少)、しまり良
3. におい黄褐色土 黄色粒子(多)、炭化物、焼土(多)、しまり良
4. におい黄褐色土 紫色粒子(極多)、しまり良
5. 暗褐色土 炭化物、焼土(多)、黄色粒子含む、しまり良
6. 黒褐色土 炭化物、焼土(多)、黄色粒子、炭化材含む、しまり良

0 2m

第190図 第66号住居跡(1)

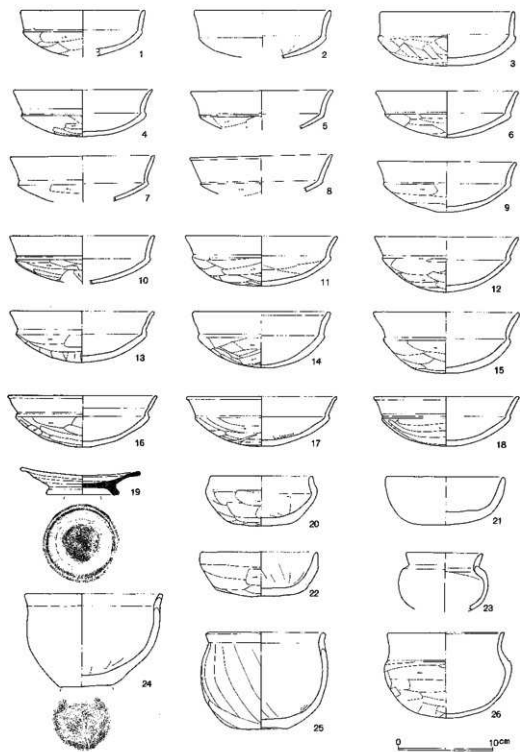




- S J 66カマド
1. 暗褐色土 焼土粒子(少)含む
  2. 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子(多)含む
  3. 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子(多)、灰粒子(少)含む
  4. によい黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子(極少)含む
  5. 褐色土 焼土層



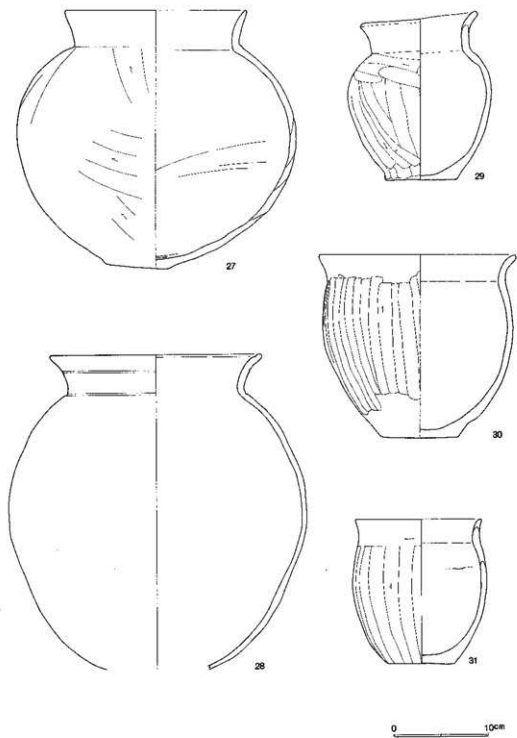
第191図 第66号住居跡(2)



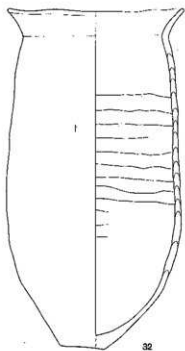
第192图 第66号住居跡出土遺物(1)

## 第66号住居跡出土遺物1)

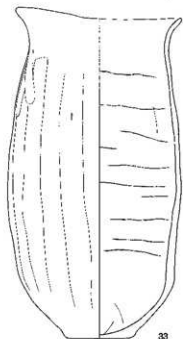
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (13.0)IV (5.0)	橙	R微	20%		No115
2	坏	I (14.5)IV (5.1)	橙	R微	10%		No11
3	坏	I (14.2) IV5.7	橙	R少	70%		No131
4	坏	I 14.8 IV5.0	橙	W極微	90%		No 2・4
5	坏	I (15.1) V4.1	橙	W極微	30%		
6	坏	I 15.0 IV4.9	橙	W・R少	95%	底部外面が黒変	No38
7	坏	I (15.3)IV (5.0)	橙	W微	30%		
8	坏	I (15.1) V3.9	淡橙	R微	30%		
9	坏	I 14.7 IV5.3	橙	W・B微	90%		No48
10	坏	I 15.3 IV5.1	にょい赤褐	R微	95%		No31・43
11	坏	I 16.0 IV5.3	浅黄橙	W微	90%		No 6・9
12	坏	I 15.2 IV5.8	橙	W微	30%		No30
13	坏	I 15.0 IV5.4	橙	W極微	80%		No19・33地
14	坏	I 14.4 IV5.9	にょい橙	W・R微	95%		No42
15	坏	I 15.5 IV6.5	橙	W・R少	95%	カマド	
16	坏	I (15.9) IV5.5	橙	W微	80%		No17
17	坏	I 16.0 IV5.3	橙	W・R微	90%		No32
18	坏	I 15.4 IV5.2	橙	W・R微	80%		No29・30
19	皿	I 12.7VII7.7IV2.0	明褐灰	W(2~3mm含)微	100%	回転糸切り難し	No134
20	碗	I (10.6) IV5.3	にょい黄橙	W・B多	70%	外面全体に煤付着	No 5
21	碗	I 12.4 IV5.1	浅黄橙	B少	90%	内外面に帯状の黒色部分有り	No 4
22	碗	I 12.3 IV4.6	灰褐	W・B(2~3mm含)少	95%	口縁部付近内外面が黒変	No18



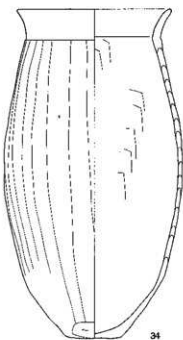
第193図 第66号住居跡出土遺物(2)



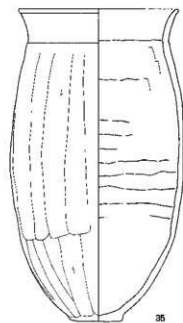
32



33



34



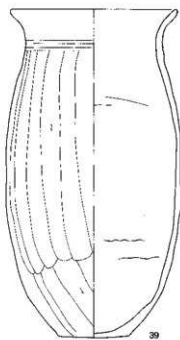
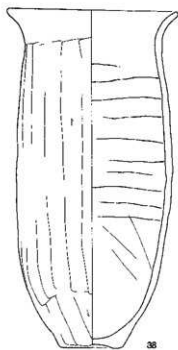
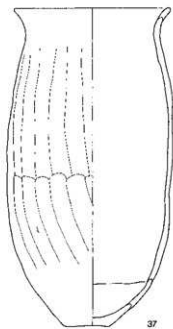
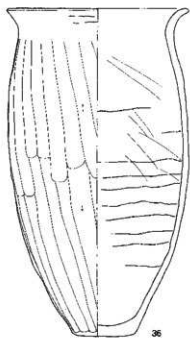
35

0 10cm

第194図 第66号住居跡出土遺物(3)

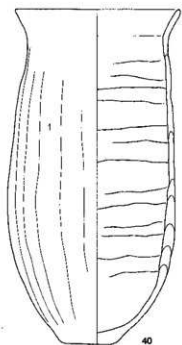
## 第66号住居跡出土遺物(2)

No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
23	碗	I (8.0) II (9.6) V6.1	にぶい橙	R微	20%		
24	椀	I 14.2 II 14.0 III 5.5 IV 9.8	にぶい橙	R微	90%	木葉痕	No40・44
25	碗	I 12.2 II 13.4 III 5.7 IV 10.2	にぶい赤褐	W少	95%		No27
26	碗	I 12.4 IV 9.0	明赤褐	W・R微	90%		No31・39
27	甌	I 19.2 II 29.8 III 7.0 IV 27.4	にぶい橙	R少	90%		No12・24
28	壺	I 22.6 II 31.6 V 33.2	橙	R多	70%		
29	甕	I 12.0 II 15.2 III 7.6 IV 17.0	橙	W少	95%		No45
30	壺	I 20.6 II 20.0 III 8.0 IV 19.3	にぶい橙	W(2~3mm含)少	90%		No24・28
31	壺	I 13.4 II 14.3 III 7.0 IV 15.2	橙	W(2~3mm含)微	80%		No20
32	壺	I 18.8 II 18.5 III 4.6 IV 35.5	橙	W・B・R微	80%	焼成良好	No36
33	壺	I 17.6 II 18.4 III 7.2 IV 34.2	にぶい赤褐	W少	90%	カマド、胴部内面の輪痕痕明瞭	No24
34	壺	I 16.2 II 19.0 III 5.8 IV 34.8	橙	W(2~3mm含)少	90%	輪痕痕明瞭、胴部内面丁寧なナゲ調整、口縁部外面・胴部中位内外面に帯状に煤付着	No35・41
35	壺	I 16.8 II 18.5 III 5.6 IV 33.0	黒褐	W少	80%	口縁部~胴部上半内面に煤付着	No22・46
36	壺	I 19.0 II 19.2 III 6.6 IV 34.7	にぶい橙	W少	90%	胴部内面の輪痕痕明瞭	No33・37 40・44
37	壺	I 16.4 II 17.5 III 4.6 IV 33.7	橙	W極微	80%		No19・26 35

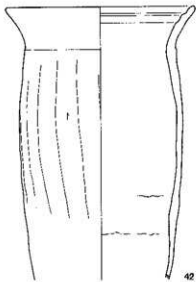


0 10cm

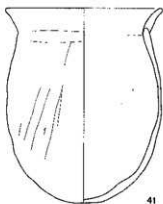
第195図 第66号住居跡出土遺物(4)



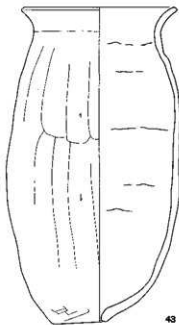
40



42



41

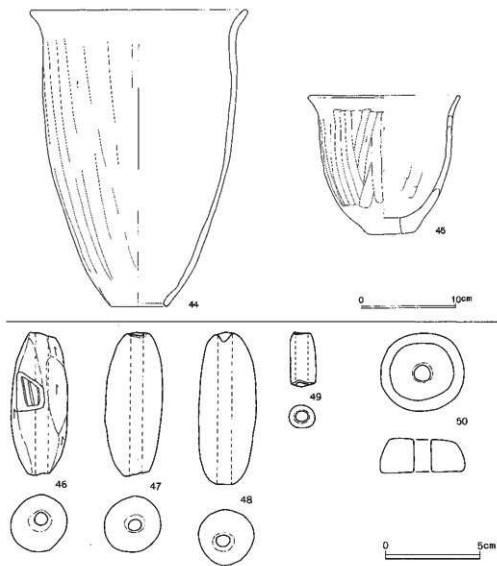


43

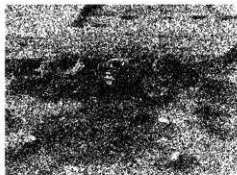


第196図 第66号住居跡出土遺物(5)





第197図 第66号住居跡出土遺物(6)



第66号住居跡カマド付近遺物出土状況

## 第66号住居跡出土遺物(3)

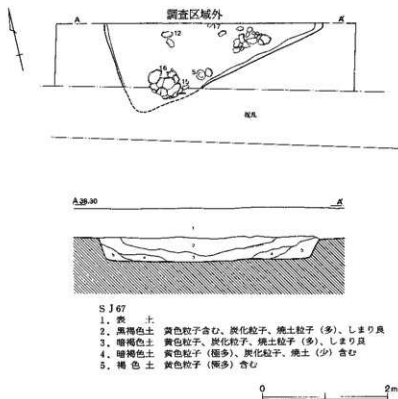
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
38	甕	I 18.2 II 16.6 III 6.8 IV 35.8	にぶい橙	W微	80%		No37
39	甕	I 17.5 II 18.7 III 7.6 IV 34.8	褐灰	W(2~3mm含)微	70%		No23
40	甕	I 17.6 II 17.8 III 5.0 IV 35.5	橙	W微	80%	カマド、木葉痕 胴部内面に輪襷痕	No25・26
41	甕	I 16.5 II 16.4 IV 20.6	褐灰	B少	50%	外面に黒変部分有り	No7・10
42	甕	I (20.0) II 17.4 V 28.9	橙	B・R少	60%	胴部外面に煤付着部分有り	No4・9
43	甌	I 16.0 II 18.4 VI 5.7 IV 33.4	橙	W微	80%		
44	甌	I 22.8 II 20.8 VI 5.8 IV 31.4	にぶい橙	R(2~3mm含)多	70%		No41
45	甌	I 16.0 III 5.0 VI 3.5 IV 14.7	橙	W少	80%		No28・47
46	土鍾	長7.4 径3.0	橙	W・B多		65.43g 外面ヘラツブリ ヘラ状工具によるカキ出し有り	
47	土鍾	残長7.6 径3.0	橙	W・B多		57.26g	
48	土鍾	長8.1 径3.0	橙	W・B多		76.08g	
49	土鍾	残長2.8 径1.4	にぶい黄橙	B少		4.44g	
50	紡錘車	上径3.4 下径4.4 長1.7	明オリーブ灰			47.55g 凝灰岩、完形	



第67号住居跡

第67号住居跡 (第198図)

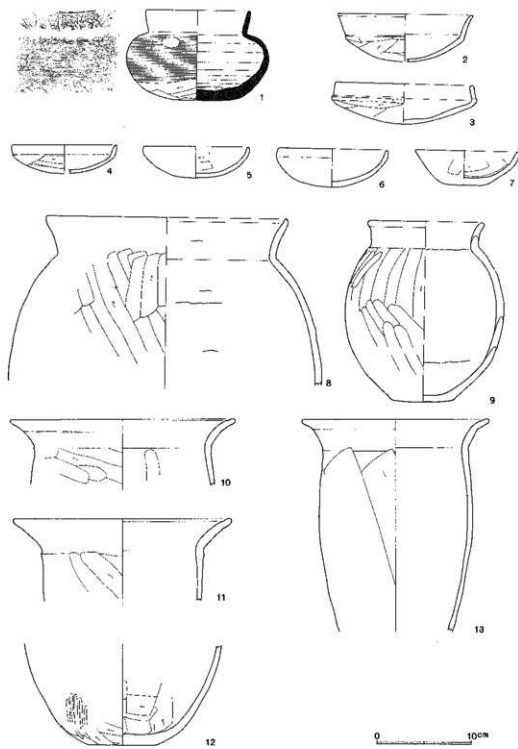
49-16グリッドに位置する。大部分は調査区域外にあり、南西コーナーを溝状の攪乱によって切られる。規模は不明だが、一辺が3.2m 前後になると思われ、深さ32~38cmを測る。壁はやや開き気味に立ち上がる。カマド、貯蔵穴等は検出されていない。遺構のごく一部が検出されたのみであるが多量の遺物が出土している。



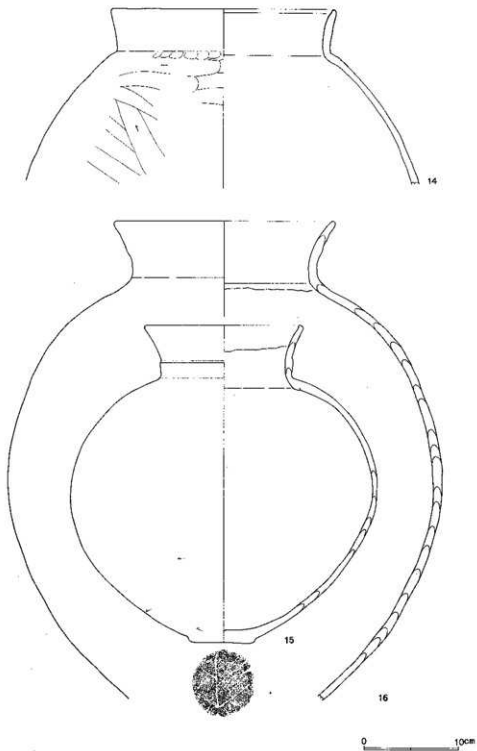
第198図 第67号住居跡

第67号住居跡出土遺物(1)

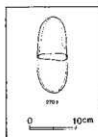
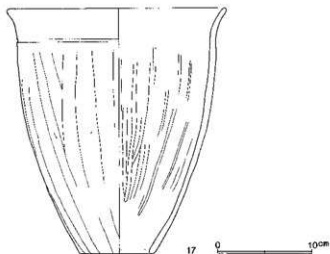
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	小形甕	I 11.1 II 15.2 IV 9.5	褐灰	W微	70%	胴部外面はカキ目の後下位のみ ヘラケズリを施す 胴部外面に指頭痕有り	No 5
2	坏	I (14.2) IV 5.0	橙	W・R微	20%		
3	坏	I (14.5) IV 4.3	にぶい橙	R微	70%		
4	坏	I 11.0 IV 3.0	にぶい橙	W極微	30%		
5	坏	I (11.2) IV 3.3	橙	W極微	10%		
6	坏	I 11.4 IV 4.0	橙	W微	80%		



第199图 第67号住居跡出土遺物(1)



第200図 第67号住居跡出土遺物(2)

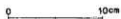
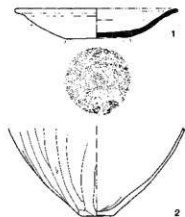
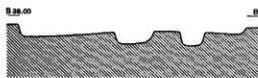
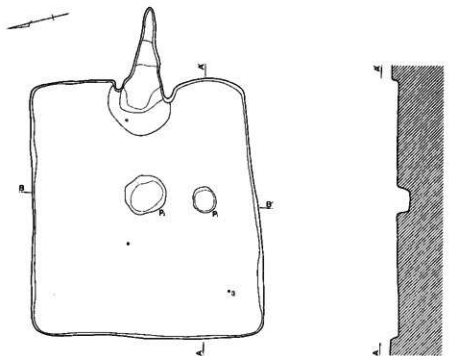


第201図 第67号住居跡出土遺物(3)

第67号住居跡出土遺物(2)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
7	鉢	I 10.8 IV 3.8 V 3.6	褐灰	W・B多	80%		
8	甕	I (25.5) II (33.3) V 17.5	にぶい橙	R微	10%		
9	甕	I 11.8 II 16.8 III 6.5 IV 19.1	にぶい橙	R微	70%		
10	甕	I (24.0) V 6.8	にぶい橙	W微	10%		
11	甕	I <sub>2</sub> (23.2) V 8.7	淡橙	B・R微	10%		
12	甕	III 7.2 V 10.7	にぶい橙	W多	80%		No 7
13	甕	I 20.0 II 22.5 V 22.5	橙	W多	20%		
14	甕	I (23.5) II (41.8) V 18.3	にぶい橙	W微	30%		
15	壺	I 16.2 II 32.6 III 7.0 IV 33.6	橙	B少	80%	木葉痕	No 8
16	甕	I 23.6 II 46.2 V 50.8	橙	B・R微	80%	大形品	No 8
17	甕	I 23.0 II 21.0 VII 7.8 IV 26.0	橙	R微	30%		No 3

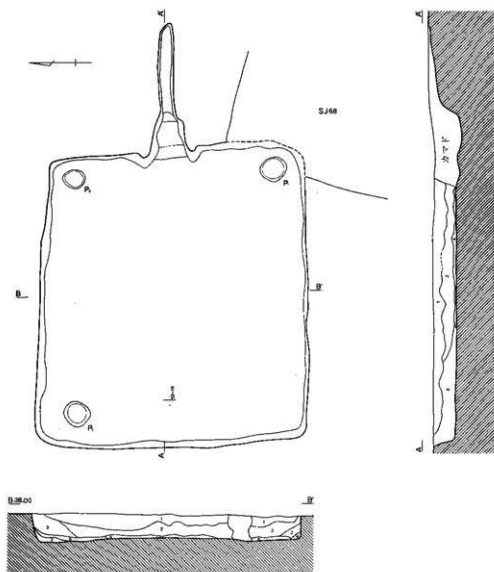
第68号住居跡 (第202・204図)



第203图 第68号住居跡出土遺物







S J 69

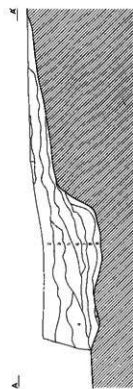
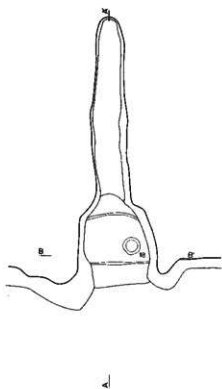
1. 暗褐色土 炭化粒子、火山灰(少)含む
2. 暗褐色土 炭化粒子(微)含む
3. におい黄褐色土
4. 黒褐色土 炭化粒子(少)含む
5. 黒褐色土 炭化粒子(多)含む
6. 黒褐色土 5層に類似、炭化粒子(微)含む
7. 暗褐色土

0 2m

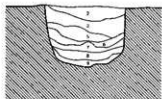
第205図 第69号住居跡(1)

53—19グリッドに位置する。第74・76号住居跡を切り、第68号住居跡に切られる。長軸4.8m・短軸4.2mで東西にやや長い。深さは35～45cm、主軸方位は東である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は中央付近が高くなる。断面観察では噴砂の影響を受けている。

カマドは東壁中央に構築されている。燃燒部は約10cm掘り込まれ、急激に立ち上がり煙道に続く。貯蔵穴は検出されていない。柱穴はコーナー付近で3箇所検出され(P1～3)、深さはそれぞれ6cm、11cm、8cmである。4本柱と思われるが南西コーナー付近には検出されていない。



0.2000

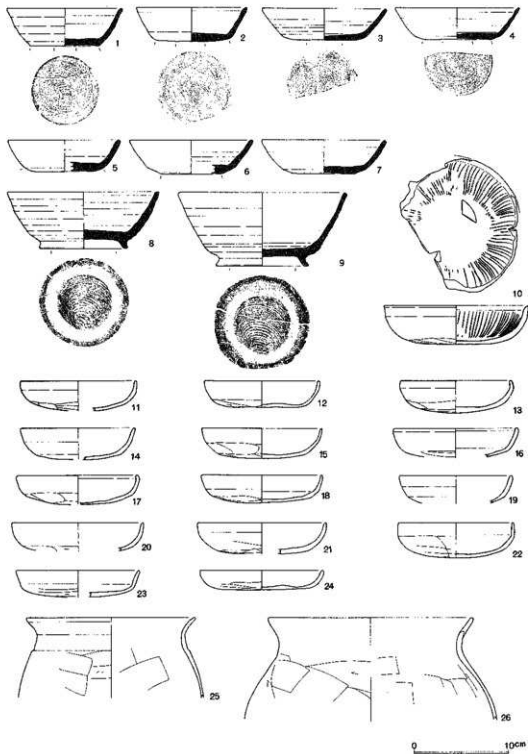


SJ69カマド

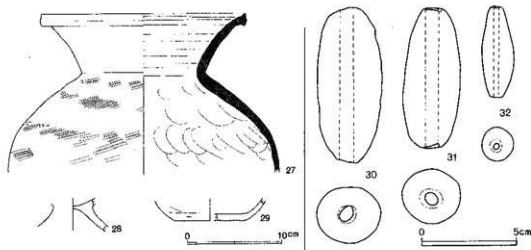
1. 暗褐色土 炭化粒子・火山灰(少)含む
2. 暗褐色土 黄色粒子(多)、炭化粒子・焼土粒子(少)含む
3. 褐色土 黄色粒子(多)、炭化粒子・焼土粒子(少)含む
4. 黒褐色土 黄色粒子(多)、炭化粒子・焼土粒子(少)含む、粘性あり
5. 黒褐色土 黄色粒子・焼土粒子(多)炭化粒子含む
6. 暗赤褐色土 焼土ブロック・焼土粒子(多)含む
7. 黒褐色土 炭化粒子(多)含む、しまりなし
8. 褐色土 黄色粒子・焼土粒子・炭化粒子含む、しまりなし
9. 褐色土 黄色粒子(多)含む、しまりなし



第206図 第69号住居跡(2)



第207图 第69号住居跡出土遺物(1)



第208図 第69号住居跡出土遺物(2)

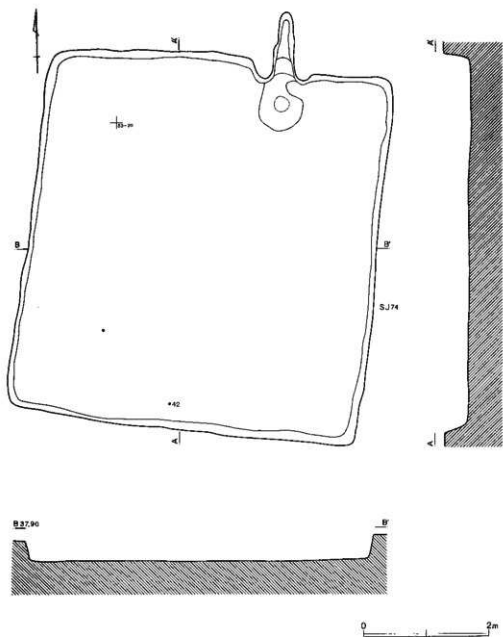
第69号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 12.2 III 7.2 IV 4.0	灰	W(2~3mm含)微	50%	カマド、回転糸切り難し 周辺回転ヘラケズリ(右回り)	
2	坏	I 11.8 III 7.8 IV 3.6	灰白	W極微	70%	回転糸切り難し 周辺回転ヘラケズリ(右回り)	
3	坏	I (13.0) III (7.0) IV 3.3	灰白	W微	20%	回転糸切り難し 風化が激しく不明瞭	
4	坏	I (13.2) III 7.2 IV 3.4	灰	W <sup>+</sup> 微	20%	カマド、回転糸切り難し 周辺回転ヘラケズリ(右回り)	
5	坏	I 11.8 III 6.2 IV 3.8	灰	W微	20%	回転ヘラケズリ(右回り)	
6	坏	I (13.0) III (6.4) IV (3.6)	灰白	W微	20%	周辺回転ヘラケズリ	
7	坏	I 13.0 III 6.8 IV 3.6	灰白	W極微	40%	風化が激しく調整不明瞭	
8	高台坏	I 16.1 VI 9.4 IV 6.0	灰白	W少	90%	回転糸切り難し	
9	高台坏	I 17.5 VI 9.8 IV 7.8	暗灰	W微	70%	回転糸切り難し	
10	坏	I 15.2 IV 4.1	橙	W・R微	60%	カマド、内面に暗文を施す	
11	坏	I 12.2 IV (3.2)	にぶい橙	B微	70%		
12	坏	I 12.1 IV 2.8	橙	B少	70%		

## 第69号住居跡出土遺物②

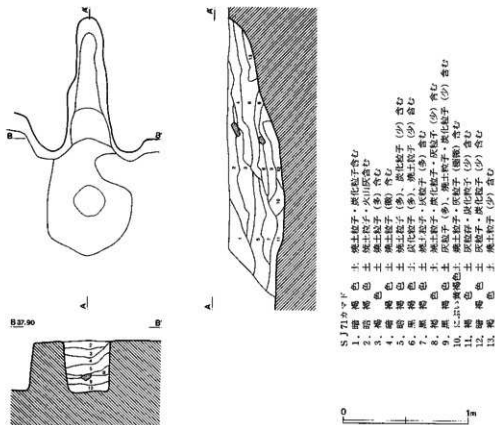
No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
13	坏	I 11.6 IV3.4	橙	W極微	100%		
14	坏	I 12.0 IV(3.3)	橙	B微	50%		
15	坏	I 12.0 IV3.2	橙	B微	30%		
16	坏	I (13.0)IV(3.2)	橙	W極微	20%		
17	坏	I 12.6 IV(3.1)	橙	W微	80%		
18	坏	I 12.6 IV2.9	橙	R微	95%		No 1
19	坏	I 11.8 V2.9	橙	W極微	20%		
20	坏	I (14.0) V3.0	橙	B微	10%		
21	坏	I 13.6 IV(3.3)	橙	W極微	30%		
22	坏	I 12.0 IV3.7	橙	B微	10%		
23	坏	I 13.0 IV(2.8)	橙	R少	20%		
24	坏	I 13.0 IV2.1	橙	R微	30%		
25	甕	I (18.0) V8.5	橙	W多	10%		
26	甕	I 21.8 V10.8	明赤褐	R微	80%		
27	壺	I (21.6) V16.8	灰	W微	20%	体部外面叩きの後一部にヨコナ デを施す、内面に当て具痕有り	
28	高坏	V2.3	明赤褐	W少	30%		
29	甕	III7.5 V2.1	灰赤	W少	90%		
30	土鍾	長8.0 径3.4	橙	W少		86.24 g	
31	土鍾	長7.4 径3.1	浅黄橙	W微		64.73 g	
32	土鍾	長4.8 径1.7	浅黄橙	W少		8.11 g	

第71号住居跡 (第209・210図)



第209図 第71号住居跡(1)

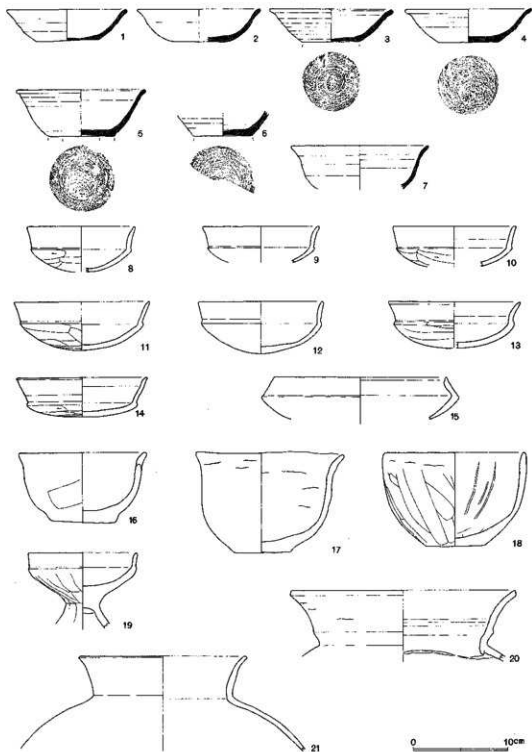
53-20グリッドに位置し、第74号住居跡を切る。長軸6.0m・短軸5.6mで南北にやや長い。深さは33~45cm、主軸方位はN-8°Eである。壁はやや開き気味に立ち上がり、床面は中央付近がわずかに高くなる。カマドは、北壁の東寄りに構築されている。燃焼部の掘り込みは浅く、煙道は緩やかに立ち上がる。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。遺物は、大半が覆土中からである。第216図の43は須恵器甕の口縁部で凸線を2状巡らせ波状文を施している。



第210図 第71号住居跡②

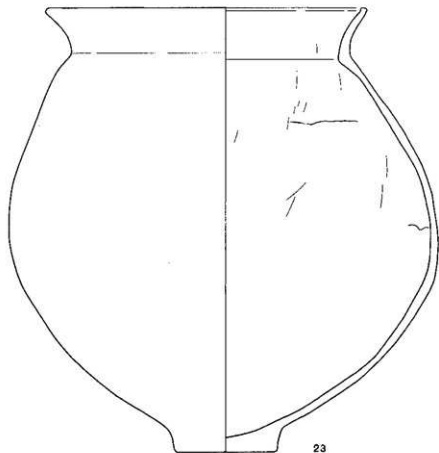
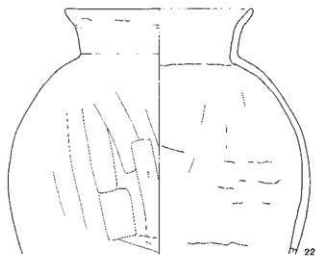
第71号住居跡出土遺物(1)

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	坏	112.7Ⅲ6.6Ⅳ3.2	灰白	W多	70%		
2	坏	113.0Ⅲ6.0Ⅳ3.4	灰白	R多	40%		
3	坏	113.2Ⅲ6.0Ⅳ3.5	赤灰	W少	100%	回転糸切り離しの後木口状工具によるヘラケズリ	
4	坏	113.4Ⅲ6.4Ⅳ3.5	にぶい橙	R多	60%	土師質	
5	坏	118.7Ⅲ7.0Ⅳ4.9	赤灰	W微	70%	回転糸切り離しの後周辺回転ヘラケズリ	



第211图 第71号住居跡出土遺物(1)

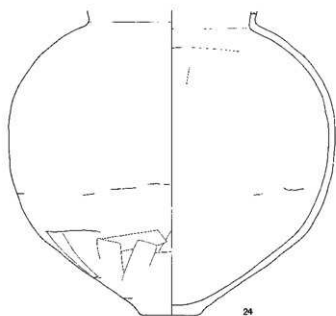




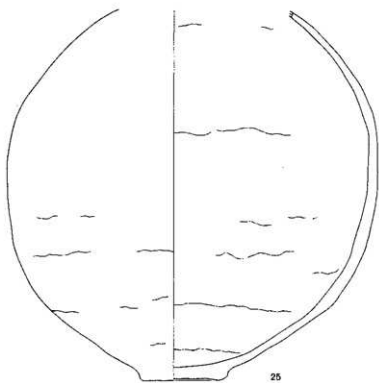
第212図 第71号住居跡出土遺物(2)

## 第71号住居跡出土遺物(2)

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
6	坏	Ⅲ6.5 V2.3	褐灰	W微	50%	回転糸切り難し	
7	坏	I (14.6) V4.6	褐灰	W少	10%		
8	坏	I (11.4) IV(4.8)	橙	R多	50%	底部外面が黒変	
9	坏	I 12.4 IV(4.0)	橙	R多	50%	カマド	
10	坏	I (13.0) V4.3	橙	R少	20%		
11	坏	I 14.3 IV5.1	橙	W・R少	90%	カマド、底部外面に黒斑有り	No.1
12	坏	I 13.2 IV5.5	橙	R少	100%		
13	坏	I 14.0 IV4.9	橙	W・R微	40%		
14	坏	I (14.0) IV4.2	橙	W・B微	40%		
15	坏	I (18.3) IV4.4	橙	R微	20%		
16	碗	I 13.5Ⅲ7.0IV7.3	明赤褐	W多	80%		
17	碗	I 15.8 II13.9 Ⅲ6.0 IV10.5	にぶい橙	W多	80%		
18	鉢	I 14.8Ⅲ5.4IV9.9	橙	B微	90%	内面にヘラ磨きを施す	
19	高坏	I (11.6) V7.9	橙	R少	50%		
20	甗	I 23.6 V7.0	橙	B少	50%		
21	甗	I 18.0 V9.8	橙	B少	60%		
22	甗	I 20.0 II(32.0) V26.0	橙	R少	40%		
23	甗	I (34.2) Ⅲ11.0 II(45.6) IV46.8	淡橙	B少	30%	大形品、内面全体が黒変している	
24	甗	II34.5 Ⅲ6.2 V32.2	橙	W・B多	50%		
25	甗	II(39.5) Ⅲ9.2 V39.0	にぶい橙	W多	60%		



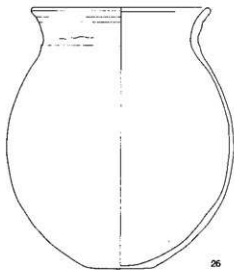
24



25

0 10cm

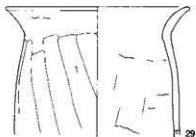
第213図 第71号住居跡出土遺物(3)



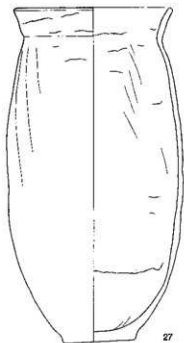
26



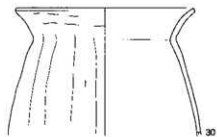
28



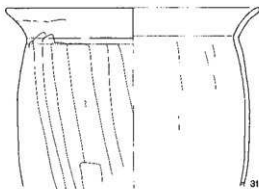
29



27



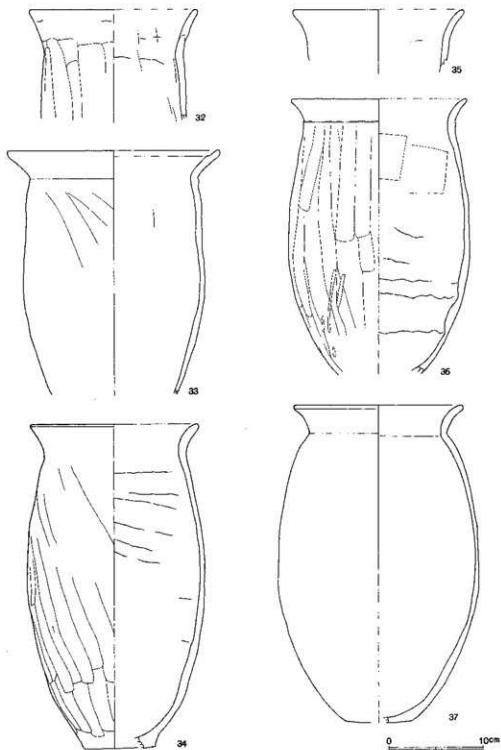
30



31

0 10cm

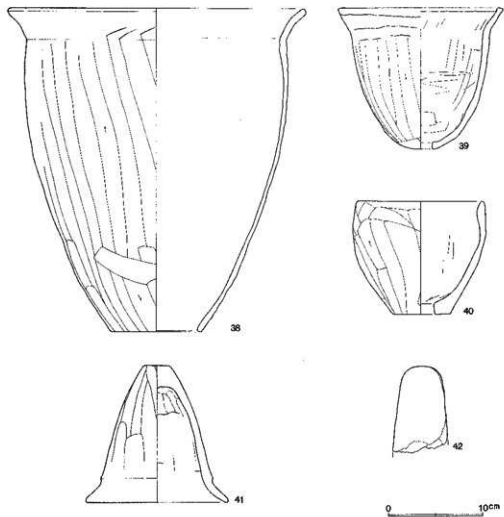
第214図 第71号住居跡出土遺物(4)



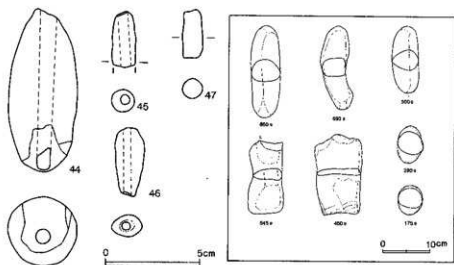
第215図 第71号住居跡出土遺物(5)

## 第71号住居跡出土遺物(3)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
26	甕	I 18.6 II 24.0 III 7.2 IV 27.5	黄橙	W・B少	60%		
27	甕	I 17.0 II 18.8 III 7.6 IV 35.3	橙	W少	90%	胴部中～下位に煤付着、木葉痕	
28	甕	I 17.5 V 11.1	橙	W微	50%		
29	甕	I 19.5 V 13.5	橙	W多	80%		
30	甕	I 18.8 V 13.4	にぶい橙	B少	40%		
31	甕	I 26.8 V 18.8	浅黄橙	W・R微	40%		
32	甕	I 17.8 V 11.5	橙	W・R微	60%		
33	甕	I 22.5 II 19.3 V 25.8	にぶい橙	W・B・R少	70%		
34	甕	I 17.6 II 19.0 III 7.6 IV 34.3	明赤褐	B少	80%		
35	甕	I 18.0 V 5.5	橙	W・R少	60%		
36	甕	I 18.6 II 19.2 V 29.1	明黄褐	W・R微	80%	胴部内面の輪積痕が明瞭	
37	甕	I 17.8 II 21.4 III (7.6) IV (33.5)	にぶい黄橙	R多	50%		
38	瓶	I 31.2 II 28.0 VII 9.6 IV 34.2	にぶい橙	W(2～5mm)・R少	60%		
39	瓶	I 17.5 VII 2.2 IV 14.9	橙	W(2～3mm含)微	90%		
40	瓶	I 13.4 III 6.2 VII 3.1 IV 11.9	灰白	W・B少	100%		
41	支脚	I 15.2 III 2.8 IV 14.4	明黄褐	W多	50%		
42	支脚	上部径4.5 V 8.8	にぶい橙	W極微	50%		No 2
44	土鍾	残長8.5 径3.7	にぶい赤褐	B少		104.61g	



第216図 第71号住居跡出土遺物(6)



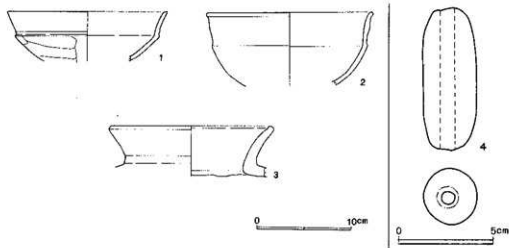
第217図 第71号住居跡出土遺物(7)

第71号住居跡出土遺物(4)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
45	土罐	残長3.0 径1.2	淡黄	B微		3.70g	
46	土罐	長3.5 径1.6	にぶい黄橙	W極微		5.56g	
47	土罐	残長2.5 径1.1	にぶい黄橙	W極微		2.77g 未製品	

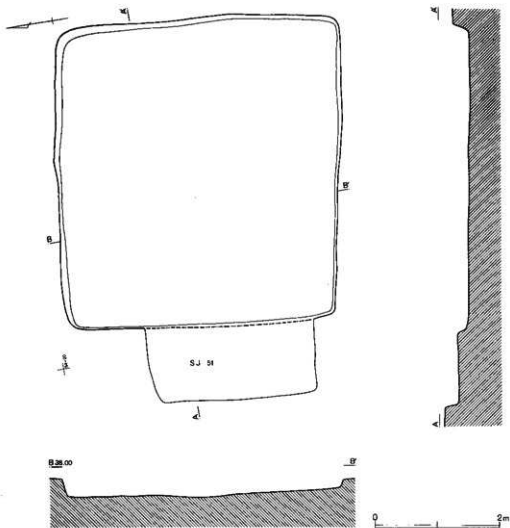
第72号住居跡 (第219図)

54-20グリッドに位置する。第73・74号住居跡を切り、第51号住居跡に切られる。規模は、長軸4.8m・短軸4.5m、深さ16~30cmを測る。主軸方位はS-81°-Eである。壁は開き気味に立ち上がり、床面北半が低くなっている。カマド、貯蔵穴等は検出されておらず、遺物も少量である。



第218図 第72号住居跡出土遺物



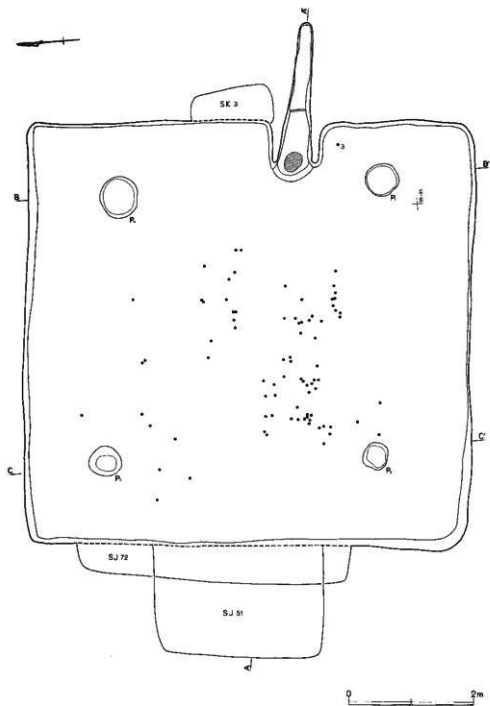


第219図 第72号住居跡

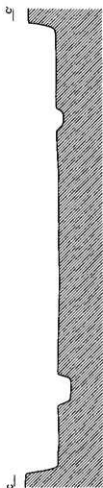
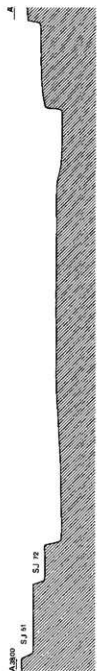
第72号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (17.0) V5.2	橙	R少	20%		
2	坏	I (17.6) V7.7	橙	R少	10%		
3	甗	I (16.8) V4.3	にぶい橙	B・R多	20%		
4	土鍾	長7.5 径2.9	浅黄橙	W散	67.25 g		

第73号住居跡 (第220~222図)



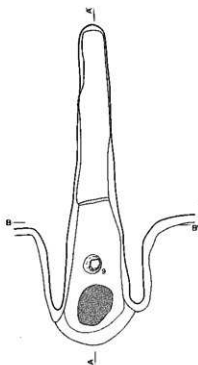
第220図 第73号住居跡(1)



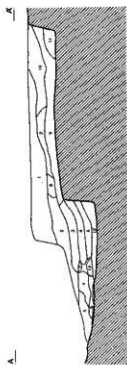
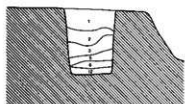
第221図 第73号住居跡(2)

54—20グリッドに位置する。第74号住居跡を切り、第51・72号住居跡、第3号土壇に切られる。長軸7.1m・短軸6.8mで南北にわずかに長い。深さは44~54cm、主軸方位はS-86°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は中央からカマド付近が高くなる。

カマドは、東壁中央よりやや南に構築されている。燃焼部の掘り込みは深くなく、支脚に転用されたと思われる土師器高坏が倒位で検出され、脚部には硬化した焼土が詰まっていた。炊き口には硬化した焼土が明瞭に残り、上層に灰層が見られる。貯蔵穴は検出されていない。柱穴は、4箇所検出され(P1~4)、深さはそれぞれ12cm、12cm、23cm、19cmである。遺物は覆土中のものが多いが、床直から長さ7cm前後の大型の土鏝が14個まとまって出土している。



B37.90

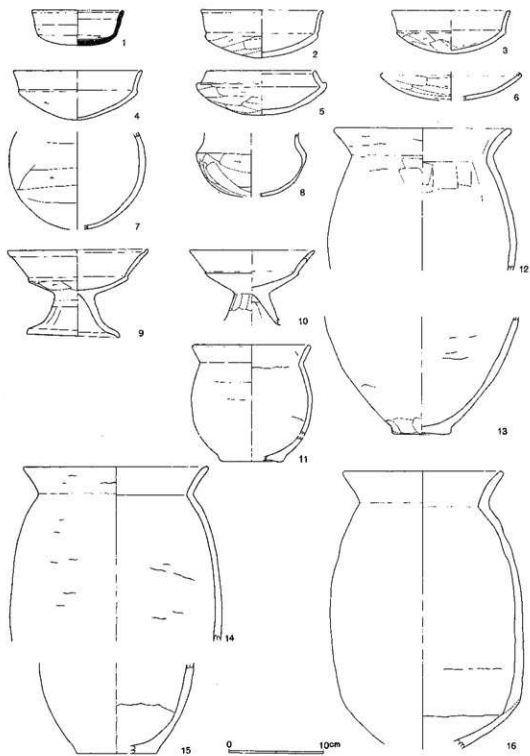


S J 73カマド

- |     |         |                    |
|-----|---------|--------------------|
| 1.  | 褐色土     | 焼土粒子(少)含む          |
| 2.  | 暗褐色土    | 焼土粒子・炭化粒子(少)含む     |
| 3.  | 黒褐色土    | 焼土粒子・灰粒子・炭化粒子(多)含む |
| 4.  | 黒褐色土    | 焼土粒子・灰粒子(少)含む      |
| 5.  | 赤褐色土    | 焼土層、暗褐色粒子(多)含む     |
| 6.  | 黒色土     | 灰層、焼土粒子(多)含む       |
| 7.  | 暗赤褐色土   | 焼土層、硬化             |
| 8.  | 赤褐色土    | 焼土層、硬化             |
| 9.  | にぶい黄褐色土 | 焼土粒子(多)含む          |
| 10. | 暗褐色土    | 焼土粒子(多)含む          |
| 11. | 黒褐色土    | 焼土粒子(多)含む          |
| 12. | 褐色土     | 焼土粒子(少)含む          |
| 13. | 暗赤褐色土   | 焼土層                |

0 1m

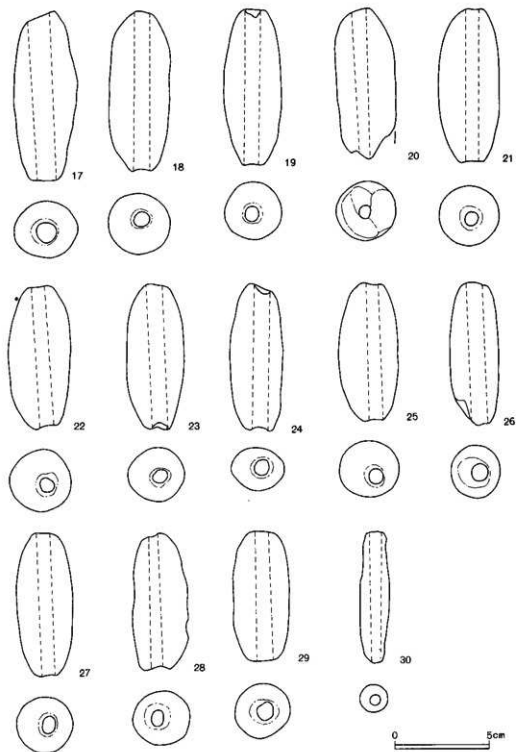
第222図 第73号住居跡(3)



第223図 第73号住居跡出土遺物(1)

## 第73号住居跡出土遺物

No	器種	法 規 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
1	坏	I 9.6 IV3.7	灰	W少	100%		No 2
2	坏	I 13.0 IV5.0	橙	B・R少	80%		
3	坏	I 12.6 IV4.6	橙	R微	50%		
4	坏	I 13.6 IV5.2	橙	R少	60%		
5	坏	I 11.6 IV4.7	にょい橙	W微	90%		
6	坏	V3.0	明赤褐	W極微	40%		
7	壺	II14.4 V10.3	橙	R(2~5mm)少	70%		
8	坏	V6.8	橙	W微	70%		
9	高坏	I 15.0III9.8IV9.1	橙	W微	100%	カマド	
10	高坏	I 13.2 V7.4	にょい橙	W極微	80%	カマド	
11	壺	I (12.6) II (12.9)III (6.8)	にょい赤褐	W・B少	40%		
12	壺	I (19.8) V15.0	にょい褐	W・B少	40%	外面全体に煤付着	
13	壺	III6.3 V12.5	にょい赤褐	R多	60%		
14	壺	I (19.8) II (22.6) V18.4	にょい橙	W・B少	50%		
15	壺	III (8.5) V9.6	にょい赤褐	W少	40%		
16	壺	I 16.6 II20.5 V29.5	にょい褐	W多	70%		
17	土罐	長8.8 径3.4	橙	W・B少	75.05%	床直	
18	土罐	長8.3 径3.3	にょい黄橙	W・B・R少	90.75%		
19	土罐	長8.2 径3.1	にょい黄橙	B微	76.02%	床直	
20	土罐	残長8.0 径3.2	にょい黄橙	W・B少	73.36%	床直	
21	土罐	長8.2 径3.2	にょい橙	W・B微	88.15%	床直	



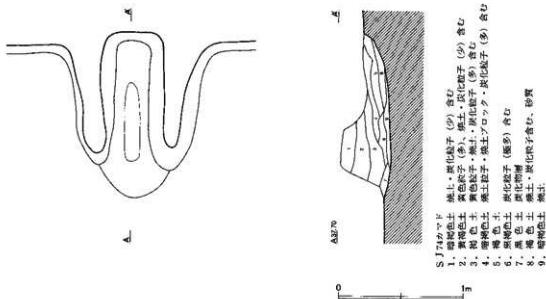
第224図 第73号住居跡出土遺物(2)

第73号住居跡出土遺物(2)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
22	土鍾	長7.4 径3.3	にぶい黄橙	B微		78.87% 床直	
23	土鍾	長7.5 径3.1	にぶい黄橙	B微		67.28% 床直	
24	土鍾	長7.4 径2.8	橙	W・B・R多		47.04% 床直	
25	土鍾	長7.1 径3.2	にぶい黄橙	B微		67.95% 床直	
26	土鍾	残長7.5 径2.6	明赤褐	W・B多		51.50% 床直	
27	土鍾	長7.5 径3.0	浅黄橙	B微		68.97% 床直	
28	土鍾	長7.0 径3.1	橙	W・B・R多		60.37%	
29	土鍾	長6.8 径3.0	にぶい黄橙	B微		63.27% 床直	
30	土鍾	長6.9 径1.5	橙	B微		13.91%	

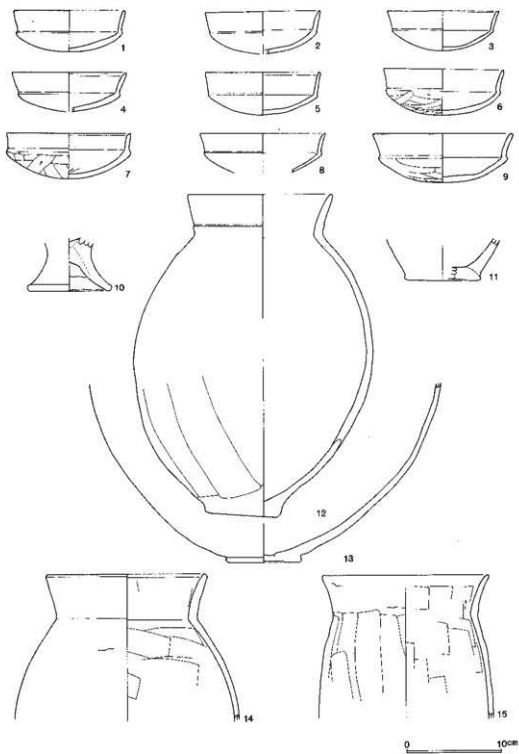
第74号住居跡 (第225・227図)

53—20グリッドに位置する。周辺の重複する住居跡全てに切られるため、壁は上場・下場共に断続的に検出された。規模は、長軸7.7m・短軸7.4m程度と推定される。深さ40～50cm、主軸方位はS—63°—Eである。西壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は若干の起伏がある。カマドは東壁に構築されているが、上場は明瞭に検出できなかった。遺物は比較的多く、長さ8cmを超す大型の土鍾が含まれる。第229図21は、須恵器高坏の脚部であり、透し孔がわずかに残る。



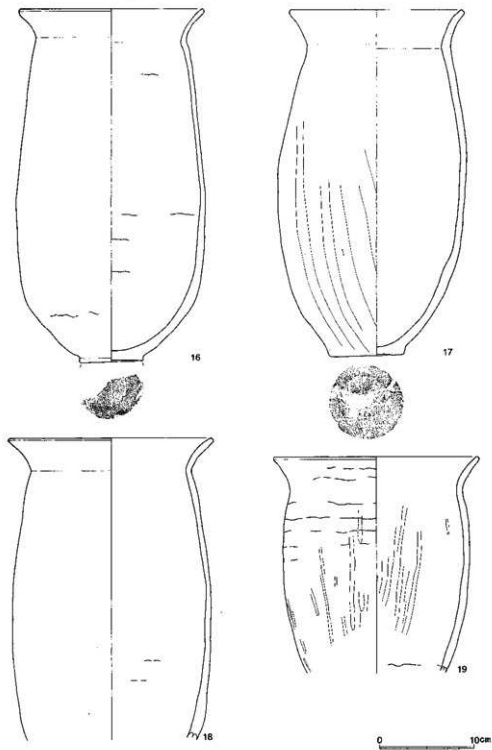
第225図 第74号住居跡(1)



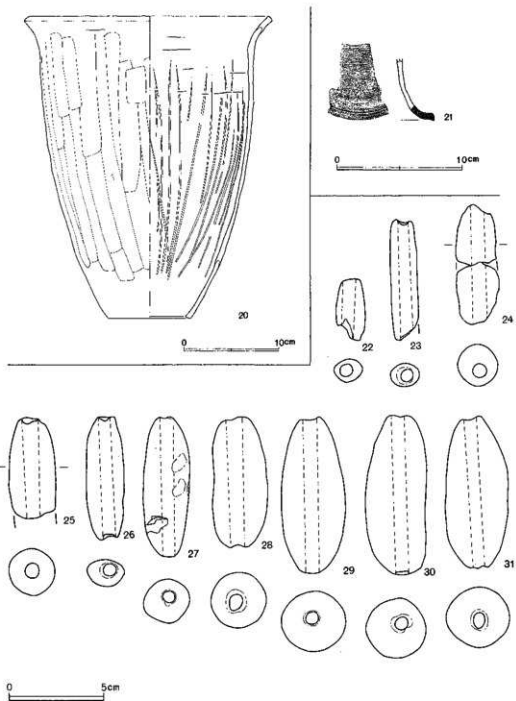


第226図 第74号住居跡出土遺物(1)





第228図 第74号住居跡出土遺物(2)



第229図 第74号住居跡出土遺物(3)

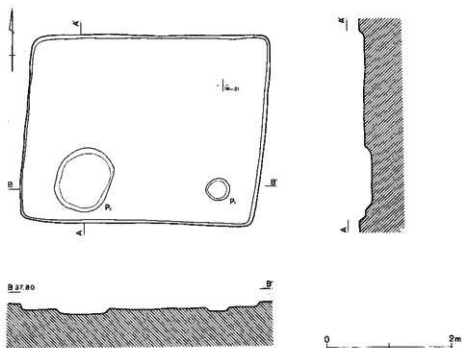
## 第74号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 11.7 IV4.4	橙	W・R少	40%		No11
2	坏	I (12.0) IV(5.5)	明赤褐	R多	30%		
3	坏	I (11.8) IV4.2	橙	R多	40%		
4	坏	I (12.0) IV(4.2)	橙	R少	40%		
5	坏	I 12.2 IV4.5	橙	R少	90%	底部外面に黒色部分あり	No3・6・7
6	坏	I 12.6 IV4.9	橙	R多	70%	底部外面に黒色部分あり	No1
7	坏	I 13.2 IV4.8	橙	W・R微	50%	底部外面が黒変している	
8	坏	I (13.3) IV(4.1)	橙	R少	30%		
9	坏	I (15.0) IV5.2	明赤褐	R少	30%		
10	台付壺	III8.6 V5.0	橙	W・B少	50%		
11	壺	III8.0 V4.4	にぶい赤褐	W・R少	70%	木葉痕	
12	壺	I 15.2 II25.5 III7.8 IV3.4	明赤褐	B少	80%		No12
13	壺	III8.0 V18.8	にぶい橙	R少	70%		No14
14	壺	I 16.6 V15.3	明褐	B微	40%		No11
15	壺	I 17.6 V15.1	にぶい橙	R少	20%		No11
16	壺	I 19.2 II20.0 III6.7 IV37.5	橙	B微	40%	木葉痕	
17	壺	I 18.2 II20.0 III7.8 IV36.6	橙	W多	90%	木葉痕?	No13
18	壺	I 21.3 II21.0 V32.0	橙	W少	50%		No13
19	瓶	I (21.5) II (19.8) V23.0	にぶい橙	B多	20%	胴部内外面にヘラミガキを施す	No14
20	甗	I 25.3 II22.6 VII8.6 IV32.0	橙	B少	95%	口縁部・底部内面一部に煤付着	No15

第74号住居跡出土遺物②

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
22	土鍾	残長3.3 径1.5	にぶい褐	W多		5.36g	
23	土鍾	残長6.2 径1.5	にぶい橙	B微		11.95g	
24	土鍾	残長6.2 径2.2	橙	B・R微		19.97g	
25	土鍾	残長5.3 径2.5	明赤褐	W・B多		28.02g	
26	土鍾	残長6.3 径2.0	橙	W少		17.19g	
27	土鍾	残長7.3 径2.5	橙	B微		39.52g	指頭痕有り
28	土鍾	残長6.6 径3.0	にぶい橙	W(1~2割合)微		59.28g	
29	土鍾	長8.1 径3.5	にぶい橙	B微		83.69g	
30	土鍾	長8.3 径3.3	淡黄	W微		83.60g	
31	土鍾	長7.8 径3.4	橙	B少		84.54g	

第75号住居跡 (第230図)



第230図 第75号住居跡

55—21グリッドに位置する。規模は、長軸3.8m・短軸3.0mで東西に長い。深さは7～10cmと浅く、主軸方位はN—88°—Wである。カマド、貯蔵穴は検出されていない。ピットは2箇所検出され、共に15cm前後であり、住居跡に伴うものかどうか不明である。遺物は、極めて少量であり、図示できるものは1点である。



第231図 第75号住居跡出土遺物

#### 第75号住居跡出土遺物

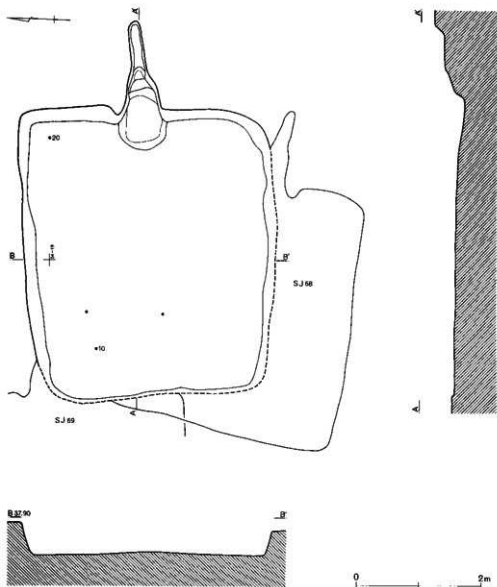
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	鉢	I (25.8) V12.6	灰	W微	10%		

#### 第76号住居跡 (第232・233図)

54—19グリッドに位置する。第74・91号住居跡を切り、第68・69号住居跡に切られる。南辺、西辺は下場のみ検出されている。規模は、長軸4.7m・短軸4.0m程度と推定され、深さは約50cmを測る。主軸方位はN—83°—Eである。カマドは、東壁中央に構築されている。燃焼部は10cm程掘り込まれ、段を持って煙道へ続く。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。遺物は、須恵器坏、土師器坏等が出土しているが、北東コーナーから刀子の刃部と思われる鉄製品が出土している。

#### 第76号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I13.3 III6.8 IV3.5	灰	W少	50%	回転糸切り離し後周辺回転ヘラケズリ	
2	坏	I (14.1) IV (3.5) III8.6	灰	W微	40%	口唇部内面に自然釉付着 回転糸切り離し後周辺回転ヘラケズリ (右回り)	
3	坏	I (14.0) III8.0 IV (3.8)	灰白	W・W微	30%	回転糸切り離し後周辺回転ヘラケズリ (右回り)	
4	壺	III10.8 V4.8	灰	W微	70%	カマド、外面に叩き目痕有り	No 1
5	台付甕	III11.6 V6.9	灰白	Wなし	40%		
6	台付甕	III14.4 V9.5	灰	W少	80%		No 4
7	坏	I13.6 IV4.2	橙	R少	30%		

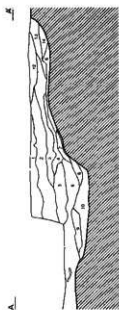
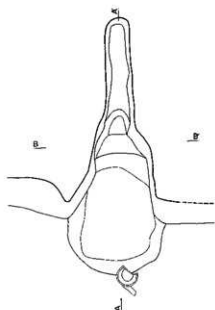


第232図 第76号住居跡(1)

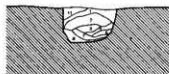
第76号住居跡出土遺物(2)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
8	坏	I 13.8 IV(3.0)	にぶい橙	W少	40%		
9	坏	I 13.7 IV2.6	明赤褐	R多	70%	内面に暗文を施す	No 2
10	手捏ね	I 4.7 III4.2 IV3.3	橙	W・B少	95%	外面麻付着	No 3
11	甕	I 18.8 V3.8	橙	W少	30%	カマド	





B3780



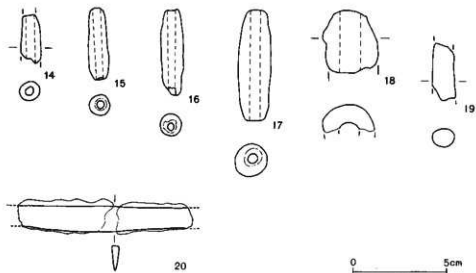
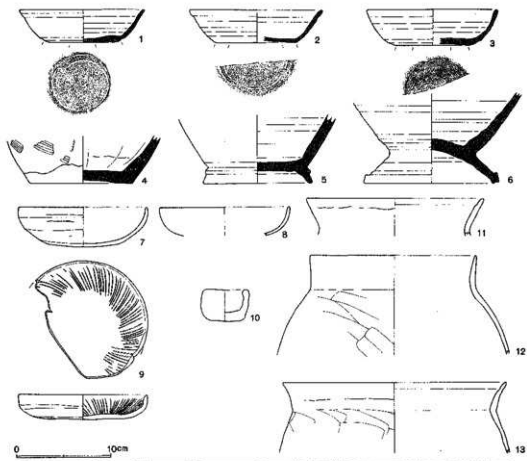
0 1m

第233図 第76号住居跡(2)

第76号住居跡出土遺物(3)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
12	甕	I (17.6) V10.3	橙	B・R少	10%		
13	甕	I (23.8) V7.8	明赤褐	R多	20%		
14	土罐	残長2.6 径1.1	にぶい橙	W極微		2.51g	
15	土罐	残長3.8 径1.1	橙	W多		3.67g	
16	土罐	残長4.5 径1.2	明赤褐	R微		5.62g	
17	土罐	長5.8 径1.8	にぶい赤褐	R多		8.48g	
18	土罐	残長3.3 径(2.9)	橙	W(1~2mm)微		7.62g	
19	土罐	残長3.0 径1.2	にぶい黄橙	W極微		2.83g	未製品
20	刀子?	残長9.4					刃部のみ、錆の吹き出しが著しい

SJ76のトマ  
 1. 暗褐色土、灰化粒子・火山灰含む  
 2. 暗褐色土、灰化粒子含む  
 3. にぶい黄褐色土、灰化粒子(少)含む  
 4. 黒褐色土、灰化粒子(多)含む  
 5. 黒褐色土、灰化粒子(多)含む  
 6. 黒褐色土、灰化粒子、灰化粒子含む  
 7. 黒褐色土、灰化粒子、灰化粒子、灰化粒子含む  
 8. 黒褐色土、灰化粒子、灰化粒子(多)含む  
 9. 黒褐色土、灰化粒子(多)含む  
 10. 黒褐色土、灰化粒子(多)、灰化粒子(少)含む  
 11. 黒褐色土、灰化粒子(極微)含む  
 12. 暗褐色土、灰化粒子(多)含む  
 13. 黒褐色土、灰化粒子(多)含む  
 14. 黒褐色土、灰化粒子(多)含む



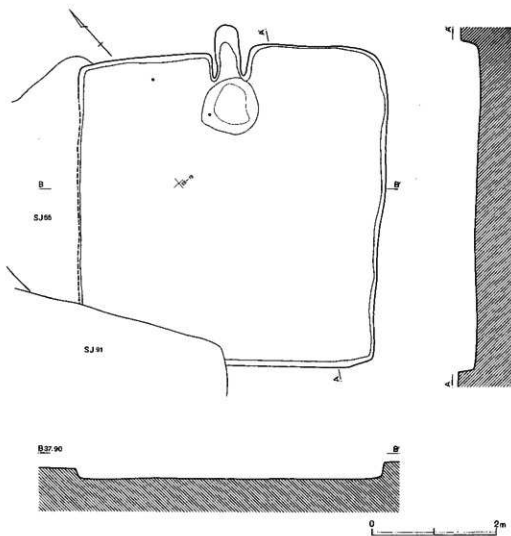
第234圖 第76号住居跡出土遺物

第77号住居跡 (第235・236図)

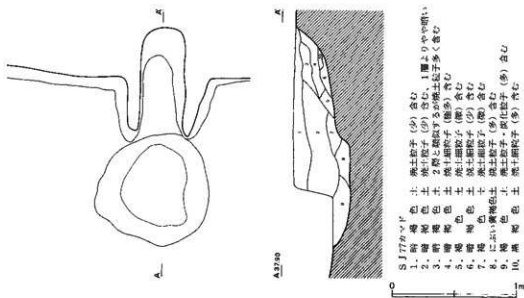
55—19グリッドに位置する。第89号住居跡を切り、第55・91号住居跡に切られる。長軸5.1m・短軸5.0mでほぼ正方形を呈し、深さは25～32cmを測る。主軸方位はN—44°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は中央付近がやや高くなる。

カマドは、北壁中央に構築されている。カマド前面は深さ約10cm掘り下げられており、覆土は焼土粒子・炭化粒子を含む褐色土であった。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。

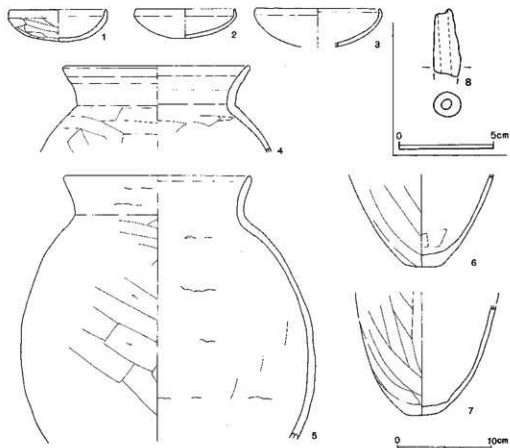
遺物の量はさほど多くなく、土師器環・壺・土鏝が出土している。



第235図 第77号住居跡(1)



第236図 第77号住居跡(2)



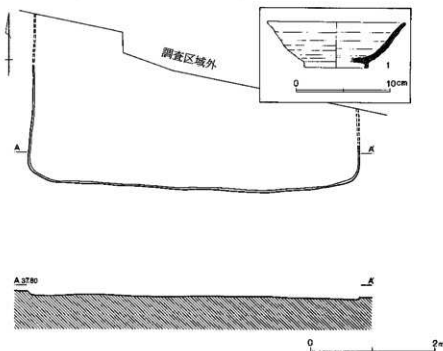
第237図 第77号住居跡出土遺物

### 第77号住居跡出土遺物

No.	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No.
1	坏	I 10.3 IV3.3	橙	B微	95%	外面に黒斑有り	
2	坏	I 10.6 IV3.1	橙	B・R微	60%		
3	坏	I (13.2)IV(4.2)	橙	B・R微	30%		
4	甕	I 20.0 V9.0	にょい橙	B多	80%		
5	甕	I (19.6) II (31.0) V28.2	にょい橙	R少	20%		
6	甕	III4.6 V9.7	にょい橙	W・B少	60%	外面に煤付着	
7	甕	III3.2 V11.6	橙	B・R多	70%	外面に煤付着	
8	土罐	残長3.6 径1.4	にょい橙	B微		5.04g	

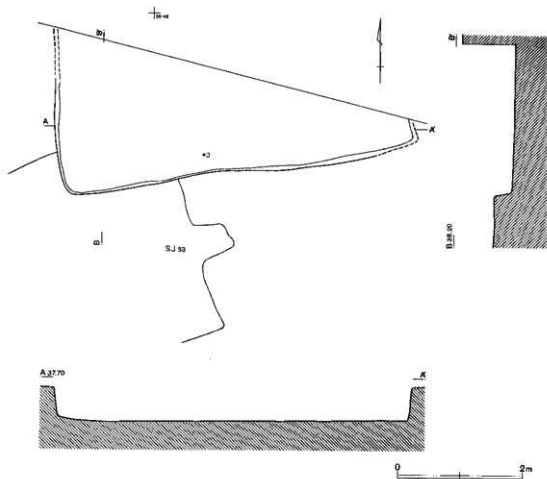
### 第78号住居跡 (第238図)

57—18グリッドに位置し、大半が調査区域外にある。規模は、検出されている南辺で5.3mを測り、深さは2～7cmと極めて浅い。カマド、貯蔵穴は検出されていない。遺物は、極めて少量で、図示した須恵器高台付坏は、土師質で橙色を呈している。

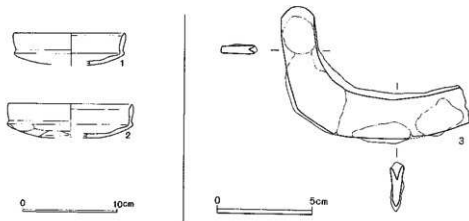


第238図 第78号住居跡

第79号住居跡 (第239図)



第239図 第79号住居跡



第240図 第79号住居跡出土遺物

56—18グリッドに位置する。第90号住居跡を切り、第53・58号住居跡に切られる。規模は、検出されている南辺で5.7m、深さ52cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

カマド、貯蔵穴は検出されていない。

遺物は極く少量であるが、南壁際から鉄製の鋤先が出土している。

#### 第79号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (11.8)IV (3.5)	橙	R多	20%		
2	坏	I (13.2)IV (3.7)	橙	R少	30%		No 2
3	鋤先	残長10.3 幅1.8~2.1				鉄製、鋼の吹き出しが著しい	No 2

#### 第80号住居跡 (第241図)

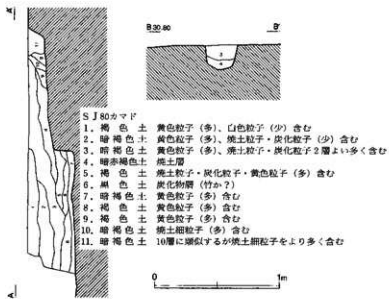
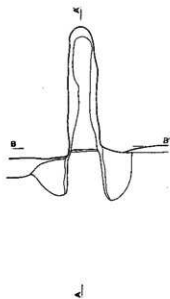
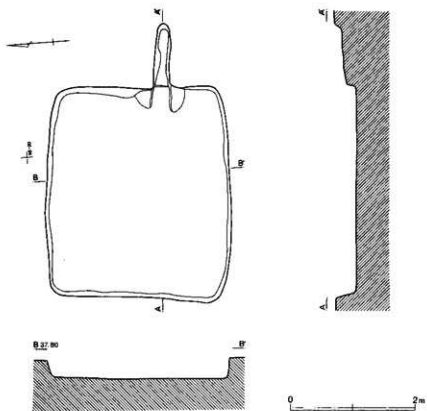
57—20グリッドに位置し、第84号住居跡を切る。長軸3.4m・短軸2.9mで東西に長い。深さは28~36cmを測り、主軸方位はS—86°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

カマドは、東壁中央よりやや南寄りに構築されている。両袖は貧弱で断面三角形を呈する。燃焼部の掘り込みはなく、ほぼ垂直に立ち上がり煙道へ続く。煙道部には天井部の崩落かと思われる焼土層が明瞭に残る。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。

出土遺物は、極めて小片少量であり、図示できるものはない。



発掘作業風景



第241図 第80号住居跡

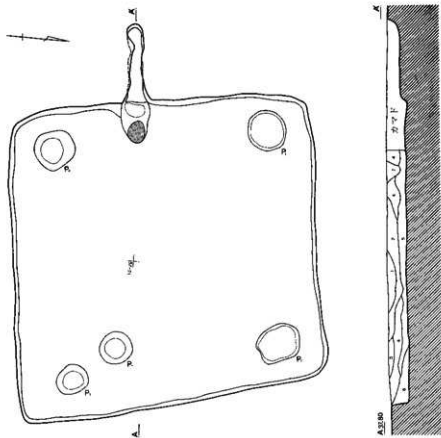


第81号住居跡 (第242・243図)

56—20グリッドに位置し、第85号住居跡を切る。一辺約5.0mだが、北辺がやや短く台形状を呈する。深さは26~30cmを測り、主軸方位はS—81°—Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は中央付近が高くなる。

カマドは、西壁に構築されている。燃焼部の掘り込みは浅く、炊き口と思われる部分には焼土が明瞭に残る。袖は検出されておらず、煙道はオーバーハング気味に残る。貯蔵穴は検出されていない。柱穴は、4箇所検出され (P1~5)、深さはそれぞれ21cm、36cm、27cm、25cmである。

遺物は、土師器坏・甕等や刀子と思われる鉄製品が出土している。

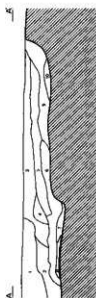
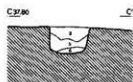
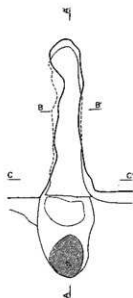


S J 81

1. 暗褐色土 炭化粒子含む
2. 黒褐色土 炭化粒子、焼土粒子含む
3. 暗褐色土 焼土粒子 (多) 含む
4. 褐色土 炭化粒子、焼土粒子含む
5. 暗褐色土 炭化粒子含む
6. 黒褐色土 炭化粒子、焼土粒子含む
7. 暗褐色土



第242図 第81号住居跡(1)



S J 81カマド

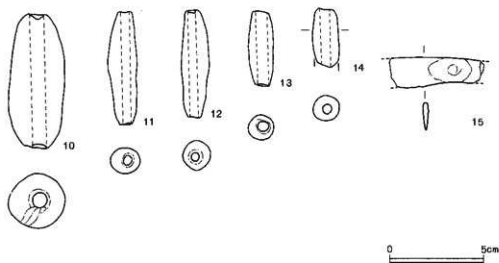
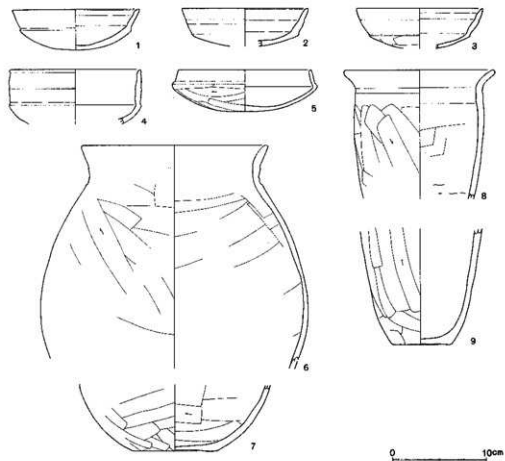
1. 褐色土 焼土粒子・炭化粒子含む
2. 暗褐色土 炭化粒子含む
3. 黒褐色土 焼土粒子(少)含む
4. 暗褐色土 焼土粒子・灰粒子(多)含む
5. 暗褐色土 焼土粒子(少)含む
6. におい黄褐色土 焼土粒子・灰粒子(多)含む
7. 暗褐色土 焼土粒子・灰粒子・炭化粒子(多)含む
8. 黒褐色土 焼土粒子・灰粒子(多)含む
9. 黒褐色土 焼土粒子(少)含む
10. 黒褐色土 焼土粒子(少)含む、9層より黒い

0 1m

第243図 第81号住居跡(2)

第81号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 13.5 IV 4.3	橙	W(1~2mm)多	40%		
2	坏	I 13.5 IV(4.1)	橙	W(1~2mm)多	40%		
3	坏	I 13.4 IV(4.8)	におい橙	B少	50%		
4	坏	I(14.0) V 5.8	におい橙	B微	30%		
5	坏	I(14.0) IV 4.4	浅黄橙	B微	30%		
6	甕	I(20.0) II(28.5) V 22.6	におい橙	W微	30%		
7	甕	III 9.0 V 7.0	におい橙	W少	70%	胴部外面に黒変部分あり	
8	甕	I(16.0) V 13.7	橙	W・R微	70%		



第244圖 第81号住居跡出土遺物

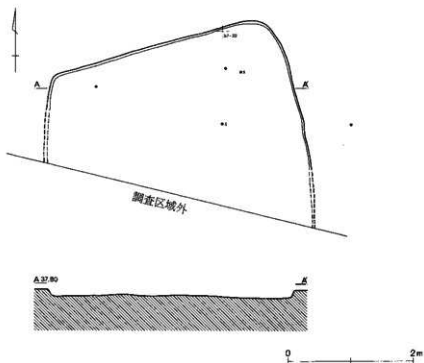
第81号住居跡出土遺物(2)

No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
9	罌	III6.3 V12.2	橙	W・R多	40%		
10	土錘	長7.2 径3.1	にぶい黄橙	W(1~2mm含)微		59.45g	
11	土錘	長5.9 径1.6	明赤褐	R微		12.14g	
12	土錘	長5.6 径1.5	にぶい黄橙	W極微		11.95g	
13	土錘	長3.9 径1.4	赤褐	W微		6.40g	
14	土錘	残長3.1 径1.4	赤褐	W多		4.62g	
15	刀子?	残長5.1					鉄製

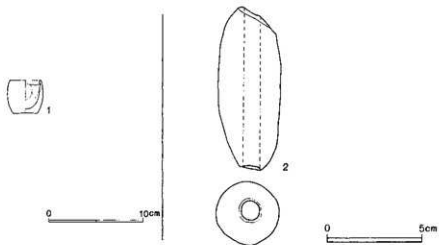
第82号住居跡 (第245図)

56-22グリッドに位置し、南半は調査区域外にある。規模は、検出された北辺で3.9mを測る。深さは8~14cmと浅く、床面はやや起伏がある。カマド、貯蔵穴は検出されていない。

出土遺物は、極めて少量である。第246図1は橙色を呈するミニチュア土器で、残存率は80%である。2は、長さ8.1cm・重さ92.73gの大型の土錘で、色調はにぶい橙色をしている。

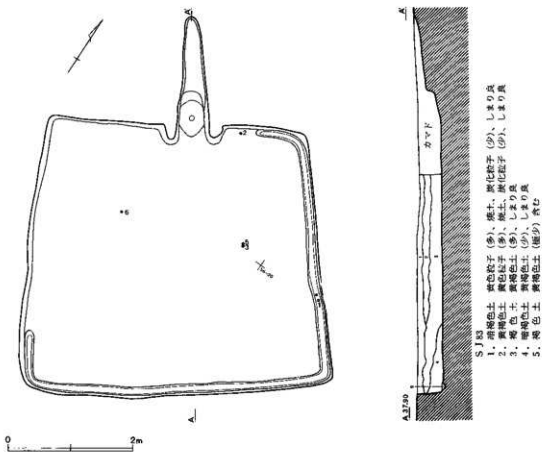


第245図 第82号住居跡



第246図 第82号住居跡出土遺物

第83号住居跡 (第247・248図)



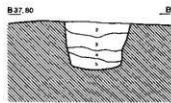
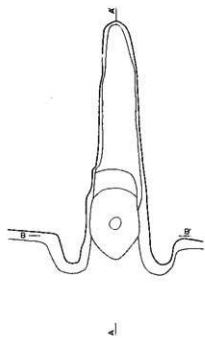
第247図 第83号住居跡(1)

55—20グリッドに位置する。長軸4.7m・短軸4.3mでやや東西に長く、カマドを中心にわずかに扇状に開く。深さは43cm、主軸方位はN—31°—Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。覆土は、おおむね4層で自然埋没の様相を示している。

カマドは、北壁中央よりやや東に構築されている。燃焼部の掘り込みはごくわずかで、覆土に焼土粒子・灰粒子を含むが、焼土層・灰層は見られない。底面はやや凹凸があり、緩い傾斜を持って立ち上がって、煙道へ続く。煙道は長く、掘り込みもしっかりしている。

壁溝は、北東コーナーから南西コーナーにかけて検出されている。全体的に掘り込みが浅く、3～5 cm程度である。貯蔵穴・柱穴は検出されていない。

遺物は少量で、土師器環・甕が出土しており、全て破片である。

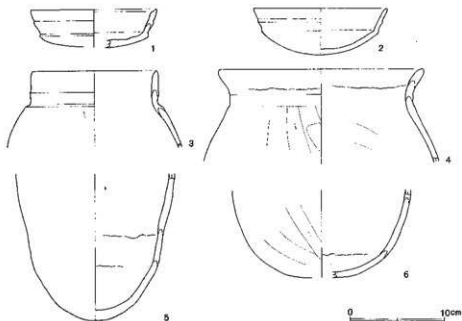


S J 83カマド

1. 暗褐色土 黄色粒子(多)、焼土粒子・炭化粒子(少)含む
2. 黄褐色土 黄色粒子(多)、焼土粒子・炭化粒子(少)含む
3. 褐色土 黄色粒子(多)含む
4. にぶい黄褐色土 焼土粒子含む
5. 褐色土 焼土粒子・灰粒子含む



第248図 第83号住居跡(2)



第249図 第83号住居跡出土遺物

第83号住居跡出土遺物

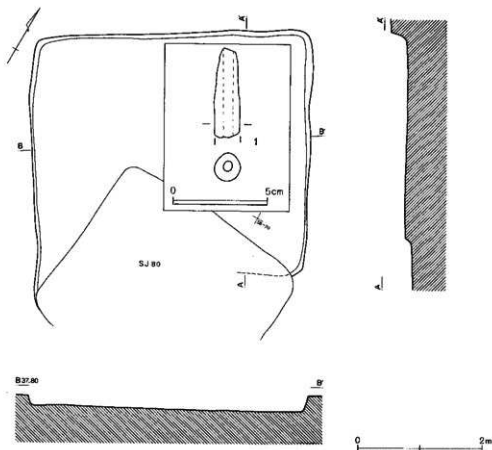
No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	坏	I (13.4) IV (4.0)	橙	W・B・R多	30%		No 5
2	坏	I 14.2 IV 4.9	におい橙	W・R少	40%	内面全体に煤付着	No 3
3	甕	I (13.2) V 8.0	橙	R微	30%		No 2
4	甕	I (21.8) V 9.7	橙	W・B・R微	20%	外面に黒色部分有り	
5	甕	V 15.5	褐灰	W(2~3mm)・小石多	60%	外面は黒変している	
6	甕	III 8.0 V 9.2	橙	B・R少	50%	外面に黒色部分有り	No 1

第84号住居跡 (第250図)

57-19グリッドに位置し、第80号住居跡に切られる。規模は南辺上に第80号住居跡があるため明確ではないが、長軸4.5m・短軸3.9m 前後の東西に長い長方形を呈するものと思われる。深さは15~26 cmを測り、主軸方位はN-30°-Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面はおおむね平坦である。

カマド、貯蔵穴等の施設は検出されていない。

出土遺物は極めて少量で、図示できるのは土錘1点のみである。



第250図 第84号住居跡

第84号住居跡出土遺物

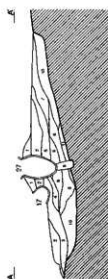
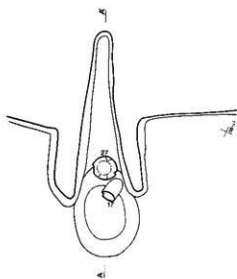
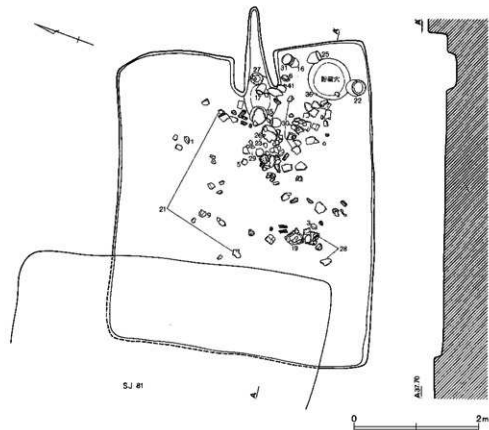
No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	土鏝	残長4.7 径1.4	明赤褐	B微		7.76g	

第85号住居跡 (第251図)

57-20グリッドに位置し、第81号住居跡に切られる。長軸5.1m・短軸4.1mで東西に長い。深さは23~30cmを測り、主軸方位はN-70°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。北壁・西壁の第81号住居跡に切られる部分は下場のみ検出された。

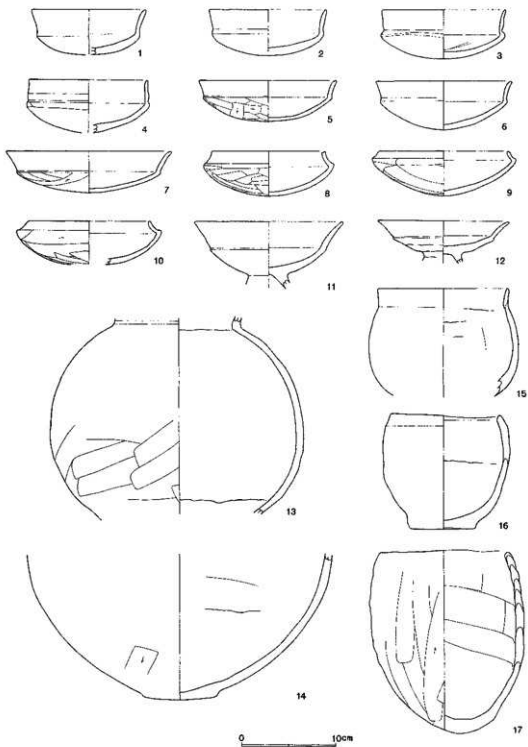
カマドは、東壁に構築されている。燃焼部は10cmほど掘り込まれ、緩やかに煙道へ続く。燃焼部中央には長さ約15cmの河原石を支脚として立て、その上に壺が正位に据え置かれた状態で出土している。貯蔵穴はカマド右側の南東コーナー付近に検出され、68×65cmの円形を呈し、深さは18cmである。遺物は、カマド前面に集中しており、土器器坏・壺・甕、土鏝等が出土している。土鏝は長さ7cmを超す大型のものを含め10点出土し、石鏝は床面に散在した状態で出土している。また、住居跡中央付近で、床面から10cmほど浮いた状態であるが馬の歯(下顎)が出土している。



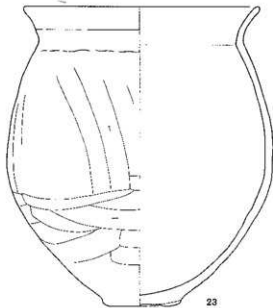
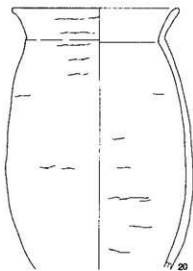
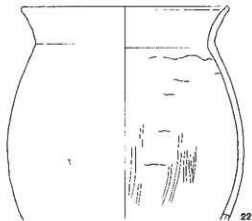
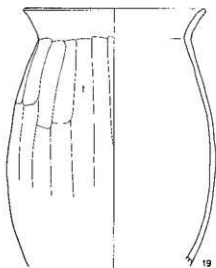
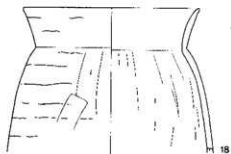


- S 185の状況
1. 暗褐色土
  2. 褐色土
  3. 暗褐色土、灰化粒子(多)含む
  4. 暗褐色土、黄色粒子(多)含む
  5. 赤褐色土
  6. 赤褐色土、灰化粒子含む
  7. 暗褐色土、灰化粒子(多)含む
  8. 暗赤褐色土
  9. 暗赤褐色土、灰化粒子(多)含む
  10. 暗褐色土
  11. 暗褐色土、灰化粒子(少)含む

第251図 第85号住居跡



第252图 第85号住居跡出土遺物(1)

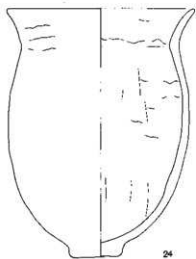


0 10cm

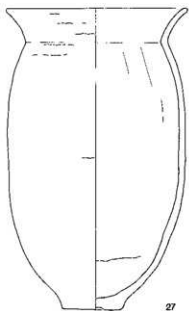
第253図 第85号住居跡出土遺物(2)

## 第85号住居跡出土遺物(1)

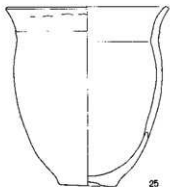
No.	器種	法 基 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No.
1	坏	I 12.0 IV4.8	橙	W微	40%		No23
2	坏	I 12.4 IV4.9	橙	W・R(1~2mm)微	40%		
3	坏	I (13.0) IV5.2	橙	R多	50%		No12
4	坏	I 12.5 IV(5.6)	橙	R多	50%		
5	坏	I 14.6 IV4.3	橙	W・B微、R少	50%		No26
6	坏	I (14.4) IV5.1	橙	W微、R多	70%		No36・60
7	坏	I 17.4 IV4.4	橙	R微	50%		
8	坏	I (12.0) IV4.7	にぶい橙	B・R微	40%		
9	坏	I (13.2) IV4.7	にぶい橙	R微	60%		No 4
10	坏	I 12.7 IV(4.7)	黒褐	W・R微	50%		
11	高坏	I (15.8) V6.5	橙	R・W少	50%		
12	高坏	I 14.0 V4.3	橙	R微	80%		
13	壺	II27.0 V20.7	灰白	B少	90%		
14	壺	II32.3 III7.6 V15.2	にぶい橙	W・R(1~2mm)少	20%		
15	甕	I (14.0) II(15.9) V11.4	にぶい橙	W微	20%		No63
16	甕	I 11.6 II13.5 III7.0 IV11.8	にぶい黄橙	B少	95%		No83
17	甕	I 13.6 II16.2 IV19.4	にぶい褐	W・B少	95%	整形が非常に雑、輪積痕明瞭	No71・79
18	甕	I 18.7 V15.3	にぶい黄橙	W・B微	40%	外面の輪積痕明瞭	
19	甕	I 19.0 II22.2 V27.2	にぶい橙	W・B少	80%		No11
20	甕	I 17.8 II20.0 V27.6	橙	B微	80%		



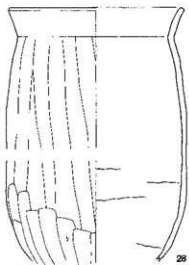
24



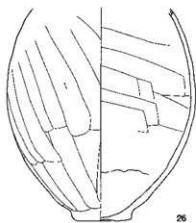
27



25



28



26



29

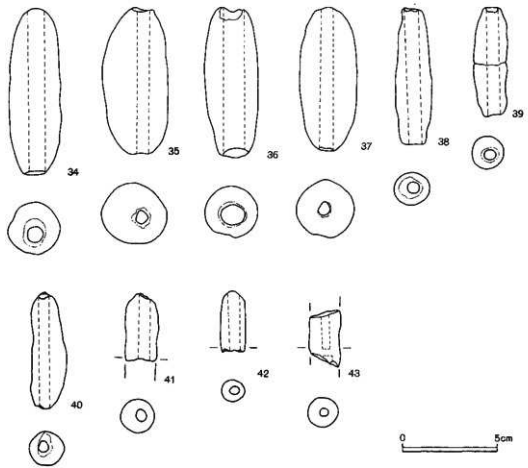
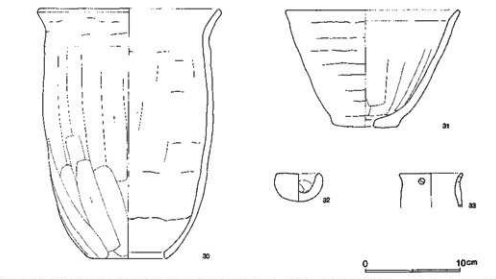


0 10cm

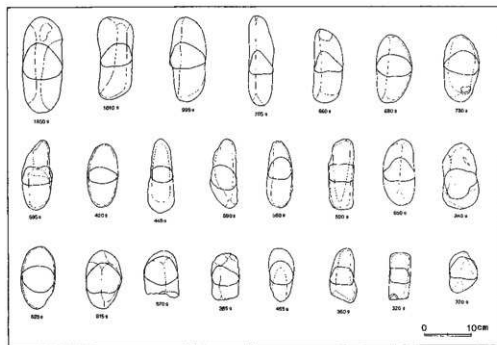
第254回 第85号住居跡出土遺物(3)

## 第85号住居跡出土遺物(2)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
21	甕	I (16.0) V13.6	にょい褐	W少	20%		No 2・72
22	甕	I 21.8 II 25.0 V22.6	橙	B多	60%	胴部内面に黒斑有り	No85
23	甕	I 25.0 II 28.2 III 8.4 IV 31.7	にょい黄橙	W少	80%		No39
24	甕	I (20.0) II 19.2 III 5.4 IV 26.2	にょい橙	W・B多	70%	内面全体に煤付着	No84
25	甕	I 16.8 II 15.8 III 6.2 IV 18.8	にょい橙	W・B多	90%		No84
26	甕	II 20.0 III 5.8 V 22.4	橙	W多	80%		No38
27	甕	I 19.2 II 19.0 III 6.4 IV 31.8	橙	B少	95%		No80
28	甕	I 18.2 II 19.2 V 16.5	にょい黄橙	W多 R(ブロッケ)2~3少	80%		No13・15
29	甕	III 7.3 V 2.0	にょい橙	B少	50%	木葉痕	No30
30	甕	I 18.8 II 18.8 III 8.0 IV 26.5	明赤褐	W・R多	80%		No41・44 56
31	甕	I 18.5 III 7.0 VII 1.7 IV 12.3	にょい橙	B少	100%		No82
32	手握ね	I 4.4 IV 2.9	橙	W多	70%	内外面に煤付着	
33	ミニチュア	I (6.2) V 3.6	灰黄褐	B微	10%	口縁部に孔を持つ	
34	土罐	長8.8 径2.8	橙	W・B・R微		58.06g	
35	土罐	長7.6 径3.5	淡黄	W・B		86.08g	
36	土罐	長8.0 径2.8	橙	W・B・R少		59.01g	No49
37	土罐	長7.6 径3.1	にょい橙	B微		66.92g	
38	土罐	長7.2 径1.9	淡黄	B微		23.23g	



第255圖 第85号住居跡出土遺物(4)



第256図 第85号住居跡出土遺物(5)

第85号住居跡出土遺物(3)

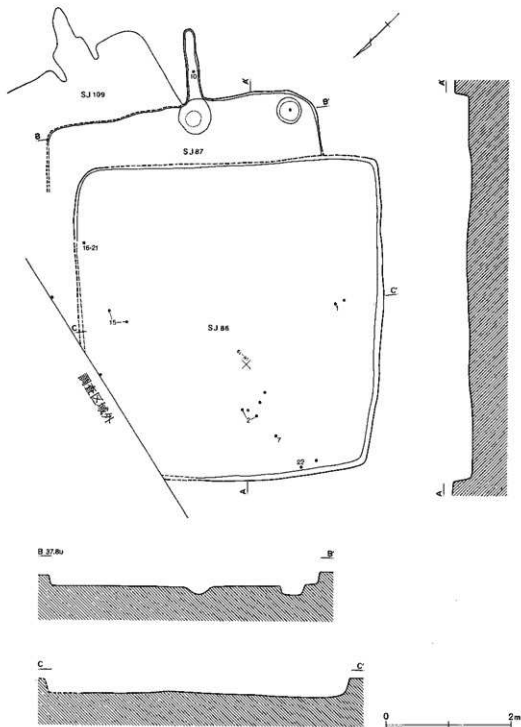
No.	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No.
39	土鍾	長5.7 径1.7	橙	B微		17.28 g	
40	土鍾	長6.2 径1.9	淡黄	B微		18.57 g	
41	土鍾	残長3.5 径1.8	灰黄褐	B(2~3mm含)微		11.00 g	No58
42	土鍾	残長3.2 径1.3	橙	R微		4.54 g	
43	土鍾	残長3.0 径1.6	にぶい黄橙	B微		8.22 g 孔が貫通していない	

第86・87号住居跡 (第257・258図)

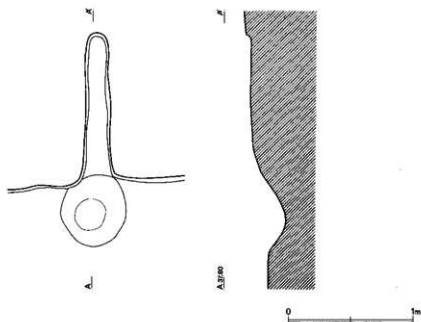
第86号住居跡は58—19グリッドに位置する。第87・92号住居跡を切り、第109号住居跡に切られ、北西コーナーは調査区域外にある。一辺が4.9mの正方形で、深さは25~32cmを測る。主軸方位はS—47—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は起伏がある。カマド、貯蔵穴等は検出されていない。遺物は、土師器環・壺等が出土し、西壁際から土製勾玉が出土している。

第87号住居跡は58—19グリッドに位置する。第92号住居跡を切り、第86・109号住居跡に切られる。明瞭に検出できたのは南東コーナーとカマドの煙道のみであり、規模等は不明である。カマドは東壁に構築されている。燃焼部は約15cm掘り込まれ、底は丸くなっている。出土遺物は、土師器





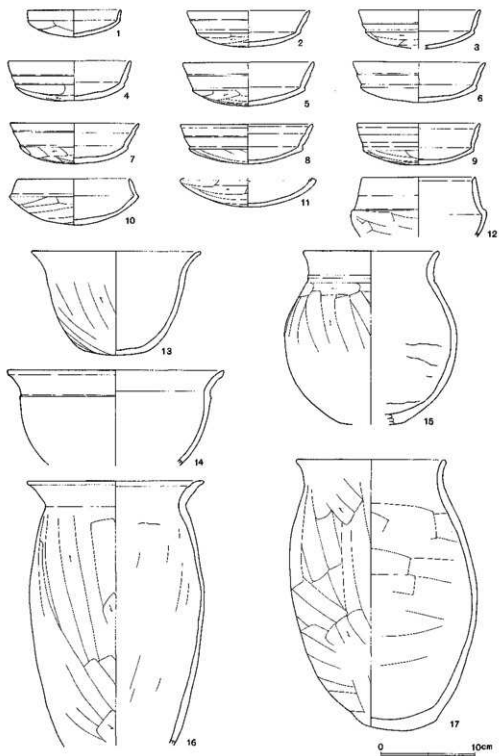
第257図 第86・87号住居跡



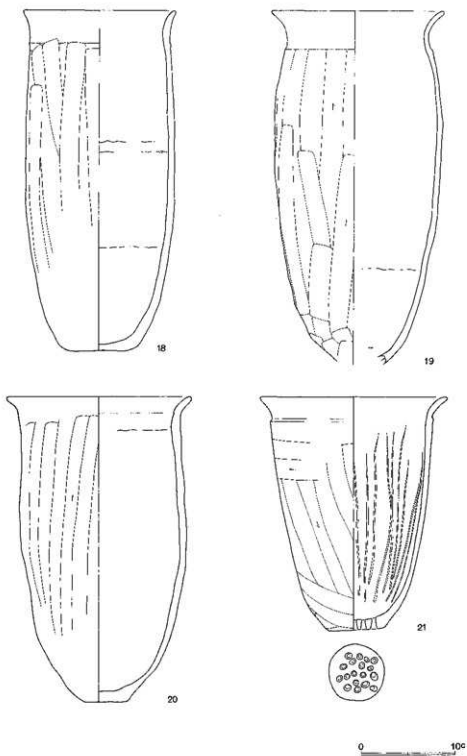
第258図 第87号住居跡

第86号住居跡出土遺物1)

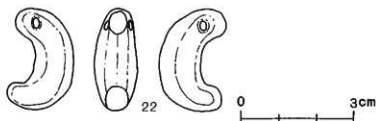
No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	坏	I 9.8 IV 2.8	橙	R少	60%		No.16
2	坏	I 13.0 IV 3.8	橙	R多	70%		No.11・12
3	坏	I 12.9 IV (4.1)	にぶい橙	R多	60%		
4	坏	I 13.0 IV 4.2	にぶい橙	W微	80%		
5	坏	I 13.8 IV 4.6	橙	R多	70%		
6	坏	I (14.0) IV 4.3	にぶい橙	R少	40%		
7	坏	I 13.6 IV 4.2	橙	R少	80%		No.13
8	坏	I 14.0 IV 4.2	橙	R少	90%		
9	坏	I 13.0 IV 4.4	橙	B・R少	50%		
10	坏	I 12.0 IV 4.8	橙	W・R少	90%		No.1
11	坏	V 3.1	橙	R微	60%		
12	坏	I (12.0) V 6.3	橙	R微	20%		



第259図 第86号住居跡出土遺物(1)



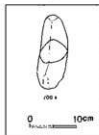
第260図 第86号住居跡出土遺物(2)



第261図 第86号住居跡出土遺物(3)

第86号住居跡出土遺物(2)

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
13	鉢	I (18.0) IV11.0	にぶい橙	W(1~2mm)少・B微	20%	底部外面に煤付着	
14	鉢	I23.0 V10.0	橙	R微	80%		
15	壺	I 18.8 II (18.7) V28.0	橙	W(2~3mm含)少	80%		No 6・7
16	甕	I 14.4 II18.4 IV(18.3)	にぶい橙	B多	80%		No 4
17	壺	I 15.6 II19.8 III8.3 IV28.3	にぶい黄橙	W少	50%		
18	甕	I (16.0) II16.0 III7.0 IV36.0	橙	W多	60%		
19	壺	I 18.2 II17.8 V37.5	にぶい黄橙	W(1~3mm含)少	70%		
20	甕	I 19.8 II17.6 III4.6 IV32.3	橙	W(2~3mm含)・B少	70%		
21	甕	I 20.0 III6.0 IV24.6	にぶい黄橙	B微	80%	底部外面に煤付着 内面ナデの後へラ磨き	No 4
22	勾玉	長2.7 孔径0.2	橙	Wなし		4.33g 土製	No15

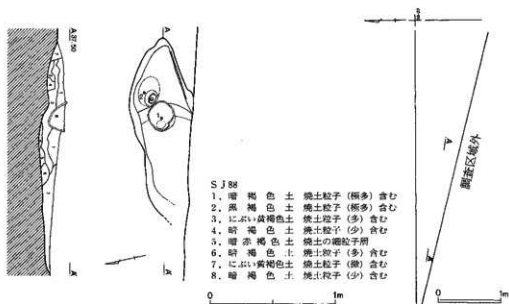


第262図 第87号住居跡出土遺物

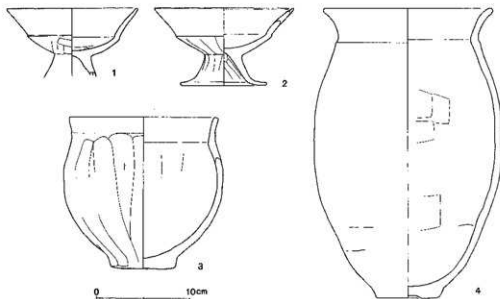
壺の破片と石盥1点のみである。壺は上半部のみで橙色を呈し、推定口径が17.8cmである。

### 第88号住居跡 (第263図)

55—22グリッドに位置し、第54号住居跡に切られる。カマドの一部を検出したのみで、住居跡の大部分は調査区域外にあり、規模等は全く判らない。カマドの南壁は焼土化しており、遺物の残りは予想外に良好である。



第263図 第88号住居跡

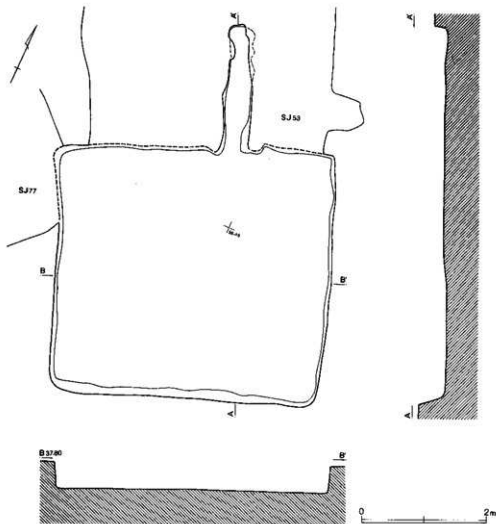


第264図 第88号住居跡出土遺物

第88号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	高坏	I 13.8 V 7.2	橙	R少	90%		
2	高坏	I 14.8 III 9.2 IV 8.2	橙	R少	70%		No 2
3	甗	I 15.8 II 16.8 III 7.0 IV 16.1	灰黄褐	B少	50%		
4	甗	I (18.0) II 20.0 III 6.6 IV 30.6	にょい黄橙	B少	70%		

第89号住居跡 (第265・266図)



第265図 第89号住居跡(1)





カマドは、北壁の中央よりやや東寄りに構築されている。袖はわずかに突出する程度であり、燃焼部の掘り込みはない。煙道は長く、底面は起伏があり、煙出しに向かって徐々に深くなる。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。出土遺物は、少量である。

#### 第89号住居跡出土遺物

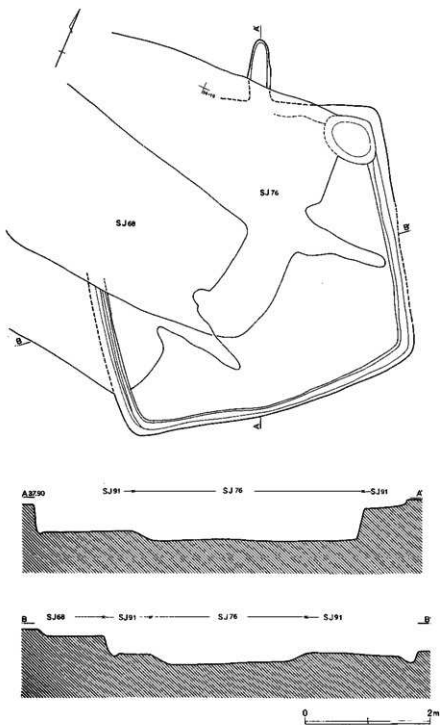
No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (11.2)IV(4.3)	にょい橙	W微	30%		
2	坏	I (13.0) V4.0	浅黄橙	R少	20%		
3	坏	I (14.0)IV(4.3)	にょい橘	R微	30%		
4	坏	I (16.0)IV(3.2)	明赤褐	R微	30%		
5	土罐	長7.0 径1.4	にょい橙	B微		14.75g	

#### 第91号住居跡 (第268図)

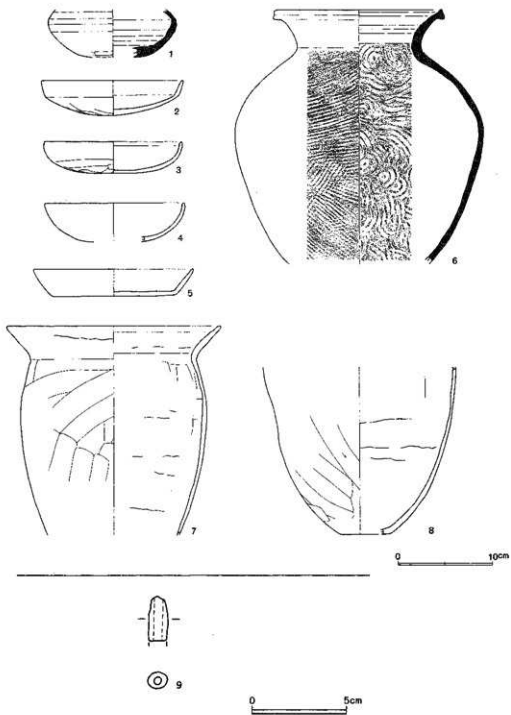
54—19グリッドに位置する。第74・77号住居跡を切り、第55・68・76号住居跡に切られる。規模は、長軸4.9m・短軸4.5m程度と推定される。深さは45~51cmを測り、主軸方位はN—33°—Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は中央付近が高くなる傾向にある。

#### 第91号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	甕	II(13.6) V5.0	灰白	W極微	20%		
2	坏	I 15.0 IV3.7	にょい橙	W極微	80%	内面に黒色物質が付着	
3	坏	I 14.5 IV3.3	橙	B微	70%		
4	坏	I 14.9 IV(4.1)	橙	W・B微	60%		
5	坏	I (17.0) III13.0 IV2.8	にょい橙	W微	80%		
6	甕	I 17.6 II(26.4) V27.0	灰	W少	30%	胴部叩き目	No 1
7	甕	I (22.6) II19.8 V22.0	橙	R多	50%		
8	甕	III(5.2) V17.7	橙	W・B少	80%		
9	土罐	残長2.4 径1.1	にょい黄橙	B微		1.93g	
11	瓦石	長15.5幅5.5厚4.5				675.00g 凝灰岩、3面使用	



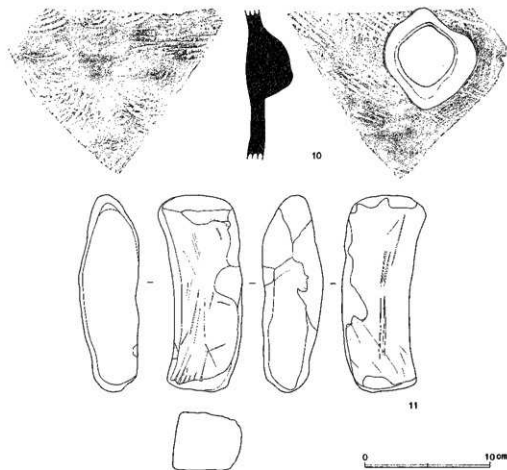
第268圖 第91号住居跡



第269図 第91号住居跡出土遺物(1)

カマドは北壁に構築されているが、煙道の先端のみ検出された。煙道の覆土は、焼土粒子を含む褐色土である。貯蔵穴は北東コーナーに接して検出され、91×70cmの楕円形で深さは25cmを測る。壁溝は、検出された壁面を全周する。深さは浅く10cm以内である。

遺物は、須恵器・土師器以外に土鍾1点、砥石1点が出土している。第270図10は把手付きの須恵器の破片である。表面は叩きの後ナデを施し、その後把手を貼り付け周辺を撫でている。裏面には当て具痕が明瞭に残る。器種は不明だが、器厚・大きさから甕と思われる。

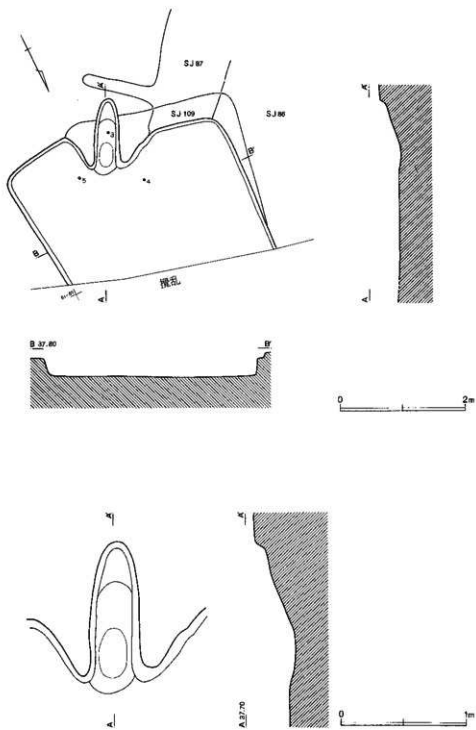


第270図 第91号住居跡出土遺物(2)

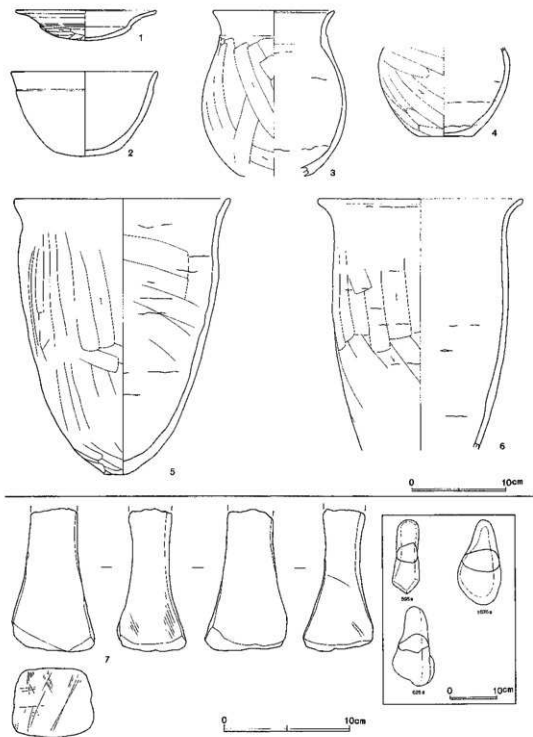
#### 第92号住居跡 (第271図)

58—19グリッドに位置し、第86・87・109号住居跡及び溝状の攪乱に切られる。規模は、東西3.4m、深さ30cm前後を測る。主軸方位はS—4°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。南辺はカマドの左右で傾きが異なり、西辺・東辺は北に行くにしたがってその間隔が狭くなる傾向にある。カマドは南壁に構築され、傾きが異なる左右の壁を繋ぐような形で設けられている。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。

遺物は、土器以外に凝灰岩製の砥石が1点出土している。



第271图 第92号住居跡

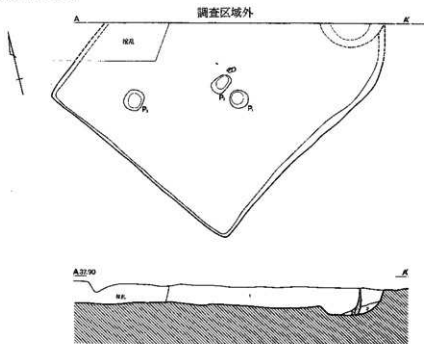


第272图 第92号住居跡出土遺物

第92号住居跡出土物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 15.0 IV3.2	明赤褐	R少	50%	内面に炭化物付着	
2	椀	I 15.6 IV9.0	明赤褐	W少	30%		
3	甕	I 13.0 II15.4 V17.5	にぶい橙	W・B少	50%		No 2
4	壺	II(14.0) III5.8 V9.5	橙	R多	70%		No 3
5	甕	I 23.0 II21.2 III2.4 IV29.1	にぶい橙	W多	90%		No 1
6	甕	I (21.6) II (18.8) V26.5	にぶい橙	B少	30%		
7	砥石	長11.2幅6.5厚5.5					395.008 凝灰岩、砥石使用、斜方向に刃痕有り

第101号住居跡 (第273図)



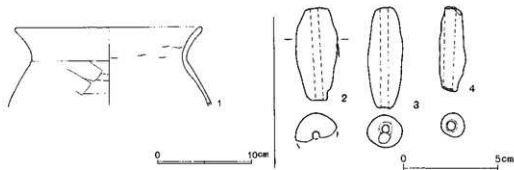
S J 101

- 褐色土 焼土粒子 (微)、火山灰 (少) 含む、しまり良、粘性弱
- 褐色土 炭化粒子 (多)、焼土粒子 (微)、火山灰 (少)、しまり良、粘性弱

0 2m

第273図 第101号住居跡

68—21グリッドに位置し、溝状の攪乱に切れ、北半は調査区域外にある。規模は、検出されている西辺で3.5m、深さ30cm前後を測る。主軸方位はN—54°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面には凹凸が見られる。カマドは検出されていない。調査区の壁に貯蔵穴と思われる落ち込みが検出されている。遺物は極めて少量だが、長さ5 cm前後の土鏝が3点出土している。



第274図 第101号住居跡出土遺物

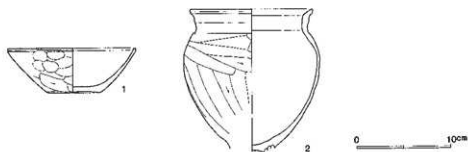
第101号住居跡出土遺物

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	甕	I (20.0) V 8.3	暗赤褐	W微	40%		
2	土鏝	残長4.8 径(2.2)	橙	B少		15.58 g	
3	土鏝	残長5.3 径1.9	明赤褐	W多		16.18 g	
4	土鏝	長4.5 径1.2	明赤褐	W微		7.16 g	

第102号住居跡 (第276図)

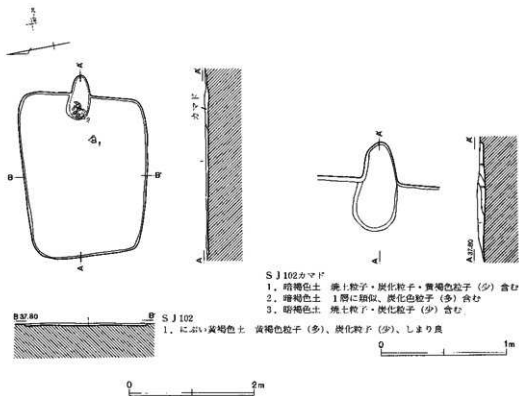
61—20グリッドに位置し、第105号住居跡を切る。長軸2.6m・短軸2.0mで東西に長い。深さは2～5 cmと極めて浅く、主軸方位はS—80°—Eである。床面はほぼ平坦である。

カマドは東壁中央に構築されているが、痕跡をとどめる程度である。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。遺物は極めて少量だが、カマドの吹き口から台付甕が出土している。



第275図 第102号住居跡出土遺物





第276図 第102号住居跡

第102号住居跡出土遺物

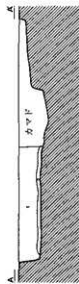
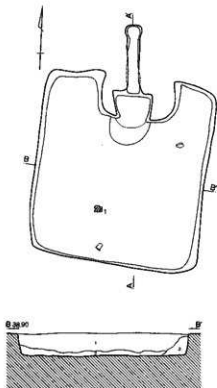
No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No.
1	鉢	I 13.5 III 5.6 IV 4.7	におい黄橙	B散	80%		No 2
2	台付甕	I 13.0 II 14.5 V 14.7	橙	R散	80%		No 1

第103号住居跡 (第278図)

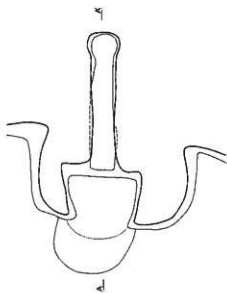
61-21グリッドに位置し、第3号溝を切る。規模は、長軸3.0m・短軸2.8m、深さ35cmを測る。主軸方位はN-5°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面のほぼ全面に貼り床がされ、中央付近がやや高くなる。カマドは北壁に構築され、遺存状態は良好である。燃焼部は約10cm掘り込まれ、垂直に立ち上がって煙道に続く。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。遺物は、極めて少量で、図示した土師器坯はにおい橙色を呈し、残存率60%である。



第277図 第103号住居跡出土遺物



- S J 103
1. 黄褐色土 火山灰 (少)、しまり貝、粘性ややあり
  2. 灰褐色土 火山灰 (少)、炭化粒子、焼土粒子 (微)、しまり貝、粘性ややあり
  3. 黄褐色土 火山灰 (微)、しまり貝、粘性ややあり

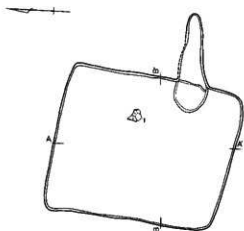


- S J 103 カマド
1. 黄褐色土 火山灰 (少) 含む、しまり貝
  2. 黄褐色土 火山灰 (少)、焼土粒子・炭化粒子 (微) 含む
  3. 黄褐色土 焼土ブロック (多) 含む
  4. 黄褐色土 黄褐色粒子 (少)、焼土粒子 (微) 含む
  5. 黄褐色土 焼土粒子 (少) 含む
  6. 褐色土 焼土ブロック (多) 含む
  7. 褐色土 焼土粒子・炭化粒子 (少) 含む

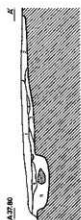
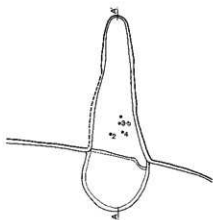
第278図 第103号住居跡

第104号住居跡 (第279図)

平?



SJ104  
1. 明褐色土 芥縄色粘土 (少)、しまり瓦

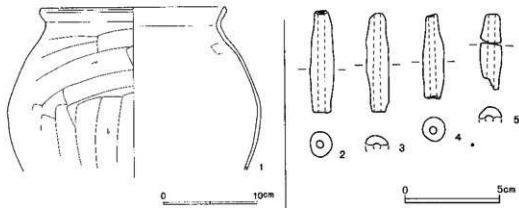


SJ104カマヤ  
1. 灰黄色土 火山灰 (多)、焼土粒子・灰化粒子・(少) 含む  
2. 灰黄褐色土 火山灰 (多)、焼土粒子・灰化粒子・(少) 含む  
3. 灰黄色土 灰質、焼土粒子・焼土プロック (少) 含む  
4. 焼灰色土 灰化粒子 (少) 含む  
5. 灰黄褐色土 焼土粒子・灰粒子 (少) 含む



第279図 第104号住居跡

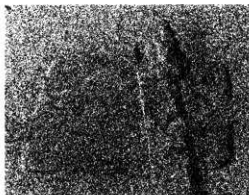
60-22グリッドに位置する。長軸2.9m・短軸2.3mで南北に長い。深さは4～7cmと極めて浅い。主軸方位はS-78°-Eである。床面は平坦であり、中央部からカマドにかけてに貼り床が認められる。カマドは東壁の南寄りに構築され、燃焼部は約10cm掘り込まれている。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。出土遺物はごく少量だが、カマドの煙道部から長さ5cm前後の土錘が4点まともに出土している。



第280図 第104号住居跡出土遺物

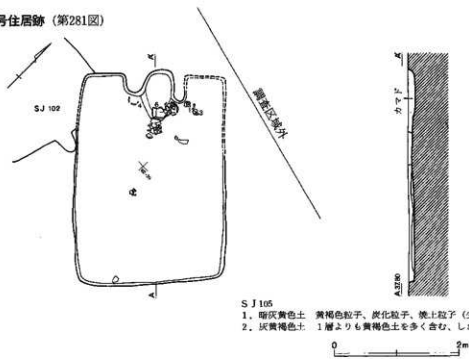
第104号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	甕	I (19.6) II (27.0) V17.2	明赤褐	W・R少	20%		No 1
2	土錘	長5.4 径1.2	極暗赤褐	W極微		9.72g カマド、指頭痕	No 5
3	土錘	残長5.2 径(1.2)	明赤褐	W極微		4.27g カマド	No 3
4	土錘	長4.4 径1.2	にぶい赤褐	W極微		7.75g カマド	No 2
5	土錘	残長4.0 径(1.2)	赤褐	W極微		3.28g カマド	No 3



第104号住居跡

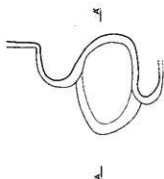
第105号住居跡 (第281図)



S J 105

1. 暗灰黄色土 黄褐色粒子、炭化粒子、焼土粒子 (少) 含む  
 2. 灰黄褐色土 1層よりも黄褐色土を多く含む、しまり良

0 2m



0 1m

S J 105-カマド

1. におい黄褐色土 焼土粒子 (多) 含む  
 2. 灰黄褐色土 焼土粒子 (多) 含む  
 3. 黄灰色土 焼土粒子・黄褐色土粒子 (微) 含む  
 4. 褐灰色土 灰屑、焼土粒子 (多)、炭化粒子 (少) 含む  
 5. 暗灰黄色土 灰粒子 (多)、焼土粒子 (微) 含む

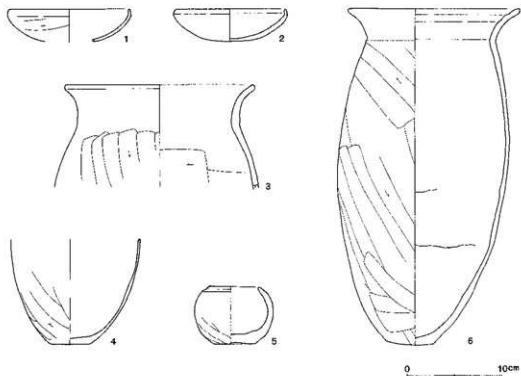
第281図 第105号住居跡



第105号住居跡

62-20グリッドに位置し、第102号住居跡に切られる。長軸3.4m・短軸2.4mで南北に長い。深さ6~10cmを測り、主軸方位はN-46°-Wである。床面はカマド前面がわずかにたかくなる。貼り床は、中央部からカマド周辺に認められる。カマドは、北壁の中央に構築されている。燃焼部はごく浅く掘り込まれ、覆土に灰層が明瞭に残る。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。

遺物は、カマドの炊き口に集中して出土している。

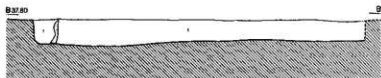
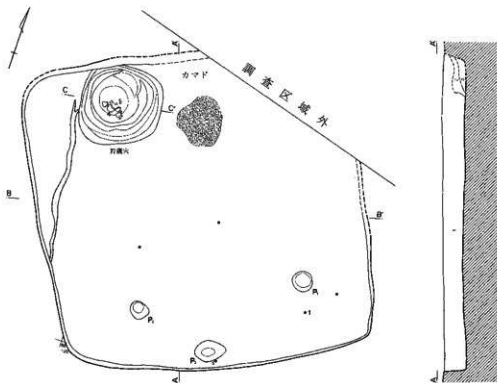


第282図 第105号住居跡出土遺物

第105号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 12.8 IV(3.5)	橙	B数	50%	カマド	No 2
2	坏	I 11.5 IV3.4	橙	W数	40%		No 1
3	壺	I (19.8) V10.9	にぶい橙	B少	20%		No 9
4	壺	III4.0 V11.1	にぶい橙	W・R少	80%		No 4
5	ミニチュア	I 5.2 II8.4 III4.4 IV6.0	にぶい橙	B少	60%		
6	甕	I (18.2) III5.0 II (18.0) IV35.5	橙	W少	50%		

第106号住居跡 (第283図)

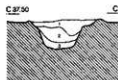


S J 106

1. 褐色土 炭化物、焼土粒子、焼土ブロック、火山灰(微)、しまり良、粘性ややあり
2. 灰黄褐色土 焼土粒子、炭化粒子、火山灰(少)、しまり良
3. 灰黄褐色土 焼土粒子、焼土ブロック、炭化物(多)、しまり良

S J 106貯蔵穴 (C-C)

1. 黄褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子含む
  2. 褐色土 焼土粒子・炭化粒子(少)含む
  3. 褐色土 焼土粒子・黄色粒子(少)含む
- ・2層と3層との間に炭化物が薄く堆積

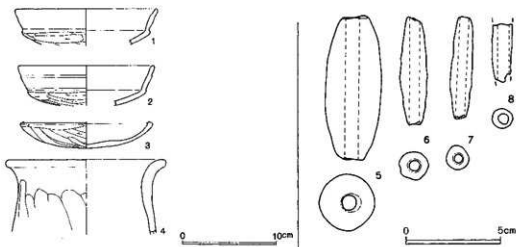


第283図 第106号住居跡

60—19グリッドに位置し、北東コーナーは調査区域外にある。長軸5.0m・短軸4.9mでほぼ正方形を呈すると思われる。深さは32～42cmを測り、主軸方位はN—25°—Wである。覆土はおおむね1層で短期間で埋没したと思われる。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は噴砂によって切られ、中央部から東が高くなる。貼り床は中央部に明瞭に認められる。

カマドは検出されていないが、貯蔵穴の東側の床面に焼土と炭化粒子が検出されていることから北壁に構築され、調査区域外にあるものと思われる。貯蔵穴は北壁に接して検出され、130×124cmの円形で、深さは40cmを測る。周囲はドーナツ状に盛り上がっている。柱穴は、2箇所検出され（P1・2）、深さは22cm、42cmである。なお、ピット3の深さは28cmである。

出土遺物はあまり多くなく、土器以外には土鏝が4点ある。



第284図 第106号住居跡出土遺物

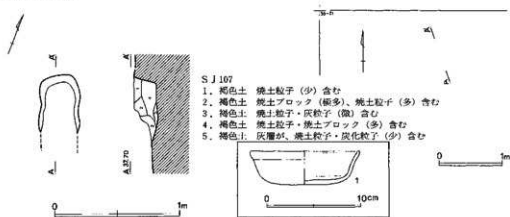
第106号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (15.2) V 3.8	橙	W微	30%	貯蔵穴	No 5
2	坏	II 14.5 IV (4.3)	橙	W極微	50%		
3	坏	V 2.8	によい濁	R微	60%	底部外面が黒変している	
4	甕	II 17.1 V 7.7	浅黄橙	R少	40%		No 9
5	土鏝	長7.5 径3.0	橙	W多	77.30g		No 3
6	土鏝	長5.6 径1.6	明赤褐	W微	10.33g		No 12
7	土鏝	長5.4 径1.2	明赤褐	W微	8.21g		No 6
8	土鏝	残長3.1 径1.1	橙	W少	2.94g		No 2



### 第107号住居跡 (第285図)

59—21グリッドに位置する。カマドの煙道と思われる部分のみ検出された。周辺の精査を行なったが住居の掘り込みは検出されなかった。出土遺物は図示した土師器坏1点で、橙色を呈し、残存率は50%である。



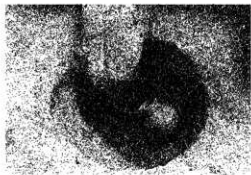
第285図 第107号住居跡

### 第108号住居跡 (第286図)

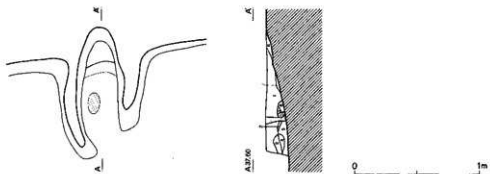
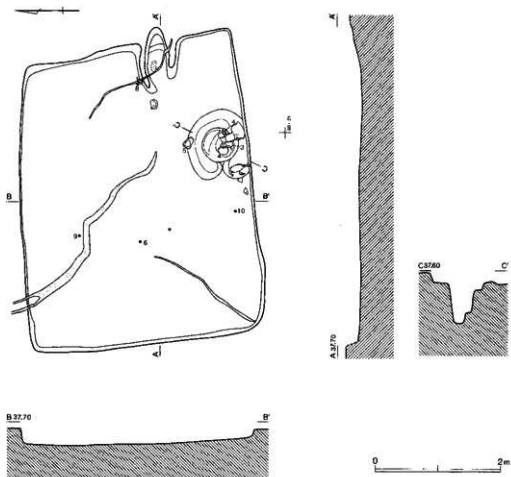
59—20グリッドに位置する。規模は、長軸4.8m・短軸3.8mで東西に長い。深さは14~23cmを測り、主軸方位はN-86°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はわずかに起伏があり、中央から南が高くなっている。貼り床は中央からカマド付近にかけて認められる。また、床面及びカマドは3条の噴砂によって切られているが、歪みは見られない。

カマドは、東壁のやや南寄りに構築されている。燃焼部の掘り込みはなく、ほぼ中央を噴砂によって切られる。燃焼部の左袖寄りに黄褐色粘土が検出されている。貯蔵穴は南壁の中央寄りに壁に接した状態で検出され、周囲は「C」字状に盛り上がり、北側の壁には2段の段を持つ。柱穴は検出されていない。

遺物は量的にはあまり多くないが、貯蔵穴から土師器甕・甔等が出土し、土器以外では滑石製白玉、鉄製刀子がある。

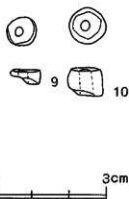
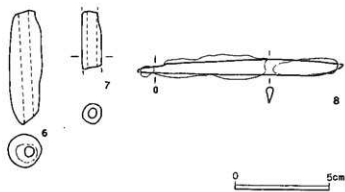
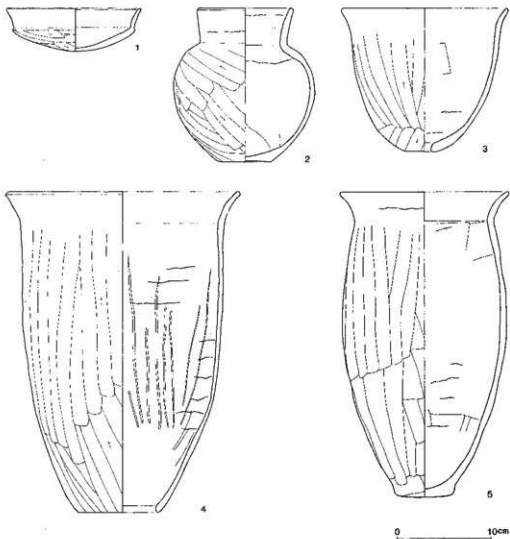


第108号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



- S106カマド1. 褐色土 炭土粒子・炭化粒子 (散) 含む  
 2. 褐色土 炭土ブロック (多)、炭土粒子・炭化粒子 (少) 含む  
 3. 暗赤褐色土 炭粒子・炭化粒子 (多)、炭土粒子 (少) 含む  
 4. 暗赤褐色土 炭土ブロック埋藏層  
 5. 暗赤褐色土 炭土粒子・炭土ブロック・炭化粒子 (多) 含む  
 6. 黄褐色土 粘土層  
 7. 褐色土 炭土粒子・炭化粒子 (多) 含む  
 8. 黄褐色土 炭土粒子 (散) 含む

第286図 第108号住居跡



第287图 第108号住居跡出土遺物

第108号住居跡出土遺物

No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
1	坏	I 14.3 IV4.5	橙	W・B微	80%		No12
2	壺	I 9.6 II15.0 III5.4 IV16.3	橙	W・B・R少	100%		No 4
3	甗	I 17.6 VII2.5 IV15.2	にぶい赤褐	W・B多	90%		No 5
4	甗	I 24.5VII8.5IV3.4	橙	W・R少	70%		No 3
5	甗	I (18.0) III6.2 II (17.5) IV32.3	橙	W・B・R少	50%		No 1
6	土鍾	残長6.0 径1.8	灰白	B少		19.09 g	No 9
7	土鍾	残長3.0 径1.0	赤	R微		2.66 g	
8	刀子	残長10.5 幅0.3~0.8				錆の吹き出しが著しい	No11
9	白玉	残長0.4 径0.8				0.48 g 滑石製	No10
10	白玉	残長0.7 径0.9				1.08 g 滑石製	No 7

第109号住居跡 (第288回)

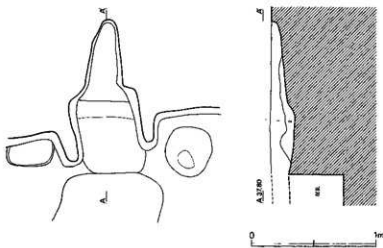
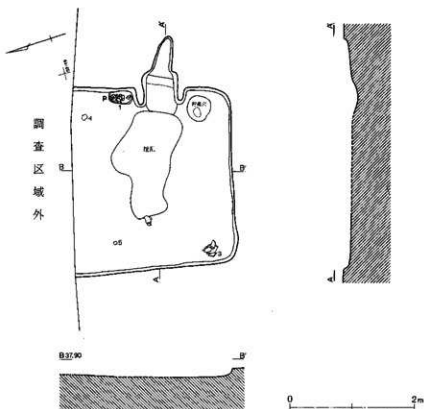
58—19グリッドに位置し、第86・87・92号住居跡を切る。住居跡の中央部を攪乱によって壊され、北辺は調査区域外にある。規模は、検出されている南辺で2.7mで北辺はそれよりやや長くなる傾向にある。深さは10~14cmと浅く、主軸方位はS—74°—Eである。床面は平坦であり、貼り床は、カマド前面の攪乱層にかすかに認められる。

カマドは、東壁に構築され、燃焼部は約10cm掘り込まれている。貯蔵穴はカマドの右袖に隣接して検出され、40×37cmの円形で深さは24cmである。また、左袖に接する状態で深さ4cm程の小ピット (P1) がある。

遺物はさほど多くなく、土器以外には大型の土鍾の破片が1点出土している。



第109号住居跡

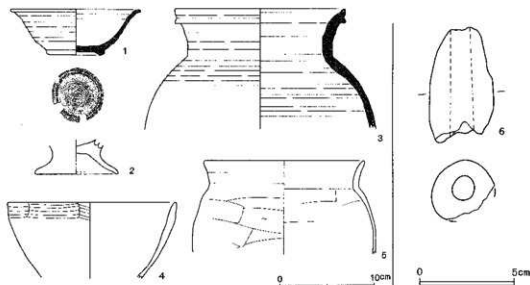


S. J. 109のキマド

1. 褐色土 焼土粒子・炭土アロックス・炭化物(少) 含む

2. 暗緑土 焼土粒子・炭土アロックス・炭化物(少) 含む

第288図 第109号住居跡



第289図 第109号住居跡出土遺物

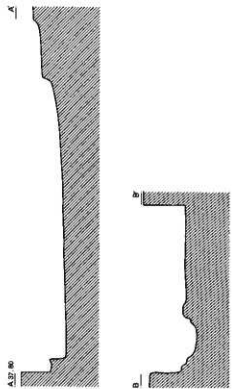
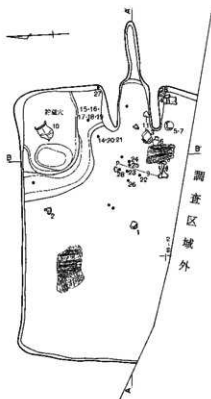
第109号住居跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	高台坪	I 13.8 V 16.1 IV 4.8	灰	W多	40%	回転糸切り難し	No 6
2	台付葉	III 8.8 V 3.0	にょい橙	W・W'・B・R微	100%		
3	壺	I 18.0 V 12.7	灰白	W少	60%		No 1
4	椀	I (17.8) V 8.0	橙	R (2~3mm含)微	20%	口縁部外面板状工具によるナデ	No 4
5	鉢	I (16.0) V 9.7	橙	R少	10%		No 3
6	土罐	残長6.0 径3.4	明赤褐	W・R (2~5mm)少	39.69g		

第110号住居跡 (第290図)

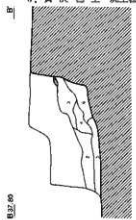
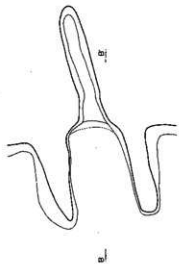
58-22グリッドに位置し、南半は調査区域外にある。規模は、検出されている北辺で4.0m、深さは26~33cmを測る。主軸方位はS-87°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は西から東に向かって徐々に高くなる。貼り床は明瞭ではないが、床一面に炭化灰の薄い堆積が認められた。カマドは、東壁に構築されている。燃焼部の掘り込みはなく、急激に立ち上がり煙道へ続く。燃焼部覆土の最下層には灰層が明瞭に残る。貯蔵穴は北東コーナーに接する形で設けられている。カマド左袖から北壁にかけての貯蔵穴周囲は約7cm盛り上がる。117×80cmの不整形を呈し、深さは約10cmで、ほぼ完形の土師器壺が1個体出土している。また、貯蔵穴の西端には61×39cm、深さ11cmのピットがある。

遺物は、土器以外に滑石製切小玉8点が2箇所集中して出土し、滑石製白玉6点がカマド前面で出土している。

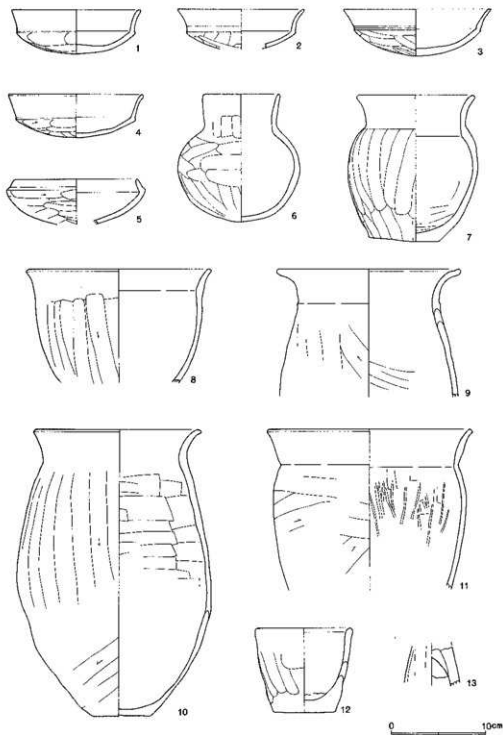


S J 110カマド

1. 黄褐色土 硝土粒子・炭化粒子 (微) 含む
2. 暗灰褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子 (少) 含む
3. 暗灰褐色土 焼土ブロック (多)、焼土粒子・炭化粒子 (少) 含む
4. にぶい黄色土 焼土粒子 (微) 含む
5. 灰色土 灰層、焼土粒子・炭化粒子 (多) 含む
6. 黄灰色土 焼土粒子・灰・炭化粒子 (多) 含む

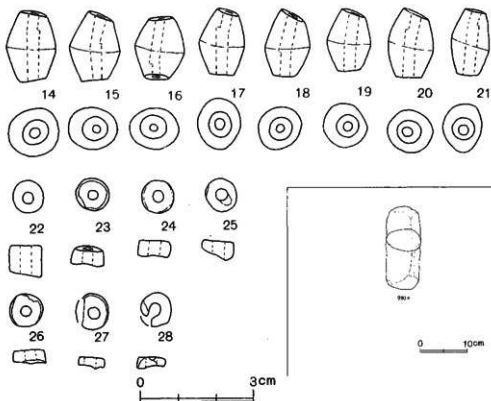


第290図 第110号住居跡



第291図 第110号住居跡出土遺物(1)





第292図 第110号住居跡出土遺物(2)

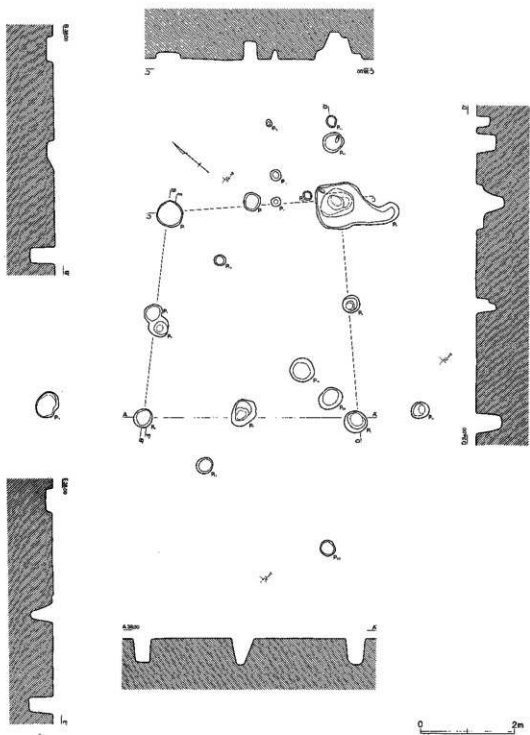
第110号住居跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 13.6 IV4.6	橙	R多	60%		No17
2	坏	I (13.5)IV(4.3)	橙	R少	20%		No14
3	坏	I 15.7 IV5.0	橙	R少、W微	80%		No21
4	坏	I 14.0 IV4.6	橙	R多	80%		No29
5	坏	I (13.1)IV(4.8)	橙	R多	20%		No26
6	甕	I 8.0 II13.0 IV13.4	橙	R多	100%		No25
7	甕	I 12.2 II13.8 III7.5 IV15.5	にょい橙	W少	95%		No26
8	甕	I (19.0) V12.0	橙	W(2~3mm含)少	20%		No30

## 第110号住居跡出土遺物(2)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
9	甕	I 19.6 II 19.0 V 13.5	橙	W少	80%	カマド	No12・18 26
10	壺	I 17.4 II 20.6 III 6.3 IV 30.0	にぶい橙	W少	95%		No11
11	甌	I (21.4) II (20.5) V 17.0	にぶい橙	W・R多	30%		No20・23
12	鉢	I (10.0) III 6.5 IV 8.9	黄橙	W少	40%	内面が黒変している	
13	高坏	V 4.0	にぶい橙	W・R多	50%	脚部天井部の輪痕痕直線	
14	切子玉	長1.9 径1.3				3.69g 滑石製、穿孔は2方向から	No.3
15	切子玉	長1.8 径1.3				3.51g 滑石製、穿孔は2方向から	No.2
16	切子玉	長1.7 径1.3				3.31g 滑石製、穿孔は2方向から	No.2
17	切子玉	長1.8 径1.2				3.35g 滑石製、穿孔は2方向から	No.2
18	切子玉	長1.7 径1.1				2.81g 滑石製、穿孔は2方向から	No.2
19	切子玉	長1.6 径1.2				2.52g 滑石製、穿孔は2方向から	No.2
20	切子玉	長1.8 径1.2				3.14g 滑石製、穿孔は2方向から	No.3
21	切子玉	長1.8 径1.0				2.87g 滑石製、穿孔は2方向から	No.3
22	白玉	残長0.8 径0.9				1.02g 滑石製	No.8
23	白玉	残長0.4 径0.9				0.69g 滑石製	No.5
24	白玉	残長0.4 径0.64g				0.64g 滑石製	No.7
25	白玉	残長0.5 径0.9				0.56g 滑石製	No.6
26	白玉	残長0.4 径0.9				0.46g 滑石製	No.9
27	白玉	残長0.3 径0.7				0.38g 滑石製	No.1
28	白玉	残長0.3 径0.8				0.32g 滑石製	No.4

(2) 掘立柱建物跡



第293図 第1号掘立柱建物跡及び周辺ピット群

### 第1号掘立柱建物跡（第293図）

53-17・18グリッドに位置し、第52号住居跡を切る（P1・2・4～8・10）。規模は2間×2間で北面が極端に短い。主軸方位はN-50°-Eである。柱間は不揃いであり、唯一北面（P1～2～4間）が180cmと揃っているが、他は210～240cmを測る。柱穴の形態は円形を基本としているが、ピット4は不整形の大きな掘り方を有している。深さはピット1・10が15cm前後と浅く、他は40～60cmである。遺物は、極くわずかに土師器片が出土しているが図示できるものはない。

また、周辺には大小のピットが検出され、ピット13・14のように東面の延長線上に位置するものや、ピット11・12のように南面の両側に位置するものがあるが、掘立柱建物跡との関連は不明である。

Pit 新旧対照表

新番号	旧番号(発掘時)	深さ	備	考	新番号	旧番号(発掘時)	深さ	備	考
P 1	52-18Gr 内 P 8	13cm	実際は52-18Grではないが発掘時に52-18Grとしている		P 12	52-19Gr 内 P 1	38cm		
					P 13	————	29cm	発掘時番号なし	
P 2	// P 9	41cm			P 14	53-18Gr 内 P 2	42cm		
P 3	————	12cm	発掘時番号なし		P 15	————	33cm	発掘時番号なし	
P 4	53-18Gr 内 P 1	59cm			P 16	————	21cm	//	
P 5	52-18Gr 内 P 5	42cm			P 17	————	14cm	//	
P 6	// P 4	56cm			P 18	52-18Gr 内 P 10	30cm		
P 7	// P 3	57cm			P 19	// P 11	27cm		
P 8	// P 2	53cm			P 20	// P 12	34cm		
P 9	// P 6	47cm			P 21	// P 13	33cm		
P 10	// P 7	15cm			P 22	52-19Gr 内 P 2	29cm		
P 11	// P 1	26cm							

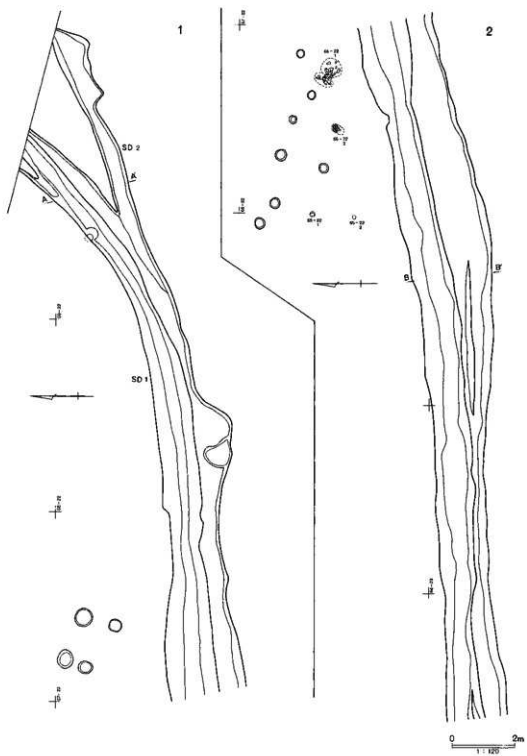
### (3) 溝

#### 第1・2号溝（第294・295図）

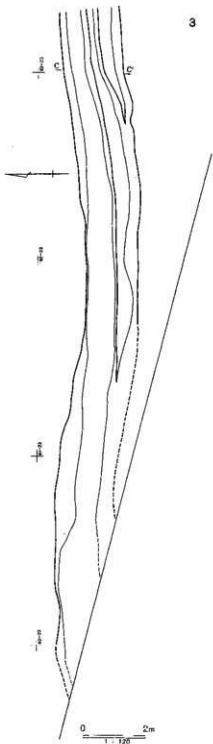
第1号溝は59-70-21-23グリッドに位置し、緩い弧を描きながら調査区内を斜めに横断する。長さ約60m、幅1.3-2.4m、深さ40-70cmを測る。溝底の標高は北端で37.2m、南端で37.0mである。南壁は緩やかに立ち上がり、1段又は2段のテラスを持つ。覆土には、砂質或いは砂粒を多く含む土が見られ、部分的に噴砂によって切られている。

遺物は、覆土中から須恵器を中心に出土している。第297図25は瓦の破片である。凸面は灰色を呈し接合痕が明瞭に残り、縄叩きの後ナデを施している。凹面は褐灰色を呈し布目痕が明瞭である（3cm当たり25本×26本）。模骨痕がないことから1枚作りと思われる。

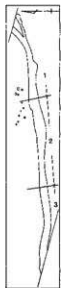
第2号溝は69・70-21・22グリッドに位置し、69-22グリッド内で第1号溝に合流する。長さ約



第294图 第1·2号洞(1)

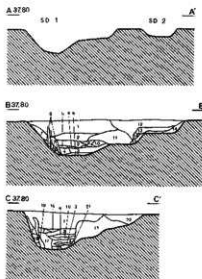


3



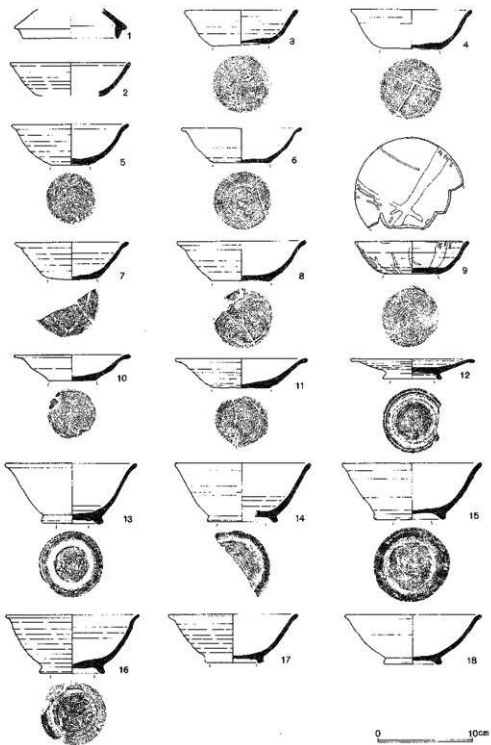
SD 1

1. 深い黄褐色土 鉄分粒子・火山灰(多)、明成褐色粘土(少) 含む
2. 褐色土 砂質、砂粒子(多)、火山灰(少) 含む
3. 灰白色土 粘質、砂粒子(多)、火山灰・灰色粘土粒子(少) 含む
4. 灰白色粘土 粘質、砂粒子(少) 含む
5. 灰白色粘土 粘質、砂粒子(少) 含む
6. 灰白色粘土 粘質、砂粒子(少)、火山灰(微) 含む
7. 灰黄色粘土 火山灰(多)、砂粒子・鉄分粒子(少) 含む
8. 深黄褐色粘土 礫が埋砂により隠されている
9. 黄灰色粘土 火山灰(少) 含む
10. 黄灰色粘土 粘質、砂粒子が塊状に埋れ、鉄分粒子(多)、火山灰(少) 含む
11. 灰色土 火山灰・鉄分粒子(多) 含む
12. 灰色土 12層中に砂粒子(多) 含む
13. 灰色土 11層中に砂粒子(多) 含む
14. 灰色土 粘質、12層に類似するが鉄分粒子をより多く含む
15. 黄褐色土 粘質、12層に類似するが鉄分粒子をより多く含む
16. 灰白色粘土 砂粒子(少)、火山灰(微) 含む
17. 褐色土 粘質、砂粒子(微) 含む
18. 褐色土 粘質、18層に類似するが灰白色粘土ブロックが混入する
19. 褐色土 粘質、砂粒子(多) 含む
20. 灰黄褐色土 粘質、砂粒子(多) 含む
21. 褐色土 粘質、砂粒子(多) 含む
22. 褐色土 粘質、砂粒子(多) 含む

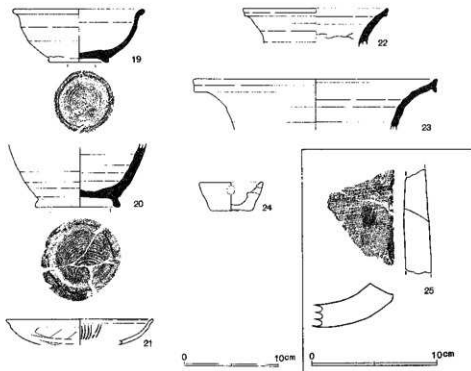


0 5

第295図 第1・2号溝(2)



第296图 第1号满出土遗物(1)



第297図 第1号溝出土遺物(2)

第1号溝跡出土遺物(1)

No.	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No.
1	蓋	III(10.0) V3.1	灰白	W微	10%	ロクロ左回り	
2	坏	I 12.8III7.0IV3.5	灰白	W微	50%		
3	坏	I 12.0III6.0IV3.7	灰白	W微	80%	回転糸切り難し	
4	坏	I 12.6III6.4IV4.6	にぶい黄橙	W少	70%	土師質、回転糸切り難し 口縁部内外面に煤付着	
5	坏	I (12.4) III4.2 IV4.2	灰	B多	50%	回転糸切り難し	
6	坏	I (12.6) III6.0 IV3.6	灰	W少	60%	回転糸切り難し	
7	坏	I (12.0) III5.2 IV3.9	にぶい黄橙	W少	30%	土師質、回転糸切り難し	
8	坏	I 13.7III6.2IV4.2	灰黄	R多	70%	回転糸切り難し	
9	坏	I 12.0III5.8IV3.4	灰	W微	70%	体部内外面に火摩	



7 m、幅0.4~1.3m、深さ約10cmを測る。溝底の標高は37.5m前後である。東半部の南壁は蛇行し、溝幅が広がる。出土遺物はない。

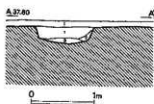
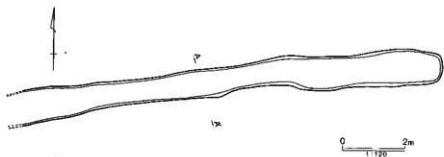
第1号溝跡出土遺物②

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
10	坏	I 12.4 III 5.0 IV 2.7	にぶい赤褐	R多	95%	土師質、回転糸切り難し	
11	坏	I 14.0 III 6.2 IV 3.1	灰白	W少	60%	回転糸切り難し	
12	高台坏	I (13.1) VI 5.2 IV 2.1	灰	W少	40%	回転糸切り難し	
13	高台坏	I 13.9 VI 6.6 IV 6.3	灰	B少	95%	回転糸切り難し 内面に重ね焼き痕有り	
14	高台坏	I 14.5 VI 7.5 IV 6.2	にぶい褐	W少	30%	土師質、回転糸切り難し	
15	高台坏	I 14.8 VI 7.6 IV 5.9	にぶい黄橙	W微	70%	土師質、回転糸切り難し	
16	高台坏	I 14.2 VI (6.9) IV 6.2	灰白	R多	90%	土師質、回転糸切り難し	
17	高台坏	I 13.8 IV 5.1	にぶい黄橙	W少	90%	土師質、回転糸切り難し	
18	高台坏	I 14.4 VI 6.2 IV 5.2	にぶい黄橙	R多	80%	土師質	
19	高台坏	I 14.0 VI 6.4 IV 5.6	灰	W(3~5mm含)少	80%	回転糸切り難しの後周辺ナゲ	
20	高台坏	VI 9.0 V 6.7	灰白	W微	50%	回転糸切り難し	
21	坏	I 15.6 V 2.7	明赤褐	R微	10%	内面に暗文を施す	
22	壺	I (15.4) V 3.7	灰	W少	20%		
23	甕	I (25.8) V 5.4	灰	W微	20%		
24	ミニチュア	I (6.7) III 4.5 IV 3.3	にぶい黄橙	W少	50%	体部上位に穿孔有り	

第3号溝 (第298図)

59~61—21グリッドに位置し、第103号住居跡に切られる。検出された長さは約14m、幅0.8~1.1m、深さ約25cmである。59—21グリッド内で覆土と地山との判別が困難になり、より西へ延びると思われるが不明である。

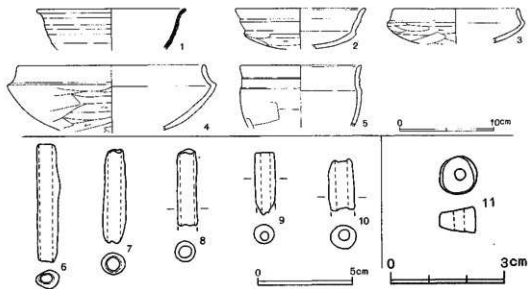
遺物は、溝中央付近と59—21グリッド内で集中して出土しているが、接合率が悪く、図示できるものは少ない。



SD 3

1. におい黄褐色土  
 1. 黄褐色土 鉄分粒子(多)、焼土粒子・炭化粒子(微)含む  
 地山との区別が困難  
 2. 黄灰色土  
 3. 灰色土 砂粒子(多)、鉄分粒子(少)、焼土粒子・炭化粒子(微)含む

第298図 第3号溝



第299図 第3号溝出土遺物

第3号溝跡出土遺物(1)

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (15.8) V 4.3	黄灰	W微	10%		
2	坏	I 13.8 IV (4.3)	灰褐	R少	50%		No. 9
3	坏	I (13.4) IV (4.0)	赤褐	W極微	30%		
4	坏	I (19.8) IV (7.5)	におい橙	W微	30%		

第3号溝跡出土遺物(2)

No.	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No.
5	甕	I (12.8) V 6.5	橙	B散	20%		
6	土罐	長6.2 径1.2	橙	W・R少		6.18g	
7	土罐	残長4.9 径1.3	にぶい橙	W・R散		5.40g	
8	土罐	残長4.0 径1.1	橙	W・B・R少		3.82g	
9	土罐	残長3.3 径1.1	橙	B散		3.17g	
10	土罐	残長2.7 径1.4	にぶい黄橙	W散		4.24g	
11	白玉	残長0.7 径1.0				1.14g	滑石製

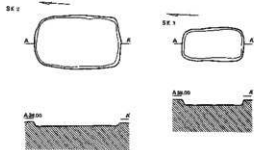
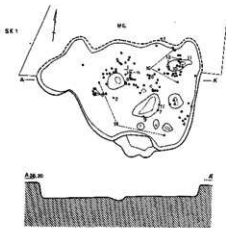
(4) 土壌

第1号土壌

36-15グリッドに位置し、北半は擾乱に切られ下場のみ確認された。南壁に1段の段を持ち、底面には7基の小ピットがある。須恵器、土師器片が多量に出土している。

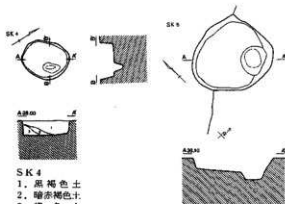
土壌一覧表

番号	位 置	規模 (長×短×深) m	主軸方向	そ の 他
1	36-15Gr	3.45×(2.24)×0.33	S-83°-W	
2	55-21Gr	1.85×1.11×0.09	N-4°-W	
3	55-20Gr	1.32×0.72×0.11	N-3°-W	S J 73を切る
4	54-19Gr	1.30×0.80×0.30	N-32°-E	
5	47-15Gr	1.78×1.50×0.46	N-65°-W	S J 46を切る
6	51-19Gr 51-20Gr	1.27×1.11×0.13	N-9°-W	
7	54-19Gr	0.81×0.72×0.31	N-42°-E	
8	57-18Gr	1.61×0.94×0.25	N-84°-W	
101	60-20Gr 61-20Gr	1.20×0.60×0.12	N-74°-W	
102	58-20Gr	1.54×0.90×0.23	N-11°-E	
103	58-22Gr	1.40×0.96×0.16	N-30°-E	
104	58-22Gr	0.82×0.67×0.56	N-14°-E	

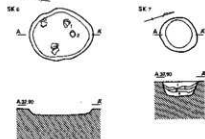


SK7

1. 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子(多)、黄色粒子(少)含む
2. 黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子(多)、消化粒子(少)含む
3. 麻褐色土 焼土粒子・炭化粒子(多)、黄色粒子(少)含む
4. 褐色土 焼土粒子・炭化粒子(少)、黄色粒子(多)含む

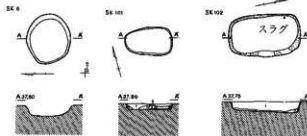


- SK4
1. 黒褐色土
  2. 暗赤褐色土
  3. 褐色土



SK101

1. 灰黄褐色土 火山灰(多)含む、暗灰色粘質土の層状に埋没
2. にぶい黄褐色土
3. 黄灰色土 粘質土、火山灰(細)含む
4. 麻褐色土 粘質土
5. 暗褐色土 火山灰(少)含む



SK101

1. 暗灰黄色土 焼土粒子・炭化粒子(少)含む
2. にぶい黄色土 焼土粒子・炭化粒子(細)含む、ブロック状に埋没
3. 黄灰色土 炭化粒子(極多)、焼土粒子(少)含む  
断面の縁の太い所は硬土面

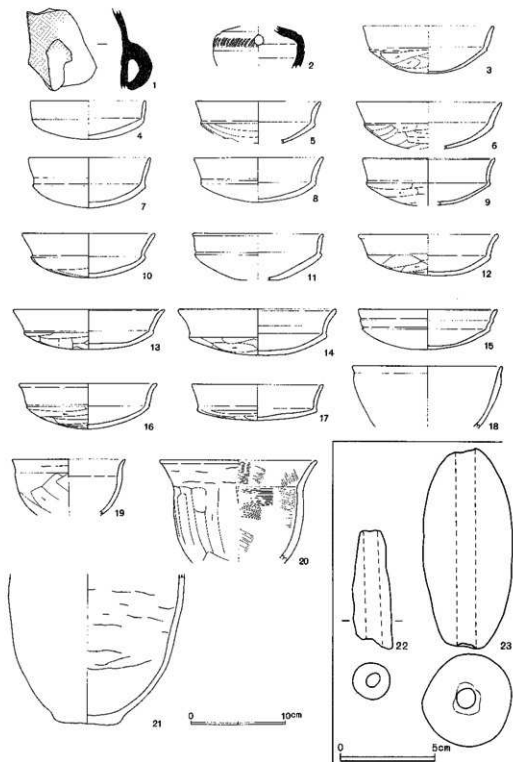


SK102

1. 褐色土 焼土粒子・炭化粒子(少)含む
2. 褐色土 焼土粒子・炭化粒子(多)含む、  
焼土ブロック(少)含む  
断面の太縁の所は硬土面

SK103

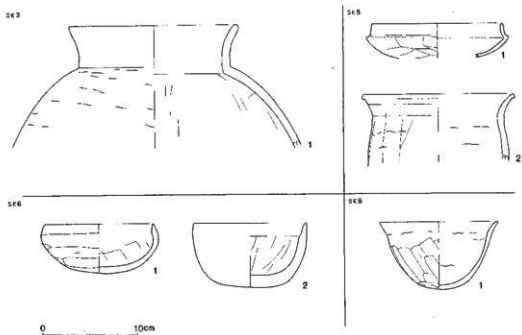
1. 黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子・火山灰(多)含む
2. 褐色土 焼土ブロック(多)含む
3. 褐色土 炭化粒子(極多)、焼土粒子(細)含む
4. 灰黄褐色土 炭化粒子(細)含む



第301图 第1号土坑出土遗物

第1号土壌跡出土遺物

No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特 徴	注記No
1	把手付甕	V8.5	灰白	W極微		把手部分のみ残、外面に緑釉付着	No80
2	甕	II(9.6) V9.3	黒褐	Wなし	20%	胴部中に籐状工具による刺突文を施す	No77
3	坏	I(14.0) V5.0	橙	W・R微	40%		
4	坏	I12.2 IV4.1	にぶい橙	R多	50%		No88
5	坏	I13.2 IV(4.6)	橙	R少	70%		No51
6	坏	I(15.4)IV(5.0)	橙	R多	40%		No93
7	坏	I12.8 IV5.3	橙	W・R多	50%		No97
8	坏	I13.7 IV4.7	橙	R微	70%		No10・83他
9	坏	I14.0 IV(5.0)	明赤褐	R微	40%		No7
10	坏	I(14.0) IV4.6	橙	B・R多	50%		No5
11	坏	I(13.9)IV(4.9)	橙	R少	40%		No72
12	坏	I15.0 IV4.3	橙	R少	70%		
13	坏	I16.1 IV4.2	橙	B微	60%		No69
14	坏	I16.8 IV4.8	橙	R微	90%	やや大形	
15	坏	I14.8 IV4.2	橙	W・R微	100%		
16	坏	I14.6 IV4.8	橙	R微	50%		No60・74
17	坏	I(14.0) IV3.8	橙	W・R微	30%		No79・82
18	椀	I(16.0) V6.5	浅黄橙	W少	20%		No6
19	椀	I(12.0) V6.0	にぶい橙	W少	30%	内面が黒変している	
20	壺	I(16.8) V10.9	橙	W(2~3mm)少	30%		No1・89
21	壺	III7.0 V15.9	にぶい橙	W多	80%		
22	土錘	残長6.2 径2.0	明赤褐	R少		23.62g	
23	土錘	長10.3 径4.8	明赤褐	R多		220.12g 特大	



第302図 土壇出土遺物

第3号土壇跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	壺	I (18.0) V 12.8	灰白	R多	30%		

第5号土壇跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I (13.8) IV (3.7)	明赤褐	W・B微	20%		
2	壺	I (15.8) V 7.2	橙	W・B少	10%		

第6号土壇跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	坏	I 11.4 IV 5.2	にぶい黄橙	W・B少	100%		No 4
2	碗	I 12.0 IV 6.8	にぶい橙	W多、B少	95%		No 5

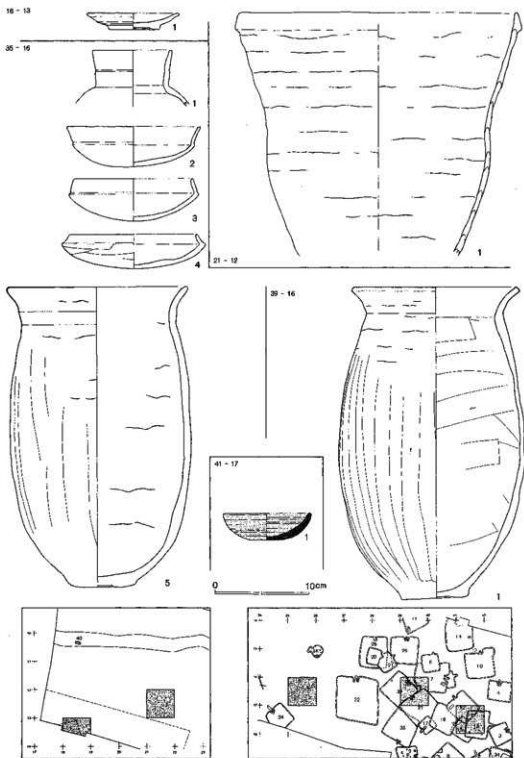
第8号土壇跡出土遺物

No	器種	法量 (cm)	色調	胎土	残存率	特徴	注記No
1	碗	I 12.5 IV 7.1	にぶい黄橙	W多、B少	100%	外面に黒煙有り	

第102号土壇

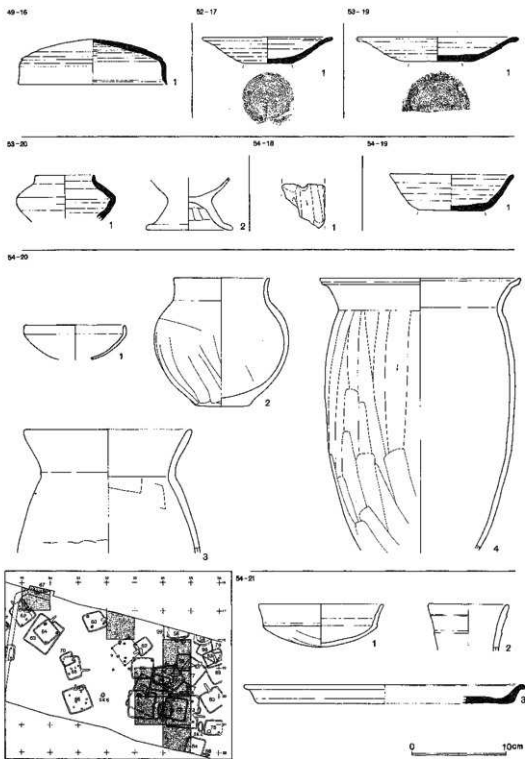
58—22グリッドに位置する。壁は東壁の一部を除いて硬化した焼土となっており、西壁にスラグが付着している。底面には、炭化物・焼土が堆積しているが壁のように焼土化はしていない。遺物は、土師器の小片が出土している。なお、第101・103号土壇も同様の遺構と思われる。

(5) グリッド出土遺物



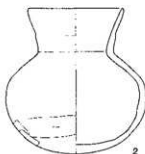
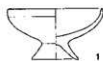
第303図 グリッド出土遺物(1)





第304図 グリッド出土遺物(2)

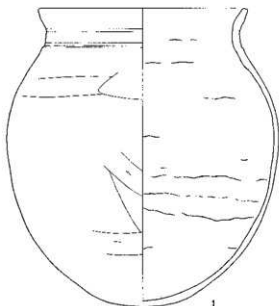
56-19



56-20



56-22



57-20



57-21

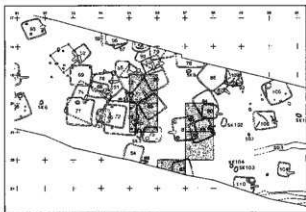


0 10cm

57-21



0 5cm



第305図 グリッド出土遺物(3)

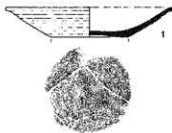
60-21



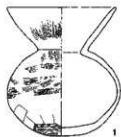
61-21



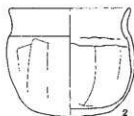
63-20



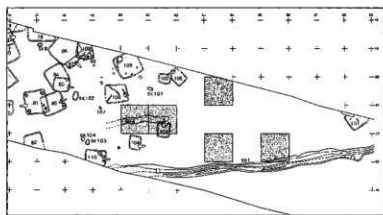
63-22



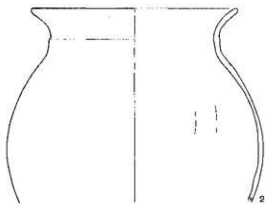
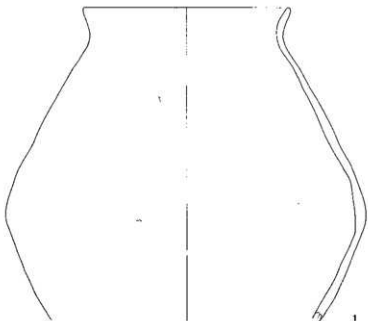
65-22



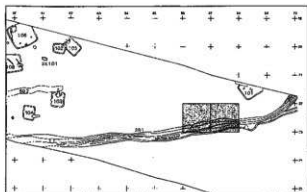
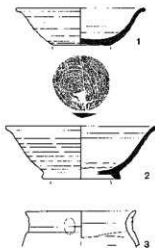
0 10cm



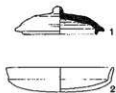
第306図 グリッド出土遺物(4)



67-22



表探



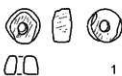
0 10cm

第307図 グリッド出土物(5)

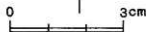
54-15



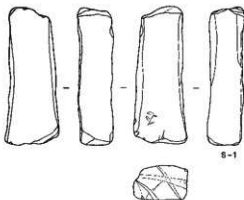
29-15



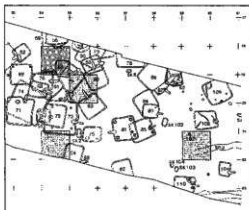
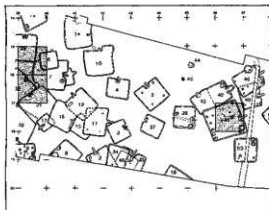
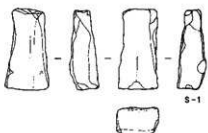
55-19



39-15



54-21



46-17



第308図 グリッド出土物(6)

グリッド出土遺物(1)

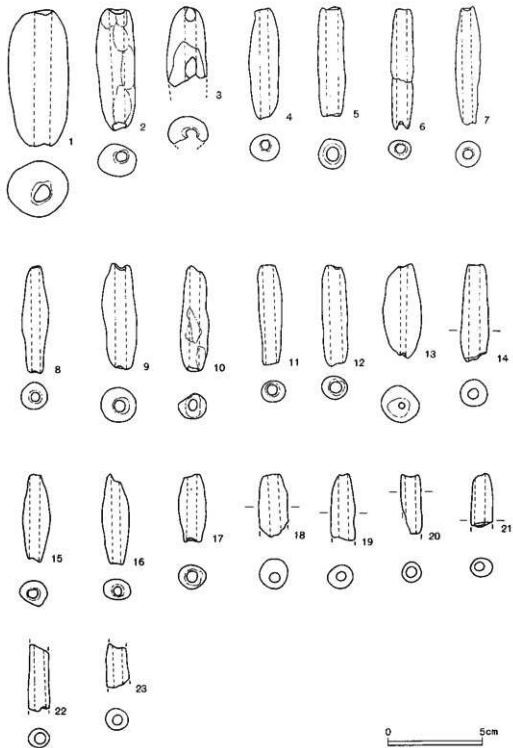
グリッド	No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特徴	注記No
18-13	1	皿	I 9.8Ⅷ5.4Ⅳ1.8	灰白	W極微	90%		
21-12	1	深鉢	I 29.4 V 25.7	明赤褐	W多	80%	内外面に輪積痕 器の内I~II(加曾利B)後期前半	
35-16	1	壺	I 8.5 V 5.7	橙	W微	50%	底部外面に黒斑有り 木葉痕	No32
	2	坏	I 14.2 Ⅳ4.2	橙	W・B少	80%		
	3	坏	I 12.6 Ⅳ4.5	橙	R少	70%		No33
	4	坏	I 13.5 Ⅳ3.6	橙	R多	50%		
	5	壺	I 19.0 Ⅱ19.4 Ⅲ7.2 Ⅳ31.8	橙	W・B多	90%		
39-16	1	壺	I 17.4 Ⅱ19.8 Ⅲ7.2 Ⅳ33.0	にょい橙	R多	90%		No22
41-17	1	皿	I 9.0Ⅲ3.8Ⅳ2.8	暗赤褐	W極微	100%	鉄袖、18世紀? 坏部外面に重ね焼き痕有り	
49-16	1	蓋	I 15.8 Ⅳ4.8	灰	W微	40%	ロクロ右回り	
52-17	1	坏	I (13.8) Ⅲ5.0 Ⅳ2.8	灰	W極微	40%	回転糸切り難し	
53-19	1	坏	I (17.2) Ⅲ7.4 Ⅳ2.6	灰白	R微	30%	回転糸切り難し	
53-20	1	小形壺	I (6.2) Ⅱ(10.5) Ⅳ4.8	灰	W多	20%		No156
	2	台付壺	Ⅲ9.2 V 5.3	にょい橙		90%		No170
54-18	1	支脚	V 4.5	橙	W・B多			
54-19	1	坏	I 13.2Ⅲ7.0Ⅳ3.8	灰	W・W'・R多	30%	回転ヘラケズリ(左回り)	
54-20	1	坏	I (10.6) Ⅳ(3.8)	橙	B微	20%	No80 No56-59他 No114	
	2	壺	I (10.0) Ⅱ14.4 Ⅲ6.0 Ⅳ13.5	明赤褐	R少	60%		
	3	壺	I 17.8 V 13.0	橙	W・B少	80%		
	4	壺	I 21.2 Ⅱ20.0 V 28.8	にょい褐	W多	70%		
54-21	1	坏	I 13.2 Ⅳ4.5	にょい橙	R多	100%	No101	
	2	壺	I 8.3 V 4.9	にょい橙	R微	70%		
	3	盤	I 30.0 Ⅲ27.0 Ⅳ(2.0)	灰白	B多	10%		
55-19	1	高坏	I 4.0Ⅲ3.8Ⅳ13.6	橙	B微	30%	底部外面に帯付着	
	2	罎	I 10.2 Ⅱ15.0 Ⅳ15.0	橙	R微	80%		
55-20	1	手捏ね	I 4.0Ⅲ3.8Ⅳ3.1	にょい橙	R少	100%	底部外面が黒変している	
56-22	1	壺	I (22.3) Ⅱ29.0 Ⅳ31.6	橙	W少	70%		
57-20	1	壺	I 7.8 Ⅳ4.4	灰白	B微	80%		
57-21	1	坏	I 16.0 Ⅳ5.2	明赤褐	W・W'・R微	70%	7.02g 粘板岩	
	2	紡錘車	下径3.8 厚0.9	明赤褐				
60-21	1	坏	I (14.8) Ⅳ(4.5)	橙	R多	60%		
	2	坏	I 15.0 Ⅳ(4.4)	橙	R多	50%		
	3	坏	I 14.1 Ⅳ5.4	橙	B・R微	50%		

グリッド出土遺物②

グリッド	No	器種	法量 (cm)	色調	胎上	残存率	特徴	注記No
61-21	1	坏	I 11.6 IV3.3	にぶい橙	W・W'・B微	95%		No.2
63-20	1	坏	I 18.3 III8.0 IV3.2	灰黄	R多	70%	土師質、回転糸切り難し	No.145
63-22	1	埴	I 11.6 II12.0 IV13.6	にぶい橙	W・R少	90%		No.4
65-22	1	壺	I (11.5) II15.2 II7.6	灰	W極微	90%		No.1
	2	壺	I 12.8 II13.6 IV11.4	にぶい橙	W・B少	50%	底部外面に麻付着	No.2
66-22	1	壺	I (22.0) II (38.2) V33.2	明赤褐	W・R少	20%		No.14
	2	壺	I 22.0 II (27.4) V20.5	にぶい橙	W・B多	70%		No.7
67-22	1	坏	I 13.8 III6.0 IV3.9	灰白	R少	95%	回転糸切り難し	No.4
	2	高台坏	I (16.0) III8.4 IV5.6	灰	W微	30%	回転糸切り難し	No.1
	3	壺	I (11.7) V3.6	にぶい橙	W極微	20%		
表探	1	蓋	I 9.5 IV3.0	明赤褐	W微	100%	土師質、外面に黒斑有り	
	2	坏	I (10.4) IV2.6	にぶい橙	B・R微	40%	東区	
54-18	1	耳環	径1.7×1.7				3.24g 金銅製、金僅かに残る	
39-15	1	白玉	長0.5 径0.9				0.88g 滑石製	No.10
55-19	1	白玉	残長0.8 径0.9				1.51g 滑石製	
59-21	1	白玉	長0.3 径1.0				0.67g 滑石製	No.5
39-16	1	砥石	長9.9幅4.3厚2.7				235.00g 凝灰岩	
54-21	1	砥石	長6.3幅3.2厚2.2				56.00g 凝灰質シルト	

グリッド出土遺物には、遺構からの出土でない遺物とあわせて、住居跡が密集する地点の最上層からの出土遺物も含まれている。住居跡が密集する地点では表土掘削の際、土器が出土し始めたため遺構確認面としたが、住居跡の重複が激しくその面での遺構確認は困難であった。そのため表面に出土している遺物をグリッド毎に取り上げ、確認面を下げて遺構の確認を行なった。このような過程の中で本来なら住居跡出土となるべき土器がグリッド出土となっている。

遺物は、須恵器・土師器が主体となるが、縄文時代後期の土器や、18世紀と思われる鉄釉の皿なども出土している。第308図46—17グリッド出土の1・2は甕の破片で、3は壺の口縁部である。なお、1・2は別個体である。土鍾は23個出土し、完形で長さ7 cmを超すものから3 cm前後のものまで多様である。



第309図 グリッド出土土鏃



### グリッド出土土鍾

グリッド	No	器種	法 量 (cm)	色 調	胎 土	残存率	特徴	注記No
55-21	1	土鍾	長7.1 径3.3	にぶい橙	W少		68.69g	
53-17	2	〃	長6.3 径2.1	橙	B微		23.68g	指頭痕
33-16	3	〃	残長4.2 径2.1	明赤褐	B少		12.03g	
39-17	4	〃	長5.7 径1.6	にぶい橙	W(3~5mm)微		12.93g	
表採	5	〃	長5.8 径1.4	にぶい橙	W極微		16.45g	
54-20	6	〃	長6.1 径1.2	橙	R少		5.91g	
55-19	7	〃	長6.0 径1.3	明赤褐	W・R少		9.30g	
54-20	8	〃	長5.6 径1.4	橙	B・R微		8.60g	
57-21	9	〃	長5.3 径1.9	灰白	B少		17.84g	
56-20	10	〃	長5.3 径1.5	橙	W微		9.43g	指頭痕 ヘラ状工具によるケズリ
44-20	11	〃	残長5.2 径1.3	橙	W微		6.44g	
52-17	12	〃	残長5.2 径1.4	橙	B・R多		9.03g	
62-22	13	〃	長4.2 径2.0	灰黄褐	W微		17.22g	
54-18	14	〃	残長5.2 径1.5	にぶい橙	B微		9.62g	
55-25	15	〃	残長4.6 径1.5	灰褐	W極微		7.00g	
35-16	16	〃	残長4.7 径1.5	橙	R微		5.98g	
57-21	17	〃	長3.4 径1.5	明赤褐	W少		5.98g	
53-20	18	〃	残長3.3 径1.5	にぶい黄橙	W微		7.34g	
55-19	19	〃	残長3.5 径1.3	明赤褐	W微		5.48g	
59-21	20	〃	残長3.1 径1.0	橙	B微		1.89g	
表採	21	〃	残長2.8 径1.2	橙	R少		2.24g	
57-21	22	〃	残長3.5 径1.1	明赤褐	R少		3.30g	
表採	23	〃	残長2.3 径1.2	橙	W微		2.27g	

No 3  
No.137

### 整理参加者

青木 美智子 遠藤 優子 川口 紀子 柴崎 とときえ 中沢 和子 平原 八千代  
 平山 三代江 保坂 立子 細田 喜千子 前島 和子 武藤 弘子 村越 恵  
 山口 弘子 伊藤 和子



整理作業風景

## V. 自然科学的分析

### 1. 胎土分析

第四紀地質研究所 井上 巖

#### X線回折試験及び電子顕微鏡観察

##### 1 実験条件

###### (1) 試料

分析に供した試料は胎土性状表に示すとおりである。

X線回折試験に供する遺物試料は洗浄して、乾燥したのちメノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。

電子顕微鏡観察に供する遺物試料は断面を観察できるように整形し、 $\phi 10\text{mm}$ の試料台にシルバークーペーストで固定して、イオンスパッタリング装置で定着した。

###### (2) X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の固定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target : Cu, Filter : Ni, Voltage : 40KV, Current : 30ma, ステップ角度 :  $0.02^\circ$ , 計数時間 : 0.5SEC.

###### (3) 電子顕微鏡観察

土器胎土の組織、粘土鉱物及びガラス生成の割合についての観察は電子顕微鏡によって行った。観察には日本電子製T-20を用い、倍率は35, 350, 750, 1500, 5000の5段階で行い、写真撮影をした。35~350倍は胎土の組織、750~5000は粘土鉱物及びガラスの生成状態を観察した。

##### 2 実験結果

###### (1) タイプ分類

土器胎土の分析結果は胎土性状表に示すように、三角ダイヤグラム・菱形ダイヤグラムの位置分類、焼成ランクに基づいて分類した。胎土性状表には、樋詰遺跡・砂田前遺跡の土器をタイプ分類してある。また、この表には砂田前遺跡の第24号住居跡より採取した原土-1も記載してある。

電子顕微鏡による分析では土器胎土中に生成したガラスは中粒で、焼成ランクはIIIとあまり高くない。

Bタイプ…砂田前-2

Cタイプ…樋詰-2・5・13, 砂田前-1・5

Eタイプ…樋詰-1・5, 砂田前-4・12

Gタイプ…樋詰-10, 砂田前-20

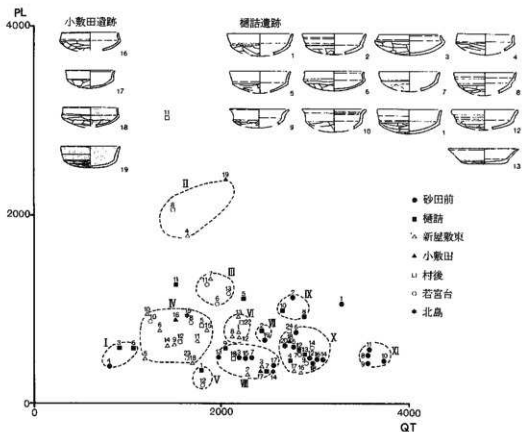
Hタイプ…樋詰-7・9, 砂田前-8

Jタイプ…樋詰-4, 砂田前-6・7・9・11・14・15・17・18

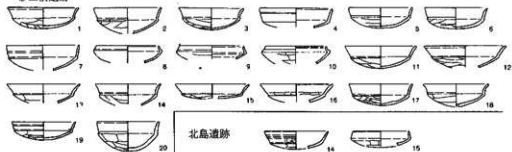
粘土性状表

試料No 標語	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類			粘土鉱物及び造岩鉱物				ガラス	備考		
			a	b	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ca(Mg)			Qt	PI
1	E	III	5	20	20	116	1895	343				中粒	S D6-28
2	C	III	1	16	178	131	89	2453	753			中粒	20
3	R	III	14	20			905	593	194			中粒	51
4	J	III	7	20		106	96	2739	445			細粒、均質	35
5	C	III	1	16	195	195	167	2233	1116			細粒	7
6	R	III	14	20			186	211		1060	581	中粒、均質	54
7	H	III	6	20			104	2476	375	2476	375	中粒、均質	2
8	E	III	5	20			2896	927				細粒、均質	17
9	H	III	6	20		167	402	2658	593	76	2658	細粒	31
10	G	III	6	10		179	224	339	98	2661	998	細粒	32
11	L	III	8	20		149		1520	1262	222		中粒	22
12	M	III	10	17	179	134		2919	523	130		中粒	27
13	C	III	1	16	184	144	109	3062	492			細粒	56
砂田前-1	C	III	1	16	169	125	101	3277	1051	193		中粒	中粒、均質 S J 24-7
2	B	III	1	15	192	168	199	2757	1112			中粒	4
3	R	III	14	20				2224	479			中粒	均質 3
4	E	III	5	20			116	808	400	145		中粒	均質 12
5	C	III	1	16	105	88	71	2759	593	146		中粒	均質 1
6	J	III	7	20		125	110	2805	755	150		細粒	2
7	J	III	7	20		132	88	2333	479			細粒	13
8	H	III	6	20		98	84	3559	509			中粒	14
9	J	III	7	20		98	87	3551	424			中粒	15
10	L	III	8	20		142		3738	449	125		中粒	均質 16
11	J	III	7	20		129	102	3568	570			中粒	均質 S J 25-5
12	E	III	5	20			128	2944	479			中粒	均質 9
13	L	III	8	20		124		1970	495			中粒	均質 11
14	J	III	7	20		128	101	3095	474			中粒	均質 3
15	J	III	7	20		129	97	2281	450			細粒	13
16	L	III	8	20		131		3076	464	134		中粒	均質 10
17	J	III	7	20		134	97	2560	400			中粒	均質 2
18	J	III	7	20		131	105	2980	421			中粒	均質 4
19	R	III	14	20				2463	662	142		中粒	均質 1
20	G	III	6	10		143	174	184	130	2677	613	中粒	均質 14
原土-1	L	III	8	20		98		4107	659			中粒	均質 14

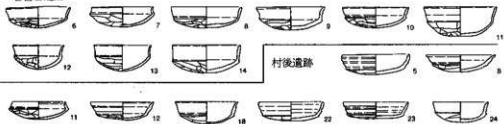
焼成ランク Mu: I Mu-Cr: II Cr-glass: III glass: IV 原土: V Mont: モンキロナノイト  
Mica: 雲母類 Hb: 角閃石 Ch: 緑泥岩 Qt: 石英 PI: 斜長石 Cr: クリスタトバーライト



砂田前遺跡



若宮台遺跡



第310圖 Q t - P 1 相關圖



第311図 関連遺跡位置図

Lタイプ…榑詰-11、砂田前-10・13・16、原土-1

Mタイプ…榑詰-12

Rタイプ…榑詰-3・6、砂田前-3・19

(2) 石英(Q t)-斜長石(P l)の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は、粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を製作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは、個々の集団が持つ土器製作上の固有の技術であると考えられる。

自然状態における各地の砂は個々の石英と斜長石の比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば各地域における砂は各々固有の石英-斜長石比を有しているといえる。この固有の比率を有する砂をどの程度粘土中に混入するかは、前記のように各々の集団の有する固有の技術の一端である。

第310図石英(Q t)-斜長石(P l)相関図には砂田前、榑詰、新屋敷東、小敷田、村後、若宮台、北島の7遺跡の土器が記載してある。7遺跡の土器はI~X Iの11グループと“その他”に分類された。なお、既刊の報告書の土器Noは報告時のものをそのまま使用した。

Iグループ…砂田前-1個体、榑詰-2個体

IIグループ…新屋敷東-1個体、小敷田-1個体、村後-1個体

IIIグループ…新屋敷東-1個体、若宮台-3個体

IVグループ…新屋敷東-8個体、小敷田-1個体、村後-3個体、若宮台-2個体、北島-1個体

Vグループ…榑詰-1個体、若宮台-1個体

VIグループ…新屋敷東-4個体、村後-1個体

VIIグループ…砂田前-1個体、榑詰-1個体

VIIIグループ…砂田前-5個体、榑詰-2個体、新屋敷東-2個体、小敷田-1個体、村後-1個体、北島-1個体

IXグループ…砂田前-1個体、榑詰-2個体

Xグループ…砂田前-7個体、榑詰-3個体、新屋敷東-2個体、小敷田-1個体、村後-1

個体、若宮台-3個体

XIグループ…砂田前-4個体

“その他”…砂田前-1個体、樋詰-2個体、村後-1個体、樋詰-5・11はIIIグループの近くにあり、このグループに入るのかも知れない。村後-11は明らかに斜長石の強度が異常に高く、他と比較して異質である。

### 3 まとめ

- (1) 樋詰・砂田前遺跡の土器胎土は9つのタイプに分類された。BとC、HとJの2組は組織的にも似ており、各々1タイプとすると7タイプとなる。このうちJタイプは12個となる。個体数の多いことから判断して、在地あるいは在地近傍の可能性が高いものと推察された。原土-1と同じ組成をするものはLタイプであり、Lタイプの4個の土器は在地の可能性が高い。
- (2) 電子顕微鏡での分析では中粒のガラスが生成し、焼成ランクはIIIと幾分低い状況にある。
- (3) 石英と斜長石の相関では、砂田前遺跡の土器は樋詰遺跡の土器と共存し、高い関連性が伺われた。砂田前遺跡の土器は特にVIII、X、XIの3つのグループに集中し、これらのグループの土器はJタイプの胎土のものが多く、各グループは個体数も多いことから判断して在地あるいは在地近傍の可能性が高い。XIグループは砂田前遺跡の土器だけが集中することで特徴付けられる。
- (4) 新屋敷東遺跡の土器はIVとVIに集中し、村後遺跡の土器と共存する傾向が強い。また若宮台遺跡の土器はIII、IV、Xの3つのグループで新屋敷東遺跡の土器と共存し、この2遺跡の土器も関連性が認められる。この様に見てくると、新屋敷東遺跡の土器と村後、若宮台遺跡の土器はなんらかの関連性があるように見受けられる。

### 参考

- 若宮台遺跡 児玉郡上里町に所在し、神流川によって形成された自然堤防上に立地する。6～10は第55号住居跡、11～14は第36号住居跡出土である。事業団報告第28集
- 村後遺跡 児玉郡美里町に所在し、本庄台地に立地する。11・12・18は第1号住居跡、5・8・22～24は第14号住居跡出土である。事業団報告第38集
- 北島遺跡 熊谷市に所在し、荒川によって形成された自然堤防上に立地する。14・15共に第9地点の不明遺構出土である。事業団報告第88集
- 小敷田遺跡 行田市に所在し、荒川によって形成された自然堤防上に立地する。16はC区ヌ'-154グリッド、17はC区第101号溝、18はC区第104号溝、19はC区第105号溝出土である。事業団報告第95集
- 新屋敷東遺跡 深谷市に所在し、小山川によって形成された自然堤防上に立地する。1～13は第8号住居跡、14は第1号住居跡、15は第66号住居跡、16・17は第85号住居跡、18は第12号住居跡出土である。全て7世紀前半の土師器で、1・4は高坏、14は暗文、15はいわゆる比企型の坏で、他は坏である。事業団報告平成3年9月刊行予定

## VI. 結 語

### 1. 砂田前遺跡出土の土鍾について

砂田前遺跡では土師器・須恵器をはじめとする多量の土器や、金属製品、石製品が出土している。中でも土鍾は137点を数え、埼玉県内において比較的多くの土鍾を出土した遺跡と言える。そこでこれら砂田前遺跡出土の土鍾について若干のまとめを行ってみたい。

#### 分類

総数137点のうち、法量・形態が判別可能な90点を抽出し、分類を行った。なお、出土地点は土塚1、溝2、グリッド16、国分期の住居跡7で他は全て鬼高期の住居跡である。

土鍾はいわゆる管状土鍾と呼ばれるものである。重さ3g前後から200gを超えるものがあり、長さも3cmから10cmとかなりの幅を持っている。その関係を示したものが第312図である。まず、土鍾の性質上極めて重要な要素の一つである重さを規準にして以下のように分類した。

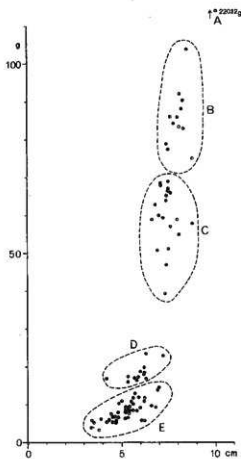
- A 200g以上のもの
- B 70~100gのもの
- C 40~70gのもの
- D 15~25gのもの
- E 15g以下のもの

但し、B・C及びD・Eはそれぞれ重さ・長さに幅があるものの同一と考えることもできる。この分類では、Aが1点、Bが15点(うち1点は104g代)、Cが21点(うち1点は39g代)、Dが13点、Eが40点である。また、B・Cを同一のグループと見なせば36点、D・Eは53点となる。Aの1点は他より突出し、B・Cは長さにおいてまとまりを見せるが、重さではかなり分散する傾向にある。D・Eは長さ、重さ共にやや幅があるものの集中する傾向が見受けられる。そして、B・CとD・Eとの間には明確な差異が表れる。

次に、形態を以下の、3者に分類した。

- I 側面形が長方形のもの
- II 側面形が長方形で両端が窄まるもの
- III 側面形の中央が膨らむもの

Iが11点、IIが22点、IIIが57点となる。そして重さと形態を併せた分類ではAIIIが1点、BIII15点、

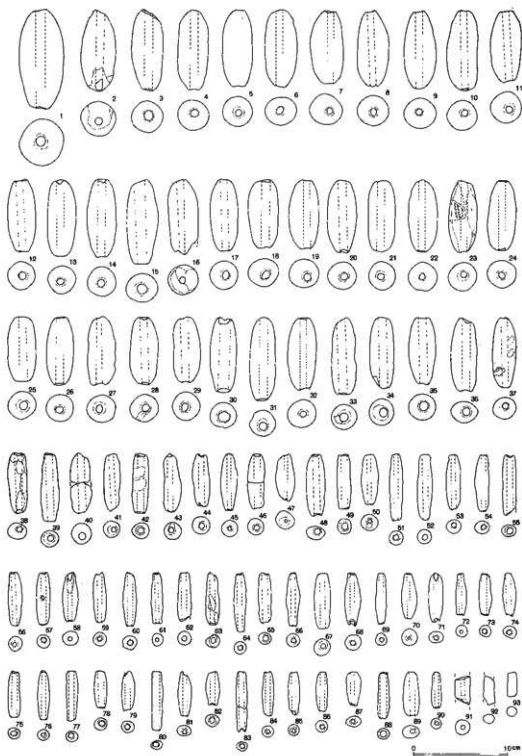


第312図 土鍾法量表

土鐘一覽表

No	分類	法量		出土遺構	備考	No	分類	法量		出土遺構	備考
		長×徑(cm)	重(g)					長×徑(cm)	重(g)		
1	A III	10.3×4.8	220.12	SK1-23		48	D II	6.3×2.0	17.19	S J74-26	
2	B III	8.5×3.7	104.61	S J71-44	欠損	49	D I	5.8×1.4	16.45	G-5	
3	B III	8.1×3.4	92.73	S J82-2		50	D III	5.3×1.9	16.18	S J101-3	
4	B III	8.3×3.3	90.75	S J73-18		51	E I	7.0×1.4	14.75	S J89-5	
5	B III	8.2×3.2	88.15	S J73-21		52	E I	6.9×1.5	14.75	S J89-5	
6	B III	8.0×3.4	12.30	S J69-30	固分	53	E II	5.7×1.6	12.93	G-4	
7	B III	7.6×3.5	86.08	S J85-35		54	E III	5.9×1.6	12.14	S J81-11	
8	B III	7.8×3.4	84.54	S J74-31		55	E I	6.2×1.5	11.95	S J74-23	
9	B III	8.1×3.5	83.69	S J74-29		56	E III	5.6×1.5	11.95	S J81-12	
10	B III	8.3×3.3	83.60	S J74-30		57	E II	5.5×1.5	10.96	S J43-5	
11	B III	7.4×3.3	78.87	S J73-22		58	E III	6.2×1.7	10.93	S J24-32	
12	B III	7.5×3.0	77.30	S J106-5		59	E III	5.0×1.4	10.90	S J55-9	固分
13	B III	8.1×3.0	76.08	S J66-48		60	E III	5.6×1.6	10.33	S J106-6	
14	B III	8.2×3.1	76.02	S J73-19		61	E I	5.4×1.2	9.72	S J104-2	
15	B III	8.3×3.4	75.05	S J73-17		62	E II	5.2×1.5	9.62	G-14	欠損
16	B III	8.0×3.2	73.36	S J73-20	欠損	63	E II	5.3×1.5	9.43	G-10	
17	C III	7.5×3.0	68.97	S J73-27		64	E II	6.0×1.3	9.30	G-7	
18	C III	7.1×3.3	68.69	G-1		65	E I	5.2×1.4	9.03	G-12	
19	C III	7.1×3.2	67.95	S J73-25		66	E III	5.6×1.4	8.60	G-8	
20	C III	7.5×3.1	67.28	S J73-23		67	E II	5.8×1.8	8.48	S J76-17	固分
21	C II	7.5×2.9	67.25	S J72-4		68	E III	5.4×1.8	8.42	S J52-9	
22	C III	7.6×3.1	66.92	S J85-37		69	E II	5.4×1.2	8.21	S J106-7	
23	C III	7.4×3.0	65.43	S J66-46		70	E III	4.8×1.7	8.11	S J69-32	固分
24	C III	7.4×3.1	64.73	S J69-31	固分	71	E II	5.2×1.6	8.04	S J52-8	
25	C III	6.8×3.0	63.27	S J73-29		72	E III	4.4×1.2	7.75	S J104-4	
26	C III	7.2×2.9	62.58	S J50-43		73	E III	4.5×1.2	7.16	S J101-4	
27	C III	7.0×3.1	60.37	S J73-28		74	E III	4.6×1.5	7.00	G-15	
28	C III	7.2×3.1	59.45	S J81-10		75	E I	4.8×1.3	6.92	S J18-5	
29	C III	6.6×3.0	59.28	S J74-28		76	E II	5.3×1.3	6.81	S J26-16	
30	C III	8.0×2.8	59.01	S J85-36		77	E I	5.2×1.3	6.44	G-11	
31	C II	8.8×2.8	58.06	S J85-34		78	E II	3.9×1.4	6.40	S J81-13	
32	C III	7.6×3.0	57.26	S J66-47	欠損	79	E III	4.3×1.4	6.38	S J26-14	
33	C II	8.1×2.7	55.09	S J90-2		80	E I	6.2×1.2	6.18	SD3-6	
34	C II	7.5×2.6	51.50	S J73-26		81	E III	4.7×1.5	5.98	G-16	
35	C III	6.9×2.9	51.27	S J41-87		82	E III	3.4×1.5	5.98	G-17	
36	C III	7.4×2.8	47.04	S J73-24		83	E I	6.1×1.2	5.91	G-6	
37	C III	7.3×2.5	39.39	S J74-27		84	E III	4.7×1.2	5.83	S J26-15	
38	D II	6.7×2.1	23.68	G-2		85	E II	4.5×1.2	5.62	S J76-16	固分
39	D III	7.2×1.9	23.23	S J85-38		86	E III	4.2×1.2	5.60	S J26-13	
40	D III	6.2×2.2	19.97	S J74-24	欠損	87	E III	3.5×1.6	5.56	S J71-46	
41	D II	6.0×1.8	19.09	S J108-6		88	E II	4.9×1.3	5.40	SD3-7	
42	D I	6.2×1.7	18.58	S J26-17		89	E III	4.6×1.8	10.55	S J15-1	
43	D II	6.2×1.9	18.57	S J85-40		90	E II	3.8×1.1	3.67	S J76-15	固分
44	D III	5.3×1.9	17.84	G-9		91		(3.0×1.6)	(8.22)	S J85-43	
45	D III	5.9×1.8	17.61	S J36-23		92		3.0×1.2	2.83	S J76-19	
46	D II	5.7×1.7	17.28	S J85-39		93		2.5×1.1	2.77	S J71-47	
47	D III	4.2×2.0	17.22	G-13							





第313図 土鍾集成図

CⅡ4点、CⅢ17点、D12点、DⅡ5点、DⅢ6点、E19点、EⅡ13点、EⅢ18点となる。また、BⅢとCⅢを合わせると32点となり全体の1/3を超える。この32点は、長さが6.6~8.8cm、径2.5~3.7cm、重さ39.93~104.61gの範囲にある。これらは本遺跡出土土鍾ではもちろんのこと県内の他の遺跡出土土鍾との比較においても大型の土鍾と位置付けられるだろう。

### 大型の土鍾について

埼玉県において、砂田前遺跡と同様に大型の土鍾が出土している遺跡がある。そこで砂田前遺跡で出土した大型の土鍾の基本的な大きさである長さ6cm、径2.5cm、重さ40g以上という条件を満たす土鍾が出土した代表的なものを挙げてみたい。但し、重さは不明の場合もあり、時期は砂田前遺跡とほぼ同時期のものに限った。

まず、砂田前遺跡周辺では熊谷市樋の上遺跡で1点、同光屋敷遺跡2点、同天神遺跡1点、美里町村後遺跡1点がある。光屋敷遺跡の1点は11.6×4.9cm(重さは不明)で砂田前遺跡の最大のものよりさらに大きい。他の地域では、蓮田市荒川附遺跡2点、越谷市見田方遺跡5点があり、荒川附遺跡では他に長さがわずかに短いものが3点ある。また、見田方遺跡の1点は推定ではあるが11.0×5.0cmを測る。

### まとめ

砂田前遺跡出土の土鍾は、大きさ、特に重さにおいて大きく2種類に別れる。このことから使用された漁網が大小2種類であることが想定される。そして2種類の網を獲物の種類によって、あるいは川の流れの強さで使い分けていたのではないか。また、一方では網の種類を1種類と考えることも可能であり、その際は大小の土鍾を装着する網の部所によって分けていたのであろう。いずれにせよこの地の人々にとって漁労が生活の中で重要な位置を占めていたことが窺える。

一覧表及び集成図の最後の3点(№91~93)は特殊な例である。91は両端を欠損している。孔は両側から穿たれているが繋がっていない。一方の孔は径が0.5cm、他方は0.4cmである。製作過程において棒状のものに粘土を巻き付けた後、棒を回転させたためか孔内部の砂粒に動きがある。92は両端を欠損し、93はほぼ完形と思われる。共に孔がなく表面は風化が著しく、他の土鍾に比べ軽量である。この3点は本文中では土鍾として取り扱っているが、他の土製品の可能性も考えられる。

以上、砂田前遺跡出土の土鍾についてまとめを行ってみたいが全体的に要領を得ないものとなってしまった。今後、時期・出土遺構を含めた検討が必要と考える。

### 参考文献

- |           |      |                       |                      |
|-----------|------|-----------------------|----------------------|
| 大野左千夫     | 1991 | 「漁撈」『古墳時代の研究4 生産と流通1』 | 雄山閣                  |
| 小川良祐      | 1986 | 「樋の上」                 | 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第59集 |
| 寺社下博 金子正之 | 1988 | 「天神遺跡」                | 熊谷市教育委員会             |
| 寺社下博      | 1984 | 「中条遺跡群」               | 熊谷市教育委員会             |
| 田部井功      | 1987 | 「荒川流域の土鍾・石鍾」『荒川 人文Ⅱ』  | 埼玉県                  |
| 富田和夫他     | 1984 | 「向田・権現塚・村後」           | 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第38集 |
| 中村嘉男他     | 1971 | 「見田方遺跡発掘調査報告書」        | 越谷市教育委員会             |
| 町田信       | 1981 | 「釣場 八番 荒川附遺跡」         | 蓮田市教育委員会             |

# 写真図版

樋詰遺跡C区第6号溝





橧窟第1号住居跡



橧窟C区第6号溝A階段



橧窟C区第6号溝



橧窟C区第6号溝A階段

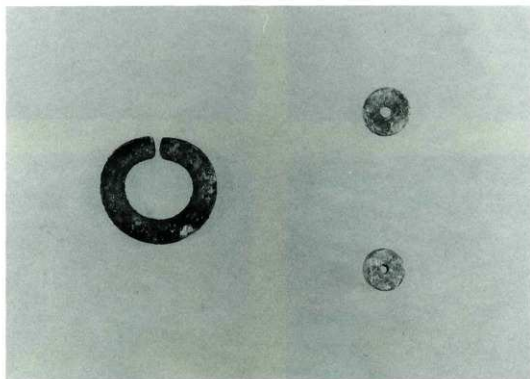


橧窟C区第6号溝C階段

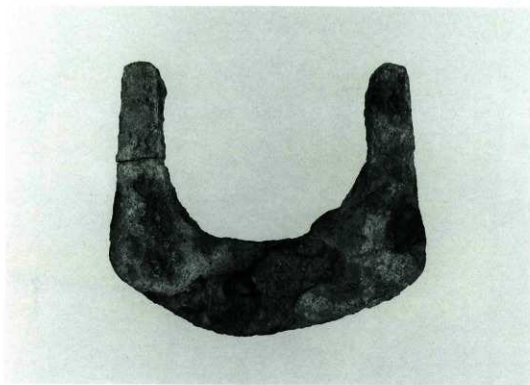


橧窟C区第6号溝B階段

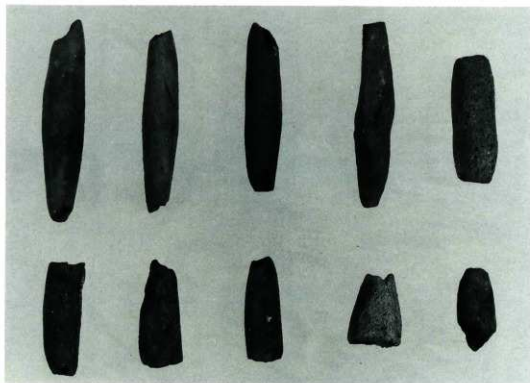
図版2 樋詰遺跡出土遺物(1)



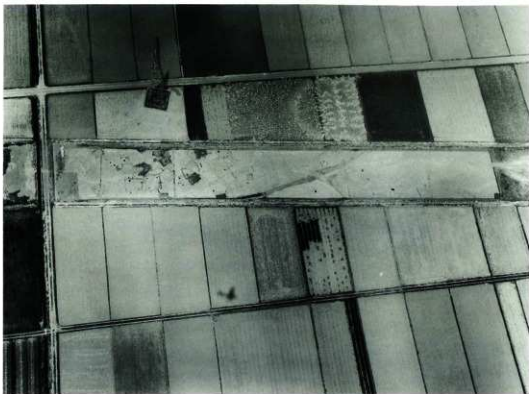
6溝-80(左)・78(右上)・79(右下)



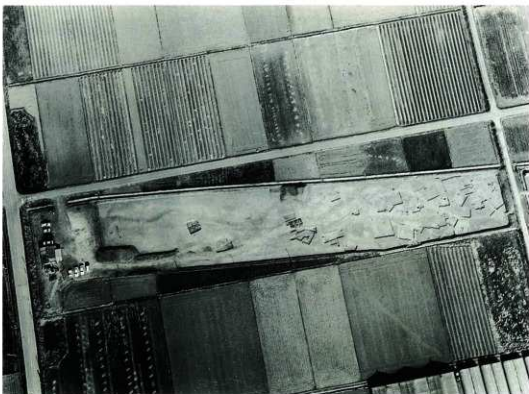
6溝-89



繩詰遺跡出土土錘



砂田前遺跡東半



砂田前遺跡西半



第2号住居跡カマド



第5号住居跡



第3号住居跡カマド



第5号住居跡カマド



第4号住居跡カマド



第11号住居跡



第4号住居跡カマド



第11号住居跡遺物出土状況





第11号住居跡カマド



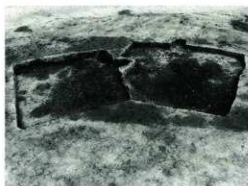
第24号住居跡



第15号住居跡



第24号住居跡カマド



第20・21号住居跡



第28号住居跡カマド



第22号住居跡



第29号住居跡



第33号住居跡カマド



第36号住居跡



第34号住居跡



第37号住居跡



第35号住居跡



第39号住居跡



第35号住居跡カマド



第39号住居跡遺物出土状況



第39号住居跡遺物出土状況



第42号住居跡



第39号住居跡遺物出土状況



第43号住居跡カマド



第41号住居跡



第43号住居跡カマド遺物出土状況



第41号住居跡カマド付近遺物出土状況



第46号住居跡遺物出土状況



第49号住居跡



第63・64号住居跡



第49号住居跡カマド遺物出土状況



第65号住居跡



第51号住居跡



第65号住居跡カマド



第62号住居跡



第66号住居跡遺物出土状況



第85号住居跡遺物出土(馬齒)



第108号住居跡



第85号住居跡カマド付近遺物出土状況



第110号住居跡遺物出土状況



第102号住居跡



第1号土壇遺物出土状況



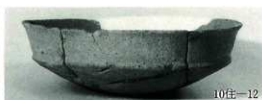
第103号住居跡



第1号土壇遺物出土状況











24住-8



26住-9



24住-10



27住-5



25住-8



25住-14



29住-4



39住-4



26住-4



39住-5



26住-6



39住-6



図版16 土師器 坏(4)













41住-36



66住-29



51住-13



67住-9



64住-6



85住-25

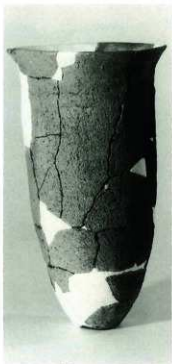




8住-9



10住-32



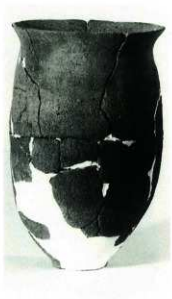
11住-19



16住-4



22住-18



41住-64



41住-65



43住-4



46住-10



46住-12



47住-7



66住-32



66住-34



66住-40



71住-27



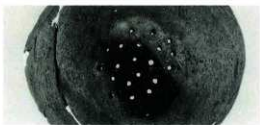
71住-34

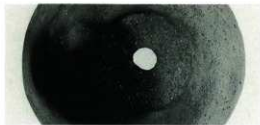


74住-17

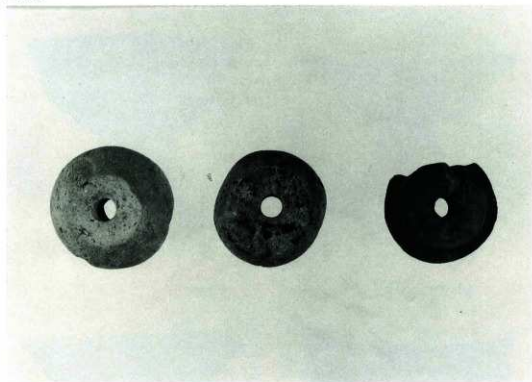


85住-27

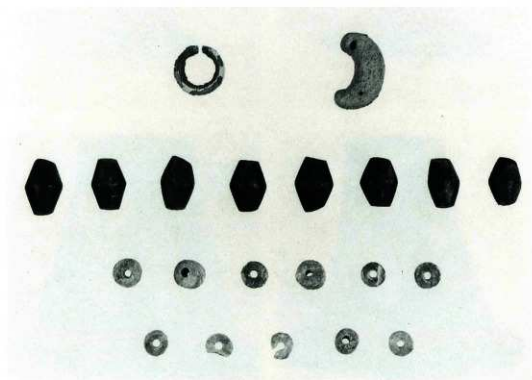




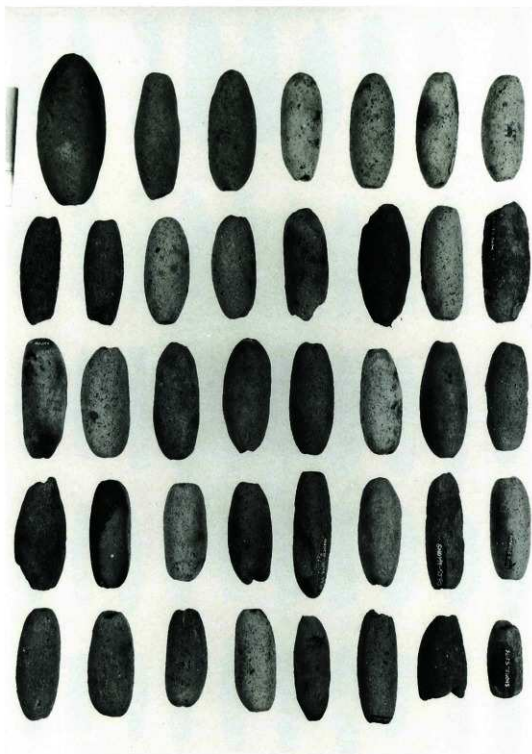




紡錘車

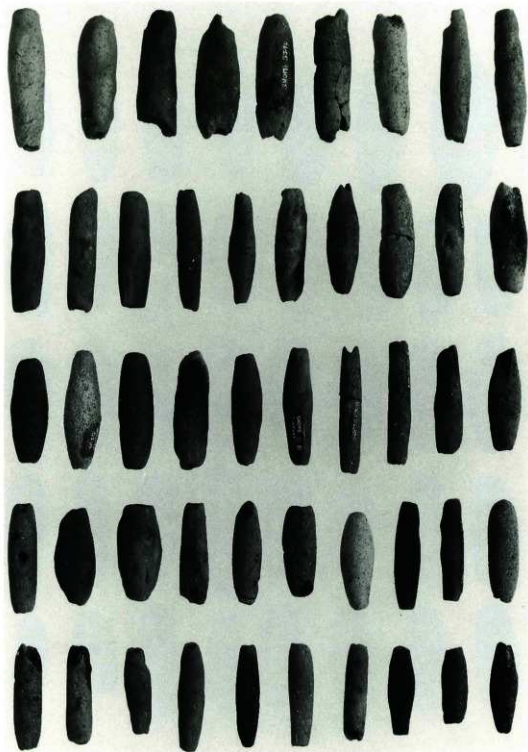


耳環・勾玉・切子玉・白玉



土鍾(1)





土鏝(2)

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第102集

樋詰・砂田前

一般国道17号深谷バイパス埋蔵文化財発掘調査報告

—II—

平成3年3月15日 印刷

平成3年3月31日 発行

発行 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-01 大里郡大里村大字箕輪字船木884

電話 (0493) 39-3955

印刷

望月印刷株式会社